

令和6年度 町政座談会

報告書



出羽公民館



田所公民館



中野公民館



日和公民館



口羽公民館



阿須那公民館

邑南町

○ はじめに

平成 20 年度から毎年度、各地区で行いました町政座談会の内容をまとめ町民の皆様にご覧いただくこととしています。

この報告書は、本年度の行政活動について皆様方にご理解をいただくとともに、数多く出されたご意見やご要望等を紹介し、これからも皆様からの貴重なご意見をいただくうえでの参考資料として作成しております。

○ 注意点

座談会での発言者や発言に含まれる氏名は記載しておりません。

○ 各会場の参加状況

月 日	場 所	参加人数
令和 7 年 1 月 14 日（火）	矢上交流センター	45 名
1 月 21 日（火）	中野公民館	40 名
1 月 22 日（水）	井原公民館	25 名
1 月 23 日（木）	日貫公民館	31 名
1 月 27 日（月）	日和公民館	34 名
1 月 28 日（火）	阿須那公民館	29 名
1 月 29 日（水）	口羽公民館	22 名
2 月 3 日（月）	出羽公民館	33 名
2 月 4 日（火）	布施公民館	15 名
2 月 6 日（木）	市木公民館	18 名
2 月 18 日（火）	田所公民館	46 名
合計参加人数		240 名

○ 配布資料

- ・レジュメ
- ・令和 6 年度町政座談会資料
- ・コミュニティ・スクールについて

○各会場での質問・意見の内容

1/14 矢上交流センター（7ページから）

- ・部活動の地域移行に関する進捗と、コミュニティスクールとの連携について
- ・霧の湯の薪ボイラー導入と町の脱炭素政策との関連について
- ・霧の湯オープンに向けた準備状況、集客見込みについて
- ・小中学校の統廃合や公共施設の見直しは慎重に進めるべき
- ・矢上高校と地域の未来をつくる会の活動について
- ・矢上高校への思い、耕作放棄地の活用を促した農業振興について
- ・保健医療福祉の充実について、日本一の子育て村と福祉施設の在り方の提案

1/21 中野公民館（25ページから）

- ・無縁仏（矢上）の受け入れについて、要件の緩和等の柔軟な対応を求める意見
- ・消防団員の減少について、出初式のしおりを各戸に配布するなどの関心を高める方法の提案
- ・中学校の安全対策についての質問。夜間の照明不足対策や、カメラ設置予定はあるか
- ・地方創生交付金の邑南町での用途について
- ・施設の駐車場の白線が消えかかっている
- ・森林環境譲与税の用途について
- ・町民の購買力についての意見。地域の商品券発行など、町内消費促進の提案。
- ・Iターン、Uターン者の定着率について
- ・休耕田増加への対策として、個人の農業者への支援や、機械の共同利用などの提案。

1/22 井原公民館（43ページから）

- ・住民の出資で建てられた施設である雲井の里への行政からの支援の要望。
- ・業務改善運動や公共施設の複合施設化など着実な実行を
- ・水道水PFAS問題について、邑南町での検査状況の質問
- ・コンパクトな地域づくりや行政効率化に向けて、長期的な町づくりを考えてほしい
- ・石見地域のデイサービスが社協から邑智病院に引き継がれることへの影響は
- ・病院新館での車椅子利用者への配慮について
- ・消防団員減少により危機管理体制を不安視
- ・サルによる農作物への被害が多く、有害鳥獣対策の強化の要望
- ・封筒、郵便代の節約のため、案内の送付対象者の見直しの提案
- ・部活動の地域移行について、指導者への資格取得等の支援ができないか
- ・町営バスについて、車体に張り付けてある文字がボロボロになっている
- ・町の封筒への企業広告掲載の提案
- ・井原駅のトイレと待合室の配置に対する意見

1/23 日貫公民館（63ページから）

- ・町の財政状況について、行財政改革の手法と目標をどう考えているか
- ・財政改革が過度に強調されることによって町民が不安を抱かないよう丁寧に情報提供をしてほしい
- ・指定文化財「山崎邸」の保全についてどう考えているか
- ・産直市みずほ（おおなんの里）の拡大された売り場面積をどう活用していくか
- ・高齢者の生きがい支援の取り組みについてどう考えているか
- ・小中学校統廃合の方向性についてどう考えているか
- ・防犯カメラ設置など、子どもや高齢者向けの安全対策強化の提案。
- ・今後の取り組みにある「農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施」の思いをききたい
- ・邑智病院の受付に行くまでが分かりにくい
- ・買い物支援事業「にこ丸くん」への支援に関する要望。
- ・ブドウ栽培にかかる経費の不均衡がないようにという意見
- ・堆肥への助成制度の継続要望。

1/27 日和公民館（83ページから）

- ・課名が長く覚えにくいので、短く分かりやすくしてほしい。
- ・若い世代の意見を聞くための座談会開催の提案。関心を持てるテーマの設定
- ・IP電話が雷で故障し修理を依頼しても部品がないと言われる。状況を教えてほしい
- ・4月再開の霧の湯について、指定管理者等わかる範囲で情報提供してほしい
- ・外国人技能実習生を取り巻く環境について関心を持ってもらいたい
- ・農地の維持の限界について
- ・食の学校の活用案について
- ・日和地区での買い物のできる場所について
- ・説明会を録画して、ケーブルテレビやホームページでの公開の提案
- ・日和川に繁茂している葦を刈り取ってほしい
- ・地域防災訓練において、転入者の所在確認が難しい。災害時の個人情報取り扱いについて提供の方法を検討してほしい。

1/28 阿須那公民館（103ページから）

- ・地域運営組織の在り方、活動の拠点はどうするか、他の自治体と比較しながら研究してみしてほしい
- ・職員の副業の在り方について庁内で研究をしてみしてほしい
- ・大型投資による財政への影響と住民サービス低下が心配
- ・道の駅の今後の運営をどのように考えているか

- ・冬の停電対策として、電力会社との連携し電線に絡みつく木の伐採をしてほしい
- ・農業振興のため、畑の圃場整備と野猿対策に力をいれてほしい
- ・消防団の積載車のエアコン修理が予算不足でできないことの説明をうけているが、団員の見直しにより予算の確保ができないか
- ・出初め式の開催について、開催時期の見直しの提案。
- ・産直市の今後の消費者誘致策について考えがあれば教えてほしい
- ・財政再建について、事業の評価を担当課ではない課がやってみてはどうか
- ・課の名前が長いので、町民に寄り添った分かりやすい名にしてほしい

1/29 口羽公民館（123ページから）

- ・ガソリンスタンドの経営が厳しい。町からの支援として、ローリーや計量器の改修費補助ではなく、毎年の固定費補助をしてほしい
- ・町職員の通勤手当の地元での消費、地元業者からの物品購入をしてほしい
- ・地域運営組織をマネジメントする専門人材（事務局長的な人）の配置してほしい
- ・若い女性がUターン、Iターンできるような仕組みづくりの要望
- ・高齢者の元気な暮らしを支える施策の継続してほしい。
- ・町の施策が住民に伝わっていない現状がある。（バスターミナルの建設など）地域に情報を共有する仕組みを作してほしい
- ・地域運営組織とコミュニティスクールの連携について
- ・県道の白線が薄くなっている箇所がある
- ・保育所の預かり時間が長くすることはできないか

2/3 出羽公民館（143ページから）

- ・学校のエアコン設置や備品不足など、学習環境の改善の要望
- ・郵便代も高騰するので、不要な送付物を見直しできないか
- ・おおなんさくらカードを使ったポイント付与の方法を広く検討してほしい
- ・職員の負担が少なくなるよう、アンケートのオンライン化や生成AI等の活用を
- ・空き家の固定資産税負担軽減できないか、よい空き家活用方法はないか
- ・財政再建をテーマに話し合いの場を別で設けてほしい
- ・学校の統廃合について早めに結論を出し、実行してほしい
- ・計画を策定するのはいいが、計画の実行の部分で本気度をみせてほしい
- ・耕作放棄地の増加により住環境の悪化している。農地の維持と再生に向けた対策を考えてほしい
- ・公共住宅の老朽化に対する改修の要望

2/4 布施公民館（163ページから）

- ・所信表明の中で地域振興について触れられていないが、地域づくりについて今どのように考えているか
- ・タクシー利用権について、免許返納せずとも利用できるようにならないか
- ・コミュニティスクールについて、今後どのように運用していく予定か
- ・コミュニティスクールに関連して、小学校単位の設置がスタートしやすいと思うがどうだろうか
- ・地元出身の教員が地元の生徒を育てるような仕組みができないか
- ・農業従事者の所得向上のため、大規模な圃場整備を再びされてはどうか
- ・財政再建は守りの施策だと思うが、攻めの施策として考えはあるか
- ・地域イノベーター等、地域外の人材の活用を
- ・除雪の経路について相談したいが、どこにすればよいかわからない
- ・地域にとって公民館を頼りにしているが、地域運営組織の関係性は今後どのようなになっていくのか

2/6 市木公民館（183ページから）

- ・町で立ち上げた電力会社の現状について
- ・各地域で育った子どもが中学校、高校で関わりを広げていく今の流れがすごくよいものだと感じる。統廃合されれば、通学時間が増えて地域での交流の時間が少なくなってしまう。この地域が好きなので、地域が衰退しない方向を検討してほしい。
- ・庁公農林で植えた木はどうなるのか。
- ・市木には町議がないので、意見を集約し町にお願いすることが今後あると思う。現在、市木全体の意見を集約中なので、別で意見交換をする機会を設けてほしい
- ・現在の学校の在り方とコミュニティスクールの違いは何か
- ・邑南町の良さを全国的にPRしてほしい。Uターンや移住を促進するために、歌を作って宣伝してはどうか
- ・空いている町営住宅を、短期滞在者にも利用できるようにしてほしい
- ・屋根が落ちそうな空き家があるが、行政で対応するのか
- ・コミュニティセンターとは何か
- ・職員が地域に関心を持ち、地域コミュニティのいろいろな役を担ってほしい。

2/18 田所公民館（201ページから）

- ・公共施設の統廃合について、自治会館や斎場の解体があげられているが、どの施設解体していくのか提示されないと前に進みにくい。具体案はあるか
- ・財政再建という言葉をよく聞くが、町民に夢を与えていくような話もしてほしい

- ・森林環境税の活用状況について。令和5年度はホームページに掲載されていない。令和6年度の状況はどうなっているか計画も含めて教えてほしい。
- ・後継者対策の観点からも、有害鳥獣捕獲奨励金を増額できないか
- ・雨天時でも子どもたちが遊べる施設が少ない。元気館等の体育館使用料が安くないか。(1時間200円で利用できる町外の施設を利用している)
- ・小学校の体育館は個人での利用はできないのか
- ・所信表明であった有機農業の推進に力をいれてほしい
- ・インターネット料金が割高で通信速度が遅い。企業誘致を考えれば改善すべきでは
- ・観光マップを四季の魅力が分かるように改善してほしい
- ・石見中学校の教科センター方式と、他の中学校への導入も想定しているのか
- ・学校の統廃合について、議会との合意形成をはかりながら進めてほしい
- ・道の駅にハンザケのモデルを設置するなどして、ハンザケ自然館のPRをしてはどうか
- ・コミュニティスクールについて、役員に選ばれた方の負担が大きいのと思う。そういったデメリットについてどう考えているか。
- ・部活動の地域指導者の報酬改善を検討してほしい
- ・邑南町のPFASの値はどうなっているか
- ・学校給食の無償化ができないか
- ・田植え機への課税にについて
- ・町長にとって「美しい言葉」とは何ですか

町政座談会（矢上地区）

日 時 令和7年1月14日（火）
18：30～20：00
場 所 矢上交流センター

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長をさせていただいております大屋光宏です。就任して以来、皆さんの声を聞かせていただいて、それを形にしたり、町の情報を出すと共にという話をしてきました。町政座談会を開催するにあたって、この時期になりまして、大変申し訳なく思いますが、こうやってたくさん集まっていただきまして、大変ありがとうございます。

本来ですと、1月の半ばから2月の半ばにかけて、こういう会を夜にしたいし、天候が非常に悪い時期なので心配していたんですが、どうしてもこの時期しなくて、させていただいております。ご理解をいただければと思います。少しでも早く開催してということで、時間は6時半に設定させていただいておりますし、極力早く終われるようにと思いますが、1時間半程度と思います。帰り道が心配なところもありますが、気を付けて帰っていただいて、有意義な時間が過ごせればと思っております。

先にレジュメの話をしますと、一番下に町長への手紙と書いています。皆さんの声を聞きたいということで、12月の広報ではわかりにくかったかもしれませんが、町長室に直接届くFAXがあります。それと役場の玄関先に意見箱があります。ご案内はしましたが、実際に誰もFAXもお手紙もくださる方もありません。なかなか今の時代にFAXというのは難しいのかなとも思いますし、わざわざ書いて役場まで持ってくるんだったら、直接しゃべればいいのかもかもしれません。その手間もあります。

利便性が高まるわけではありませんが、このQRコードを読んでもいただければ、システムを使うことに同意しますかというのがあって、その後は、お名前等を書いていただいて、ご意見を書けるようになっております。お名前とか住所とかは任意の設定にしております。必ずしも書いていただかなくても結構です。ただ、町との関係で、町民かそうでないかだけ書いていただいて、最後にタイトルを入れて意見を書いていただければと思います。こういう場で、みなさんの前ではしゃべりにくいという方もいらっしゃると思いますので。家に帰ってからゆっくり記入していただいて、何でも結構です。タイトルも「座談会」でも「あ」でも何か一文字入れておけば、送れますので、ご協力いただければと思っております。

私事ですが、町長にならせていただいて2ヶ月ちょっと経ちます。昨年内は、非常に行事も多くて、自分の生活のパターンのリズムが取れないこともありましたが、年末年始9日間、お休みがありました。こういう場で話をさせていただく町長の立場が日常なのか非日常なのかはありますが、やはり皆さんの立場に立って物事を判断するという意味では、自分の日常も大事なかなと思っています。自分のことをする、家族のことをする、地域の皆さんと触れ合うということが、町長の立場になると、日常ではなくなってきて、町側の人間、皆さんに意見をいただいても、町の立場としてでしか返事ができないということになります。

12月議会をさせていただいて、議員の立場から、こういう逆の立場になりましたが、町長の立場になって思えば、議員の皆さんのご意見はもっともです。皆さんの代表であって、地域で生活しながら、皆さんの声を聞いて届けておられるので、そこに間違いがあるとか、そういうものじゃないです。逆に言うと、できない、予算もあって難しいのをどうやってお断りしなきゃいけないのかなという。全てが全て正しいので、受け入れたいんだけど、いろいろな事情があって。町長の立場でお答えさせていただいたんですが、そうですねと軽く言ってしまったら、課長から怒られるかなという立場もあって、なかなか難しいですが。でもやっぱり、議員の皆さんというのは、やはり皆さんの代表である。日常生活をきちんと送りながら、地域に根ざしながら意見をさせていただいているのかなと思っております。

町長が、現場主義かどうかということはあるんですが、やはり日常を知らなければ、災害があったときだけ行っても分からないんだろうなと。今、東北の方が大雪です。ビニールを取ったハウスも潰れています。普段の状況を知らなければ、災害に遭ったところだけ見てもどう直すのか、なぜ起こったのかということが分からないのかなと思います。そういう意味では、極力日頃の日常なり、こうやって皆さんと顔を合わす、意見を交わすという場を大事にしていきたいと思っております。

座って話をさせてください。今の町の状況ということで、私が作った資料で、今後取り組んでいくことを書いております。いろいろなことを書きながら、今日は臨時議会もありましたので、その後、課長の皆さんは役場におられますので、その後に課長会議をして、一通り見ていただいて、議論して修正したものです。

財政の状況とか人口の状況を、きちんと数字で表せたらいいかなと思いましたが、そこを出すと一枚に収まらないので、まず取り組むことを書きました。財政については、役場に入って思ったのは、道の駅、中学校、邑智病院と、大型事業が続いていたので、財政的な負担もありますが、そこに人が関わって仕事をしているので、その負担も大きい。中学校と邑智病院については、ほぼ見通しがついているところだと思います。道の駅は、今年度中の完成ですが、まだ最後の詰めが必要なところで、人の負担も大きいものがあると思っています。

併せて矢上で言うと、霧の湯を香木の森一帯で指定管理していますので、4月から霧の湯がきちんと再開できるように、今日の臨時議会も工事費の増額ということで4月の再開に間に合うように、急遽、臨時議会を開いて予算的な裏付けをしながら、工期をきちんと確保できるようにさせていただきました。まずは、今行われている事業がきちんと完成するというのが、私自身の現在の大きな仕事です。

併せて来年度予算を作成中ですが、国の予算ができて、今、県の予算が公表等されてきているのだと思います。それを受けて町がしますので、取り組んでいくことと書いていますが、町の予算をこういう形で少し予算化できないかなと考えている時点なので、「来年これを絶対やります」「予算として、今やっている最中です」というものではないということをご理解ください。どうしてもかかる経費が決まっているので、新たな取り組みをするためには、何かをやめなければ予算が捻出できない状況です。まずは最低限やらなければいけないことで予算を組む。その中で、今後しなければいけないことを上乘せしていくという作業の最中です。

来年度にやらなきゃいけないけど、事業化できるかどうかは別にして、来年、再来年の中で取り組まなければならないということで書いています。

最初が、財政再建・行財政改革ということで書いています。一番最初に、小中学校の統廃合と書きました。12月議会でも非常に唐突じゃないか、今までこういう

話をしていなかった中で、町長が替わったら突然出てくるのかという話もありました。人口の全体は減っていて、お子さんの数も減っているけれども。具体的な数字で言うと、今の小中学生は一学年、約70人ちょっとです。小学校6年と中学校3年を足すと、9年間なので、 7×9 で、約650人です。今の保育所の0歳児から、保育所におられるお子さんは町内全部で300人です。いずれ、この子たちが小学校1年生から6年生になったときに、今450人くらいいる小学生が300人ちょっとになるということです。併せて、今生まれているお子さんは、約40人前後です。今年度は、今のところ12月までで28人なので、40人いないかもしれないです。

そういうことを思えば、小中学校の統廃合はしなければいけないんだけど、あまり数字できちっと示すと、今年間40人前後ですといえれば、町内で小学校一つ、中学校一つでいいんじゃないかということにはなりますが、それはUターンとかIターンがあれば別なので、まずこれからの邑南町の教育としてどういう形がいいのかという中で統廃合を考えていければと思っています。

それに併せて、児童クラブは時代的に必ず必要なものです。それは小学校ごとにつくるのか、矢上とか日和とか日貫とか地区で必要なのか。今の状態の児童クラブの数なのか、統廃合した学校の数でいいのかということも考えなければいけないですし、給食センターも一緒かなと思っています。このあたりは早く来年度、再来年度できちんと答えを出していきたいと思っています。

行財政改革はしなければいけない絶対的なことですが、これは副町長を中心のプロジェクトチームで、今年から1月、2月からスタートできればと思っています。公共施設も統廃合しなければいけないというのは、皆さん何となく分かっていて、昨年の意見交換会は、各地区ごとに地区にある公共施設を、「これだけありますかどうか。ずっと必要ですか。」という投げかけがあったと思います。

それで、今日のお話は邑南町全体での話です。自治会館は統廃合、なくしていくというよりはまずはコミュニティの再編ということがありますので、公民館単位で自治会が統合されれば、自治会館は必要なくなってくる。具体的には、井原であるとか、今動きがあるのは日貫であるとか。矢上はまだこの動きがないので、そこがあってからの自治会館の統廃合、もしくは廃止だと思ってください。

斎場についても3カ所ありますが、必ずしも3カ所必要じゃない時代が来るんだと思います。この辺りも少しご理解いただければということで書いてあります。

一方で、今までなかった考えなんですけど、似た施設が複数あるとか、無くせばいいけれど使わなくなった施設をどうするのか。ただ、撤去しておしまいなのか、新たな活用策があるのかということで、遊休公共施設の新たな活用策というものも考えなければならぬと思っています。

例えば、学校を統廃合したときに使わなくなった校舎で企業誘致したり、室内で野菜の生産をしたりということもあります。体育館も似た体育館がたくさんあるけれど、同じ体育館なので、使用目的を変えた体育館があってもいいのかもしれない。冬場に屋外でスポーツができないので、グランドゴルフができるとか、サッカーができるとか、そういう体育館に変えて使用を増やしていくということも考え方としてあるかと思っています。壊すだけでなく、他の使い方はないかという活用策の検討も必要かなと思っています。

あとは、公営住宅の運用の見直しと若者住宅と宅地の確保ということで、過去から邑南町は公営住宅の充実で進めてきましたが、どうしても制度が今変わって、町

営住宅は基本的に一定の所得以下でないと入れないです。若い人たちが結婚して、新たな新居を求めたときに、条件的に町営住宅はたくさん空いているけど入れない。民間住宅はあまりないので、所得制限がある町営住宅で、国の補助金を受け終わったものについては、一部、運用を見直して若い人たちが所得関係なしに入れるということで使えないかと思っています。

併せて、空き家活用を含めて、住宅と宅地の確保が必要だと思います。今日も、川本の〇〇病院の方が来られて話をされていて、人を採用したいけど住むところがないという話です。邑智病院もそうです。すごく不思議ですけど、町営住宅はたくさん空いている。空き家もたくさんある。だけど住める場所がないというギャップがあるので、まずそこを少し整理できればと。定住なり雇用の確保という面ではいいかと思っています。

産業振興については、基本的には町内の経済循環を進めたいというのが基本的なスタンスです。そう思うと、おおなんさくらカードが上手く活用できないかという思いがあります。昨年度、経済対策でポイント何倍という事業をしたことがあると思います。さくらカードにポイントをつければ、それはそのまま町内消費に結びつく。他では使えないので、まずはさくらカードを使えないかと思っています。

今、図書館で本を借りると一冊につき1ポイント付くそうです。そういう形で、例えば行事に参加したときに、極端ですが、今日のようなこういう会に出ただければ何ポイントかを付ける。それはそのまま町内消費に結びつくとか。ポイントで人の参加をつのるのがいいかどうかはありますが、そういう活用に仕方もあるかなと思っています。産業振興については商工会もありますので、商工会で活動が充実できればと思います。

所信表明でも、農業については技術の振興という話をしましたが、12月議会でも暑さ対策の話が出ました。その暑さ対策の技術があるので、まずはそれをどうやって伝えるのかということで、ケーブルテレビの活用をもう少しできないかなと思っています。元々、ケーブルテレビは農業関係の予算も使ってつくったものですので、お悔やみとかのチャンネルメニューに、営農というメニューを入れて、例えば相場であるとか、今やらなきゃいけない技術とか、台風が来れば注意してくださいとか。文字放送で出しているものをメニューとしていつでも見にいけるという形は、一つの情報提供かなと思っています。

雇用の確保については、資格の取得支援であるとか、働く人の確保対策ということで、これは積極的に進めなければいけないと思っています。ただ少し検討が必要だと思っているのは、資格を取るのに、どういう応援が一番いいのか。今は、ほぼ職場で、個人の負担で取りに行っているものについて応援する。もしくは、今資格を持っている人を雇いたくてもいないので、個人でお願いするか、企業が雇われて、どこかに派遣しながら資格を取ってもらう。給料だけは払いながら、自分のところの仕事をする前に、どこか他の会社で働いて資格を取って戻ってきてもらうという形にしていますので、そういう形で企業の負担を何とか応援できないかなと思っています。それはそのまま下にありますように、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生の町内定着に結びつけられればと思っています。

矢上高校については、3月の受験が終わる度に、「倍率が何倍でした」「1倍を超えていました」「定員を充足しました」と言っています。先ほど言いましたとおり、町内の生徒は、中学生が70人80人の中で全てが矢上高校ではないということとは、県外からの生徒も含めて定員を満たしています。毎年、町外や県外から一定

数に来ていただきながら、みすみす町外に出て行かれる。若しくは、地元に戻られるということで、邑南町内で働く人が増えているわけではない。せっかく、矢上高校や石見養護で学んでいるなら、それが一定数、町内でどこかで働いたり、出られても帰ってきていただける。若しくは、高校を出てすぐ町内でというのもありかなと思っています。

ただ、そのときに必要な資格や能力を企業等が応援して学べる環境をつくっておられるなら、それに対して町が応援することによって町内で働くことがもっとできればと思います。それは、その下にあります邑南町を支える人材の育成と奨学金の見直しをいうことに繋がっています。雇用の確保ということと、若い人たちに町内に定着していただけるようにということで、ふるさと教育を見直すと共に、邑南町で生活することによって、働くことによって人生をどう送っていいのかということをもっと示しながら、町内で働くことをと。大学進学負担軽減ということもありますが、奨学金の見直しによって、そういうことも必要かもしれませんし、必ずしも大学や専門学校に行かなければ資格が取れない職種もありますが、そうでなければ、大学や専門学校に進学しなくても、邑南町内で働けば、「邑南町内で就職すれば人生がしっかり送れるよ」「資格を取るのも応援があるよ」「学ぶことの応援もあるよ」という在り方も必要かと思います。すぐにできることではないんですが、そういった検討もしていければと思います。

そのあと2つは産業振興の関係ですが、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策ということで、何度かお話をしたことがあります。山林等を含めてしっかり管理できないと農地も維持できない。鳥獣害の被害もあるということで、総合的な対策で今まで個別にやっていた事業を少しまとめて整理できればと思っています。

観光ビジョンにつきましても、道の駅も新しくなる、香木の森も霧の湯が再開する。羽須美では、三江線の跡地活用も進んでいるということで、町内の周遊と近隣からの誘客をもっと進めたいということで、今ある観光ビジョンをまず見直したいと思っています。

インバウンドについても少し書いてあります。あまり積極的な姿勢ではなかったんですが、松江、出雲、津和野方面もかなり来ているようです。今、スキー場も運営されていますが、外国の方でスキー客も一定数おられるようです。そういう方たちを呼び込むなり、定着するにはどうしたらいいかということは、将来のためにしっかり検討していきたいと思っています。

その下が、保健医療福祉の充実と書いてあります。日本一の子育て村というのは、今後どうすべきなのか、目指す方向はきちんと協議してきたいと思っています。

併せて、福祉施設の在り方というのにも書いています。民間がされることが多いですが、そこに敢えて町がどう関わるかというのはありますが、人口は減ってきているけど、高齢化率は45%でほぼ変わっていません。ということは、65歳以上の人口は増えていない、総人口が減っている以上、高齢化率が上がっていかかわらないですが、現実的には、65歳以上の人口も減っているというのが現状です。そういえば、福祉施設の在り方、働く人の確保も含めて、町が責任を持って検討していかなければいけない事項だと思っています。

その他については、地域内の見守り活動の強化ということで、公用車での安全パトロールのマグネットを作成してつける。人口は減っていますが、世帯数は大きく減っていません。それは一人暮らしの高齢者も増えてきているという現状がありま

す。そうすると、そういう見守りをどうするかというときに、町は郵便局等にいろいろと協力をお願いしていますが、町としてもできることはしていかなきゃいけないと思っています。

併せて下に、老人クラブ、一人暮らし世帯の社会参加、つながり活動の強化を書いています。先ほど言いましたとおり、高齢化率は変わっていないので、65歳以上の方は増えてはいませんが、その人とたちが地域に対して、それぞれが活動に積極的で健康に暮らせるというのは町としても大きいので、老人クラブであるとか、一人暮らし世帯の社会参画、つながり活動の強化と書いていますが、この活動をしっかり応援していかなきゃいけないと思っています。

あとは、100歳大学と書いてあるのは、12月議会で提案がありました高齢者の方が元気で長生きできるための学ぶ場を作っていく。邑南町としては、それぞれの課でそういう活動はしていますが、それが体系的にできればいいと思っています。

その下は、邑南町のもう一つの特徴は、全体的に一人の医療費が安いということです。あとは、それぞれが病院にかかる医療費は、県内の中でも安い方の自治体です。原因はいろんなことがあるかもしれませんが、日頃の検診だとか邑智病院や地域医療の日頃の活動、あとは診察の受け入れ、アドバイス等が大きいのだと思います。

そういう中で、課題だと思うのは、40歳、50歳代の特定検診や一般の検診の受診率が低いです。そのあたりを向上するために、特に人間ドックの受診率が低いので、何らかの対策ができればいいかなと思いますし、国保加入者については、特定検診、一般的な検診は40歳以上です。30歳以上は、町独自の対応をしていますが、20代の方の検診は全くなくて、ここが受けないか、JAさん等がされるところに受けに行くかという状況です。医療費全体が抑えられて、かかりつけ医ということで地域の病院でお世話になりながら治療ができるというのが一番いいと思います。見つかったときには手遅れじゃないけど、対応が難しいので、県外の病院に行ってくださいというのは負担も大きいので、そういう意味では、受診率の向上は考えていければと思っています。良い面はしっかり維持できればという考え方です。

その他については、その下に地域活動と書いていますが、部活動の地域移行の準備ということで書いています。学校の先生の負担を減らすということで、部活動は土日の活動は地域へとあります。ただ一方で、今現在も地域で小学生からの活動の支援もしていただいています。2030年に国スポが島根県で開かれます。それまでに地域移行という話がありますが、地域移行の計画を作りました。準備ができました。さあ、移行しますというときには、指導者をそこから探すなり、育成するでは間に合わないの、計画はまだ作っていませんが、計画作成と併せながら指導者の育成や、今活動されている方々のハード整備なり必要な整備を同時並行でできればと思っています。

最後に3点ほどしゃべらせてください。12月議会にも一般質問がありまして、私自身も、役場職員、公務員は副業、兼業をしてはいけないと思いましたが、今は許可を受ければできるそうです。地域の中で人手が足りないということで、全てを公務員の方ができるわけではないですが、積極的に関わっていただきたい。役場で働いていて、まだ他のことをして金を稼ぐのかという見方じゃなくて、地域で人手が足りないから関わりながら、尚且つ、本人にとっても役場の中の他の人の仕事にも感心を持つとか、地域の皆さんの生活や働くことに感心を持つということで副業が進められればと思っています。地域貢献であるとか、それぞれの能力アップとい

う意味で、副業を進めることができればと思います。 隠岐の島の海士町は制度として作られています。名前は忘れましたが、最初から副業する公務員ということで雇われているので、正職員という形ではないですが、役場で働きながら一定数、地域で働く。地域で人手が足りないところをカバーするという考え方もあります。長野県では、2割程度は他の人の仕事や地域のことをしまししょうとあります。

いずれにしても、地域の人手不足やこれから何をすればいいのかというときの個々の職員の能力アップを兼ねて、副業をきちんと制度的に進めていければと思っています。

併せまして、今、こうやって皆さんの前でお話をしていますが、きちんと町政座談会は定期的開催できれば、毎年一回はという意味です。以前は、女性の会ということで開催した時期もありますが、今はしていません。女性の会がいいのか、例えば福祉で働く人の会であるとか、年齢で区切るのもいいと思いますし、地域で区切ってもいいかもしれません。何らかの形で皆さんと意見交換できる場を増やしたいと思っています。

その目的の一つは、皆さんの思いを聞くということと、もう一つは町としていろいろな場面で審議会を作ったり、会議をしますが、そのメンバーを探すのに非常に苦労しています。人材発掘という意味でも、いろいろな会議を開きながら、町と住民の皆さんの人脈をつくりながら人を紹介していただいて、今まであまり表に出られなかった人でも出てきていただいて、新たに町に関わるメンバーになってほしいということで、住民の皆さんとの会を積極的に開催できればと思っています。

もう一つは、自治体連携と書いています。言うまでもなく郡内では事務的なものは邑智郡総合事務組合ということで協力しています。病院についても、邑智病院は邑南町だけじゃなくて、邑智郡の病院として協力して運営しています。消防は、江津と一緒です。

そういう中で、浜田市、江津市との連携と書いています。これは産業振興の面で連携できないかなと思っています。今は、浜田市と食の関係の協定を結んでいますが、これから先ほど言いましたように観光や産業、企業誘致で広島側から松江、出雲側がというときに、浜田市、江津市と協力してできればいいかなと思っています。町単独で難しいところは協力しあえればと思います。

もう一つは、三江線跡地活用ということで、邑南町は羽須美でトロッコの運行を頑張っておられます。今は、三江線の跡地はそれぞれの自治体で何らかの形、地域それぞれの地域の人たちが個別に頑張ってお客さんを呼んで活用されているんですが、そこで沿線自治体で協力し合えれば、もっと長い距離で運行ができたり、お客さんを呼ぶにも有利かなと思うので、沿線自治体で連携できれば、三次市も含めて江津市までの間で連携できればもっと活用ができるかなと思っています。

一方的にお話をしましたが、まず私からのお話は以上にさせていただきます。あとに、質問等がありましたら、その中で答えさせていただきます。ありがとうございました。

2. 教育長あいさつ

改めましてこんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。日頃より、学校、あるいは公民館に本当にご支援ご協力をいただいております。充実した活動を送らせていただいております。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私からは1点、カラー刷りの印刷物を一枚用意させていただきました。これをこ

覧いただければと思います。開いていただいて、A3全面に印刷されているものを表にしていいただければと思います。左の方からご説明申し上げます。

コミュニティスクールという言葉が、まず最初に出て参ります。これは、学校と地域が将来に繋がるような制度設計を今後やっていきますという、一つの言葉だとしてご理解いただければと思います。

現在においても、邑南町は学校と地域の連携強化が非常に充実している、進んでいるものだと思います。それをしっかりと将来に繋げていこうという意味合いで説明申し上げたいと思います。

本日は、学校サイドから見てお伝えしていきたいと思います。それで、左の上半分ご覧いただければと思います。オレンジで4つの枠がつけられていますが、これはキーワードだと思っていただければと思います。

まず最初が「連携・協働」、右にいまして「社会総掛かり」、左下にあって「共有」、右にあって「地域と共にある学校づくり」と4つの言葉が出て参ります。これを一つのキーワードとしてまずは覚えておいていただければと思います。

その下ですが、コミュニティスクールとはというところで、「学校運営協議会」を導入した学校と示されております。この学校運営協議会の中身については後ほど説明させていただきたいと思います。

左の半分下ですが、これは文科省が告示した一般的なコミュニティスクールの絵ですので、またご覧いただければと思います。中心にあたるところが学校運営協議会です。その学校運営協議会がどんな役割を果たしていくのかというのが、右の方になっています。コミュニティスクールの主な3つの機能ということで、オレンジ枠で3つ掲げております。まず、今までと違って新たに出てきたのが、校長先生が毎年作成されます学校運営の基本方針を承認するというのが、非常に大きなポイントになって参ります。今までは地域におかれまして、学校の方針は校長だより等では示されると思いますが、そこで議論して地域共有の基にそれが決まっていたか言ったら、そうではないということで、ここが一番大きなポイントになるかと思います。

2番目、3番目についても書かれております。もちろん、承認を得るわけですので、地域の方々にもある意味、子どもを中心に据えたときにしっかりと責任をお持ちいただきながら、学校と共に運営していくという姿がイメージできるのではないかと考えております。

裏面になりますが、左半分をご覧いただければと思います。コミュニティスクール導入のメリットとあります。これも2段に分かれて書いてありますが、まず、学校側としてこの制度を取り入れたときにということで、中ポツで6つほど示してありますので、またご覧いただければと思います。これが学校側としては、地域と共にある学校づくりを進めていくということでございます。では、そのオレンジの下の部分です。地域側がコミュニティスクールを導入するメリットと書かれております。今度は少し表現が変わりますけれども、地域サイドにとって学校を核とした地域づくりという視点で取り組んでいただきたいと思っております。この2つが相まってコミュニティスクールのメリットとご理解いただければと思います。

それと、最後になります。半分より下です。邑南町のコミュニティスクールのイメージはということで、これはあくまでもイメージとしてご覧いただければと思います。邑南町としては各小中学校のそれぞれにこのコミュニティスクールをつくるのではなく、9年間を意識した、或いは、中学校卒業時にどんな力をつけていた

きたいのかというところを、学校や地域であったり、共に共有していきながら、この9年間のイメージを持っていただくということで、先ほど説明いたしましたが学校運営協議会というものを各中学校区に設けて、小学校中学校共に9年間をイメージしていただきながら意見を交換していくとスタイルを現時点で考えております。

今後につきましては、来年度1年かけて邑南町のこのイメージをしっかりと地域の皆さんと共有する、ご理解いただく、さらには各中学校区で同じような形になるとは思ってはおりません。それぞれの地域に応じた形を築いていただきながら、実施としては令和8年度の起ち上げを目指して1年かけてしっかりと協議させていただきたいと思っております。

本日は、一番最初の入り口の部分をお伝えしました。コミュニティスクールが何となく、来年度1年をかけて協議されるんだなということで、お帰りいただければ喜びます。また意見等ございましたら遠慮なくおっしゃっていただければと思います。以上で私のお伝えしたいことは終わりにしたいと思っております。ありがとうございました。

3. 意見交換

- 大賀総務課長 続きまして、意見交換の時間とさせていただきます。皆さまからご意見ご質問をお受けしたいと思います。挙手をしていただきますと、マイクをお持ちしますので、お一つずつご質問ご意見をおっしゃっていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。どなたからでも構いませんので、よろしくお願いいたします。
- 矢上地区の〇〇と申します。町長さんの話で、地域活動のところで部活動の地域移行ということをごちゃと触れられましたけど、部活動の地域移行につきましては、もう3、4年前からずっと部活動を地域移行しなさいよということが国の方から示されて、それなりに町でいろいろなことでやられてきていると思うんです。
私が、体協のことをやっている関係で、部活動の地域移行のことについて、いろいろな皆さんの意見を聞いたり、学校の様子が見られるかなと思っていたら、なかなかそういうところまで会合が進まなくて、地域移行という名前だけが一人歩きしているような格好が今までできていると感じています。
ですが、先ほど教育長さんもコミュニティスクールということで地域とのふれ合いを大切にというようなことがあったんですが、これは部活動の地域移行とコミュニティスクールの地域との連携をとらないといけないというのは、全く違うものではないかと思うんですが。どちらにしても地域の方が中学校に関わるにあたって、保護者で子どもさんが中学校におられる方は中学校の様子がそれなりに理解できるのかなと思っております。中学校が新しくなりまして、私どもは中学校に子どももおりませんし、中学校の様子も全然分かりません。そういうことで、こういう話合いのときに、資料とかで前もって示されればいいのかと思っております。部活動の関係と、それからそれ以外では、コミュニティスクールという格好での、これは授業に関してなのかわかりませんが、そのへんの関係性というのはどのように考えておられるのでしょうか。
- 大屋町長 最初に部活動の地域移行という話をさせてください。言葉だけは何年か前から出ていたと言われたとおり、議会でも何年か前から質問があったのを聞

いていました。町長の立場になってやっとわかったのは、国で話があって県の計画がないと、町はなかなか動きにくい。それで今、国が計画を作られて、県がこの1月に策定をされるんだと思います。12月くらいからパブリックコメントというがありました。それ以前に邑南町が先に動く方法もあるのかもしれませんが、県が計画を作られて、その中で動くということが多いので、言葉だけが先走りしていたのかもしれません。

ただ一方で、国や県が計画を立てて、町を立てて、最後の締め切りは2030年となってくると、実際に動く現場は時間がないので、ちゃんと情報を仕入れながら動いていかなければいけないということで、計画作成と指導者育成をセットで、来年度以降に進めていかななくてはいけないと思っています。

地域移行と言いながら、地域の皆さんもいろいろな期待があって、今すでに小学校なりクラブチームなりで、地域でスポーツの指導、文化活動などいろいろな指導をしていただいている方がいます。その人たちにとっては、施設整備や指導者の報酬等の話、そこに対する期待もあるんだと思います。皆さん、ボランティアでやっていただいているのは重々、承知しています。

ただ、建前上の地域移行は、平日は学校で、土日のいずれかを実質半日で。今、部活動は国や県の指針でも土日のいずれか1日のうち、時間は3時間程度となっています。計画がある以上、その範疇でしか動けないので、その中でまずは考えていきたいと。部活動自体が、そういうものになりつつあるので、そういう情報提供もしながら動いています。

それで今、〇〇さんが言われたとおり、体協、スポーツ協会で若干名前は違うんですが、以前で言う体協があるので、少し体協の皆さんとも相談させていただきながら地域移行を。まずはスポーツ面、それ以外に文化的な活動もありますので、そういうところができないのかな。それと併せて、私の思いじゃないですが、ハード整備じゃないですが、地域の皆さんがお世話になっているところの施設です。というもの、少し古いものがあれば直していかなきゃいけないと思いますし。吹奏楽部についても楽器が古いというものがあります。財源があって、国から補助があるわけじゃないですが、地域移行と一緒にそのへんまで検討、研究ができればいいかなと思っています。なので、今から体協の皆さんなり地域の皆さんに情報を出しながら、早い段階で進めていければという状況であるということをもまずご理解いただければと思います。

- 大橋教育長 コミュニティスクールと地域移行との関係性ですが、まずはコミュニティスクールのシステムとしては動いておりませんが、土壌というふうにお考えいただきたいと思います。いずれにしても、コミュニティスクールも先ほど言い間違えましたが、社会総掛かり、或いは、地域総掛かりという土壌がないとコミュニティスクールも上手くまわっていきません。

そういった意味では、地域の皆さま方にご協力をいただかないと、いずれにしても部活動の地域移行も同じでございます。指導者不足というが出て参りますので、そういった意味ではコミュニティスクールも含めて地域にしっかり受け皿として受けていただきながら、学校と共に子どもたちをどう育てていくのかというところをもまずご理解いただきたいと思います。と思っています。

- 大屋町長 たぶんお話のもう一つは、コミュニティスクールなり学校が地域と関わったときに、学校の様子がわからないというお話があったんだと思います。保護者なら学校の様子がよくわかりますが、子どもが卒業してしまえば関わりが薄

くなってくる。

その中でまず情報提供なんだと思いますが、高校は早くから、こういう形の体制をとっていますから、地域の方の応援団やいろいろなことで関わっていただいています。保護者である間に保護者が頑張ればいいのか、その保護者が全てを負担するのではなく、少し地域の方も協力し合うことも必要かと思います。そのためには、学校の様子を伝えることが、コミュニティスクールに変えるまず第一歩かなと思っています。学校の様子が分かるということも、積極的に進めていきたいと思っています。

○ ありがとうございます。

●大賀総務課長 他にございませんでしょうか。

○ すみません、〇〇と申します。霧の湯の薪ボイラーは、今日の臨時議会で、今度の4月からいくということのようですが。薪は重油に比べたら安いのか、それとも町の脱炭素ということの施策の中での発想なのかということと。その薪の確保はそうなんですか、例えば、町に廃材が出ますよね。ああいうものを自分である程度の規定のものを自分で持って行ったら、使ってもらえとか、業者のものでなければ使えないのか。そんな考えはあるかないか、どんなですかね。

●白須副町長 副町長の白須と申します。私から今の状況を説明させていただきます。香木の森公園を4月から再オープンさせるということで、そこに霧の湯の含めてということになります。霧の湯につきましては、燃料価格の高騰を受けて休館としておりましたが、その間に、燃料費を地元の資源で賄えることができなかったということで、それによって経費を抑えることができないかという議論からスタートして、薪ボイラーを整備しようという方針の説明をさせていただいております。

薪は、ご存じのように邑南町の86%を森林面積が占めております。豊富にある資源ということで、また町が進めております脱炭素の取り組み、CO₂の排出を抑えていこうという取り組みにも繋がってくるものでございます。単純にものを燃やすので、CO₂を増やすんじゃないかという議論もありますが、しっかりと木を使うことによって、森林整備を進めて森林のCO₂の吸収力を高めていこうという意味で、薪ボイラーの整備を進めております。

最初の質問でございますが、経費の削減もありますが、それと併せて脱炭素を一つの町の取り組みとしてしっかり進めていきたいという考えで、今、薪ボイラーの整備を進めているところです。

それから、燃料になる薪ですが、今回、薪ボイラーの整備と併せて、民間の林業事業体が主導で、薪を製造する薪ステーションの整備をしておられます。ここでは、林業事業体から原材料を集めるということもありますが、規格とか1回に受け入れる量の問題もありますが、個人の方からもそういった要件が整えば、受け入れは可能と聞いております。

また、そういった事業がスタートして、薪の受け入れが開始される段階になりますと、また事業体の方から、或いは町からもいろいろな形で皆さんに薪の受け入れの方法など、周知させていただきたいと思いますので、今しばらくお待ちいただきたいと思います。

○ 単純な話だが、火力にはならんが、はでぎがいっぱいあるわね。ああいうものが、例えば、もう倒れそうではでぎばかり残っておるが、自分である程度の長さに切ることができて、それをどこか持って行くところがあれば、ちょっとずつ

でも、ああいう何か、一人ではとてもできんかもしれんが、持って行けば置くところでもあれば。空き家の廃材はごつ過ぎるからやれんが。以上です。

- 白須副町長 今、いただいた意見をちょっと参考に協議させていただきます。ありがとうございました。

- 今、霧の湯のことを言われましたが、僕も霧の湯のことはちょっと気になっていたもので、お聞きしたいんですが。この4月オープンということは、現在1月ですが、指定管理で今井産業の関係の方がやられるということを聞いたんですが。それで、今から4月オープンだとすぐですので、来店客数、利用客数とか、当然そのへんも読んで、エネルギーも用意されていると思います。

ちょうどこの1月の正月に安来のしらさぎ温泉というところに行ったんです。これも指定管理で、あそこで聞きますと、正月の一日、二日に、1日で約500人くらい来たそうです。というのも安来市がその温泉のパスポートを市民は半額じゃないですけど、そういうパスポートを配っているらしいです。それで、そのお客さんが相当来たということを聞いておりますので、具体的に考えますと、4月オープンということになると、当然、今回運営される今井産業グループの方が、どのへんまで考えて、どうやっていこうかとほぼ分かると思います。そのへんが、もしわかれれば、教えていただければ嬉しく思います。

- 白須副町長 はい、今○○さんが言っていたように、4月からの指定管理者については、江の川さくらライン機構という今井産業が主体になった関係事業者の共同体が指定管理を受けて、4月オープンに向けて準備を進めておられます。この決定までの間に、2社から応募があって、それぞれに運営計画を提出していただいていて、審査会を開いて、内容をしっかり審査をして点数化して決めております。それで、事前に提出していただいた計画の段階では、入り込み客数、あるいは収支の計画をそれぞれしっかり立てておられます。

それで、今日はどれぐらいの利用見込みかというところは数字まではお応えできないんですが、一年間の収支を立てて、これならやっていけるということで提案をいただいていると認識しています。

それから、この霧の湯につきましては、やはり町民の福祉のためにというのを一つの目的として整備した温泉施設ですので、町民の方にもしっかり利用してもらいたいと考えております。この部分につきましては、まだ町の予算要求の段階でございますが、町民の利用者向上につながる何らかの支援が。そこはちょっと町長の考えを説明させていただきたいと思います。

- 大屋町長 収支は収支で、あとは条例で料金も決まっていますので、その上下2割の中で決めるようになっています。今、検討しないといけないと思うのは、皆さんの反応もすごく気になるんですが、先ほど、浜田、江津と協力したいと言った中で、似たような温泉施設もあります。いろいろできるといいと思うんですが、入湯税については、浜田市は日帰りの場合はいただいていないです。宿泊の場合はいただく。議会の一般質問もあって、全国的な流れはそういう感じです。

今、町民の福祉向上と言われたとおり、福祉向上が目的で入湯税をいただいているのかどうかという課題があります。そういう意味で整理をしながら、まず町民の皆さんに使っていただくのが第一で、そこに誘客を進めていくということをしていかなきゃいけないので、日帰りの利用と宿泊で分けながらというのもあるかもしれません。

一方で、公園管理を含めた指定管理料は支払いますが、それは公園と香夢里と

バンガローと全部が一体なので、その中の運営なので、赤字が出ても救う方の範疇です。ただ、3年目からは内容によっては納付金をいただくようになっていますので、その辺も含めながら運営ができればと思っています。

- 例えば、広報の2月号くらいで霧の湯のオープンが4月ですということをしっかり出されんと、町民もそこまでわかっていないもので。楽しみにしとるはずで。その辺を読むと、最低も2月号くらいに間に合えば、それを表紙の一番前に出してもいいです。大きな楽しみだと思えますので、新町長、一つよろしくやっちゃったら、すごく受けると思いますので、頑張ってください。

- 大屋町長 霧の湯も過去にいろいろな経緯があって、コロナ禍のときにはあまり皆さんの反応がよくなったんですが、それが過ぎたら、あそこはいつ再開するのかというのは、町内の皆さんも言われますし、仕事で邑南町を訪れる方からもいつ再開するのかと言われます。期待は大きいと思いますので、ご意見をしっかり踏まえてアピールしていきたいと思っています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ほかにございませんか。

- 矢上の〇〇です。町長になられてから、初めて大屋町長の顔をお伺いしまして、最初に言われたこの紙なんです。すごく町長さんの意欲を感じています。ただ町長は4年ありますので、あまり焦らず、やれるものから無理せんようにやっていただければと思います。

特に、行財政改革は急がなくてはいけないと思いますが、例えば、小中学校の統廃合や、公共施設のことですとか、その辺りはじっくりと据えて考えていかないといけない問題かと思うので、来年度中に何とかという道筋はつくるにしてもあまり焦らずじっくりやるところはじっくりやって、無理せずに一つずつ、くたびれずに町長の思いを実現していただければと願っておりますので、頑張ってくださいというだけです。

- 大屋町長 ありがとうございます。町長になっていろいろな数字とか状況を聞いたときに、もう少し、いろいろな取り組みをしておけば、段階的にできたんですが、やはり急激に人口が減ってきて。もう突然に例えば、社協が石見では来年度からデサービスを止めます、訪問介護を止めますというような状況で、やはり1年、2年の間にしっかり取り組まないと、そのしわ寄せが一気に突然町民の皆さんに出てくるような状況があるので、やはり取り組まなければならない、変えなければいけないというところは、皆さんにしっかり理解していただいて。

ちょっと段階的に変える余裕があるものと全くないものがあるのかなと思っています。そういう意味では、早く変えなきゃいけないものはしっかりやっていきたい。しなければ皆さんに迷惑がかかるのという思いがあります。ただ、気張らずに頑張ります。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ほかにございませんか。

- 町東の〇〇と申します。矢上高校のことでちょっとお聞きします。先ほど、町長さんが申されましたが、矢上高校は町あつての矢上高校であり、また矢上高校あつての町かもしれません。そういうことで、これまで矢上高校と地域の未来をつくる会というがございまして、住民を含めて、いろいろな形で支援をしようじゃないかという組織です。これらのことを、またこれからもきちんと続けていけるかどうかということをちょっと確認したいんですが、いかがでございましょうか。

- 大屋町長 元々、私自身も矢上高校の卒業です。子どももそうでした。PTA

会長もさせていただいた中で、地域に矢上高校は絶対に必要なものです。地域振興所という話もありますが、今の時代、いろいろ関わってみて初めて分かったのは、高校は義務教育ではないけれど、実質、今は義務教育のようなもの。ほぼ100%高校に進学されるということは、無くなれば進学に対する負担が出てくるという意味では、地域にとってあって当たり前。義務教育と一緒にだと思っています。

そういう中で、早くから振興会等があって、今で言うコンソーシアムですかと言ったんですが、コンソーシアムとは何だと、言葉が難しいんですが、矢上高校と地域と未来をつくる会ということになっています。当然、しっかり支えていきたいと思っています。

若干、余談もあるんですが、今、町長になってあらゆる部分で、町長以外の兼務の仕事はお断りさせてもらっています。例えば、おおなんきり、電気の会社です。これは町長として兼務できるほどの簡単な会社ではない。やはり専門の人がおられて、きちんとされるべきという意味です。いろいろな面談というのも、町長が出てくると私個人の思いの方が強くなって、皆さんの意見が聞けなくなるので、極力、避けさせてもらっています。

コンソーシアムについても、できれば今まで町長が会長だったんですが、交われればいいなと思っています。その意味は、逃げるんじゃなくて、町としてしっかり支えます。補助金なり、人的バックアップをする側と、受ける人が一緒なのはおかしいよねと。町の姿勢としてはきちんとしますが、その代表は、一般の方なり、町民の方がなられて、引っ張っていかれるのがいいかと思っています。

ちょっと、別の場所でも言いましたが、人材の発掘ということもあって、いろいろな役割を町民の皆さんにもしていただいて、町はそこをしっかりと支えていくというのがいいかなと思っています。応援するというのは、全く変わりなくさせていただければと思います。よろしくお願いします。

●大賀総務課長 ほかにはございませんか。

○ ○ ○と申します。今、高校のことが出ておりましたが、高等学校ができましたときに、私の母はもういないんですが、高校ができるときには、自分たちは80日くらい無報酬で校庭を広げたりしたという話をしております。学校がなくなるようなことは、残念だと思います。私たちが学校に行きましたときには、同級生の中で、まだ校庭に石がありましたので、ほごう等を背負って行って石を拾ったりしたんです。よくできる人は、矢上高校に行くと、作業があるから嫌だと言って、よくできる人は浜田高校へ行かれたりしたようなことでした。先祖の人が心配して、高等学校を開かれたので、なくなるようなことは絶対していただかないようにと思います。

それから、今日の話には全然出ないんですが、町を歩いておりますと、大変良い田んぼが草だらけになって、何も作っていないようなところもありますので、これは残念だと思うんです。

この大耕というのが、邑南町の一つの雑誌になったんですけど、その中に、口羽の棚田、こいきちさんという方ですが、そこの方には、田んぼに水がなくて、山なんだそうです。それで、春に雨が降らないと田植えができない。秋に降れば、稲刈りが大変なんですけど、まず雨が降ってくれなければ、水の出るところがないというような山の方に住んでおられるそうです。時々、この雑誌に書いておられるんですが、この方は野球も熱心なそうで、広島を応援しておられます。そし

て、広島から田植えに来られるんだそうです。手伝いに来られた方に、お米をあげるので、新米の味を覚えられたのか、田植えをしてくれと言われると、快く参加されるそうです。

去年の大耕の中でも、今年はどがあなかいなと広島から田植えの応援に来られるそうです。それで、今は畦もコンクリートにしたし、機械が出入りするところは道を良くしておりますので、大型の車でも出入りできるようにしていると言われるんです。どんなわけで水がないのかわかりませんが、とにかく山なので、春に雨が降らなければ田植えができないということを嘆いておられます。何とか、田植えができると、秋には広島の人にお米をあげらるのに、新米の味を覚えて、快く皆さんが今年はどがあなかいな、田植えができますかいなという声が掛かるそうです。そうして、来られるようなことが書いてあるんです。そんなに、山の中で水を貯めるところがないのかどうかわかりませんが。そうして、こんな話を聞いて、町を歩いてみると、あちこちに良い田んぼがあるんですが、コンクリートの溝もあって、水に苦労するようなことがない田んぼで稲を作っていないところがたくさんあるんです。それで、何とか声がけをしてもらって、協力ができるなら、協力したりして、休んでいる良い田んぼを何とか作っていただきたいと思っております。

- 大屋町長 ありがとうございます。高校については、皆さんのいろんな思いがありますし、地域の思いもあります。そうは言いながら、やはり町として応援するのに、先ほども少し言いましたが、矢上高校の卒業生の方が地域でたくさん働いて活躍してもらっている。その姿に対して、また応援しようということは必要だと思っています。

この秋に役場に入られた方で、町外から矢上高校に来て野球をされて、学校を出られて、またこの地域でということで帰ってきていただいたということもあります。その姿に対して、皆さんが共感していただいて応援しようと思っていたければ、予算も付けやすいし応援もしやすいと思います。その流れを大事にしていきたいと思っています。

田んぼについては、おっしゃるとおりで、昔から苦労して田んぼをつくられて、水田を維持してきたということで言えば、どこの地域もそうですが、ものが作られなくなり荒れてく姿というのは、人の活動が見えないので寂しいと言われます。去年の秋から米の値段も上がってますし、野菜の値段も上がっています。もう少し、皆さんに意欲が出て、来年はちょっと増やそうかな、荒れたところを作ろうかなという思いが見えるかなと思いましたが、なかなかそういう声が聞こえて来ないということは、やはり年も取られているし、そこまで意欲が持てるほどの元気もなくなってきたということがあるんだと思います。

農業振興のところはあまりたくさん書いていないんですが、道の駅もできます。良くなります。売るチャンスはいっぱいあるし、価格的にも今はいいときが来ていると思います。しっかりと、この波に乗って、耕作放棄地に意欲的に手を出して作っていただければいいかと思います。

邑南町は、農業者が減っているというイメージがありますが、専業で若い人と言えば、神紅であるとか就農者が20代、30代は増えています。自分のことだけじゃなくて、少し意欲的にそういった土地にも何らかのことをしていこうと思えば、人はいるのでそこをしっかりと支えていければと思います。皆さんにとっては、誰かがものを作っている姿、水田が青々として、秋にはしっかり米が実っ

ている姿は、作られない方にとっても田舎の風景として、大事なんだと思います。そういう意味でもしっかり支えていきたいと思っています。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ほかにはございませんか。

○ 座ってごめんなさい、言わせていただきます。〇〇です。よろしくお願いします。今後、取り組んでいくことということの中で、具体的に書かれてくださるので、よく分かったんですけど、一つ、保健医療福祉の充実というところの欄で、日本一の子育て村の在り方と福祉施設の在り方の検討ということ、これとても大きな言葉で具体的にここには出されていなくて、今から検討していただくのだろうと思うんですが。

今は、本当に高齢化が進んでいる中で、団塊の世代の人、私も含め全てが80代になろうとしている中で、少子化はどんどん進んでいるということ。先ほど、町長さんもデイサービスのことを具体的にお話されましたが、本当に今の介護保険制度の中での、運営や在り方なども含めて、いろいろな意味でとても大変な時代がきていると思います。少子化の中での子育てそのものが昔は、こどもは元気でたくましくという感じでスパルタ的な教育をされる中で、たくましく育っていたような気がしますし、私たちの子育てはそうだったかんじです。今は、そうではない、そこに一言で片付けられない、子育てについてのいろいろな悩みを抱えたお母さん方、家族の方に、状況が出ていますし、このデイサービスにおいても、人材をどう確保していくかということも大変な問題を抱えているという現状があります。

その中で、日本一の子育て村ということが今後どうあっていったら一番いいのかという思いをいつも持つんです。福祉をものすごく尊重してきたこの邑南町が、子育て日本一の村と統合していく、一緒に考えていけるという方法となると、最終教育と福祉がどう協働していくか、このことを考えていかなければ、いろんな意味での解決は出てこないような気がするんです。

それで、具体的なところで、今どんどん子どもたちが少なくなっていく小学校のことも含め、保育所も同じだと思います。それと、この高齢化に対しての対策というものもどう解決していったらいいかということを思うと、どこかで教育と福祉は協働していかなければ成り立っていかないんじゃないかと思います。このコミュニティスクールの中にも入り込んでいくんじゃないかと思うんです。どんどん少なくなっている子どもたちの世界、教育の世界と福祉を合体していくことの中で解決策があるんじゃないかと思いますし、新しい邑南町というものをそこに作り上げていくことはきっとできると思うんです。

子どもたちの、ただ一貫的な教育ではなく、もっと伸びやかな自然の生かされたフリースクールという言葉で片付けられるのかちょっと未だ分からないんですが、何か子どもたちがもっと解放された自由な中でのびのびと尚且つ、しっかり勉強もできるような学ぶことの喜びをしていけるような子育てができる環境づくり、居場所づくりもこれから、もっと地域と共に考えていかなければいけない時代がきているような気がするんです。

そんな意味で、ここの検討という言葉の中にこれからを託して、お願いしたいと思ひまして、全然まとまっておりますが、よろしくお願いいたします。

●大屋町長 ありがとうございます。役場の中だけで話をするのか、どうしようかと思ひながら、今、お話を聞いています。やはり皆さんでという中です。敢え

て、そこを並べたのは、それぞれに課題があってというところはあるんですが、支える側、子育てをされている若い世代は、そのまま福祉施設の担い手の中心でもある。子育ての負担があれば、働くことができない。やはり、子育てと地域の特に福祉施設での人材確保は重要なことと考えております。子育てを地域総掛かりいでは言っていますが、その地域総掛かりということはどういうことであって、今、いろいろな問題が、お子さんが親であり地域の人と関わる、お話をするようないろいろな関わりが少ない。育てればいいというわけじゃないんだと思います。

そういうことを含めてお子さんの教育、成長と、保護者の負担、その人たちには子育てしてもらいたいし、地域の働き手として中心的な役割もお願いせざるを得ない状況を考えれば、今、お話ししていただいたように、教育と福祉と併せてなり、全体の中でももう少ししっかり議論していければと考えています。ありがとうございます。回答も中途半端なところがありますが、気持ちは十分理解できましたので、それをどういう形で議論するかをもう少し時間をかけて考えさせてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました時間にそろそろなります。最後にお一人、どなたかこれだけは言っておきたいということがございましたら、お願いしたいんですが、いかがでしょうか。

それでは、たくさんの方から、ご意見ご質問いただきました。ないようですので、終了したいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。限られた時間ですので、質問や意見が言えなかった方もいらっしゃると思いますが、冒頭に町長が申しました町長への手紙とか、それ以外の電話とかメールとか、いろいろな方法で結構ですので、いろいろな質問ご意見をいただきたいと思います。

最後のあいさつということでございますが、少し厳しい話をさせていただくかもしれません。現在、町では新年度の予算編成を進めております。今日もいろいろな課題のお話をいただきました。そういった中で、大屋町長は初めての予算編成になります。しかしながら、厳しい財政状況というのを言っておりますが、職員には毎年、予算編成にあたって方針を示します。その方針、重点項目の内容も今年は財政再建というのを一つの大きな方針として予算編成を行っております。今まで行ってきた事務や事業を検証して、段階的に進むところもありますが、見直すところはしっかりと見直していくという姿勢で作業を進めております。

新年度においては、事務事業の見直し、或いは、廃止等を町民の皆さんの生活、事業活動に少なからず影響をきたすことがあろうかと思いますが、こういった点につきましては、こういう理由でこう変わるという説明をしっかりとしていきたいと考えておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

その際には、様々な意見を頂戴したいと考えております。いただいた意見については今後の参考とさせていただきますので、しっかりと意見を言っていただきたいと思います。

また、中長期的には、小中学校の在り方の検討、或いは、地域コミュニティの再編等を進めておりますが、これらにつきましても町民の皆さんと必要な情報をしっかりと共有しながら、皆さんと協働で進めていきたいと考えておりますので、

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、お仕事お疲れのところ、また非常に寒さが厳しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございました。お帰りの際には、交通安全に気を付けて事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は、長時間にわたり、様々なご意見をいただき、ありがとうございました。以上で、本日の矢上地区の令和6年度町政座談会を終了させていただきます。ありがとうございました。

町政座談会（中野地区）

日 時 令和 6 年 1 月 2 1 日（火）
1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
場 所 中野公民館

1 . 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。あいさつですが、せっかくの町政座談会ですので、私の思いもしゃべらせていただいて、30分くらい最初にしゃべらせてください。その後、教育長が少ししゃべって、皆さんとの意見交換会にしようと思います。

お陰様を持ちまして町長に就任させていただきまして、年も越えて3ヶ月まだ経たない中です。町長になって宙に浮いたような感じというか、地に足が付かないような日々が続いていましたが、年末年始に9連休しっかり休めまして、年が明けて連休も続いておりますので、日常が取り戻せた感じがしています。

町長という立場になりまして一番感じたのは、日常がないという中で、今までは町民であって、議員であって、皆さんと同じ生活をしながら、地に足をつけて物事を見ていたところが、それが無くなった途端、常に正しい判断ができるのか、皆さんの思いに寄り添えているのかというところがありました。

12月議会も過ぎまして、25日から漆谷議員さんの一般質問が、ケーブルテレビの再放送であります。非常にそういう意味では、議員さんのおっしゃることは、もっともです。皆さんの代表ですし、決して間違っていることは言われない。それに対して、しっかり期待に応えたいんですが、なかなかできない部分もありながら。やっぱり議員さんというのは大事だし。立場が変わって、今ちょうど予算の編成時期です。私が何かしたいという思いもありますが、せっかくするなら、議員さんからも提案があったこと、皆さんから提案があったことが一番いいと思いつつ、過ごしています。

立場が変わりましてという話の中で、12月議会でも漆谷議員さんから、日本一の子育て村をどうするかという質問で、看板がくすんできているとありました。それで、1月に臨時議会を開きまして、矢上の香梅苑の横にあります屋根付き多目的施設の塗装が傷んでいて、今後どうするかということで、修繕のための調査費を経常しました。それを聞かれた方が、あそこを通る度にあれがずっと気になっとなんだと言われまして。やっぱり皆さんは町のもの、自分たちが使うこの施設もそうです。そういう見方をして、ちゃんと手入れしないとダメだろうとか、いろいろな思いがあるんだと思います。

町側にききますと、以外とそこが見えなくなります。改めて、日本一の子育て村の看板を見ても、くすんでいるな、汚くなっているなとか、ちゃんとそういうのを見て直すべきときには直す。タイミング良く修繕していくということで、自分たちのものとして見なければいけないと思いました。

今後のお話をする前に、町政座談会の表紙に町長への手紙というものをつけております。極力、皆さんの意見を聞ける場を増やしますということで、ご案内しています。12月の広報に、ちょっと気がつきにくかったかもしれませんが、町長室に直接届くFAXの番号と、役場の玄関の入り口に意見箱という箱が新しくなりました。どうぞ使ってくださいと言いましたが、FAXも一回も鳴りませんし、意見箱

に意見が入っているわけでもありませんでした。皆さんがどうかじゃなくて、今の時代にFAXを使うことはそうそうないですし、手紙を書いてわざわざ役場まで出しに行くんだったら直接ものを言った方が早いのもかもしれません。

そういう意味で、今後、ちょっと手直しはしたいんですが、今回の町政座談会のために、今こうやってQRコードをつけています。これを読み取っていただければ、私に直接メールが来る仕組みになっています。私自身の姿勢として、匿名だろうと、わざわざ何か一言でも伝えたいという思いがあるんだということに、しっかり応えたいので。名前も折り返しの連絡先も任意にしています。入れてなくてもできます。ただし、システム上、タイトルだけは書いてくださいということで、「あ」でも「え」でも何でもいいんです。一言、打っていただいて思いを書いていただければいいようになっていますので、ぜひ活用してください。

先日、矢上で町政座談会がありまして、たぶん50人くらいで、職員さんも20人くらいおられたんですが、終わってから3通ほどお手紙が来ました。こういうものは、いろんなチラシとか100枚配って、4、5枚反応があればいいという思いでやっています。だいたい世の中はそういうものらしいです。5%くらいなので、50人くらいで3人いただけただけでもありがたいと思っています。時期が過ぎても、試していただければ、使えると思います。2月の頭まで町政座談会をしていますので、今日気がついたことでもいいですし、話を聞いて何日か経って気がついたことでも大丈夫ですので、伝えていただければと思います。

この後は、座って話をさせてください。資料に今後取り組んでいくこと、取り組みたいことを入れています。本来ですと、町の財政が厳しいです。人口が減っていますということを、きちんと皆さんに示すために、数字で出すべきところもあるんだと思います。ただ、ご存知のとおり大型投資が続いているので楽なわけではない。財政的には厳しいのは、皆さんが思っているとおりだと思います。

人口についても出したかったんですが、以外と衝撃的な数字なので、出すとどうかなというところがあります。12月議会でも小中学校の統廃合の話をしたときに、唐突だと言われたんですが。

若干、簡単な数字で言いますと、今の小学生を中学生は、だいたい一学年70人おられます。ですので、全体で650人くらいです。その次に、数年後に小学生になる今の保育所の子どもたちですが、0歳から6歳は300人です。ですので、一学年50人くらいに減っています。最近の毎年生まれるお子さんは40人くらいです。今年度は、12月までに28人だったので、たぶん担当課に聞けば、母子手帳の発行で、だいたい分かるんだと思いますが、40人いるかいなかです。この話を先に出すと、小中学校をどうしようかという話になると、当然、将来を見れば、中学校一つ、小学校一つでいいだろうという数字になってしまうので。今後、Uターンがあったり、Iターンがあったりして、例年増えていきます。その数字は分からないので、まずそういう状況の中でどうしていくかという話をさせてください。

それで、取り組みたいことと書いてありますが、今の現状、町長の立場でやっている仕事は、今年の仕事始めのときに職員の皆さんにも話をしたんですが、役場として年は変わりますが、大事なのは年度ですということで、この1月から3月は、今年度の仕事をきちんとまっししょう。その上で、来年度の準備をきちんとしていまっしょうということで、今は大型事業の期限内の完成を目指しています。

道の駅であるとか、中学校はだいが見通しがついていると思います。来年度の準

備を、今していますので、取り組みたいことということで、予算として必ずしも来年度に反映できるわけじゃないかもしれませんが、再来年かもしれませんが、来年度中に考えないといけない、前に進めなければいけないと思っていることを書いています。

先ほど言いましたとおり、お子さんの人数が減るから教育をどうするかという意味で、小中学校の統廃合は必要ですが、一方で、今ある学校の改修がすべて終わって、何もしなくてもよければ違うんですが、大部分が修繕や建て替えを迎えてきている学校です。そういう意味で、統廃合は避けられないと思っています。

その中で、単なる数合わせではなくて、地域との関わりであるとか、その中で子どもたちが、どういう学びをするのが一番いいのかを考えながらやりたいと思っています。必然的に、児童クラブや給食センターをどうするのかということも併せて考えていかないといけないと思っています。これを一番最初に書いてますが、次に書いてある行財政改革も、今、副町長を中心にプロジェクトチームとして役場の中で横断的な組織をつくって進めている最中です。

公共施設も人口が減ってくる中で維持をする。何度もお話をするんですが、建物がきれいで維持費だけで済むなら、考える余地はたくさんあると思いますが、基本的に建物もすべて古くなっているのので、建て替えを含めた検討となると、どうしても統廃合は避けられないところがあります。

自治会館を書いているのは、古くなったからという意味よりは、今は地域コミュニティの再編ということで、例えば、井原は一つの自治会にされた。そういう進み具合に応じて、自治会館というのは必然的に必要なくなってくる。そういう場所もあるかと思います。斎場についても、3カ所が必要かどうかということも考えていかなければいけないと思います。

一方で、何かをなくしますばかりではなくて、必要がなくなった建物で、古いけど、すぐに壊す余裕があるわけではないです。そうすると、その施設の違う活用策がないかと考えないといけないと思っています。他の町の事例ですが、学校が廃校になったときに、そこに企業を誘致するとか、工場のような形で野菜をつくる仕組みとつくるとか。邑南町として、遊休施設をどのような活用があって新たな住民サービスができるか、産業振興につなげることができるかを、施設の統廃合と一緒に考えていければと思っています。

住宅の話も少しあります。皆さんのイメージがどうか分かりませんが、邑南町は住む場所がないです。病院だとか、結婚だとかで、皆さん住む場所を探しておられます。おかしい話で、空き家はたくさんあります。町営住宅もたくさん空いています。だけど、住むところがない。それは、公営住宅には基準があって所得の関係で、入れる方が決まっています。これについては、少し試験的にそういう制限をなくして、一定年数が経って補助金などが終わったものについては、誰でもというか、ある程度の条件はつけないといけないかもしれませんが、今の基準でなく入れるような形で、運用を見直すことができないかと考えればと思っています。特に若い人たちは、ああして住む場所や宅地がないということもありますので、その辺りの対策を空き家活用も含めてできればと思っています。

皆さんの興味のあるところで産業振興も常に出てきます。基本的には町内の経済循環をとという思いがあって、それに対しては、おおなんさくらカードや商工会の商品券を使った支援策や対策ができれば一番いいかなと思っています。その思いは、商工会のさくらカードとか商品券であれば、基本的には町内で使うしかないという

言い方は変ですが、町内で使っていただけるということが一番だと思うので、さくらカードの活用は、今後、考えていきたいと思っています。商工会中心で活用してもらいたいということで、二番目にも書いてあります。

農業関係は、去年は特に暑さ対策を言われました。今、米が高くなって野菜も高くなって、買う方も大変なんですけど、つくる方にとってはいいかなと思ったら、これだけ米が高くて野菜も高いけど、皆さんの中で来年は米を増やそうとか、ちょっと野菜をつくってみようかなとか、そういう雰囲気はほぼないと思いますし、聞かないです。せっかくのチャンスなので、少し後押しをする形が取れればと思っています。

一方で、きちんとしたことをすれば暑さ対策もなるんですが、そこをお知らせする場面が少ないので、営農情報の提供など、ケーブルテレビをもっと活用できればと思います。元々は、建物を建てる補助金やケーブルテレビもそうなんですけど、農村対策とか、農業対策ということで、農農業関係の予算がたくさん使われています。そういう意味で、きちんと農業関係、産業対策に使うことによって、今後も次なる更新が必要なときにはそういう予算が使えるような仕組みにしていきたいと思っています。

今、町内で一番問題なのは、いくら頑張ろうとまず働く人がいないと言われます。企業誘致を頑張ればいいかなとも思っていますが、今、江津は比較的企業が来られて、工業用地が足りないの、県で造成をされると聞きます。いろいろな面で、浜田市とか江津市と邑南町が一緒になって観光対策とか、産業振興ができればいいと思うんですが、町内の企業でさえ従業員が確保できないという状況で、企業誘致をしたとしても取り合いになるだけという思いがあります。

それで、まずは、地元の企業なり、事業所できちんと働く人を確保できるような努力をしていきたいと思っています。その一つが、資格を取得する支援を考えなきゃいけない。もう一つは、外国人の方もかなり来ておられます。そういうバックアップもしなきゃいけないと思っています。

その下に二つ、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生の話と、邑南町を支える人材の育成と奨学金の見直しと書いています。高校振興で、矢上高校にはたくさんの補助金を出して応援しています。石見養護学校も地元にある県立学校ということで関わりを持っています。今までは、県外からの生徒さんも来られて定員を満たしていますという話はしていると思います。その卒業生がどこに行っているかという話はあまりしたことがないと思います。せっかく縁があって来ていただいたので、専門学校、大学などを出て、もしくは直接、町内で就職していただける仕組みをつくりたい。その仕組みをつくる中で、邑南町で働くと、どういう人生が過ごせるのかというも示していかなければいけないと思っています。そういう中で、邑南町で働くことを選んでもらえる仕組みづくりや、ふるさと教育もそうなので、そういうところから考えていければと思っています。

日本一の子育て村をして、UターンとかIターンとかたくさん来ていただいて、非常に子育てはしやすかったという話は聞きます。それは金銭的な面も含めて、保育所、小学校、中学校と。ただ高校になって大学に進むときには、金銭的な負担が地方は特に大きいです。そういうところで、奨学金も一つの考え方だと思いますし、ここから先には皆さんとの議論になると思いますが、大学とか、専門学校を出なければ取れない資格もある一方で、今必ずしもそれが全ての人生ではないかという思いを持っています。この町で、高校を出てすぐに働く、働きながらこの町で必要な

資格を取るとか、そういうことを応援していくということです。一つの考え方として認めていただければ、保護者として県外に送り出す必要はあまりない。その金銭的な負担はなくなるかと思います。本当にそれがいいかどうか分かりませんが、今は大学進学率がすごく高くなって、もっと高めましょうという全国的な動きがあって、それはそのまま東京に引っ張られる。大学がある県に行くということなので、大学のない島根にとっては不利な話かと思います。なので、この町でどうすれば生活できて、どういう資格を取っていけば皆さんの役に立つかというのを示して、それを応援するという必要かと思います。これはまた教育委員会とも議論しながら進めていければと思っています。

書いてあるとおりなので飛ばさせていただきます。保健医療福祉の話が書いてあります。日本一の子育て村をどうするのか、これは賛否両論あったんだと思います。ここに日本一の子育て村のあり方と福祉施設のあり方と書いています。捉え方はそれぞれあるかと思いますが、改めてどうやってこの町で子育てしてもらうのが一番いいのか、皆さんにどうすれば協力してもらえるのかということをは話し合えればと思います。特に、若い世代は子育て世代でありつつ、福祉施設等の担い手でもあります。子育てがしっかりできなければ、働くこともできない。それはそのまま医療福祉施設の働く人がいない、働きに来てもらえない、人手が足りないということにつながるの、子育てと福祉施設、医療福祉のあり方はつながる部分が多いと思います。それぞれ別々で話し合いながら、最終的には総合的にどうあるべきかということをは話し合っ、それを皆さんに示す中で、子育て支援を今後していければと思います。

それから、地域の見守り活動ということで、12月議会でも辰田議員さんから、町の公用車に「邑南町」と付けるべきだと言われたんです。当たり前話なんです。今、公用車もいろいろな課と一緒に使っているの、町の表示がある方がいい時と、ない方がいい時があるということだったので。じゃあ、逆に安全パトロールのために使うのであれば、そういうマグネットをつくって、それを貼って出られる人が出ればいいのかという思いもあります。

地域の見守りは、中野は、にこ丸くんはかなり協力していただいているところもあると思います。町としては郵便局にも協力を求めています。お願いしている立場の町が何もしないというのは好ましくないの、町としてできることを考えていきたいと思っています。

もう一つ、数字を示してなかったんですが、12月議会でも秋くらいからすごく話題になったのは、邑南町の社協がデイサービスとか訪問看護をやめるということです、今年の4月から。皆さんからすると、高齢者が増えていてそういう福祉サービスがどんどん必要なのに、何で辞めるんだということがあると思います。ただ実際には、町の高齢化率は45%でほとんど変わっていません。人口は減っています。65歳以上の人口は徐々に減っているのが現実です。

そういう中で、先ほど言った福祉をどうするかということも考えないといけないです。そう言いながらも、65歳以上の人について、高齢者の定義をどうするかということは今、国でも話し合っているようです。高齢者と言うべきかどうかは別にして、いつまでもお元気で、できれば地域の担い手なり、職場の担い手であってほしいということもあります。人生が長くなる中で、どう生きて、どう暮らしていくか、どういう生きがいを持つかということで、その一つが老人クラブや、一人暮らし世帯の方だと思います。今でも老人クラブの方には補助金を出しています。一

人暮らし世帯の方も会があって活動されています。そういうところにもしっかり応援しながら進めていければと思います。

ちょっと聞き慣れない言葉で、１００歳大学と書いてあります。１２月議会で提案がありました。今、自治体によっては、人生１００年の時代なので、仕事をリタイアした後に、これからの人生をどう考える、どう過ごすかということで、皆さんと一緒に学びましょうと、そういう場が１００歳大学です。言葉として１００歳大学ですが、邑南町としたら、老人クラブであるとか、公民館活動の中でほぼ同じことをしています。それを少しまとめて、つながりを深めることができればと思います。

もう一つ書いているのが、邑南町のいいところは、一人当たりの医療費が少ないです。県内の他の自治体に比べると、皆さん一人一人の病院に罹る医療費が少ないです。昔は、松江や出雲とか、病院がたくさんあるところの人は病院に行く機会やチャンスが多いので、いつでも受診できるので、医療費が低いと言われていました。山間部は不利だと言われていましたが、邑南町は県内でも低い方です。その要因は、邑智病院が近くにある、診療所が守られているということ。それから保健師さんの活動でいろいろな検診の受診率が高いです。

ただ一方で、人間ドックは４０歳５０歳の受診率はちょっと低いです。国保の加入者も、２０歳代は検診を受ける機会がないです。そのあたりをしっかりとフォローしながら、町としていつまでも皆さんが元気で医療費が少なく、大きな病気をしないようにバックアップできればと思っています。

あとは、二つほど大きな項目が書いてあります。地域活動の話で部活動地域移行の準備と書いてあります。議員から町長の立場になりまして、何となく分かったのが、町の動きが遅いとか、何やっているんだとか、よくあるんですが、部活動の地域移行も同じです。何でもっと早くしないのかと。この言葉は、皆さん早くから聞いています。

ただ、町としては、国が計画をつくって、県が計画をつくって、やっと動けるという状態です。県の計画もこの１月にできたばかりです。ただ２０３０年だと思えますが、国スポを島根でやるまでには、これをしまししょうと。最後が決まっています。そうすると準備する期間は短いので、計画をつくって指導者を育成して、必要な環境整備をしてということと並行してしなければいけないと思っています。動きは遅いですが、動き出したら早くきちんとできるようにやっていきたいと思っています。

最後に、そのほかを書いています。私の思いとかいろいろなことです。一つは、皆さんのご理解を得ながら、役場職員の副業をもっと進めていければと思っています。今まで私自身もあまり知らなかったんですが、公務員は副業をしてはいけないという思いでしたが、手続きをきちんとして許可を受ければ、してもいいというのが現状だそうです。地域で、会社の手手が足りないというところに職員が行くのは無理ですが、地域行事やできる範囲で、地域で人手が足りないとか。ちょっと極端かもしれませんが、児童クラブで足りないとか、そういう場所で許可が受けられる範囲であれば、職員の方にそういうことをしていただきたいと思っています。

それは書いてあるとおり、役場の中でも人の仕事に関心を持ってくださいと言っています。縦割りだけど、事務を効率的に進めるためであるとか、それぞれの能力の向上のため、まず人の仕事に関心を持っていただきたい。併せて、地域も関心を持っていただきたい。それがそのまま事務の効率化につながって、そのメリットは

また町民の皆さんに返せればという思いがあります。なので、役場で仕事をして、また地域に出て金儲けをして、そがぁに稼ぎたいんかとか言わんでください。皆さんのためにということで、副業が進められればと思います。あくまでも、ルールに基づいて基準の範囲内です。

併せまして、今日、皆さんの前で町政座談会をさせていただいています。時期がこの時期になって大変申し訳ないですし、一番寒いときですけど、来年度は、もうちょっといい時期を見ながらと思います。定期的に町政座談会を開催できればと、毎年、公民館単位できちんとしていければと思います。以前は女性の会ということもしていました。女性という括りがいいかどうか分かりませんが、皆さんの声を聞く場面として、女性であるとか、地域であるとか、仕事であるとかの括りの中で、こういう会ができればと思います。

こういう会を開く目的は、皆さんの声が聞きたいからですというのが一つです。私自身もやはり、皆さんの声を聞きながら改めなければいけないところは、改めなければいけないし、見える部分が変わってくるので、できるだけこういう会を開きたい。

もう一つは、今日もたくさん来ていただいています。たぶん総務課長とか副町長、私、教育長、職員を合わせれば、ほぼ来た方が分かるんだと思いますが、たまに、誰だろうという方がいます。興味をもって出てきてもらえます。町として、いろいろな審議会があったり計画を立てたりするときや、皆さんもそうです、地域の役をするときに同じ人にしか頼めないし、同じ人ばかりになるんだけど、たまに来てみようかなという方があれば。人材発掘というは大変ですが、地域との繋がりが仕事の関係で持てない方もおられます。時間帯によっては出られない方もいます。いろいろな会を開くことによって、お互い人を知ることで新たな人材発掘、今後の地域の担い手等を探し出せばいいかなと。また、こちらからすれば探し出せる。皆さん側からすれば、新たな活躍の場をつくれるということになればいいと思っています。

先ほども言いましたが、自治体間での連携も今後進めながら、産業振興、三江線も100キロ以上には三次口までかかりますが、それぞれがトラックをしたり、いろいろな活動をしているんですが、つなげるともっといいことができるかなと思っています。財政が厳しくて、人が少なくて大変ですとは言っていますが、それがカバーできることがあれば、自治体間で連携するとか、どんどん進めていければと思っています。

今後、今年度の事業の完成に向けて、今、頑張っていますという話をしていますが、霧の湯については4月の開業に向けて準備を進めています。中学校についても、校庭整備などは、若干、新学期にかかりますが、形がしっかり見えてくると思いますし、お子さんたちも今まで通りの場所で、中学校の活動ができると思います。病院についても、今年中にはきちんとした形で、新館と今まで使っていた場所の改修が済むんだと思います。道の駅についても、出来る限り早く準備ができればと思います。そうやって大型投資が完成すれば、それをいかに使うかということで、舵を切りながら町政運営を進めていきたいと思っています。

若干長くなりましたが、まずは私からのお話は以上とさせていただきます。続いて、教育長から少し話をし、皆さんのご意見が聞ければと思います。よろしくお願いします。

2 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。私から、一点、お手元に色刷りの資料を用意させていただきましたので、提案も含めてお話をさせていただきたいと思っております。

まずもって、日頃より学校活動、子どもの安全安心、安全パトロールを含めまして、ご支援ご協力を。また、公民館活動にも積極的にご参加いただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私から、コミュニティスクールのことについて、お話をさせていただきます。これは、令和8年度の設立を目指して、1年掛けて皆さんと協議させていただきながら、地域に合った制度を作り上げていきたいという思いでいます。

これは、一般的な資料ですが、全面が色塗りの方を表にさせていただいて、左の真ん中あたりに、コミュニティスクールとは学校運営協議会を導入した学校だと言っています。学校運営協議会とは一体何だろうということですが、基本的に邑南町は学校と地域の関係性は、本当にありがたいことに良好な関係の元に、特に子どもたちを中心に据えて、地域の皆さんが連携協力していただいて、教育課程を進めさせていただいております。それをしっかりと将来につなぐ意味で、しっかりとした制度をつくっていかうと。その制度が、この協議会であると、まずご理解いただければと思います。決して新たなものではなく、少し整理させていただくということが一番だと思っています。

ただ、大きく変わると言いますか、新たなものは、その右側の四角囲いで3つに分けて書いていますが、その一番上です。学校の校長先生が毎年、学校運営に関する方針を出されます。それを地域が認めていくという作業が、新規になっております。今までは、学校の校長先生の考えの元に、それを実現するために、地域の皆さんにご支援ご協力をいただくというのが、本来の姿であったわけです。まず、その方針自体を地域の皆さんと共に考えて、最後は承認していくというところで、協働という言葉が合ってくるかと思えます。それを先ほど言いました学校運営協議会の中で行っていくということでございます。

邑南町においては、以前300人委員会、1000人委員会ということで地域の思いを共有させていただきました。それを学校と共に、同じ思いや認識で活動していくというのが一つ大きな売りになっていくと思っております。

裏面をご覧ください。左半分のところで四角囲みで2つ示させていただいております。学校がコミュニティスクールを導入するメリットとなっています。これは、文科省から以前は、学校教育は学校完結型の教育でありました。それではもう限界があるということで、地域と共にある学校づくりを学校がしていくという方針に変わっております。一方、二段目は、今度は地域目線に立って、学校を核とした地域づくりを併せて行っていかうという思いで、このメリットということを示しております。

最後に、邑南町としては、よくあるのが、各学校毎に運営協議会をつくっていくとありますが、邑南町は特徴として、中学校区でいろいろな思いや願いを共通にした方がいいだろうと、その協議会を学校区でつくり上げていきながら、それを小学校にも生かしていくというような方法で、今後一年をかけてそのシステムをつくりあげていきたいと思っております。いずれにしても、これは地域の皆さんの協力なしでは運営できません。また、いろいろな意見をいただく場面を設定させていただ

きたいと思いますので、その際は、よろしくお願いいたします。以上でございます。

3．意見交換

- 大屋町長 皆さんからご意見を聞かせていただく前に、〇〇さんから事前に意見をいただいていますので、最初に話をした中で足りなかった部分も含めて少ししゃべらせてください。山陰中央新報等の対談の中で、正月の新聞だと思うんです。楽しい地方をつくるとか、若い人とか女性に選ばれなきゃダメだよ。新しい価値観が必要じゃないかという話があったけど、どう思うかを書いてあって、人口減少対策についてもふれられています。

先ほど、少し話をしましたが、都会に出て頑張るのがいいのではなく、この町で生きていける道筋をまずちゃんと示さなければいけないのかなと、私たち大人が、町がと思っています。

その中でまず、選んでもらうのも一つですし、町として、親として、住民として、若い人たちやこの町で育った人たちを必要としていますよ。皆さんの力が必要ですと。子どもたちにとってそれが嬉しいのか、負担なのかは分からないところはありますが、まずそういうことを示して、頼られているということで、この町に住んでもいいという思いにつながれば、一番いいと。そういう議論もしなければと思っています。

ただ一方で、田舎は楽しくないとか、わくわく感がないとか、いろいろあります。邑智病院の仕事初め式のときに少し話をしたんですが、そう言いながらも最低限、住みやすい中で、町としてのインフラ整備も必要です。ネットがつながるのも大事だと思います。病院も学校も必要だし、生活の中でコンビニがあるというのも結構、大事だと思います。町内の経済対策と言いながらも、今はコンビニが一つのインフラで、必要なものになっています。

人口3千人くらいでコンビニが一つ成り立つそうです。そうすると、邑南町の中に2つあって、Yショップが2軒、3軒あれば、ほぼ、いっぱいいっぱいなんだと思います。人口対策という意味では、そういうお店が減らないように、利便性が今のままであるということのも人口対策に必要なことだと思います。

今後改めて、数字等を示しながら、学校の統廃合の中で、今後の人口推移も出さなければならぬと思っています。総合振興計画という町の計画を、今、作り直している最中です。そういう中で、しっかり数字が出てくるので、それを見ながら、皆さんと共に、今後どうすればいいか、何をすれば一番いいのかという話をしなきゃいけないと思っています。

ふるさと納税の話も書いてあります。個人の皆さんからいただくふるさと納税と、企業からしていただける企業版のふるさと納税があります。どちらも、少し頑張らなきゃいけない状況です。ふるさと納税自体は、実は邑南町は年々減っています。

委託している会社がありますが、その会社の努力もあるかどうかと思っています。手数料を払っている以上は、一定の努力をしていただきたい。努力が充分でないのであれば、見直すか考えなきゃいけない。努力というのは、ふるさと納税を集めることもあるんですが、一方で、ふるさと納税の商品となるものを開発するというのも仕事の一つです。それを町がするのか、委託を受けた会社がするのかということもあります。その辺も見直しながら、どこがやればいいのかというこ

とがあるので。改めて、ふるさと納税の目的の一つはお金が入るということもありますが、町内の商品開発につながるという部分もあります。産業振興の部分です。そのバランスがきちんと取れなければ意味がないと思っていますので、そうなるように、どこが担っていけばいいかも含めて、考えていきたいと思います。

事業仕分けであるとか、女性の活躍の場も必要ですし、事業仕分けについても、今は予算編成の最中です。なかなか思い切って、今ある事業や、皆さんにしていることを止めますというのは難しいと思います。今後、町長ヒアリングの中で、私の責任としてある程度、事業を見直させていただくのか、若しくは、皆さんの力を借りるのかということがありますが、まず来年度の予算編成を進めていきたいと思います。

議員もさせていただいていたので、過去の経緯がわかっている中でできた予算もあります。そうすれば、どうすれば止められるのかということもあるので、いろいろ考えさせてください。財政事業等を思えば、毎年皆さんの自治会とか家計等と一緒に。貯金を最低限切り崩すことがなくて、来年入ってくる収入で事業が出来るのがベストですので、極力それに近づける努力をさせてください。

それと、徳島県神山町という光ケーブル網を構築して、高速インターネットの整備をしてIT企業にたくさん来てもらって、町おこしをしてところがあります。美郷や大田市も誘致企業はそういう会社が多いです。ただ残念ながらそういう会社は3、4人だったり、10人だったり、地元の人を雇うほどではないとかがあるので、どうかと思ったんですが、最初に話したとおり、何十人も雇ってくれる、何百人も雇ってくれる会社に来てもらっても、この町には働く人がいないと思えば、そういう形でこの町で何人か来て、この町で仕事をしてもらえる会社というのもあり得るのかなと思います。

現実、邑南町のインターネットの環境は決して悪いわけではないです。十分とは言いきれないけども、悪いわけじゃない。決してそんなに早くはないけど、利用者が少ないので遅くはない。人口が少なくてもいい面もあるということです。ただ人口が少ないので、そういう投資がしにくいんですが、若い子でゲームをする人たちに聞いても、そんなに不自由はないと言われます。なので、今ある中で何ができるかをまず考えさせてもらえればと思います。

いろいろなご意見をいただきましたら、また参考にさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、意見交換に移ります。皆さんからご意見やご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきましたら、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきまして、お一人、一つずつ意見や質問をしていただければと思っています。

できるだけ多くの方に発言をいただきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願いします。それでは、どなたからでも構いませんので、よろしくお願いします。

- 中野北区自治会の○○と言います。矢上の無縁仏のことで聞いてみたいんですが、最近、職員の方から、無縁仏を使う基準が厳しくなりましたと聞いたんです。ただ、私が思うには、お骨の処理というか、お骨を収めるのに困る場合があると思うんです。戸籍を辿っていけば、確かに子どもさんやお孫さんがおられると思うんですが、どうなのでしょう。困られていたら、無縁仏に入れてもいいような気がするんです。お骨の時は確かに縁者がおられるかもしれませんが、無

縁仏に収めたら、もう縁がなくなるというか、他の人の骨と混ざってしまうので、もう取り出すことはできないんです。自治体によっては、骨を保管して困っておられる自治体もあるんですが、邑南町は私の知る限り、役場は預かっていないと思います。無縁仏についても、そんな厳しくせずに、困られていたらそこに入れられるようなことを考えてはどうかと思います。

- 白須副町長 ご質問ありがとうございます。副町長の白須と申します。今、受け入れの要件について詳しいことがわからないんですが、基本的には、老人クラブ連合会が管理されていまして、何らかの話し合いが持たれて、そういうふうになっているのかもしれませんが。これは、ちょっと確認してまた〇〇さんにお返しさせていただきますので、〇〇さんから関係者の方にご連絡をいただければと思います。よろしくお願いします。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。町政座談会について毎回、各地区で行ったものをまた議事録を残しておりますので、〇〇さんだけではなく、他の方にも読んでいただけるように各地区公民館に置きたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

【後日確認した内容】石見地域無縁仏については、町と邑南町老人クラブ連合会石見支部とが、石見地域無縁仏の取り扱いについて協定を締結している。

協定の主な内容は、１．無縁仏の塔に納骨する対象は石見地域の無縁仏とする。２．墓じまいなどの個人都合による納骨は対象としない。３．石見地域無縁仏の塔周辺の維持管理については邑南町老人クラブ連合会石見支部が行うものとする。となっており、これに沿って運用をされています。

それでは、次の方お願いいたします。

- 私は、中央自治会の〇〇と申します。お世話になります。私は今、縁があって中野の消防団の分団長をさせてもらっています。今の立ち位置になってくると、いろいろなことが気になり始めまして、消防団の人数が年々、減っていきまして、今回いただいたしおりを見ると、入団１２人に対して、退団が３２人という。ずいぶん大きな差があるなと思いました。

今年は、退団者が２４人で、入団者が５名です。気になって去年と一昨年のしおりも見たところ、令和５年に退団した人が２８人で、入団が６人。その前の年の令和４年は、退団が３２人、入団が１２人でした。比率がずっと大きくて、このままでいくと消防団の人数が少なくなっていくんですが、これは歯止めがきかないと思うんですが、多少でも地域の人に消防団のメンバーにこういうメンバーがいるということを知っていただきたくて。

数年前から、しおりを団員全員に行き渡るように製本したものをもらっていたんですが、数年前から中野分団に５部とか、そういうふうに入数分、しおりをつくってもらってなくて。出初式が終わった後に若い団員に配りたいんだけど、配る枚数がないので、配らずにという恰好だったんです。

いろいろ考えるのに、もし１２月の常会で配る資料の中に、この出初式のしおりを家の軒数分入れていただくと、町民の方も関心を持ってくれるかなという気持ちもあります。要望というか、消防団のことを町民一人一人が考えてもらえるように、何か工夫してもらえたらと思っています。そうなったときに各家に、しおりが一部ずつ入ると嬉しいかなと思いました。

今回は、邑南町のホームページでしおりがスマホで見られるようにしてあったので、そういう案内は団員にはしたんですが、そういった誰でも見られる紙の資

料が町民に行き渡るといいなと思いました。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。消防団もそうですし、町としたら民生児童委員さんや、いろいろな皆さんが役をしていただくことで成り立っています。ただ、そういう役があるとかないとか、誰がやっているかさえわからなくなってきているので、そういう意味では、〇〇さんが言われたとおり、準備の都合で、うちの都合ですが、出初式のしおりを1月の常会で配らせてもらっても、新しくこういう方が入られました。こういう消防団がありますよということも必要かなと思います。

成人式の時に、今年はふるさと会でこういうものがありますというもを入れたんです。入れたら、こういうのがあるんだ、入るとは言われなくても、まず存在を知ってもらうのは大事ななだと思います。そうすると、次に声をかけた時に入ってもらえたりするので、まず、何らかの形で相談させてもらって消防団があります。こういう人たちがいます。こういう活動をしてもらっていますとか、町として、こういう役があって民生委員さんがおられますとか、いろいろな役に対して、もう少し案内をして入ってもらえたり、協力してもらえようように町としても頑張りたいと思います。

ちょっと違う話で申し訳ないんですが、先般、国の方に行って治水の関係の話を資料を建設課でつくっていただいた中で、羽須美は江の川の関係で水防団があっている協力してもらっているけど、よく考えたら、頑張ってもらいますと言っていますが、皆さん年が多いです。新しく入ってもらうことも必要だけど、松江では、門の開閉をある程度、自動ですとか、人手が少なくてもいいようにしないと間に合わないという話も出ていました。消防団にお願いせざるを得ないときには協力してもらうけど、負担なくできる方法があれば、それも町で考えて、お互い負担なくできるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。

- 大賀総務課長 他の方は。はい、どうぞ。

○ 茅場の〇〇です。中学校の安全対策について聞きたいんですが、今、12月から1月になって、夕方が明るくなってきたんですが、よく子どもを迎えに行くのに、もうちょっと前だと日没が早い時期に、体育館の方へぐると回らなくなっていきますが、生徒がこちらに来るのに、明かりが全然ないんです。足元が暗いんじゃないかと子ども聞くと、暗いと言うこともあります。

もう一つ、みんなが心配しておるんですが、あそこはあつけらかんとして、誰が入ってもいいような感じで、私たちも見学に行ったときにオープンだったんですが、このへんで強盗が入ったとか、あまり聞かないですが、外部からいつなんどき、狂ったような者が入ってきたら。自由に入れるような感じになっているんですが、そういう安全対策とか、カメラの設置とかの安全対策はどのようにしているのか聞いてみたいんですが。

- 大橋教育長 ありがとうございます。足元については、今一度、現地を確認して、必要があれば策を講じて参りたいと思っております。それと、新しい中学校は、基本的に、一階部分は地域の皆さんとふれあう場面を多くつくっていかうということで、地域連携室といったところでございます。

ただ一方、〇〇さんが言われましたように、誰でも入れるような状況にもなっております。地域の方々にお入りいただくような場所は、仕切らせていただい

少しセキュリティの強化を上げさせていただいております。併せて、カメラも設置させていただいております。それで十分かどうかというのは検証もしていきたいと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

○ ということは、誰かが入れば、北陽警備さんとかA L S O Kとか、そういったところが駆けつけるようになっているんですか。

●大橋教育長 確認させていただきたいと思います。

○ 夜に悪い者のたまり場になっても困るので。

●大賀総務課長 はい、ありがとうございました。他の方、ございませんでしょうか。

○ ちょっと状況提供をしていただきたいんですが、石破さんが地方創生ということで、2千億円倍増して地方創生を行うということで、去年からマスコミに出ているんですが、これは邑南町としてはどのように今後進められるものなのか。今から基本構想をつくるのか、今年の4月から交付金がかかるものなのかとか、そのへんの情報でわかっている範囲で教えていただければと思います。

●白須副町長 はい、ありがとうございます。石破政権になりまして、地方創生交付金の考え方が、また充実した方向に進んでいます。これまで邑南町は、この交付金を使って、道の駅の整備、それからDXの関係の事業を。DXというのは、デジタル技術の導入等のことでございます。そういった事業を実施しております。新しい地方創生の交付金についても、基本的なデジタルな部分は継承しつつ、また新たな地域のコミュニティの活性化とか、新しい目的に応じた使い方もできると聞いています。

デジタルの関係事業につきましては、令和7年度当初予算に計上して、併せて国への手続きもした上で実施しようと思っております。ただそれ以外の、道の駅の事業などについては、現在、用途についていろいろ協議をしているところでして、直ちに令和7年度からということにはならないかもしれませんが、令和8年度以降にしっかり活用できるようにしていきたいと考えています。

○ もう一つだけ。冒頭に看板の話が出ました。こうして見るのに矢上交流センターの駐車場や、役場庁舎前の駐車場だとか、ここもなんですが、白線が全然消えております。全て一般財源になると思うので、すぐにやっってくださいとか、そういうことは言えないし、非常に厳しい予算ですので、難しいかもしれませんが、そういうところも、ちょっとみずばらしい感じがするので、余裕があったときというのは、ないかもしれませんが、ご一考いただいた方がいいかと。いらんことですが、言わせてもらいました。

●大屋町長 答えは、頑張りますというのも変ですが。いつも使っていると何とも思わないんですが、違うところに行ったり、不慣れな道を走ってみると、ちゃんとセンターラインがあるとか、交差点で右折のところに入れるとか、駐車場に線があるというのは、安心感につながるし、事故の防止にもなるので。頑張りますとしか言えないんですが、できれば極力、毎回そういう話をさせていただければ、忘れずに、少しずつ進めることができるかなと思います。どうしても、申し訳ないですが、優先順位が低いような感じで立場が変わってと言ったんですが、ここで凌いでしまうと、忘れてしまうので。ちゃんと回答としてはお返ししますが、どこの課が担当して、どういうふうにするかも確認して少しずつ進めさせていただきます。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、ございませんでしょうか。

- すみません、もう一回。今年度から環境税を我々は払うようになったんですが、
ですよね、6年度から。あれは前から森林環境税は入っていますよね。あれはど
のような使われ方ですか。

最初の頃は、積立金がかなりあると、積み立てていくんだということで私たち
も聞いていて、もうあれから何年か経ったので。どう使うのか、もう決まったの
かなと思って。そういった情報は流れてこないの、いい機会なので教えていた
だければと思います。

- 白須副町長 森林環境譲与税の徴収が始まりまして、5年前くらいから収入とし
ては、国の方から基金等を活用してすでにいただいているところでございます。
それで、〇〇さんが言われるように、一時、各自治体が使いきれずに貯金がどん
どん増えている状況だというのが問題になったことがあったんですが、邑南町は、
しっかり毎年入ったものはできるだけ使うということで使っている自治体に含ま
れております。

使い道としては、大きく森林整備と林業事業体の支援、人材確保も含めた、そ
ういったハードとソフトの面で使っております。ハードの面で言いますと、例え
ば、余勢の木を伐採されましたよね。ああいったものも集落周辺の里山の整備事
業ということで、その財源を使って行っております。あとは、林業事業体に対し
て施整の補助金を出したりしています。あとは薪ストーブの導入とか、そういつ
たものも含めています。

それから大きなところでは、作業道の整備とか、森林組合がやっておられるも
のにも補助金として交付させていただいています。それから、人災確保の面では、
町内で林業事業体に従事する新規採用の職員の方がいらっしゃったら、その方の
資機材とか、設備ですね。それから研修費とか、若干、報奨金みたいなものも、
その譲与金から支援させていただいております。

これらについては、なかなかわかりにくいと思うんですが、町の議会にも決算
資料という形で報告しておりますし、ホームページにも森林環境譲与税の使い方
で実績を毎年載せておりますので、参考にいただければと思います。

- 結局、邑南町にきたお金が、環境譲与税がまわりまわって町民全体にどのよう
な良い影響があるとか、良い結果が出せるとか、そういったことも研究してもら
って。鳥獣対策にしても、山がしっかりしておれば、実のなるものが少ないから
クマが出るとか、そういう話もありますが、それを逆手にとって、奥の方へ実の
なるものを植えてやるとか、そういった植林をするとか。少し、違った意味で使
うことも考えてもらえればと。ただ今さっき言われた使い道というのは、どこの
町村も全国でやっていると思いますので、ユニークな使い方を考えてもらって、
全員に利得がある面が一つはほしいなと思いますので、知恵を絞ってもらえれば
と思います。

- 大屋町長 今後取り組んでいくことの資料で飛ばしたんですが、産業振興の下か
ら2番目に、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施というこ
とで、〇〇さんに言ってもらったとおり、鳥獣害のイノシシの対策だとか、日当
たりの確保だとか、農地を守りながら周辺林地も一緒に整備して一体的に何かで
きないだろうかという思いがあります。ただそれを条件につけるのはどうだろう
かと担当課とも話しているんですが、おっしゃる形に使えれば一番いいかなと思
っています。水路の管理や出手の管理など、そういうことが一緒にできるような
結果として周辺の林地とか山の整備をしたら農地も守られるようになるというよ

うに、試験的にでも、モデル地域ということでもいいので、できればいいかなと担当課とは相談しています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はございませんでしょうか。

- あまり意見が出ないようですので、いらんことですが言わせてもらいます。中野の〇〇と言います。町内での、町民の購買力なんです、以前、何かで見たときに地域によってかなり違いがあって、羽須美地域だと20数パーセントしか購買力がなかったと。ということは、あとの70数パーセントは、町外での購買ということになります。

私の周りを見ても、だんだん個人商店はなくなって、石見地域で言いますと、アベル、プラザ、この2つが頑張っていたんですが。買い物とすれば、ちょっと出れば、ゆめタウンとかあります。そういったところで、何万円という買い物をして帰ってくる。地元で落とす金がまたどんどん減ってくる。益々、地元が衰退していく。そういう悪循環がずっとあると思うんです。

そういったものに対処するために、何か手立てはないか。例えば以前あったように、一戸当たり3万円の商品券とか、そういうものを出して、2千円分を買ってもらったら、千円の商品券が使える。半分は商品券が使えるというようにすれば、例えば6万円買ってもらったら、3万円が使えるというような恰好になって、町内での消費がかなり増えてくると思うんです。財政難ではあるんですが、そういったものも考えいただいて、町内での購買力を上げる方法を考えてもらえたらどうかと思います。

それと、アグリサポートのＩターン、Ｕターンの方が町内に入っているいろいろな活動していただいておりますが、この任期が終わったときに、どのくらい町内に残っていただいているのか。今は、神紅のハウスが至るところで建っておりますが、果たして、その人数でまわっていくのかどうかと。当然、町内の方も入っていただければ言うことないんですが、そういったところもわからないので。これでいいのだろうか、何人残ってもらえるのだろうか。せっかく4年や5年で技術を身につけられても、その方がまた帰っていかれたら、また一から入った人がやっていかなければいけないということで、非常にその辺を危惧しております。そのへんがどうなんだろうかと、ちょっと教えていただければと思います。

それと、さっき言われましたが、公式のおおなんちょうのホームページにもそういうのを設けていただければ、見る確率が高まるのではないかと思います。以上です。

- 大屋町長 いただいたご意見をホームページというのは、メールでいただいたものも含めて、載せさせていただければと思います。先ほどは、森林環境譲与税のこともあったとおり、まず町から出せる情報をもっと出しましょうという願いをしているので、それも含めてさせていただければと思います。

町内の経済対策が一番大事だと思っています。邑南町は、先ほどあったようにアベルといわみプラザがある。そこに町外資本の大きな店が来ていないのが邑南町の特徴だと思います。ドラックストアなど、そういうのがないのが邑南町の特徴で、地元資本の事業者さんが頑張っておられるというのは、しっかり支えていないといけないし。

私自身の話ですが、普段、農業をしていて、家で朝昼晩食べて、そんなに外でご飯を食べることがなかったんですが、選挙とかいろいろあって、お昼にアベルやプラザに行くとお弁当をたくさん売っておられて、それが町内の方の生活の支

えになっているという、ちょっと違う場面も見ることができました。

しっかり支えていかないといけないという中で、おおなんさくらカードを使ってという話をしました。商品券の使い方についても言われましたが、とにかく町がお配りしたものは町内で消費してもらえる仕組みが一番大事だと思うので。

財源について約束は難しいですが、今、経済対策で補正予算があります。この度、低所得者対策ということで、国が決められたものをしましたが、それ以上のことを、邑南町は今はいしていません。どちらかと言うと、事業者支援です。それでも、少しそこに余裕があれば、ポイントを使った形など、とにかく町内の事業者支援と経済循環を重点的に、予算を使わせてもらえればと思っております。少しでも期待に応えることができるよう、町内の事業者を支えるように頑張りたいと思います。

地域おこし協力隊で神紅のブドウをつくりに来てもらっている方々は、3年の研修をして、ハウスを持たれるので、基本的には以前よりも定着率は高いと思っています。今のところ神紅の単価は維持されているので、きちんと指導されて頑張れば、販売して実績が出ます。売り上げも確保出来るので、辞めるということは、今は少ないと思っています。

町も販売の単価維持には、対策として頑張りたいと思います。ただ課題なのは、今、やっておられる方はいいんだけど、今から入る方がハウスの建設費用も高くなっていることと、販売価格が維持できなければ、リース代は高い、収入は少ないということになるので、そこはしっかりカバーできるようにやっていきたいと思います。カバーというのは、販売単価を維持するということで、売り上げがちゃんと確保できるようにしていきたいと思います。

地域おこし協力隊の方については、いろいろな形で来ていただいています、定着率については、本当に残ってもらえるのかと言われます。私が町長になってから、町職員などの面談に関わらないようにしています。私の意見で採用するかしないかが決まって、皆さんの意見が聞けないので。面接の皆さんの意見を聞きたいというのは、その人がいいかどうかもありますし、地域おこし協力隊の方については、本当にこの町で生活できるか、残ってもらって自分の力で生きていけるか。そういうところも見たいという思いがあります。

応募があっても断るのも親切かなという話をしました。この町に来てみたけど、やっぱり田舎では暮らせない。自分の力で生きていけない、辞めて帰りますというのであれば、最初からお断りするのもいいかもしれない。きちんと自分の力で農業をするなり、何らかの仕事を見つけ出して生きていける。そうでなくても、勤めながらこの町で暮らしてもらえという確信が持てる人を採用して育てたいと思っています。そういう意味でも、地域おこし協力隊とか、神紅のアグサポ隊がこの町に根付いてもらえるように、やっていきたいと思っています。

神紅は、すごく目に付いて、皆さん感心が高いので、「こういう作業をしています」「今年はこうでした」という情報を出しながら、皆さんに心配より応援してもらえるように情報発信をしなければいけないと思っています。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございました。ほかの方はございませんでしょうか。
- 横引の。でございます。休耕田が非常に増えておって私共もぼちぼち辞めるということになれば、それをつくる者がいないという格好になるわけです。

休耕田の活用の対策として、千代田の方で聞いたところによると、町とJAと

が共同で法人みたいなものを使ってつくって、それで休耕田を活用して、稲作に転じているという話を聞いたりしたんです。雲南市の再任された市長さんも、そういったものへの対策をこれから進めていかなければいけないという話が出ておりました。どちらにしても今の労働力でそれを継承して、個人でやっていこうというのは、なかなか難しいと思うんです。中山間の補助金等、いろいろなものがあると思うんですが、そういったものを活用して、請負農業をやられる方が結構おられると思うので。そういった人に対しても応援をして、休耕田が少しでもなくなって、米が自給自足できるように活動力を上げてもらいたいと思いますが、いかがなものかとお聞きしたいと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。途中でも少し話をしましたが、米の値段が高いので、皆さんがつくっていただけるかなと思ったら、そうじゃないのが現状です。休耕田が増えていくというのも、矢上の座談会でも言われたんですが、羽須美に行ってもそうです。人の動きがなくなって見えなくなると寂しいと。散歩したり車で走っても、今までつくっていたのを辞められて、草が生えてきて、その草を誰も刈らないとなると、そこに人の動きが見えないので、廃れていくイメージが強くなる。田舎の田んぼはきちんとつくられているのが、皆さんの生きがいだったり、生活の糧なんだと思います。

先ほど、お話いただいたとおり、今までは集落営農ということで、集落単位で応援してきました。個人で辞められたところをカバーできるのは、集落の営農の方は、集落以外になかなか出ていけないので、広くできる人がいたということは、今まで町もそういう人たちを育ててきていなかったです。

改めて、言っていたとおり、皆さんの理解が得られるなら個人の農業者をきちんと育てていって、広くカバーしてもらえそうな形が取れればと思います。その中で、先般お話があったのは、全てを自分が用意するのではなくて、「うちの田を使っていいよ」だけじゃなくて、「機械もあるので機会も使っていいよ」と言われれば、移動距離の負担が減って、その家の機会を使って作業をして帰れば済む。機械の運搬がなくてもいいという話があって。機械の運搬が一番大変なので、それを皆さんと協力できる部分は、町として拠点を持ちながら置いて、それを使ってやってもらって機会を大きく運搬しなくてもいい仕組みをつくれば、もう少し作業効率が良くなって一人当たりの面積が増やせるかと思います。

併せて、難しいかとは思いますが、今は田植えをしない仕組み、苗を植えるのではなくて、種を撒いて直接、芽を出してやるとか。そういうこともこの地域でも取り組める技術があれば、取り組んでいきながら作業不安を減らして、面積をカバーできる仕組みも考えていきたいと思います。

12月議会で農業の技術とは何だと言われたんだけど、そういう意味でこの地域ででき得る技術があれば取り入れながらやっていければと思います。

町の応援の仕方も経営に対してだけではなくて、若干、効率が悪くなくても、広く面積をしていただけるなら、それに対して応援するのもありかなと思っています。人に対してということで、皆さんの理解が得られれば、そういうこともしていければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 よろしいでしょうか。他にはございませんでしょうか。

ないようでしたら、終了を予定しており午後8時に間もなくなりますので、閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

本日は、ありがとうございました。いろいろな意見を頂戴しました。時間も限られておりましたので、まだまだ質問したいという方もいらっしゃるかもしれませんが、冒頭に町長が申しました町長への手紙というQRコードを読み込んでいただいて、お寄せいただいても結構ですし、その他に電話とかいろいろな方法で、ご質問等をいただければと思いますので、よろしくお願いします。

町長の話の中にもありましたが、現在、町では令和7年度の当初予算の日程を進めております。さまざまな課題がある中での大屋町長による初めての予算編成になりますが、厳しい財政状況であるということもあります。毎年、予算編成の基本方針、重点項目を定めてそれに基づいて予算編成をするんですが、今年はその方針も財政再建ということで、そういうことから、非常に厳しい中での予算編成をいたしております。

現在、いろいろな事務事業の検証を行っておりまして、見直すところは見直していこうと。これは段階的に見直していくということも含めてであります。そういった姿勢で作業を進めております。こういった事務事業の見直しによりまして、少なからず町民の皆さんの生活や事業活動に影響をきたすことがあるかもしれませんが、しっかりとそこは、このような理由があって、こう変わるんだという説明をさせていただければと思います。

ご意見等につきましてもたくさん頂戴することになると思いますが、そういったことはしっかりと今後の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、中長期的には、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編を進めておりますが、こういったこともみなさんと情報を共有しながら、皆さんと協同という立場でしっかりと進めて参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

本日は、お仕事等でお疲れのところ、こうして夜遅くに集まっていただきました。お帰りの際には、交通安全に十分に注意して事故のないように気を付けて帰っていただければと思います。本日は、長時間にわたり、様々な意見をいただき、ありがとうございました。

●大賀総務課長 では、以上で閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

町政座談会（井原地区）

日 時 令和 6 年 1 月 2 2 日（水）
1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
場 所 井原公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋光宏です。この度、町政座談会を開催しましたところ、出かけにくい時期に、また寒い時間帯にお仕事が終わってお疲れのところ、ご出席いただきまして、大変ありがとうございます。町長にならせていただきまして、まず感心を持っていただいている、その感心を町政運営の力に替えたいということで、情報発信をきちんとしたいですということと、皆さんの声を聞く場をきちんと設けていきますと言いました。

10月に町長にならせていただいて、11月12月と、いろいろな調整をしましたが、どうしてもこの時期になってしまいました。個人的には1月の半ばから2月の半ばは、日は少し長くなって5時半くらいまでは仕事ができるほどに明るくなってはきましたが、一番寒い時期です。12公民館を順番にしていきたいと思いますが、順調にいけるかどうか不安なところもありますが、今のところ、こうやって3カ所目の井原を開催することができました。大変ありがとうございました。

町長にならせていただきまして、思うことは多々あるんですが、自分で何かをするよりは、決められた会議や行き先があって行動していく。自らの判断でということとはすごく少ないということと。今までは、日常生活があってというのは変ですが、自分の仕事なり、家族のことであったり、そういうことがありながら議員活動をしたりして、皆さんと一緒に何かをする中で声を聞いたり、思いを持って議員として町に提言していました。

町長は意外と日常生活がなくなったような中で、ある意味、特別な存在みたいな形で、今までの経験だけを元に判断する。なかなか皆さんと接する機会は少なく、いろいろな判断が正しいかどうか不安になることも多々あるんですが、そういう意味で、このような町政座談会を開いて、皆さんの顔を見て思いを聞くというのは、私にとっても大事な場だと思っています。年末年始が9連休でして年があけまして、土日のうちにどちらかは休めますし、年末年始もしっかり休むことができ、少し自分のペースが掴めつつあるかと思っています。

今日は、まず25分程度、私がしゃべって、5分程度、教育長がしゃべって、できれば1時間くらいは皆さんとのやり取りができればいいと思っています。

本来、町の財政が厳しいですというような数字であるとか、人口が少なくなっていますという数字を示しながらお話をするのが一番いいのかもしれませんが、今後、取り組んでいきたいことや、取り組んでいくことということで、箇条書きをさせていただきました。

就任式でも、職員の皆さんにもまずは財政の再建、立て直しの協力してくださいという話をしまして。財政と言うと、出る方を絞るだけの話もあるかもしれませんが。入るのを増やすのは、ふるさと納税くらいしか道はないです。何かをしたいときにちょうどいい交付金があれば一番いいんですが、補助金があるからやるというのは、どうかなということも職員の皆さんに話をしました。

一方で、削減ばかりで自分たちも大変というのは申し訳ないので、しっかり事業の見直しをして削減ができて財源が生み出せれば、その成果を職員の皆さんには町民として受けて欲しいという話をしました。浮いたお金で生み出された財源で、町民の皆さんに対して、自分たちが生活する中で施策として組んでもらう。町民としてその恩恵を受ける。そういう循環ができれば、仕事のモチベーションが保てるかなと思っています。私自身も、どこかで少しはと思います。

東京に出張させていただいてもホテル代がすごく高くなっていますが、現実には、条例があって、1万4千円だとか、1万3千円だとか、場所によって決まっています。当然、その範疇でしなきゃいけないですし、交通費もできれば少しでも安くなればと思っています。そういうことで、予算が少しでも余れば、また次のことができるのかなと思います。そこは率先していこうと思いながらも、なかなかその範囲でしようと思うと、今の時代は大変だなと思いますが、そういうことも感じないといけないと思っています。

今、予算を編成している最中なので、言えることと言えないことがあるんですが、職員さんから決裁として来年度予算でこういうことをしたいですというのが来ます。その中で、特定検診で、皆さんが対象かどうか分かりませんが、町の検診で一回当たり500円とか、お金をいただいています。それを辞めたいですというのが出ました。財政が厳しいので、いただくものを辞めるというはどうかということもあるんですが、そこは国保とかで基金がある程度貯まっているので、国保税を下げる上げることを常にするよりは、そういうことで返したいというのが本来の趣旨だったんです。

私から見たときに、確かに500円が高いか安いではなく、お金を集める手間というのはすごく大変で、領収書も発行しないといけない。間違いがあってもいけない。事務負担を考えれば、もしかしたらこれを辞めたときに成果は目に見える部分じゃなくて、それ以外の事務負担であるとか、もしかしたら超過勤務になっていることの削減につながるという見方をすれば、全体の経費節減になるかもしれない。でも、じゃあ税金とか水道代とかやめてくれというのは、また別の話なので、新しい発想も必要なのかなと思いました。

今後、取り組みたいことの2番目に行財政改革と、プロジェクトチームと書いています。副町長を中心に設置して準備をしています。目的がなくてどうしたらいいのかという議論はまず無理です。確かに、全体の支出を抑えてと言ったときに、どこが目標かというのは分かりにくいなと思っています。自治会や集落と同じで、入ってくるお金と出ていくお金のバランスがとれればいいだけと言えば、そうですが。そのために何かもう少し、残業しなくてもいい仕組みにしませんか？とか。何か具体的な提案など。残業手当を減らしましょう。そのためには？というようなテーマをこちらから出さないと進めにくいのかなと思います。行財政改革はしっかりやっていこうと思いますが、そのやり方はもう少し工夫しなければいけないかなと思っています。

すみません、座ってしゃべらせてください。冒頭の話ではないですが、井原地区の皆さんにつきましては、昨日、雲井の里の皆さんが、雲井の里の今後についてしっかり支えてほしいというお願いに来られました。道の駅みずほの名前も変わりまですし建て替えになります。非常に心配されているんだと思います。

議会の一般質問等でも、建前上は、道の駅みずほを大きくするのは農産物がたくさんあってたくさん出ている、売り場が少ないから駐車場が少ないからということ

で始まっています。現実には、あれだけのものをつくって、ものが集まるのかと言われていますが、ものがたくさんあるから建て替えをしたんだというのが現実です。そう思えば、雲井の里さんにあまり影響があるわけではないはずだけど、過去に、道の駅みずほができたときでも、雲井の里さんの売り上げは延びていたけど。でもやっぱり新しい道の駅がゼロからつくられると、そこにものが集まって、売り上げが減ってくるというのが現実であったんです。今回は建前上、そういう影響は出ないはずですけど、ただ町内全体で見ると、生産量が減ってきている中で、確かにものが集まらない。出荷されるものが少ないという現状がありますので、そのあたりは直売所をどう支えるかというよりは、しっかり町としては生産をしていただいて出荷していただく仕組みをつくらないといけないと思っています。

話が前にいったり、後ろに下がったりしますが。この度、秋に米が高かったです。今、野菜も高いです。この雰囲気では、普通なら何もしなくても米をたくさん作りますとか、面積を増やしますとか、野菜の生産量の面積も増やしますというのが本来なんですけど、実はそういう話はほとんど聞こえてきていないのが現状です。それほど高齢化してきたり、農作業の負担が高まっているんだと思います。そういう意味で、少し町としても後押しをして、せめて現状維持、もしくは少し増やすということで。米も野菜もそうです。しっかり生産を支えて、直売所なども出荷率が上がるようにしていかなきゃいけないと思っています。

併せて、今日も役場の中で内部協議をして皆さんの耳にもある程度届いていると思います。この公民館の建て替えについて、しっかりとした準備をしていこうと思っています。その点はまた場所や場面を変えて、丁寧に説明する場があると思います。もう目に見える形で、来年度からしっかり進めていきたいと思っています。

あとは、今後取り組んでいくことを少し説明したいと思います。町長という立場になって12月議会が過ぎまして反省するのは、今まで日常生活があって、町民の立場でいろいろなものを見ていた中で、立場が変わると見えなくなってしまう。例えば、12月議会で、漆谷議員さんから日本一の子育て村の看板が古くなってきて、字がくすんでいると言われました。その気になって見れば、役場の前も毎日通るのでそうなんですけど、町として一度建てたものやつくったものはそれでおしまいということで目が行き届いていない。

この度の1月の補正で、議会で矢上の香梅苑の横にあります屋根付きの多目的施設について、塗装の塗り替えをすれば長持ちするのか、修繕が必要なのかという調査費を計上しました。住民の方から、「やっとやってもらえるんだね。通るたびに気になったんだわ。」と言われました。その気になってみれば、確かに錆がいっぱい出ているし、そりゃあ心配だなと思いますけど、そういうことが、見えなくなっている自分に対してもう少し気を付けないといけないと。

町の施設というのは、道路も橋もそうですけど、つくっておしまいではなくて、自分たちのものは自分のものとして大丈夫かな、次は何かしなきゃいけないのかなという見方をしていけないといけないと思っています。

そういう意味で、こういう意見交換で、いろいろな意見をいただいて気持ちをきちんと現場から離れないように、皆さんから離れないようにしていきたいと思っています。少し前置きを長くしゃべりましたが、取り組みたいことについて説明をさせていただきます。

小中学校の統廃合は、あらゆる場面で最近、口に出しています。12月議会でも話がありました。所信表明でも話をさせていただきました。唐突だという話もあり

ましたが、全ての小中学校がある程度修繕がされていて、長持ちする状況なら話は別ですが、石見東は大規模修繕がしてありますし、石見中学校は建て替わりましたが、ほぼ全てがもう次は建て替えなりを考えなきゃいけない時期にみんな来ています。その中で、お子さんの数が減っている以上、教育をどうやって維持するかというためには統廃合が必要だし、児童クラブも給食センターも考えないといけないと思っています。

数字は出していません、参考ですが、今の小学生、中学生は一学年約70人です。今、保育所におられるお子さんは300人なので、一学年50人くらいです。70人から50人に減っています。ただ、全てが保育所に行っておられるわけではないですし、今後、Uターン、Iターンがあれば増えるわけですが、それが現状です。今年度生まれたお子さんは、12月までで28人です。そうするとおのずといろいろなことがわかってくると思うんですが。

あまり数字を出すと小学校も中学校も一つでいいんじゃないかという話になるので、この先にちょっと変わることがあるので、参考までに聞いておいていただければと思います。こういう現状の中で財政をどうするのか。小中学校をどうするのか。働き手をどうやって確保するのか。あと出てきますが、福祉施設もそうだと思います。そういうことを考えていかなきゃいけない状況になると思ってください。

公共施設の統廃合も、自治会館は、井原のようにコミュニティの再編で一つになって、自治会館を使わないよというところから順番にと思っていますし、斎場も書いていますが、邑南町として、それぞれもう建て替えの時期にきています。そうした時に今までどおりにはちょっといかなかなという意味で、統廃合の対象として公共施設等の管理計画も書いてありますので、ご理解いただければと思います。

ただ一方で、何もかも施設はなくしていくんだよでもいいのかなという気持ちがあって、遊休の公共施設の新たな活用策も考えたいと思っています。それは、例えば、学校や保育所とか自治会館とか、使わなくなったときに、ただ壊すだけでいいのか、その他の使い方や産業としても活用策がないのか。地域のため、産業振興のための使い方があれば、その使い方も考えながら、せっかくあるものを壊すだけじゃなくて、新たな活用も考えて統廃合を進めていければと思っています。あくまでも検討ですが、可能性がどこにあるのかというのは探らなければいけないと思っています。

住宅についても、この地域もいろいろな活動の中で空き家活用もされたと思います。邑南町の不思議なところは、住宅はいっぱい空いています。空き家もたくさんあります。だけど一般的には、住むところがないと言われます。病院だとか、結婚されたときとか、家を建てたい、家を探すというときに、ないのが現状です。住宅は決まりがあって、所得で入れる入れないがあります。

空き家も大きすぎるとか、宅地があるかということ、ないのが現状です。そういう定住対策の一環として、公営住宅の運用の見直しで入ることができればということも試験的にできればと思っています。空き家対策も含めて、住む場所の確保について考えたいと思っています。

産業振興も書いていますが、簡単に話をしますと、一つはあくまでも町内の企業を支えたい。町内でも経済循環、買い物をしてもらうようにしたいということで、さくらカードや商工会の活動を応援しながら進めていければと思っています。所得向上ということも言っていますが、町内で働いて、資格を取りながら働く。個々の能力アップが所得向上につながるのであれば、応援したいですし、会社にとっても資格がなければ仕事が出来ないのであれば、その資格を取ることに對して応援して

いきたいと思います。外国人の労働者についても、今は個々で入れておられて、入れるところまでは応援できないかもしれませんが、長くいていただくために日本語を学ぶ場であるとか、そういう皆でできることは町が率先して応援していければと思っています。

その後も、2つ書いてありますが、矢上高校の卒業生と石見養護学校の卒業生の町内定着事業と書いています。せっかく、町内に県立高校が2つありながら、その卒業生が町内ですぐに就職することは少ないですし、進学して帰ってきていただくということも少ないです。特に、矢上高校は入学定員を満たしているということで、県外からもたくさん来ていただいて、町もたくさん応援はしています。だけど町内に人が足りないということは、やはりその卒業生に次は町内で働いて生活していただく道筋をつけていかなければいけないし、そこにお金使うことに対して皆さんの理解を得られるようにと思っています。ただ一方で、資格がなければ、大学や専門学校にいかねば取れない資格もありますし、働くためには必要な部分もありますので、それについても奨学金等で応援して。子育て村ということでPRして頑張ってきましたので、やはりお子さんが多いお家は多いです。ただそれが進学になると、負担になるので、そこも考えなければいけないと思っています。

少し飛ばして改革というところもあります。常に、日本一の子育て村はどうするのかという質問を多々受けます。看板がくすんでいますますがきれいにして、せっかくの看板ですので、大事にしていきたいと思っています。ただ、日本一の子育て村とか、それは何なの？という話があるので、やはり、これからすべきことは、皆さんと話をしたいですし、福祉施設の在り方についても話をしたいと思っています。これも、たまたま並べて書いていただけですが、どちらも大事だし、関連しているということもあります。

数字を出していませんが、今年の4月から社協さんが、デイサービスとか訪問看護を辞めるということが問題になっています。その対応は、ほぼ済んでいるんですが、なぜ？と皆さんに言われます。一つは、きちんと町も示してこなかったのがいけないんだと思いますが、数字の錯覚の部分があって。高齢者は増えていると言われますが、実は邑南町は増えていないんです。減っています。高齢化率は、ほぼ45%くらいで変わらないです。全体の人口が減ってきている分だけは、減ってきています。そういう意味では、医療福祉施設の今後は、難しくなるんだと思います。

邑智病院がこの度、建て替わってどうなんだ？大丈夫か？ということがあるかもしれませんが。邑智病院は、治療される患者さんについて、郡内の人は減ってきているけど、今まで郡外に受診されている方の移動が難しくなっていく今後、年をとられてくると、どうしても邑智病院を頼らざるを得ない。そこを見通した中で利用される患者さんの数は大きく減らないだろうということで、今の規模を維持して建て替えをされました。そういう見通しを持った中でしなければいけないと思いますし、子育て世代と福祉施設の担い手は、ほぼ同じなんだと思います。頼らざるを得ない世代は子育て世代ですし、その人たちが正社員として福祉施設で働く。子育てがきちんとできる、負担がなくできる環境をつくらないと、福祉施設も成り立たない。働いてもらえないということがあると思いますので、併せて考えていければと思います。

一つ飛ばして、老人クラブ、一人暮らし世帯の社会参画、つながり活動の強化と書いています。高齢者の絶対数は増えていませんとはいいましたが、一方で、人生が100年、長生きする時代になりました。その中で、どのように生活していくのか

学んでいくのかということをしっかり支えていきたいですし。

100歳大学と書いていますが、ちょっと聞きなれない言葉ですみません。12月議会でも提案がありまして、高齢者の方々の学びの場として、こういうものをつくったらどうかと言われました。これは近畿を中心に流行っている言葉です。

ただ邑南町が全く高齢者のための活動をしていないわけでもないですし、公民館を中心に社会教育としてやっています。それを体系化するかしらないかだけの話ですが、しっかり支えていきたいと思います。

財政が大変ですという話をしているんですが、町としていい部分はしっかり支えていきたいという思いがあります。その一つが、保健医療福祉の最後に書いていることなんですが。邑南町は、一人当たりの医療費が島根県内では安い方です。大きな病気が少なく、邑智病院などのかかりつけ医のところに常に行かれることによって、全体の負担が減っているということがあります。

併せて、保健師さん等の活動の成果として、日常的に検診をきちんと受けていただいているということもありますので、それは続けていくことが大事だと思っています。そうは言いながら、40歳、50歳の検診の受診率は低いので、そこは人間ドックの受診率の向上とか。地域おこし協力隊の若い人もたくさん入ってきていただいています。神紅のブドウをつくっている方もおられますが、20代は自営業の人は検診の対応が一切されていないです。農協さんがされる部分で受けていければいいんですが、そうでなければいけないので、そういうところも考えたいと思っています。

最後に少しだけすみません、もうちょっと。部活動の地域移行というのは、すでに言葉が出ています。町長になってやっとわかる部分の一つが、「町は何でもっと早く動けないの?」と言われます。組織も小さいですし、住民の皆さんに密着していますので、本来はもっとスピーディーに動けるはずなんですが、ただ一方で、部活動の地域移行は、国が方針を示して、県が方針を示して、やっと動ける。先に動いてもいいんだけど、やはり順番でなければ様子がわからないこともあって、部活動の地域移行も、早く言葉は出てきましたが、やっとこの1月に県が計画をつくられました。ただ、2030年の国スポが島根で行われますので、それまでには移行しましょうということです。来年度から一気に計画作成をして指導者を育成して、ハード面の整備等に取り組んでいければと思っています。動きは遅いですが、しっかり準備をして動き出したら、すぐに成果が皆さんに見えていただけるように、わかるようにしていきたいと思います。

その他を少し書いています。一つは職員の副業についてということです。公務員は副業をしてはいけないと、私もずっと思っていたんですが、昔からそうなのかもしれないんですが、きちんと許可を得て、ルール範囲内であれば副業をしてもいいです。地域でこれだけ人手が足りなくて、地域行事だとか、消防団もそうです。何が副業かというのもあるんですが、地域にしっかり関心を持っていただきたいですし、職場でも他の人の仕事に関心を持っていただいて、個々の能力も上げていただきたいので、やっていいことはしっかり活用できればと思います。

もう一つは、定期的な住民の会の開催ということで、この度のような町政座談会をしっかり開催していきたいと思いますし、以前は女性の会ということもしていました。女性に限定するのがいいのか悪いのかは別として、地域や職業、世代とかに分けてでも、極力、こういう会を開いていきたいと思います。その理由は、皆さんの思いも聞きたいということが一つと、もう一つは、人口が少ない町でありながら、

関わりが少ない人もおられます。こちらが気が付かない人たちもおられます。人材発掘という意味で、いろいろな会をつくっていけば、どこか出れるところに出ていただければ、それが次につながって、その人も地域と関われる。行政側としても、次のいろいろな役割をお願いしたり、地域の中心となっていただけるという思いもありまして、積極的に会を開きながら人材の発掘に努めたいと思っています。

最後に、自治体連携と書いていますが、邑南町だけでできないことは、浜田市、江津市とも協力しながら。特に道の駅ができて、霧の湯もこの4月には再開できればと思っています。観光振興も一つの町でするのが全てではないので、周辺の町の力を借りる立場だとは思いますが、協力できればと思っています。一方的にしゃべりましたが、私からの話は以上で終わらせていただいて、教育長から少し話をさせていただきます。

2. 教育長あいさつ

改めまして、皆さまこんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。まず、石見東小学校、石見中学校との活動に際しまして、いろいろとご支援ご協力いただいております。また、公民館活動につきましても参加も含めていろいろとご支援をいただいております。この場をお借りしてお礼を申し上げます。本当にありがとうございます。

私の方からは、1点、お伝えしておきたいと思います。今、お手元にカラー刷りの資料を用意させていただきました。情報量がとても多くて、全て説明というわけにはいきませんが、少しイメージを持っていいただければと思います。

全面印刷したページを上にしていただいて、その左側にありますコミュニティスクールという言葉についてお伝えしたいと思います。町として、令和7年度の一年をかけて、このコミュニティスクールというものをご理解いただくための取り組みをして、実質的に導入するのは令和8年度と考えております。

そのページの中ほどですが、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校というふうにイコールで示させていただいております。では、学校運営協議会というのは、一体何なのかということですが、邑南町の場合は、学校と地域の皆さんと良好な関係性の元に教育課程が進められている環境がすでにあります。いろいろな関係性を維持させていただいております。これを将来につなぐために、しっかりと制度化していこう、システムとして明確にしていこうというのが、この地域運営協議会です。

基本的には、学校の思いを形にしていこうという今までの姿と変わりないと思っています。右の方ですが、ただ文科省が1点、求めているのが、右のページで四角囲みで書いている3つのうちの一番上です。学校の経営方針を地域の皆さまが承認していくという新たな作業が生まれてきます。今までは学校の方針に基づいて、地域の皆さんがその思いを最大限形にしていこうというところで協力いただいていた。まずもって、学校の思いを地域の皆さんと共有していく、つまりその中で、地域の皆さんの思いをしっかりと学校に汲んでもらうという双方向の思いのやり取りが、ここに出てくると感じております。まずもって、こういう新たな取り組みを構築していきたいと思っています。

そのページの一番下です。邑南町のコミュニティスクールが目指す目標や効果と書いていますが、一番は、以前、実施しました校区内の300人委員会であったり、

1000人委員会であつたり、あるいは、公民館を中心に求める子ども像を共有した場面をつくらせていただきました。そういったものの延長線上にもあるというのが、このコミュニティスクールであるのご理解いただければと思います。

最後にその裏面です。その導入のメリットとあります。最初の四角囲みにつきましては、学校を見たときに学校が地域と共にという、学校のための完結型の教育ではなく、地域と共にある学校づくりを学校がしていくという視点が1点と。

もう1点は、その下ですが、今度は学校を核とした地域づくりも併せて取り組んでいくと。先ほど申しました双方向の思いのやり取りの中で、活動していくということで学校のための思いだけではなく、地域の思いもしっかり生かしていきながらより効果のある動きを行っていくというように期待しているところです。

最後に邑南町のイメージ図がありますが、基本的には、全国的に見たときには各小学校単位でこういう協議会を立ち上げていくことが多いですが、中学校の場合は9年間を意識していこうということで、中学校区でこういった協議会をつくり上げて、小学校、中学校の連動性を持った教育を展開していこうと思っております。詳細につきましては、また来年度以降にしっかりお伝えしていきながらご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。以上でございます。

3. 意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、意見交換ということで進めて参ります。ご出席の皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。お一人お一人ずつお願いしたいと思います。たくさんの方からご意見ご質問を頂戴したいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。それでは、手を挙げていただきますとマイクをお持ちしますので、どなたからでもかまいませんので、お願いいたします。

○ ○○と申します。簡潔に申します。先ほど、町長が雲井の里の関係のことをおっしゃったんですが、私も井原の人間ですから、井原のことについて意見を申したいんですが。

雲井の里の関係者や代表者の方がおいでになられたということで、それは大変結構なことなんですが、そういう意味では私が申し上げるのは、不服的な意見ということになるかと思いますが。

実は、これは平成9年に建てたんです。その頃は、僕も大なり小なりタッチしているんです。それで強調したいのは、井原の住民の皆さん、金額の多い少ないは多少あっても、一人一人に出資していただいております。1万円、3万、10万、50万というようにね。井原の皆さんの汗が染み込んでいるといえますか。民活を利用した建物なんです。隣のは、こう言ったら申し訳ないけど、官製の建物なんですよね、瑞穂町時代の。だからちょっと生い立ちが違うので、特に強調したいのは、この井原を活性化しようということで、高齢者の生きがいといえますか、いろいろな思いを込めて建てた経緯があるので、3大型事業をされましたよね。これはこれで結構なんですが、片一方にはそういう産直市に町財政を投入すると、それはいいですよ、別に問題ないですが。今度は、ここにある程度、町行政として力を入れてほしいという思いがある。

例えば、一つの例として模索しているのは、いこいのスペースと言いますか、カフェとか、うどんとかそばとか、ああいうものをやろうとなるんですが、まず

財源を考えていかないといけない。それでまた住民の皆さんに寄付行為をやっていくのも、それも一つの方法ですが、同時に町行政としてもここに光を当ててもらって、最大限、助成していただきたい。我々も野菜も苦労して集荷活動など展開しておるんです。僕も微力ではありますが、いろいろと当たりよるんです。当時、集客に苦労して、あれやこれや知恵を絞ってやっているんです。

先般も矢上高校生、島大生も交えて餅つき大会なんか好評なんです。いろいろ寄席的な落語を呼んだり、井原未来クラブというのがあるんですが、それらをいろいろイベントをやるとか知恵を絞ってやっている。アイデアを練ってやっている状況でありますので、我々も頑張りますけど町行政も後押しを、さっきおっしゃいましたが、それを最大限バックアップしていただきたいという、そういう強い思いがあります。

それともう一つは、行財政改革で町議会も傍聴させてもらっているんですが、町長の答弁も前町長からずっと続いているんですが、1次、2次と計画はできておりますよね。公共施設のぶんは。僕もその都度パブリックコメントを出させていただいておりますが、遅々として進んでいない、端的に言って。だから非常に難しい問題なんです、できることからやったらいいんじゃないかということ。一つの考え方として経費節減運動をやらないといけないと思うんです。歳出の改善とか支出の改善をしていくという中で、経費を節減するというね。例えば、夜遅くまで煌々と電灯がついている。今、光熱費も上がってきているわけですし、残業、超過勤務というところも、やっぱり意識して最大限、日中に仕事をフル回転して。仕事はどこも厳しいですよ、どこも。その辺をやるとか、業務改善運動となるとね、浜田市もやっておるでしょう。今、浜田と連携していますと言いますが。そういった面も含めて業務改善運動も、展開していくことが大事だろうと思うんです。

さっきおっしゃるように統廃合の問題、公共施設の解体、あるいは民間とかね、複合施設にするとかいろいろな案はありますよ。文書では。それを一つ一つ実行していくようにすることが大事なんじゃないかと思えますし、この度、トップが変わられましたから、また違った視点といいます、違った手腕といいますか、ぜひ発揮していただきたいと思えますし、お伺いします。

- 大屋町長 ありがとうございます。雲井の里の件については、昨日もいろいろな要望を受けました。ただ若干、道の駅との差もいろいろとあるのをわかった上で、あえてお話をさせていただくと、農産物なり加工品だとか、花であるとか、売るのがなければ、いくら人が集まって難しい。ベースはそこなので、まずは生産面で町として応援していきたいですし、今、地産地消であるとか、道の駅をよくするものはいろいろあるんです。

ただ、今言われましたけど、本来は、町内の生産量が増えるのが町の目的です。今は減ってくる生産量の取り合いになっている。どこに建つかだけの話であって、道の駅にたくさん集まって売り上げが伸びましたが、町の実産量は減っていますというのでは、町としては本来の思いじゃないです。まずは、しっかり生産量を増やすところで雲井の里をバックアップしたい。その結果によって、人が集まる、賑わいができるということで次のステップに進むときは、そこをまた応援していこうと思っていますので、まずは生産面でのバックアップだと思っています。それは町の役割の大きな部分だと思います。

行財政改革について、言われていることは重々わかります。計画どおりしな

やいけないですし、まず残業を減らしましょうと。いろいろなことを犠牲にしてそこまで仕事をするべきではないという思いもあります。ただ、現状は遅々として進んでいなかった。今まで進んでいなかったのが、すぐに帰れるのかという、その大きな原因は、やはり大型投資が続いて、人もお金もそこに取られていった中で、皆さんに仕事をしていただいているので、業務改善をするという余裕はない。目の前のことで精いっぱいというのが現状です。

そこを改善するために、副町長を中心にプロジェクトチームをつくってやろうと思っています。仕事始め式でも少し話をしたんですが、公務員の世界は、年が変わったからって何か変わるわけじゃなくて、年度という一つの区切りがある中で、1月から3月は、今年度の仕事をしっかり仕上げていただいて、尚且つ、来年度の準備をする期間ですと言いました。その準備がしっかりできなくて、年度が替わっても引きずるところもあったので、少し大変だけど、今、きちんと仕事していただいて、来年度、余裕を持ちながら業務改善や次年度にどうすればいいのかと。いい循環をつくりたいと思うので、目に見えて変わったねというのは、1年くらいかかるかもしれませんが、絶対しなきゃいけないことなので、しっかり副町長を中心に進めていく準備をしていますので、ご理解いただければと思います。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他にはございませんでしょうか。

○ 行財政改改革は、あとで回答される？

●大屋町長 当然、プロジェクトチームの中でそれをやっていくので、その中でまた目に見えた形で細かい事務改善とか、残業が減っていくというのは、その次だと思います。それをしないと最後に言ったとおり、職員にもっと地域に関わってくださいというわけにはいかないの、そういう良い循環をつくっていきたいと思っています。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○ 1点と言われたんですが、ちょっと1点はお伺いと、もう1点はお願いをしたいです。まず1点は、町長には、昨年の自治会長会の時にお話ししたんですが、水道水P F A Sの問題です。今、岡山県の吉備中央町で大変問題になっておって、NHKで昨年の12月1日に特集番組をやられています。質問させてもらう以上は、私も知識を取らないと思って、NHKの番組の資料から取らせてもらったんです。今、P F A Sの全国調査が環境省と国土交通省から2020年から24年にかけて、各地方自治体に調査依頼があって、その集計が昨年の9月末日に出て、NHKでそれを取りまとめた資料が、出ています。この中に、中国地方で検査をしていないところがほとんどが島根県なんです。隣の町、川本、美郷、邑智郡はどこもやっていないんです。あれからお聞きしたんですが、ここまでに検査をされていますか。

●白須副町長 まだしてないです。

○ なんでしていない？

●白須副町長 副町長の白須です。よろしくお願いします。先ほど、○○さんから質問があったP F A Sというのは、有機フッ素化合物、健康に有害性の高い物質が水道水に含まれているということが全国的に問題になって。昨年の夏ごろから週刊誌等でも取り上げられて、結構、岡山県の吉備中央町の辺りが大きく取り上げられて大きく報道もされています。

それで、邑南町もその時点で、この対応をどうするかという検討をしました。

その時点では、国が定める水道水の検査項目にこのP F A Sという項目が今も入っていないんですが、当時も入っていないということで、ここは周りの市町の状況も見たりして、国の動きも併せて見たりして様子を見ようと。

ただ、当初予算には挙げて、検査をしていこうという町としての方針を立てました。それで、昨年度は実施していないという状況です。それで、来年度の当初予算はまだ編成中なんですが、来年度の当初予算には検査費用を計上して、4月には実施したいと考えております。

島根県でやっている町村が少ないという話がありました。アンケートの中身を見たりしたんですが、P F A Sの水道水に含まれているというところは、工場地帯であったり、岡山県の吉備中央町は、近くに資材置き場にP F A Sが吸着した活性炭が野ざらしになって積みあがっているということで、検査数値が高くなったと聞いております。

アンケート結果を見ますと、町内の各自治体の判断として、地域の環境的にそういった状況にないから検査をしないという回答も一定程度あったと確認しております。島根県で検査をしていないという自治体も、そういったことも要因としてあるのではないかと思います。以上です。

- 反論したいんですが。何で私がこれを言うかということ、私が役場におった時代に、平成31年当時くらいだと思うんですが、水道料を改定して公営企業に移行しました。その時に、安心安全な水を供給するということで、ご理解をいただいてやってきたというのもありますので、どうしても私は気になるんです。

今、副町長がこの辺は工業地帯もないし、いろいろなものがないという話をされたんだけど、実際、隣の町の安芸高田市は37レベルです。庄原にしても三次にしても数値がでています。

ここに何も無いって言われるけど、実際、大川の埵、広島と島根の間の市木の県道ですね。あそこって、すごく不法投棄があるんです。そのときに、水道課と市木の住民さんとでボランティアで半日以上かかって回収しました。しかし、それは表に見えるだけのもの。あそこに行くと、地下にいっぱいあるんです。それから大川の埵も一時、問題になったんですけど、今は通られなくなったんで認識がなくなってきていると思うんだけど、あそこにもすごく不法投棄があるんです。

それから、水道課時代に水源地をまわりましたが、そこにも思わぬ不法投棄は至る箇所にあるんです。それがどうものが発生しているかというのは全然わかっていない。そういうことを考えると、早めに検査して安全ということを周知せんと、いけんと思うんです。

これを放っておいて、もし万が一出たときは、行政が怠慢だったから来年度予算までの今からでも約100日あるんです。その間、飲料水として、その人たちは飲んでいるわけだから、そうするとそれに関わった人は、全部、町費をもって健康診断するとか、いろいろなことが出てくる。もしかすると、訴訟の対象になる、そういう認識が町にはあったのかと。20年からそういう通知が環境省から来ているのに、それを放っておいて、よそに出てないんだけらいいわということ自体が、考え方としておかしいんじゃないかと。

予算を取らなくても、毎月の検査費とかそういうのがあるんですから、それらを流用して、あとで補正でつけておくとかということも十分できたはずなので、そういうところの問題意識は持っていないと、万が一出たらどうするんですか。

吉備中央町もそういう形でやって出てきたわけなんだから、基本としては早急

に対応してほしい。出なくて当たり前なんだから、だけど万が一出たらどうするの。大変になるんです。だから、そういうことがあった以上はすぐに問題意識をもって流用するとか。何千万、何億円とかかるものでもないのに、検査をして安心安全な水を供給していますよということを町民に言わないと、どこに何が捨ててあるかわからないんです。それだけは認識していただきたいということが1点。

それと、もう1点は要望なんですけど、井原地区は昨年10月1日で、4自治会を統合させていただきました。それで、発起から2年半で井原の皆さんの協力があってスムーズに自治会が統一できました。

井原が統合したのは、50年前、井原地区の人口が1000人あまりあったんですが、今現在580人ということは、半減しています。その中で、高齢化率が50%ということは、580人のうちの300人近くが65歳以上なんです。邑南町も20年前に合併したときに、1万3500人くらいの人口があった。それが20年間で、約2千人あまり減ったんですよ。広報を見ると、顕著に毎月、前年対比より200人ずつ減っています。

ということで、大屋町長にお願いなんですけど、今回、町長に出られた以上、1期じゃなく、2期、3期を目指しておられると思うんです。そうせんと、1期だけでいろいろなことはできないので、長期的に町政を考えていただきたいというのがあるのと。井原だけじゃないんですけど、井原の高齢化率とか、農林業のことを考えていくと、放棄地が今後、どんどん出てくる。

これも一昨年のNHKのテレビでやっていた職の最前線でやっていましたが、2040年には中山間地の農地が20%くらいになるという話をされていて、実際、井原の自治会の中で検討している中でも考えると、あと16年くらいすると、実際、井原もその程度になる可能性があるんです。自治会の中で話をしているのは、井原は国道沿いにかけているので、条件的にはいいんですが、ある程度コンパクトな町づくり、地域づくりをしていかないと、20年先には、あの集落に1軒とか、この集落に1軒とかになる可能性があるんです。

そこに対して、水道の管理から下水の管理から、除雪からということをやっていくと、すごく無駄な感じになってくると思うんです。昔のように、高水から新町へというようなことが今からできるかどうかは、分からないんですが。町自体が今後、20年くらい先に、町長さんがあと、3、4期やられれば、その間に、この人口って6千人くらいになる可能性は十分あるんです。面積は変わらないのに、人口は合併当時の半分以下になるんです。そのうちの半分くらいが65歳以上なんです。それがこの邑南町の中に今の形でばらまいていたら、行政がめちゃくちゃ非効率です。その人たちもまた大変になるんです。そういうことを考えると地域の中で、どこを残していかないといけないか、農地もです。そういうことも考えるなりして、コンパクトな町づくりを今後していかないと、なかなか生活していくのが大変になると思うので、そういうことも含めて長期的に町づくりを考えていただきということがお願いします。以上です。

- 大屋町長 最初の水道の話にふれますと、確かに〇〇さんが言われるとおりで、そのときの判断はあるんだと思うんですが、結局、検査をして手間とお金がかかることと、もし出たときの遅れて分かったときの対応だとかということ、当然、その都度やって、「皆さん心配いりませんよ。安心ですよ。」というのが本来の姿だと思います。

ただ一方で、今回出たところの情報もきちんと入ってくる中で、可能性という

言い方は変ですが、飛行場の傍で泡消火器を使うような場所であるとか、そういうこともあって、山間部は比較的少ないということと。どこを検査するのかとか、言われたとおり、可能性が高い場所からやっていって安全ですよということもあったんだと思います。来年度早々にと行った時に、あと90日どうかということもあるんですが、その件については、就任して早々に水道課から報告を受けています。

対応をどうするかという話もしていますので、責任を持って考えながら進めさせてください。ご意見はもっともだし、行財政改善と言ったときに、今、かかるお金と安心感と、将来の負担のバランスなんだと思います。その辺も含めて、今、こうしますとは言いにくいですが、もう一回協議をさせてください。おっしゃるとおりですし、出ないのがわかってしないのであれば、ちゃんと検査をして出ませんというのをすべきだと思います。

次の話のコンパクトシティは、住む場所をコンパクトにという話はよくわかります。ただ今のところ、選挙の公約等も含めて、私自身は、全く正反対の今のままをという思いを持っています。

職員の皆さんにも邑智病院の管理者としての話をしたときも、面積は変わらないけど、人口も世帯も減ってきている。人口が減るほどに世帯は減っていないというのは、若い人が家を建てるというのもありますし、高齢者の方が2人で住んでおられたのが、1人になってくるということもあります。行政効率を考えれば、それは近いところがいいんだけど、それぞれの生きがいの問題もあるし、生活を変えたことによってどうなのかという問題もあります。農地をどうするかというときに、いい場所だけ守る農地と、そうじゃない農地を分けなきゃいけないというのも分かります。ただ、本当にそれをしたときに、奥に農地があって人が住んでいてもらっているおかげで、中心地の農地や生活が成り立つ部分もあります。

そのへんはきちんと整理しないと、いいところだけ守ってみたら、山がどんどん浸食して水路も奥の方で管理できなくてということにもなるし、インフラ整備だと思えば、ケーブルテレビも水道も下水もコンパクトの方が、経費がかからないのはよくわかっています。そのへんも職員の皆さんには工夫しようということと、それが町にとって負担な部分は国に訴えなきゃいけない部分はしっかり訴えようという話もしています。

先週、国に行ったときにも、国土交通省の会議でしたが、財務省からは人が住まないところで何でそんなに金をかけているんだと言われるそうです。ただ、人が住まないからお金をかけられないんじゃなくて、そこにお金をかけないと、農地も守れないし、食糧生産もできない。こういう町にお金をかけることで日本が成り立つんだというのは大げさですが、今年、米が高かったのも、そういうこともあるんだと思います。町の負担ということもありますが、皆さんの生活が本当にコンパクトなのがいいのかもあります。

常に、今全部を守るんだと思いながら、コンパクトにしないじゃなくて、その思いの中での、いざとなったらどうするかというときに、どこをやめてもらって小さくすればいいのかというやり方もあると思うので、それはそれでしっかり考えていきながら今の皆さんの生活や農業生産を応援していきたいと思っています。

基本、今の姿勢は、〇〇さんの思いとは正反対のところもあるんですが、まずは今の皆さんの生活、今あるものは守っていききたいという姿勢で、役場職員の方

にもお願いをしていきます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方いかがでしょうか。はい、どうぞ。

- すみません、井原の〇〇でございます。まず1点は、邑智病院の話が先ほどございましたが、社協の撤退によって介護関係を邑智病院が引き継ぐということで、それにより経営の状態と、邑智病院のサービスがどうなっていくのかということをお教えいただきたいというのと。

邑智病院は新しくなって、今は受け付けまでにかかなり時間がかかって、クレームが出ていると思うんですが。新たになって、せっかく良い建物なんだけど、初診、再診のときに血圧や体重を測るという部屋はあるんですが、これが車椅子に乗ってくる方に対しての配慮が全くないと感じています。2、3人が入って車椅子が入られると、車椅子の方が嫌がっているかなというイメージを強く持っています。

それから、歯科で入るところで、車椅子の方は廊下で待つというような感じになったように思います。それがどうなっているのかというのが、病院に対してどう対処するかというのを教えてもらいたいというのが1点と。

もう1点は危機管理のことで、今、消防団の団員数がかなり減ってきているかなと。特に、石見が減っていると思っています。異常気象が続く中で、大災害があったときに、消防団員数が足りないということで、誰が地域を守ってくれるのかということが1点と。消防団員については、役場の職員がかなり入っています。大災害があったら、役場の職員はたぶん対策本部に取られていくんじゃないかと思って。ますます団員数というか、守っていただける方が減ってくるんじゃないかと。ないと思うんですが、それに大変、危機感を持っています。それを今後どう考えておられるかということと。

- 大屋町長 ありがとうございます。邑智病院のことは、社協が辞められたのはいろいろある中で、デイサービスは今ある他の施設に移るんだと思います。邑智病院がやるのは、訪問看護で看護師さんが行く部分です。

先般も邑智病院から話が合って、同じ敷地内でそれを持っていないと、病院運営の加算という、お金の収入が変わってくるということで、引き続き邑智病院でやらせてもらいたい。そこにかかる経費が、週に2回程度の訪問なので、今のスタッフでできる。最終的には少し、人を雇いたいことはあるみたいですが、それで差し引きしたときに、損ではない。しなければ逆に収入が減ってしまうし、それが大きな負担ではないし、そこに入るお金も考えれば、病院がやることなので、新たな負担にはなりませんということです。いろいろ心配してもらってありがとうございます。

車椅子の配慮というところは、今ある古い建物はそのあとにできた新館を直した後は壊すので、もっと出入りは楽になります。病院に行った時に、ここがちょっと不便ですねと言ってみたら、やっぱりつくってみたら不便な場所はたくさんあるみたいです。できる修繕や改善は、業者さんがまだ出入りしているので、皆さんの声を聞きながら細かいところで、できるところは直していかれているので、もう少し時間が経てば、最終的には使いやすくなると思いますし、そういう声はしっかりと届けていこうと思います。

危機管理の消防団ですが、昨日も、中野の座談会で話がありました。改めて、この地域で、町としても皆さんにお願いする中で、消防団であるとか、民生委員

さんとか、児童委員さんとか、いろいろな役があります。その役を、こうやって出ている人は知っている。だけど、だんだん地域のいろいろな役があっってお世話になりながら、皆さんがお互いに助け合いながらやっているのがわからなくなってきているので、例えば出初め式のときに配ったパンフレットを今、全消防団の方に渡るほどに配ってないところもあったりして、ネットで見られるし。ただ、それを常会で町民の皆さんに配ったらどうかという意見もありました。そういうことをしながら、まず皆さんにお世話になりながら生活しているんだよ。こういう役があるんだよということを示して、また次の勧誘にと。

今年、成人式で初めてふるさと会の案内を入れました。たぶん、だれも入ってもらっていないです。そんなにすぐには入ってもらえないんだけど、ただ、こういうのがあるんだという話は、成人者から出たみたいなので、そうすると、次に声をかけたときに入ってもらえるかなと思います。十分、そういうところで消防団の方にもお願いしないといけないので、地域の役がありますよということを示しながら協力してもらえればと思っています。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。

○ 皆井田の〇〇でございます。日頃は、いろいろとお世話になっておりまして、ありがとうございます。本日は、いい機会でございましたので、いろいろなご意見を聞かせていただきました。質問させていただきたいと思います。

まず1点、雲井の里に出す農産物が少なくなるということに対してですけど、高齢の方もつくろうとはするんですけど、畑に植えた作物がサルにやられたとか。もうちょっとで採れるというときに、持って逃げられるということで、防柵しかないの、なくなるからやめるとか、出さない、出せないということが非常に多くて。井原地区はサルの群れが3つくらいあるかなと思います。根本的に、そういった野猿対策とか、鳥獣対策ですね。これらを町でも本気でやってもらわないと、この山際にある畑は本当は畑なんですけど、つくっても取られる。だからメッシュして網を掛けても入ってくるとか、そういったことがありまして、矢上とか中野では全然考えられないことですが。そういったことの対策を本気で考えていただかないと、農産物をつくる意欲もありますけど、どこでもつくれるということをししないと、若い方も山際でつくることには抵抗がある。転作したり、いろいろするんだけど、それでも心配。そういったところに向けて目を当てていただいて、生産を増進していただくことをしないと、雲井の里ですけど、ほかにも生産者がつくって出してくれても、出そうと思ってつくるんだが、半分はもうないとか。大根をかじられたとか。製品としてはならない。そういったところがすごく心配なところが、この地域はありますので、野猿組合などもありますけど、そこと連携していただきながら、本気で対策したり、知恵を絞っていただいてより良いものができるように。安心して、その一旦でもいいですから、お力をいただければと思いますので、その点をよろしくお願いしたいと思います。

気がついたことを言うんですが、日常の検診で40代、50代は受診率が低いと。これは低いのではなくて、事業所に勤めているから事業所で検診しているので、町から案内があってもいいですと返すから受診率が低いと思うんです。だから、勤めている方には案内を出さなくてもいいんじゃないかと思います。

国民健康保険の方が主に町として把握されるのであって、住民全員に出すことが無駄なことだと思いますので、私も大腸検診もくるし、何でだろうとか。職場でやっているんだけど、町としての基準もあると思いますけれど、もう少し見

直しをされては。封筒の数も少なくなるし、半減するんじゃないかと思います。そういう考え方も持っていただいたらと。いろいろな方に諮ってみていただければ、保健課の方ですか、福祉課の方ですか。楽になるんじゃないかと思います。

あとは、部活動の地域移行ということですが、指導者の育成というところで、町も今から計画を練っていかれるということですが、部活にしてもスポーツのことですので、指導者もそのスポーツに精通した方がやられるんでしょうけど、それに伴ってスポーツを教える資格が今、求められている時代です。

スポーツ協会から言いますと、指導者資格講習を受けたとか。この資格講習というのが何かと言うと、スポーツ医学もですし、それから、パワハラ、モラハラ、こういった指導の仕方。それと子どもの心の育成。そういったところの講習を受けないとももらえないスポーツ指導者講習に、今なっておりますので、そこには3日とか4日間の講習を受けないとももらない資格です。これを毎年、更新しなきゃいけないとか、2年に一回更新しなければいけないとか。県内であればいいですが、中国地方で一カ所とか、そういったところで限られるものもありますので、そういった経済的な負担も非常にあって、指導者になりにくい。やりたいけどできないとか、そういった弊害が出てくると思います。

今から国体も控えておりますが、そういったスポーツ協会というのは、そういった指導者は、ただ自分はスポーツが好きだからではできないわけです。資格がなければコーチとして認められないというものになっているはずなので、そういったところは、地域移行をするにしても、指導者というのはこういうものですから、それに対してまとめて講習会をするとか。たぶん、教育委員会もスポーツ協会にも精通しておられると思いますけど、そういったところで教えてあげたほうがより良い取り組みができるし、地域移行をするにしても弊害が出るところだと思いますので、それをもっとオープンにして出してあげればいいんじゃないかと。各運動部がありますよね。そういうところへ情報発信されたらいいかなと思います。

あと、もう一個だけ、すみません。いつも車に乗って町営バスの後ろについて走ることもあるんですが、川本線は後ろにおおなんバスと貼るところがあるんですが、そこがめくれて見えんです。ボロボロになって、そのまま2年、3年経っているものもあると思います。どこのバスだろうと。バスの「ス」があるから、おおなんバスなんだなと。貼るところはあるんですけど、いつまでたってもめくれっぱなしのボロボロのままで走ってもいいのかなと。非常に町民として情けない思いをしております。めくれたらすぐに直すとか、もっと課の方でも配慮していただければ、イメージアップにもなるんじゃないかと思います。

バスも費用が大変だったら広告を受けるとか、ラッピングして宣伝するとか。そうったことをやられたらいいかと思います。もう一つは、町の封筒にも企業名や団体名を入れてスポンサー料をとって封筒をつくる場所もありますので、そういった形で、スポンサー料を取ってでも、宣伝になればその会社もいいわけですから、団体とか、NPO法人もありますし。そういった雲井の里も宣伝になれば、年間1万円でいいよとか、何枚かつくってもらって出すとか、そういうことができるような封筒をやられればいいかなと思います。以上でございます。

- 大屋町長 ありがとうございます。立場が変わって、見えるものが見えなくなったと言ったとおり、バスもおっしゃるとおりです。スポンサーとかも課長会議とかで投げかけると、なかなかねと言われちゃうのかなと思いますが、取り組んで

みるといいなと思います。課の再編や組織を変えるのは、2年くらいは名前を変えたくないですと言っています。封筒も変えたり、いろいろお金がかかるだろうし、看板も。ただ次にやったときに、ある程度、課の名前はこの体制でしばらくいくよと言った時に、封筒に役場の課の名前を入れて、スポンサー協力できれば、加えさせてあげるということですよ。まあ、それは冗談にしても。

○ そういうふうに入れさせてもらったら、何か活気があるとか。

●大屋町長 本当に行財政改革で皆さんに負担をかける場合がある以上は、町も得られるお金は頑張りなさいということだと思いますので、頑張ります。

あとは、簡単で申し訳ないですが、鳥獣被害は、邑南町は産業支援課に鳥獣害対策の3人おられて、毎月けもの新聞出されて頑張っている方だと思いますが、現実はということがあると思います。一方で、今後取り組んでいくことということで、産業振興の下から2番目に農地維持のために、〇〇さんが言われたとことと違うことにもなるかもしれませんが、周辺林地、特に奥の方の農地で鳥獣害対策も含めて、水路の維持も含めたりする中で、山の整備をすることによって少し軽減できたよねと、本当になるかどうかは別にしてもモデル的に取り組むことができればいいかなと思っています。なかなかすみません、被害があるところに住む人とそうじゃない人で実感が違うところがあって申し訳ないんですが。特に、ブドウとか果樹はサルが出たらやめるとい声も聞きますので、そこはしっかり取り組んでいきたいと思います。

人間ドックは、あくまでも対象者受診率なので、低いのは低いです。ただおっしゃるとおり不思議な部分もあって、なんで勤めている人に全部、案内を出して、受けるかどうか返すんだらうと思いますが、その仕組みがあるんだと思います。必要のない手間であれば減らせれば。今は一方的に送りますが、返信はQRコードだったりもしますよね。そういうところも踏まえながら、工夫していきたいです。

ちょっと踏み込むと、ここに人間ドックの受診率向上と書いたのは、特に40代、50代と書いたのは、人間ドックの受診のための町の補助は、今、1万円です。ただ病院の値段は上がってきているので、もう少し増やさないといけないかなと。増やさないと受診率が落ちていくかなと。ただ、対象が190人くらいおられるので、1万円を1万5千円にしてもお金がないよなという思いがあって、せめて、40代、50代だけしたらどうか。そこだけするのは、いかがなものかと言われるとか、いろいろな思いがあって、現状がこうですということで、その中でどうしようという提案も含めて課長会議でも話をしたので、こういう感じです。

指導者の育成は、お話の意味も含めながら、資格を取ったりするのに時間もかかるので、いざお願いしますということとはできないということなんだと思います。議会でも質問がありながら、奈須議員がよく聞かれていて、あんまりピンとこないところがあったんですが、今、改めて聞かせてもらってよくわかったの。そういう意味で、早く準備をして計画作成も指導者育成も一緒に進めていければと思います。副町長も教育長もおられながら、それぞれにしゃべってもらえればいいんですが、時間もないので。ありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございます。は、どうぞ。

○ 宮野原の〇〇です。どうにもならないんだらうなと思いながら、要望というか質問なんですけど、井原の駅に回転場があって駅舎もあってトイレもあるんです

が、トイレが待合場の前にあるんですよね。トイレの方が全面に出ていて、その奥に待合場があるという構造になっているんです。これはちょっとバスを利用される方も、どうなっているの？という感じになるのではなかろうかと。

ただ、土地は誰が管理していて、どこがつくっているのかもわからないし、状況は一切分からないんですが、使う側としてこれはと思ったので、お伝えしたいと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。前提で言っても無駄かなということも、毎回言っていただくと何とかなるかもしれません。それは問題共有なので。それと、いろいろな意見を聞いて、私は違いますとこの場では言いながら、家に帰ってとか、違う場面で同じ話をされると、やっぱりそっちが正しいのかな、変えなきゃいけないかなということもあります。無駄かなと思うことも毎回言っていただければと思います。

それと、先に言うのを忘れましたが、次第の中に町長への手紙と書いています。12月議会で、町長室に直接とどくFAXの番号と、役場の玄関口に意見箱がありますと言いましたが、広報に出ていますあまり目立っていません。今まで一度もFAXが届いたことも、意見箱に紙が入ったことがないのが現状です。皆さんに何も意見がないとは思っていません、ちょっと手間なんだろうし、今の時代にFAXは似合わないんだと思います。ここにQRコードを載せていますので、メールがすぐに打てるようになっています。お名前とか任意になっています。書いていただいても結構ですし、書いていないからと粗末に扱うわけではないので、出しやすい形で伝えていただければと思います。

今の〇〇さんお話は、しっかりと踏まえて約束はできませんが、使っていないのでわからなかったなので、話をさせていただいてよくわかりました。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました8時にもうすぐなりますので、このあたりで閉会にしたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長、ごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

今日は、夜分にお集まりいただきまして貴重なご質問、ご意見をいただきありがとうございました。時間が限られておりましたので、まだまだ質問もあったらうかと思いますが、先ほど、町長が申しましたように、FAXや、このQRコードを読み込んでスマホからでもできますので、たぶん明日の朝、パソコンの前で待っておられると思いますので、よろしくお願いいたします。

今日の話の中でもありましたが、新年度の予算を今編成しております。いろいろな課題を抱える中での予算編成です。毎年、我々が予算編成をする前に、町長が来年度の方針をしっかりと職員に示して、予算編成に取りかかるんですが。大屋町長になられて初めての予算編成の編成方針は、財政再建でございます。そういう中での作業でございますので、今、いろいろな事務事業の見直しをして、見なせるところはしたいと考えております。その結果、皆さんの生活や事業活動に少なからず影響を及ぼすことが出てくる可能性がございます。その点につきましては、しっかり事前に説明させていただきたいと思いますので、ご理解いただきたいと思います。また、いろいろなご意見をそのときにはいただきたいと思いますので、しっかりとそのご

意見を受け止めて来年度以降の予算編成の参考にさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

また、併せて中長期的には小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編につきましては、井原地区は積極的に進めていただいておりますが、そういったことは一つ一つ皆さんと情報を共有しながら、協働、皆さんと一緒に進めていくという意識をしっかりと持って進めたいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今日は寒さが厳しい折で、また、暗くなっておりますので、交通安全には十分に注意して事故のないように帰っていただければと思います。本日は長時間にわたりまして、さまざまな貴重な意見をいただきましてありがとうございました。簡単ではございますが、閉会にあたってのあいさつとさせていただきます。

●大賀総務課長 ありがとうございました。それでは、これ

町政座談会（日貫地区）

日 時 令和6年1月23日（木）
18：30～20：00
場 所 日貫公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。大屋光宏です。大変お世話になりました、こうやって町長として立場を変えてお話をさせていただくことができます。ありがとうございます。

町長就任のときから、いろいろな場でこうやって、皆さんが選挙を通じて邑南町の今の状況や将来について感心をもっていていただいている。それをきちんと町政運営の力にしたいということで、公民館ごとに毎年行いたいという思いで、時期が非常に寒い時期になって申し訳ないんですが、こうやって開催させていただきました。日中お仕事でお疲れの中、また寒い中で、たくさんお出かけいただきまして大変ありがとうございます。

町長になって、何をやっているかというところなんですが、年が変わりまして、新年のあいさつでも、職員の皆さんに、私自身もそうなんですが、行政は年度替わりというとおり、年が変わったから何かが変わるわけじゃないです。ただ、1月、2月3月は、今年の仕事をしっかり仕上げていただいて、来年度の準備を一緒にしてもらいたいという話をしています。私自身も今はまだ、今年度の事業の仕上げです。特に大型事業の仕上げです。道の駅だとか、石見中学校、霧の湯はこの4月の再開に向けて準備をしています。

一方で、今日から予算査定も始まりました。職員の皆さんにつくっていただいた予算を町長査定ということで、見させていただいて、このままやるのか、変えるのか、最後の判断に入っています。皆さんと一緒にという話と、最近の良い循環をつくりましょうという話をしているんですが、役場に入って、町長の立場になって初めてわかるのが、予算についても国が予算をつける。その次に県が、そして町ということで、今、予算準備をしているということは、3月議会は1ヶ月後ですぐです。その間に来年の準備をするというと、非常に短い間にしなければいけない。

ややもすると、私も議員をさせてもらいましたが、何でもうちちょっと考えて出せないんだろうと思うこともよくあったんです。とりあえずの予算ではないですが、議決を得て、新年度になってその準備をして事業をする。だから皆さんに新年度予算でこういうことをしますよと言っても、やるのは7月や8月だったり、建物を建てるのも10月になったりということがあるので、それは今の準備がしっかりできていない。それができないまま新年度に入ってしまうと、予算はあるのにすぐにできない。それがずるずる遅れて、次の準備も遅れる。来年度はどうなるんですかというようなことを聞かれても、いや、まだ今からですということになって、皆さんはもう秋には次の年のこと、公民館事業や自治会の活動についても、地域のこともそうなんだと思います。早くわからないと、何も準備ができないのという、ちょっと悪い循環で、やむを得ないことはあるんだけど、もう少し早く準備して、きちんと皆さんの手元にいろいろな情報が届けられればと思って、職員の皆さんには、1月、2月は、大変かもしれないけど、死ぬほど頑張ってくださいとまでは言いませんが、しっかりと仕事をしてくださいと言っています。それは、皆さんのため

すし、自分たちのためだと思っているので、成果としてまた皆さんのお手元に来年度予算ということでしっかり届けられればと思っています。

ちょっと座ってしゃべらせてください。今日は、取り組みたいことと書いています。本当は、町の財政が厳しいとか、人口がどうなっていくということを数字で出せばいいんですが、なかなか出しにくいところもあります。言いにくいことがたくさんあるということです。そういうことも踏まえまして、少し話をします。農業振興で言うと、去年から米の値段が高い、野菜の値段も皆さんが買われる立場だと恐ろしく高い。買う方は、上がったたり下がったり、いろいろあったんですが、つくる立場の値段としたら、ずっと上がらなかったものが、すごく上がったので、行政や町の立場からすると、何もしなくて、今年は米を増やすとか、野菜をもっとつくりたいですという雰囲気が出るかなと思ったけど、あまり聞かれないです。辞めますという方が多いんだと思います。それは皆さん少し年を取られたというのもあるし、意欲がということもあるんだと思うんです。そう思うと、せっかくのチャンスです。

道の駅もよくなるので、少し後押しをして生産を続けてもらう、農地の荒廃を防ぐということを、しっかりしていかなければいけないと思っています。その中で、職員の皆さんにも少し話をして、どこまで全員に話が届いたかどうか、それは皆さんに聞いてもらう場がなかなかないんですが。邑南町は、面積は変わらない、人口は減っていく。非常にこれから行政コストはかかります。だから工夫してくださいという話をしました。農地もいい場所だけつくって、イノシシやサルが出てやれんところは辞めればいいのかという考え方もあるし、人が住む場所も少しコンパクトにすれば、水道とか電気とかの設備投資も少なくして維持費も楽だという考え方もあるんですが、それをすると、どんどん周辺から廃れて、町の中も住めなくなる。周辺があるから今の場所が、いい場所にいるという思いがあるので、まず出来る限り、現状を応援したいと思っています。

世帯数は人口が減るほどには、あまり減っていないです。それは二人で暮らしておられる方が一人になったのかもしれない。訪問する事業であるとか、水道や下水道でもコストがかかるばかりです。だからそれを上回る以上に、町として努力しないと成り立たないんだと思っています。非常にしわい話ばかりなんですけど、その積み重ねで成り立っていくのだと思います。毎年、毎年、工夫して少しずつコストがかかる部分を吸収しながら、気が付いてみたらよくやっているよねという町にしなければいけないと思っています。

そういうこともふまえながら、少しだけ、資料を元に話をします。

次第に町長への手紙というものをつけています。皆さんの声を聞かせてくださいということで、こういう会議以外に12月の広報でちょっと気が付かなかったかもしれませんが、12月の広報には町長室のFAX番号が入っています。直接、町長に届くように。あとは、役場の入り口に意見箱があります。あそこに何でもいいので、書いて入れてくださいと言っていますが、FAXは一度も鳴ったことがないんだと思います。前石橋町長の時代から。意見箱に意見が入ることもほとんどないです。何も皆さんに思いがなくてというわけじゃなくて、今の時代にFAXでというのも面倒な話なので、家にあるかどうかというのもあります。使い慣れない方もあるかもしれませんが。

今回はQRコードをつけました。これを読み取っていただければ、メールが直接私に届くようになっていきます。仕組み上、お名前を書いていただいたり、連絡先を書いていただくようになっていきますが、それがなくても受付しますので。タイトル

と思っただけを書いて送っていただければと思いますし、すぐでなくても何日か経ってから、やっぱりおかしいなとか、そう思うな、とかいうことがあれば伝えていただければと思います。

これからの邑南町として取り組まないといけないと思っていることを少し書いています。今、予算の査定中であります。すぐ予算として形になるか、もしくは準備でしかできないかはありますが、こういうことはしていかなければいけないだろうということを書いていますので、見ていただければと思います。

町内にいろいろな施設があって、全ての施設が修繕なども終わっていて、新築であるとか、何もしなくてもいいのであれば、施設の統廃合は必要ないと思っています。維持費だけで済むのであれば、でも、現実には小中学校の統廃合とか施設の統廃合と書いていますが、それぞれが建て替え時期を迎えている中で、どうするのかということがあります。お子さんの数が少なくなったから統廃合しないといけないということもあるかもしれませんが、施設が維持できない、立て替えが出来ないという部分もあります。学校については、小中学校もそうですし、児童クラブをどうするのか、給食センターも2カ所とも古くなっているの、考えないといけない時期がきています。

人数の数字を入れなかった理由ですが、参考までに聞いてください。今の小学校1年生から中学校3年生までは、ほぼ1学年70人です。小学生は70人×6で420人くらいいます。全てのお子さんが保育所に通っているわけじゃないんだけど、保育所の0歳児から、6歳の在籍のお子さんは300人です。一学年が50人になります。去年と今年に生まれるお子さんは、去年が40人、今年12月までで28人です。この数字を出すと、学校が中学校一つ、小学校一つという話になるのかということになるので。ただ、それだけ減っている中で、町としてできるのが、今、40人であっても、IターンUターンがあってももうちょっと増えるかもしれないです。数字だけで統廃合をするわけではないので。教育の在り方はどうすべきかという議論があるので、数字が出していませんが、考えていかなければいけない時期が来ていると思っています。

公共施設についても自治会館は不要だからという意味ではなく、それぞれの地域でコミュニティの再編ということで、日貫も取り組んでいかれるんだと思います。公民館単位で一つになったときに、目的がなくなった自治会館は統廃合をしていきたいと思っていますし、斎場についても3カ所必要かどうか。それぞれが古いので、今後の在り方を考えないといけない時期にきています。

一方で、やめますという後ろ向きの話ばかりなんですけど、使わなくなった施設は壊すだけじゃなくて、民間でもほかの使い道がある活用策として、調査や検討をしなくてはいけないと思っています。ほかの自治体では使われなくなった小学校で企業誘致をすとか、そういう新たな活用も含めて、統廃合、施設の廃止をしていきたい。そのための準備はしなくてはいけないと思っています。

住宅についても、それぞれの地域事情があるんですが、町全般で、予算査定をしてもちょっと変だなと思いながらやってきたんですが。町民の皆さんのいろいろな目線を見た時に、例えば、バスがそんなに人が乗ってないのに、動かしてどうするの？無駄じゃない？と思う方もいるかもしれない。それは理由があって、朝晩の小中学生が使うには必要な大きさだけど、日中は乗る人が少なくて、空で動かすと無駄だよという見方もあって。

町営住宅は、条件が合って、所得要件で入れない方がいて、空きがたくさんあり

ます。だけど、一般的には、町民の皆さんからは、邑南町には住むところがないと言われます。ＩターンＵターンをして、病院や福祉施設に勤めたいというときに、入る住宅がない。それは所得の関係で入れないと。空き家はいっぱいあるんだけど、活用策を皆さんも考えられたかもしれませんが、若い人にとっては大きいとか、維持費がかかりすぎるとか。

今日もちょっと変だなと思ったのは、予算査定をしましたが、民間の業者さんは県や町の補助金を使って新たに住宅を建てますと申請がきます。ちょうどいい大きさの住みやすい住宅がないというのが現状なんだと思います。今年度、日貫にも住宅を１戸でしたか、建てたと思います。そういうところの需要であるとか。日貫に建てたのは若者定住なので、直接所得に制限がある住宅ではないですが、やはり求められる住宅がしっかり確保できていないということで、この町に住んでももらえないということもあるので、考えていかなくてはいけない課題だと思っています。

産業振興のことを簡単に説明させていただくと、基本的な姿勢は町内にあるお店とか、事業者を守っていききたいと思います。経済循環を極力町内でできるようにしたいという思いがあります。特に、石見は邑南町全体そうですが、全国チェーンのドラックストアがないです。アベルにしてもプラザにしても、フーズフーズ、基本的に皆さん、地元の方がされているお店です。そういう意味では、ほかの町に比べて、地元の人が頑張っておられます。日貫でも地域でお店を持たれるとか、そういう後押しをしていきたいですし、そのためにはいろいろな経済対策を、さくらカードを使ってできれば。さくらカードが使えるお店と使えないお店があるのはわかっているんですが。それをできるだけ使えるようにしていただければ、町が皆さんに何らかの支援をしたものが、町内で使ってもらえるという仕組みになるのが一番いいと思っています。商工業振興にしても、商工会を中心という思いがあります。

読んでいただくと何となくわかるかなということで飛ばさせていただきます。

今日は、教育委員会の教育委員の皆さんとお話をする場をつくりました。総合教育会議ということなのですが、そのテーマとしてふるさと教育の意見交換をしました。その思いは、町内で人がいない、人口が減る、その原因はいろいろあるんですが、せっかく矢上高校と石見養護学校の２つの県立高校があって、それぞれに生徒さんがおられる。特に矢上高校は、県外からも来ていただいている。そういう人たちがもう少し邑南町の担い手になり、支えていただきたいという思いがあります。

そのためにどうしたらいいかということで、矢上高校の卒業生、石見養護学校の卒業生が町内で就職する。もしくは、外で学んで帰ってきてもらえるという良い循環をつくりたい。昨年の秋に、役場職員で入られた方は、町外から矢上高校にいられて野球をされて、学校を出られて、またそういうことに関わりたいということで、この町に来ていただきました。少しずつそういう流れができていますので、まずは、せっかく高校振興をするのであれば、その人たちが、この町の担い手になってもらえればいいし、そこを応援する意味もあると思っています。

ちょっと飛ばさせていただきます、子育て村のことを書いています。子育て世代を応援することをどうなのかという意見もあります。日本一の子育て村という看板は今でも残っています。この看板は続けたいと思いますが、じゃあ、どういうことが一番良くて、何をすべきかを、皆さんと一緒に話をしたいです。こういうことをしてあげるといいよね、やってあげようよということを、まず、しなくてはいけないと思っています。

併せて、福祉施設の在り方と書いています。１２月議会でも一般質問が出ました

が、社協がデイサービスを辞められます。なんで？と、たくさん言われます。それは、高齢者が増えてきているのに、高齢者に対する福祉サービスをなぜやめるのか。これからこの地域のサービスはどうなるの？という心配があるんだと思います。ただ、この町の高齢者は増えていないです。これも数字で示してこなかったんですが、高齢化率は45%で増えていません。ずっとそのくらいの数字です。でも全体の人口は減ってきているので、65歳以上の方は少しずつ減ってきています。そういう意味では、福祉施設も過当競争とは言いませんが、在り方を考えないと成り立たない時代になっています。

一方で、日本一の子育て村と福祉施設の在り方を並べて書いている意味は、子育て世代がそのまま今は福祉施設の中心的担い手です。子育てをしながら、働く場所の大部分は、保育所であるとか、高齢者施設であるとか、病院です。子育ての負担があると、働くのは大変だし、仕事の負担が大きいと子どもと向き合う時間がない。そのバランスがとれないと、どうしてもしわ寄せが若い人にいくので、仕事を辞める。この町から出て行くという流れになる。そういう部分もきちんと対応しなければいけないという思いで、2つ並べて書いています。これからの邑南町の大きな課題だと思っています。

一つ飛ばしまして、老人クラブ、一人暮らし世帯をしっかり応援したいと思っています。基本的には、つながりのある住み心地のよい町と言っています、それぞれの年代や世代で、つながりを持ちながら、活躍していただきたいと思います。それは自分たちが楽しまれるのも大事ですし、地域に対して何かしようという思いを持っていただく。それが形になるということも大事だと思っています。100歳大学と書いているのは、12月議会で提案があったので書きました。人生100年なので、仕事を辞めてからその後の人生をどう送るのかを学ぶ場所をつくってほしいと。近畿ではこういう言葉を使われるそうですが、邑南町で社会教育とか生涯学習で、こういう学ぶ場がないわけじゃないです。公民館活動とかさまざまなところであるんですが、改めて皆さんが学んだりつながる場として、こういう言葉で整理できればいいかと思っています。

もう一つは、突然ですが、人間ドックの受診率向上と書いています。非常に財政が厳しいので、財政が楽ではない。どのくらい大変かと言いますと、今年度やっていること、建物を建てるとかは別です。道の駅や中学校が終わるので、そういうことを外して、皆さんに対する住民サービスをそのまま来年しようと思うと、5億円くらいお金が足りません。えーっていう話ですよ。

ということで、副町長を中心にプロジェクトチームをつくっています。足りない理由は、どこの町も民間も一緒です。人件費がすごく上がっている。それは自給なり、そういうのが上がってきていて、それはしないといけないことなので、国の人事院勧告に基づいて同じようにすると、どうしても12月に7千万円くらい、予算を増やしました。そのくらい毎年増えている。物価高騰や燃料費も上がっているの、電気代とかそういうコストも上がっている。

もう1つは、あまり納得できないんですが、これも皆さん一緒なんだと思います。世の中で便利になればなるほど、パソコンやシステムとか、一度つくったらおしまいではないので定期的に更新もしなければいけないし。例えば会社の事務が楽になりますよとパソコンを入れたり、こういう会計ソフトがありますよって入れると、負担は少なくなってもお金が絶対かかるように、どうしてもシステムにお金がかかってきます。そういう更新の時期にも入ると、お金が足りない。新たなことをした

いわけではないけど、最低限のところがまず厳しい。

最初に話をしましたが、毎年こういうことは起こるんだと思います。その中でどうしたらいいかということ工夫しながら、これを乗り越えていかなければいけないと思っています。皆さんに、これを辞めます、あれを辞めますということをしは言うかもしれません。

ただ一方で、良いことを辞めて新たな負担が生じるということは避けたいなと思います。その良いことというのが、人間ドックのところに書いていますが、邑南町は皆さん一人一人の医療費が比較的安い町です。県内でも安い方です。かかりつけ医であるとか、邑智病院であるとか、常日頃から気を付けていただいて、きちんと受診をしていただく。大きな病気が少ないということで、決して大きな病気がないということじゃないですが、そういうことが少ないんだと思います。皆さん一人当たりの払う医療費が少ないので、町としてもそこにかかる経費がすごく安くなっています。それは、保健師さんの活動で検診案内があって、皆さんがきちんと受けていただいているからだと思いますが、そういう中で言うと、40歳代、50歳代が、非常に受診率が低いです。そういうところを上げたり、維持しないと今後の医療費は厳しくなると思います。

今、邑南町の中でもう一ついいのは、地域おこし協力隊でブドウをつくりに来ていただいています。大丈夫かなと、皆さん心配していただくんだけど、きちんとブドウという形ができている以上は、しっかりと仕事をされて売り上げも出ているんだと思います。昔に比べれば、20代、30代で農業をする人は多くなったんですが、20代は自営業など国民健康保健は、検診案内が1つも来ないです。会社に勤めていれば別ですが、そういうところもしっかりフォローしないと、今後、難しいかなと思って書いています。

その次がよく聞く、部活動の地域移行の準備をしたいと思っています。

最後に少しだけ書いていますが、定期的な住民の会の開催ということで、この度こうやって開催させていただいています。以前は、女性だけの会を開いたこともあるんだと思います。それがよかったかどうかは別にして、極力いろいろな会を開きたいと思います。それは、皆さんの声を聞かせてくださいということと、町もいろいろなところで困っています。何が困るかという、いろいろな会があるんだけど、参加してもらえる人が少ないです。どうしても公募委員さんなどが必要ですが、応募していただける方が少なく、誰かにお願いしなければいけない。いろいろな会を開く中で、人をもっと知りたいという思いもありますし、皆さんにいろいろな場面で、出られるところへ出ていただければ、お互いに声を掛け合ったり、情報提供できたり、協力ができるのかなということで、いろいろな思いを込めて、定期的にそういう会が開ければと思っています。

飛ばしましたが、その上のところには、職員の副業と書いています。今までは、役場の人は、副業をしてはいけないと思っていましたが、昔からかもしれませんが、きちんとして手続きをして許可をもらえば、副業をしてもいいです。お金を稼ぐ副業もあるかもしれませんが、地域で困っていること、地域行事の担い手になる、自治会の役をやる、そういうのも副業かもしれません。地域にもっと職員の皆さんが感心を持ってほしいと思っていますし、その延長線上で、職場のほかの人の仕事にも感心を持ってほしいと思っています。それがそのまま、それぞれの個々の能力の向上にもつながりますし、全体の仕事の効率化にもつながるのかなと思っています。一つのきっかけとして、職員の副業を進められればと思います。使えるものは使っ

てくださいではないですが、職員の皆さんで頼めることがあれば、頼んでみてもらって、副業ができるなら許可をもらって、地域のために使ってください。という言い方は変ですが、生かしてもらえればと思います。

昔、私も公務員をしていて、こういう話をして思いましたが、公務員はただで使えるんだから使わないと損だと、地域の人に声を掛けてもらいました。それは祭りをしたり、イベントをするときに声をかけられれば出て行って、仕事の合間でも職務の延長でできることもありますし、今は時代が違うので難しいですが、そういう意味で、もっと職員にも頼っていただいて。ごめんなさい、職員の方もいっぱいおられるのに、負担に思わないでください。いい意味で、お互いにそれぞれの仕事が順調に進めばと。

最後の一言だけ。まだ7時なので、たぶんこの時間に役場の前を通れば、終わると8時くらいなんですけど、帰りに役場の前を通れば、まだ電気がついています。フレックスタイムで全てが全て残業ではないかもしれないけれど、残業をされています。町長の立場で非常に難しいんですが、町民の皆さんのために働いていただいているので、ありがたいという思いと、そこまで頑張らなければいけない、しなきゃいけない環境をつくっているのもいけないし、もう少し個々の生活を思えば、何とかスムーズにという思いもあります。

今の残業が多い原因が、お金も少ないのに、あんなに仕事をして遅くまでと言われる方もあるんだけど、大型事業が続いて、どうしてもそこに人手が取られていく。そうすると個々の職場で人手が足りなくなるという悪循環もあります。そういう意味で、行財政改革、予算を減らすというのは、いい意味で仕事の負担が減っていけばいいと思っています。

冒頭にも良い循環と言ったんですが、良い循環を起こしながら、気持ちよく働いて少し余裕ができて、少し余裕ができて、地域のことも見られるように参加しようかとなれば一番いいかなと思っています。

面積が広い町で人口が少なくなって、一人一人が大事な人です。職員の方で窓口対応で、町民の方との対応が負担な方もおられます。皆さんも役場に行って、知った人がおらんでやれんという方もおられます。知っていようが知ってなかろうが、同じ町民で役場で働いておるので、やさしく声を掛けていただければありがたいですし、一人一人が大事な町民で、職員で、皆で頑張ろうというつもりでやっていけばいいと思いますので、今後も温かく、ちょっと厳しく言ってもらえればと思います。一方的にしゃべりましたが、以上で終わって教育長に代わりたいと思います。ありがとうございます。

2. 教育長あいさつ

失礼いたします。教育委員会の大橋でございます。本日はよろしくお願いいたします。日頃より、学校運営、あるいは公民館活動等にご支援ご協力をいただいております。近いところでは、昨年の11月24日でしたか、小学校の150周年に参加させていただきました。地域と共に、地域の協力により、ステージ場で6人の子どもたちが堂々と自分の言葉で思いを伝えていて、まさに地域との協働活動のおかげです。学校サイドに立てば、非常にありがたい場面を与えていただいたと感心させられました。本当にありがとうございました。

本日、お時間をいただいておりますことは、お手元に色刷りの資料を用意さ

せていただきました。全面印刷した面からお伝えしたいと思います。その左側です。コミュニティスクールという言葉が出て参ります。これは文科省が実際に推進しておりますけれど、邑南町としても令和8年度の導入をめざして、令和7年度にしっかり説明させていただいたり、ご協力いただいたりという準備期間を設けて設置していきたいという思いであります。

では、コミュニティスクールとは何だろうかということでございます。左の中程に四角囲いで書いていますが、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校となっています。学校運営協議会とは何だろうかというところですが、基本的には、今、日貫小学校の学校サイドに立ったときに、学校の思いをしっかりと地域の皆さんに受け止めていただいて、それを何とか形にしてやろうと。すでに協働体制も構築してあるというようなところでございますので、ベースは学校の思いを地域が受け止めてというシステムは、もうすでにこの地域はできあがっているんだろうと思います。

さらに協議会ですので、右の四角囲みが3つございますが、その一番上、このコミュニティスクールの一つの目玉となるのが、今までは学校の思いを地域が受けてというところでしたが、コミュニティスクールは学校の経営方針を基本的には校長先生が毎年つくられるわけですが、その基本方針を地域の皆さま、この協議会が承認していくという作業が新たに出て参ります。つまり、学校の経営方針にしっかり地域の思いも入れながら、教育課程を展開していく。これが新たな取り組みになるかと思っております。

そのページの一番したです。邑南町ではと書いています。これは、以前、もう数年前になりますが、300人委員会や1000人委員会、あるいは公民館をとおして、求める子ども像や、思いを共有していこうということも展開しておりました。その延長上として、このコミュニティスクールとご理解いただければと思っております。

続きまして、めくっていただきまして、コミュニティスクール導入のメリットと書いています。これは四角囲みが2つありますけど、上の方が学校から見たときのメリットです。学校としては、以前は、教育課程は学校完結型でやっておりました。それが今、文部科学省も含めて社会に開かれた教育課程を目指すというところで、地域の方々との協力なしには教育が進まないという意味合いでメリットとして挙げさせていただきました。

一方、地域の方から見たときには、学校を核とした地域づくり、地域にとっても十分にメリットがあるというところで、このコミュニティスクール導入を文科省が目指しているところです。

邑南町のイメージとしては、その下に書いてありますが、基本的には小学校単位でこの協議会をつくっているところが全国的には多いかと思いますが、邑南町につきましては、小中学校9年間をぶれずに義務教育を進めていきたいというところ、協議会は中学校区でまずつくっていききたいと思っています。そういう制度設計を含めまして、来年度しっかりといろいろな機会をふまえてお伝えしていきながら、ご指導いただき、令和8年度を目指して参りたいと思っておりますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。

3. 意見交換

- 大賀総務課長 それでは続きまして意見交換の時間でございます。本日の座談会は、閉会を8時に予定しておりますので、それまでの間、皆さまからご意見ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちいたしますので、恐れ入りますが、お一人一つずつ、ご意見ご質問をしていただけたらと思います。よろしくお願いいたします。どなたからでも構いません。よろしくお願いいたします。

- すみません、〇〇です。まず町長さんに、就任間もなくすぐにこういった座談会を開いていただくというのは、非常にいい機会ではないかと思っています。新年度の予算編成時期で忙しい中、こういった場を設けていただくというのは、非常に良いのではないかと思います。

町長さんが、選挙の中でも財政状況のことを特に訴えられて、中でも、私が記憶にあるのが、経常収支が99という数字が出たんじゃないかと。つまり100万円のうち、1万円しか自由にお金がないという感じかなと。実際は、93.6くらいだったように思いますけど、要するに行財政改革をしていく手法と目標というのは、描いておられるのかどうかということです。なかなか町民は財政の状況というのがわからないので、わかりやすくするために、そうした手法とか目標とかそういったところがあれば、聞かせていただければと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。経常収支比率が、99.9なんです。百万円あったら、千円しかないんです。わかりやすく言うと、自治会とか集落で、自治会では予算を組むと思うんですが、ほぼ前年並みのことを同じようにするんだと思うんです。それ以上にお金が余ることはほぼなくて、最初に言ったとおり、去年と同じことをしていても、お金が足りませんと。

結局、99ではないと思うんですけど、それは予算のときの話なんです。実際、93%くらいだよねというのは、決算のときです。その差額が自治会とか、いろいろなところで言う、繰越金で余っているお金ということになるんです。毎年、9月に町の決算をすると、4億円前後の繰越金が出ます。それはそのまま次の年の投資に回せるお金ということなんだと思います。若干、自治会とかと見方が違って、繰越金は予算上、毎年頭出しの千円か1万円くらいしか取らないので、4億円とか5億円はあとからつくと思うんですが、そういうことです。

わかりやすい手法として、今、副町長を中心にプロジェクトチームをつくって課長補佐クラスの方に各課から出ていただいて、お願いしますという話の中でも、目標とかわかりやすさというのはあるんだと思います。まず、最低限、貯金を崩さずにやりたいというのが一番です。

皆さんの家や自治会と同じです。毎年入ってくるもので普通のことはやりたい。子どもが大学に行くとかというのは他に貯金をもっているように、日常の生活は貯金を崩したくない。貯金というのは財政調整基金という運転資金の貯金を持っています。10億円くらいあります。それくらいあるんですが、いざ災害にあったらいくらか、そういうところから使うというのがあるので、それを今年度予算は1億数千万円くらい崩したんだと思います。それをまず崩さずに、毎年出来る予算を組まないと、5年くらい経つと、次の予算は立てられないので。そこがまず。それは皆さんには分かりにくいところかもしれませんが、内部でも目標です。

そこから始まって、初めて投資的なことができる。何かしたいと思えば、どうやって予算を課すかということなんですけど。できれば、最初の2年間でまず今の

状態を改善したいですと言っています。それは、貯金を崩さずにきちんとできる仕組みをつくりたい。その後の2年間は将来に向けてということで、今は目の前のことにお金を使っていますが、次の世代後半はがんじがらめになっています。がんじがらめというのは、今の大型投資の借金返済が始まるので、さらに何もできなくなるところを、少しでも将来も同じように貯金を崩さずにできる。そこで工夫をすれば、次の投資ができるというようにしたいと思っていますので。

非常にわかりにくいところはあるんですが。12月議会でも質問を受けて、町の予算規模はどれぐらいが適正なのかという中で、最終的に一般会計で100億円から120億円くらいにまず、できればと思っています。そうするとどうなるんだということですが、それはお金がきちんとまわって借金をせずに貯金を取り崩さずにできる規模かなと思っています。なかなか説明が難しいんですが、そういう話なので、職員の中でも、もうちょっとわかりやすくと言われているので、そのへんは少し研究させてください。

邑南町の人口規模であれば、だいたい国からの交付税などが60億円ちょっとだと思うんです。自主財源の税金が10億円ということは、70億円でやり繰りできるはずですよというのが、国の見方です。ただ、面積が少し大きいとか中山間直接支払いがあるとか、いろいろなことがあるので、それを足して110億円前後かなと。そこにしなければいけないという思いです。それ以上のところはやっぱりお金を使いすぎだし、やりすぎかなというところですよ。

- 財政改革というのは大事だと思うんですが、邑南町は非常に厳しいんだよとか、新規事業はほとんどできないよということだけが一人歩きして、返ってそれが、今のように若者が不安を抱いたり、定住も阻害されるというか。邑南町に定住してもそういった財政状況では、なかなかサービスも受けられないんじゃないかとかいうような悪循環になったら、本末転倒だということもあります。これは、子育てにおいても同じことじゃないかと思います。そのへんのところが我々ではわからないところがいっぱいあると思うんですけど、住民の皆さんにも丁寧に説明しながら誤解も解いてもらうようなことで、こうした場もまた持っていただいたりして、取り組んでいただければと思っています。
- 大屋町長 ありがとうございます。あまり、最初に財政の話をしなかったんですが、何となく楽ではないという思いを持っていたと思っています。大型投資が続いて、その借金も背負っている中です。〇〇さんと反対の思いも持っていて、今、本当に大変なので、きちんとして大丈夫ですよということを示さないといけないという思いがあったので。まず財政改革をして、何もできないんじゃないくて、何かができる町に責任を持てますというのが第一かなと思っています。

情報の仕方、お知らせの仕方はいろいろあるんですが、やはり、財政改革をしたので、財政改善しています。毎年、工夫をしています。何とかやり繰りをしながら、皆さんのためのサービスは維持してきていますということを、きちんとアピールできるようにしたいと思います。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、ございませんでしょうか。
はい、どうぞ。
- 〇〇です。大屋町長には、町長就任おめでとうございます。私は大きな荷物を背負ってもらったのと、町民の安心安全を守るためにこれから、若いので頑張ってもらえるだろうという期待をしておるところでございます。

私から一点、日貫は町の文化財で旧庄屋屋敷、山崎家があります。これを前の石橋町長にいろいろ工面なり努力していただいて、屋根が漏るような状況だったのを改修してもらって、平成の年代に終わりました。そして、私も公民館長をやっておりましたが、その後、辞めて2年間くらいは毎週、煙が出るようにということで。元々が茅という草でございますから、これは傷んだときには即だめになってくるということで、2年くらいは煙を出して、虫がその茅の中に卵を産まないようにと思って頑張りましたが、我が家も孫の子守などで松江の方に度々しないとやれんもので途絶えてしまいました。

今後、大屋町長はこの山崎邸についてどういう考えを持っておられるかというところです。管轄は教育長になると思いますが、それを聞かせていただければと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。議員もさせていただいて、個人的にもよく日貫を通して浜田に行っていたので、ずっと見ていました。修繕に大変苦労されて、最終的には総葺き替えという経緯も知っています。多聞館も含めてという経緯も聞かせてもらって、今、多聞館を自治会館と児童クラブが使っていますという話も聞きながら。どうするんですかということを担当課とも話をしています。歴史があって、あるものは極力という思いがあります。町の悪いところなんです、こういう施設もつくっておしまい。修繕しておしまい。何もしなくても何年も大丈夫でしょうと、この前やりましたよねという感じなんだと思うんです。

今、〇〇さんがおっしゃっていただいたとおり、使わないとなかなか大変なんだと思いますし、定期的に管理しないといけないんだと思います。必要なものだし、大事だとは思っていますが、ただ話を聞いて、維持していかなきゃ、使わなきゃということがあるので、それは教育委員会とも話をして、使って維持しながら、長く残したい。そうしないといけないと思うので、その仕組みを地域の方にしていただけるのか、町として定期的に行かなくてはいけないのかを考えさせてください。残します、大事ですと言って、何もしないんだったら残せないの。残すために必要なことは、何をすればいいのかを考えさせてください。

民間だったら、帳簿にいろいろ数字が出て、投資するのか修繕するのか、どうするのか、減価償却は合っているのか。町はそれがないので、どうしてもやったらおしまいになってくるので。こういう場でお話いただいたので、残す為に維持するために、維持費も含めてどうしていくのかを少し協議させてください。ありがとうございます。

- ありがとうございます。地域も何とか残せるように頑張らなくてはならないと思います。町長の話聞いて、相談に乗っていただけたということでありがとうございます。

もう一点、いいですか。発言したい方もおられると思いますが、産直市みずほ、今度のおおなんの里ですか、道の駅が新しくできつつあります。私も野菜を出したり、地域の加工場でつくったお餅もあそこで販売したり、度々、瑞穂へ行きます。あそこの売り場がだいぶ空いているときがあるんです。この面積が3倍になると聞いておりまして、今つくっている人の3倍以上の人が出荷を始めないとおそらくガラガラの産直市になって、お客さんが減っていくんじゃないかと心配しております。

こういうところは、農協も絡むかもしれませんが瑞穂の地元はもちろんです、邑南町の持ち物でありますから、つくったからには、今の庄屋屋敷と一緒に、こ

れが有効に活用されるように、いい知恵を出していかなくてはいけないと思います。これも町長就任早々で、どういう考えをもっておられるのか。人口減少に反比例的に面積が広がったので、そうするものかという心配をしております。

- 大屋町長 ありがとうございます。面積が増えたのは、通路を広くしたり、棚を高く使っていたものを平で使うという意味でも増えたので、今の産直市みずほの出荷量で、そこで少しあふれる部分も含めてちょうどいい大きさのはずです。

すみません、建前の話です。そこまでは、今はそういう計画なんです。産直市みずほは元々駐車場も狭くてお客さんも多くて、そこに出荷量もすごく多くて、売り場面積が狭い。場合によっては制限をして、出荷を遠慮してもらうこともあるということで建て替えたので、新しくなった産直市に出荷物がないとか、スペースが空くということはありません。それが始まりです。

ですので、大きくしたんだけど、ものがないから、何とか町がしてというは、ちょっとできない話です。建てた意味がなくなってくると思っています。

ただ一方で、準備してできるまでに10年近く経ってしまったので、現実的に生産者も減ってきているということがあります。農業振興の私の立場の思いは、地産地消とかいろいろあるけれども、町内の生産量が増えてそれが市場にもいく、直売所にも出るのが理想であって、どんどん減っている生産量を奪い合って、結局、道の駅にはものがあつたけど、町全体では生産量が減っているのではつくった意味がないと思っています。

冒頭にも言ったとおり、米の値段も高いし野菜の値段も高いんだけど、それが後押しになっていないということは、町として応援しながら、できれば全体の生産量が増えて道の駅にもしっかり生産物が並んでいる、雲井の里にもある、できれば川本にもあって。261沿いで、どこかにものがあって、一か所になくても他に行けばいいよという形になるように、他に行ってもダメだからというようではダメなので。心配される気持ちも十分わかります。そうならないようにまず、生産者に野菜や米、加工品なりをつくっていただけるように後押しをしていきたいと思っています。

- ありがとうございます。

- 大賀総務課長 はい、どうぞ。

- ○○と言います。今、老人クラブの日貫悠和会で役をやらせていただいております。邑南町も65歳以上になりますと、今さっき町長も言っておられましたが、45%ということは、4千人を上回るくらいではないか、これからも増えるのではないかと思います。

その中で、これから増える高齢者にいかに生きがいをもって、あるいは、若い方々も高齢者を応援して下さるとかというようなことで、石原先生がおっしゃっていましたが、ぴんぴんころりで健康寿命を延ばしていこうとおっしゃるわけなんです。そういったことは、私たち老人クラブの活動の中で、いかに健康を保ち、いろいろな勉強をしていき、あるいは地域に役立つ、子どもたちの学校教育への支援であるとか、草刈だとか、そういったことを思って活動しているわけです。これからは大屋町長さんを含めて町の方でも、そういった助成をしていただいたり、いろいろな催しものもやりやすいうようにしていただきたいと思うんです。

まずは、町長にこれから増える高齢者に対しての明るい希望、こういったものをお聞かせいただけたら、我々も希望が見いだされて、これかも、がんがんやるという思いがするんじゃないかと思います。一つ、よろしく願いたいしま

す。

- 大屋町長 ありがとうございます。議員の時代から副議長という立場をさせていただいていましたので、何度か老人クラブの皆さんの会であいさつをさせていただきました。そのときにも、グランドゴルフをするようになって、皆さん背筋がピンとしてお元気だという話も聞きましたし、毎回、90歳以上の方を表彰するんではしたか。参加者の中で、90歳を超えた方の表彰をされています。そういうのを見ると、当然、しっかり応援しながら、それがそのまま。皆さんがお元気なのが一番ですし、小学校や地域の方と交流したり、お米をつくるときにお手伝いに来ていただいたりというのは知っていますので、頑張って応援したいと思います。

こういう会を開くと、すぐに頑張りますと言っちゃうので。お金が全てではないんですが、健康面や生きがいとか、しっかりと支えていきたいと思いますし、100歳大学と書いたとおり、皆さんが自ら学んでさらに意欲が持てるような仕組みをつくっていききたいと思っています。

最初に言ったとおり、65歳以上の高齢者が増え続けるんですが、以前に比べて、健康で長く生きられる方が多いので、活動できる期間、皆さんとふれあえる期間は長いんだと思います。極力応援したいですという思いの中で、こういう場面では比較的男性がたくさん出られて、女性の方は少ないんですが。おそらく日常的なところは一人暮らしになると、女性はどんどん出ていけるんだけど、男性は出にくくなったり、ごみもいつ捨てていいかわからないから、溜まっていくとか。社会参画が少なくなるのは、男性なのかもしれないです。そういうフォローが町として、いろいろな面で負担になってくるのであれば、違うところでしっかり活動していただくということが大事だと思っていますので。100歳大学と書いたのは、老人クラブに関わるのは、保健課も医療福祉政策課など、いろいろな課が関わると思うので、横の連携の中で進めていければと思います。よろしくお願いいたします。

○ はい、ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかに、いかがでしょうか。
- 小中学校の統合のことで、所信表明でも2年を目処に統合に向けて出していくということだと思んですが、それは行財政改革はプロジェクトチームでということですが、小中学校の統合の件は、どうした形で検討されるのか。あるいは、今のように具体的にどのような方向に持っていくのか、どう目指しておられるのかということです。そういうところがもし分かれば聞かせていただきたいと思います。

私が思いますのに保育所小学校が、先ほど町長さんが言われましたように、周辺部が疲弊してくる。よく言われる東京の一極集中が、地方版でも同じことだよという感じだと思うんですが。例えば、例で言ったら申し訳ないんですが、日和は小学校、保育所もなくなって、ついには店もスタンドもなくなったと。見たら、矢上のあるところに日和団地ができてしまったよという感じになっていく。それはどうしても子育てをすると、環境的に整ったところに移ってしまう形にもなるんだろうと思うんですが。やっぱり邑南町全体を考えると、均衡のある地域の発展といか、維持を思えば、保育所、小学校、あるいは生活に必要な店舗など、そういうものが必ずないと若い人も住み続けない。担い手も育たない。子どもさんも今のように、子育てしていくことができないという形になってきて、それが悪

循環になって、結果的に邑南町全体が萎縮してしまう形になると非常に危惧しているところだ。

そのあたりのことをどうした形で考えられるかということと、教育委員会とすり合わせができているのかと。先ほど大橋教育長さんとは、新たにこうしたコミュニティスクールの方法を考えるという部分と、それがマッチするのかなと。そのところがちょっと、ちぐはぐになっていくようなところも見えるかなというのがありますので、そのあたりも含めて方向とか、2年間はすぐきまずので、皆さんにもわかりやすい取り組みを聞かせてください。

今回すぐには言いませんので、ある程度、熟慮が進んで方向的なものが出たら、またそういったことを聞かせていただく形になろうと思いますので、そのあたりのことをお願いします。

- 大屋町長 皆さんが大変気にされているところだと思います。今、正直、個別の学校についてどうこうという思いは全くないです。もう一つ、2年間で早くと言ったのは、最初に言ったとおり、年数を置けば置くほど、お子さんの数が少なくなって、選択肢が少なくなるという意味があって、今ならいろいろな選択ができるだろうと思っています。

いろいろな選択というのは、今、役場の中でお願いしているのは、教育委員会には子どもたちの教育として理想とすればどうあるべきか、教育委員会の立場で考えてくださいと言っています。もう一つ、作野先生のごことはご存じで関わりがあると思います。学校の在り方とか、高校の関係で作野先生にはすごくお世話になっています。地域みらい課が町長部局なので、その地域との関わり、学校の地域との関わりの中でどうあるべきかという、作野先生を中心とした思いで一つ検討をしてくださいと言っています。

〇〇さんがおっしゃるとおり、地域の在り方の中の学校の位置づけという意味では作野先生なんだと思います。子どもたちが主体としての教育、どういう学びをするのが、これからの時代にいいのかは教育委員会のほうで。それで、私は私で考えないといけないと思っています。来年、一年くらいはその時間をとって検討して最終的に教育委員会、作野先生の考えの町長部局、私、と思ったときに、全く同じ答えが出るのか。もしかすると、全く違う答えかもしれないです。それぞれの思いをすり合わせながら、さらにいい形なのか、ほかの形でいくのかはあるんですが、まず今は、そういう形で進めさせていただければと思っています。教育委員会の話も少し。

- 大橋教育長 ありがとうございます。今、町長がおっしゃられましたが、教育委員会としては、学びの効率を追求していきたいという思いがございます。これは文科省がいろいろ打ち出してきておりますが、学びの在り方というのは、我々の小中学校時代からは大きく変わってきております。ICT教育もそうですけど。

一つ、ちょっと時間をいただいて。我々の時代は、新しい漢字が出てきたときに、たぶん一斉授業で新しい漢字を10回ずつ書いて覚えましょうというような授業展開であったと思います。全員が同じことをして覚えていくということです。今は、個別最適な学びという少し難しい言葉ですが、学び方も個人的に選んでいいよという時代になってきています。漢字を10回書く小学生もおれば、5回でもいい。あるいは、タブレットを使って書き順をなぞって覚えるという学び方もある。つまり先生が教卓で前に立って、板書をしながらの一斉授業というのは少し、変わりつつあるというようなところで言ったときに、邑南町全体でどんな学びを

提供していくのが一番良いのか。今、特に学校は、学びの改革というのは、大きな学校、小さな学校も関係なく、教科書もほぼ毎ページにQRコードが貼り付いております。いろいろなことを展開しておりますので、何が一番最適なのかというのを教育委員会として責任を持って追求をした後に、在り方について皆さんにお示ししたいと思っております。以上です。

- 大屋町長 大事な話なので、その他、この件についてご質問があれば、ご意見をいただければありがたいですし、また後でという方があってもいいです。QRコードを使って、何か思いを伝えていただいても結構ですので。まずは、それぞれの立場でやっていこうという中で、そうじゃない方がいいとか、もっとこんな方法があるんじゃないかとか、検討の仕方もあると思います。

2年でと言ったのは、結論を先延ばしにしても問題の先送りとは言わないですが、早く結論を出して、子どもたちは、統廃合は少し時間をかけて、結論が出て、じゃあ、やるのはその3年後です。そうすると、お子さんは将来がわかりながら、ここ学校からこっちに行く。途中で突然では、やっぱりちょっと。過去、日和小学校のときに突然だったので、突然、来年から替わらないといけないというのは、それぞれのお子さんにとって負担になるので、そういうことはないようにしたい。

その辺の手法も含めてご意見を聞かせていただいたり、思いがあれば伝えていただければと思います。それ以外のことで結構ですので、よろしくお願いします。

- 大賀総務課長 それでは、小中学校の統合のことで、ほかの方でご意見ご質問がございましたら、お願いいたします。ほかのことで構いません。よろしくお願いします。

はい、どうぞ。

- 子どもたちが日貫小学校には非常に少ないわけなんです、全国的に犯罪ってというのが気になるんです。邑南町であってはいけないわけですが、もう少し防犯カメラや見守りですとか、子どもや高齢者の方にも該当する場合もあるかもしれません。変える場所がわからなくなったような方とか。もうちょっとそういうようなAIを駆使したものができかどうかわかりませんが。監視と言ったら嫌なんです、防犯用の安全策を整えていっていかればと思います。

- 大橋教育長 ありがとうございます。特に、日貫小学校ですけど、私も何度も職員室に内線をかけても誰も出られません。ということは全ての先生が教室に上がっておられるということで、お客様が来ても、たぶんわからない状況だと。今、〇〇さんがおっしゃられたとおりでございます。

今、カメラも設置してあるということで、町単独の職員の配置と、カメラは設置しております。これは100%ではございませんが、そういったセキュリティの強化ももちろん念頭に置きながら、今後も務めて参りたいと思っております。ありがとうございます。

- 大屋町長 地域全体の見守りの話をさせてください。資料の中でも、保健医療福祉の充実の2番目の中で、地域内の見守り活動の強化と書いています。町は郵便局や移動販売の方に見守りの協定を結んで、協力していただいている中で、邑南町自体も、もう少しすべきかなと思います。

公用車に全部、邑南町というステッカーを貼ればどうですかと、議会で一般質問を受けたんですが、今、公用車はいろいろな形で使っているので、個人情報、守秘義務があって、町の人が行っているのをわかってちゃいけない場所もあるの

で、それはできないんだけど。

一方で、安全パトロール中という、邑南町というステッカーを作って、建設課とか、そういう人たちが問題ないときには、それを貼ってまわればいいのかと思います。

先ほど言われたとおり、地域に行くと意外と自分がどこにいるかわからないとか、うろうろとされている方もいて、町の車ですとわかれば、声をかけやすいし、まわりの人にも安心してもらえるので、そういう意味でも、公用車でそういう活動で意識ができればいいと思っています。

ライオンズクラブの方にいただいて、いろいろな場所に防犯カメラを付けていますし、それ以外でもいろいろな補助金があったりするんだと思います。また個別にも聞いていただいて、そういうところでも安心して暮らせるように。皆さん一人一人が安心ということと、家族の人も、家にお年寄りを置いて仕事に行かなければいけないときにも、安心して出られるような環境もつくりたいといけなと思っています。また個別で心配だったら相談していただければと思います。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

- 福原自治会の〇〇です。2点ほどお願いします。一つは、町長さんが書いておられます今後取り組んでいくことの産業振興の下から2番目です。農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施ということで、書かれていますが、非常に興味深いです。できる、できないは別にして、どのような思いなのかというのが1点で。

それからもう一つは、去年から邑智病院が新しくなっております。私事で、ちょっとケガをしまして、かなり膝が痛くて水が溜まっていたりということがありました。去年は、まだ昔の入り口から入っておりまして、新しい受付まで行くのにすごく難儀をしました。今までは受付のところにどなたか一人おったり、おらんかったりするんですけど、大変助かったんです。今は、前にも誰もおってないし、新しいところもおられるのかどうかかわからないですが、よく聞くのは、新しい患者さんはどうすればいいかと。心配ごとがたくさんあるし、入り口も2つあるし、職員の方も限られた人数もあるかもしれませんが、要するに困っておられる方がかなりおられるんじゃないかと。それはなかなか目に見えないので、その事情を把握されて人件費の関係もあるかもしれませんが、安定するまでは何らかの対策をしていただければと。特に高齢者の方は困られるんじゃないかと、私も含めて、何とかしていただければと思います。以上です。

- 大屋町長 はい、ありがとうございます。最初の話は、全ての農地は守れないけど、今後守っていく農地とそうじゃないところを分けるべきだという議論もある中で、奥の方の農地をきちんと守らないと、鳥獣害の被害はどんどん里に近くなるし。水路も奥からきている部分が使えないと、良い場所の田んぼも守れない。ということは、やはり一番奥を大事にしないといけないという思いで、このように書いています。

具体的には、ちょっとずるいやり方ですけど、モデル的に全てじゃなくて、環境贈与税とか使って里山の整備をしています。その中で、同じようにするのであれば、農地等の維持も含まれるような場所、水路が守れるような場所を優先的にやらせていただいて。周辺の林地をきれいにすると見晴らしもいいし、日当たりもいいし、鳥獣害も減るよねというモデルがつくれれば、次につなげて。少して

も自分たちで木を切ろうかなというようになればいいかなと思っています。このために事業を組むのは難しいかもしれませんが、今ある事業の中で少し複合的に効果が高そうなところからしてみてもいいかなと思っています。

昔、鳥獣害が出ないようにするために、緩衝帯ということで、5メートルくらい場所を選んで、木を切ったり草を刈ったりした時もあったんですが、それももうすごく伸びているので、そういうものも含めながら被害軽減や農地が守れることも含めて山の整備ができればと思っています。全てが該当にならないかもしれませんが、少しやってみて効果があるようだったら、次も考えていければなと思います。

病院のことですが、伝えます。すみません。新しくなった病院もそうですし、いろいろなところで不便なことがたくさんあります。造ってみたけど、使い勝手が悪いところはたくさんあって、皆さんの声を聞きながら、今、改修したり改良しながらよくしていますので。そういう心配の声とか、使いにくさ、改修中とはいえ病院ですので、きちんと伝えて改善できることからしていきたいと思います。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかの方はいかがでしょうか。
- 地区社協のお世話をさせていただいておりますので、その観点から少しお尋ねしたいんですが。今、高齢者の見守りとか買い物支援ということで、中野のにこ丸くんという車両をお借りして、毎週水曜日に高齢者の買い物や、見守りの実証実験をしておるんです。その、にこ丸くんの借り上げ料とか燃料代とか、あるいは作業をしとる予算は地区社協からいただいております。実際に販売したりする作業は、中山間地の集落営農加算というところから支払いをしていただいております。これは、来年度はなくなるということも聞いたりするんですけども、そうなったときには、例えば町からそういう支援をしていただくことができるのかどうかかわかりますでしょうか。
- 白須副町長 副町長の白須と申します。先ほど、地域の買い物支援で中山間集落営農加算を活用していただいているということで、〇〇さんがおっしゃるように、これは国の方では廃止の方向で検討されています。
- ただ、廃止するかわりに、別の事業に乗り換えてもらいたいという依頼も併せて町に説明に来られました。別の事業というのは、例えば、農村RMOというものですが、これは町内では出羽、口羽で取り組んでおられまして、来年度も阿須那で取り組みの検討をされているところです。そういった別の事業があるので、できればそちらに乗り換えていただければと思います。
- ただこれも、事務手続き的にも負担もあると聞いております。そこは、町の担当課は産業支援課ですので、しっかりと相談に乗って取り組めるように準備のお手伝いさせていただきますので、ぜひ検討していただければと思います。
- 今すぐに、町が支援しますとはっきり申し上げられないんですが、まずそういった別の補助金へというところで相談させていただければと思います。よろしく願いいたします。
- 大賀総務課長 ありがとうございました。ほかにはいかがでしょうか。
- はい、では〇〇さんが最後ということでよろしくお願いします。
- 福原の〇〇でございます。ありがとうございます。私は農業をやっているわけですが、ブドウがすごく建設されておりまして、4ヘクタールになるそうです。町長さんにもご相談したというか、それが、あそこのハウスはもう検査も済んだ

ようなことを今日聞かして。それじゃあ、どんな問題があったのかと思ひまして、考へたところ、私が50年前に注文した場合に、圃場整備をやったり、ハウスの建築が2年越しに完成したわけです。資材もあの当時、高騰で、5人でしたが、若干違つたことがあります、誰が言つたかわかりませんが、町で調整をして5人が同じような金額で、同じような面積で20アールでございますので、その点は変わらないんですが、土地の不足のことが多少はありました。そこは除外といたしまして、建設の費用が2年間なので、資材がちょっと差額が生まれて、そこで調整してもらつて。ただ5名ですので、調整してもらつて同じ面積ですので、やつていただいた次第でございます。

今、ブドウハウスのことですが、私はブドウはようつきりませんが、以前こういうことがあつたということだけお知らせして、どうなるかわかりませんが。資材の高騰で上がつたりして、早くやつた場合は経費が少なくて済む。2年を超えた場合は資材が値上がりしてありまして、ブドウの生産者のしても均一化がいいと思ひまして。もう返済が行われていることがあつたらきっと難しいこともあります。収穫が、去年から始まつておりますので、そこがどうなるかなと思つて。返済も収穫が始まつたので、返済が徐々にあるんか、据え置きがあるんかというところで、ご相談ですが、何名が就農されるかわかりませんが、均一の経費で面積当たりの経費のあれでお願いしたいと思ひます。

日貫の方でも〇〇さんがおられまして、店舗にも出しておられます。優秀だなと思ひています。以前のこゝを出して申し訳ないですが、均一化になれば、均一化にしてほしいと思ひます。ブドウの生産者が一丸となつて協力し合つてやることが非常に大事だと思つてご質問しました。ありがとうございました。

- 大屋町長 ありがとうございます。すみません、僕と〇〇さんしかわからないから、この話は。実は、皆さんがすごく心配していただいておつて。神紅のハウスを建ててブドウをつくつていただいていて、大丈夫かと言われるんですが。〇〇さんもちゃんと形になつたブドウができているということは、技術指導を受けながら経営としても、単価がいいので、成り立ってきています。

ただ、今からの心配は、ブドウ栽培は、ブドウもそうなんですが、年々、資材費が上がつてきているので、初期の人と後の人では同じ面積でも、建設費が全く違います。リースなので10分の1が自己負担なんですが、その負担が全く違うので、最初の人と後の人と同じようにしてあげてくれという話なんです。

ただ、昔のハウス団地のように、あるときに2年くらいで同じ場所につくつたのはいいんですが、今は場所も違ふし、年も違ふので、なかなかそれを均一にするのは難しいかと思ひていますし、昔は皆で何か、覚えがある方も多々あると思ふんですが、補助金をもらつと3人以上とかグループでないと出しませんというのが、今は個々になつてきています。個人個人ということもあつて難しいんですが。

ただ、せつかく来ていただいて経営として成り立たないといけなないので、少し皆で話をして。建設費が上がつていゝんだけど、今までどおりにつくると高くなつちゃうので少し工夫できるところがないのかというのは、今までつくつた人で、これはいらなかつたなということもあると思ふんです。それも含めて、少し事業費の見直しをしながら負担を和らげて。

一方、町としては高く売れるブドウなので、きちんと販売単価を維持して、皆さんが努力する中で資材費が高くなつても成り立つように応援していきたいと思

います。それぞれの地域で、ブドウの人は大丈夫かと言われるんだけど、途中で帰っちゃうんじゃないと言われる方もあるけど、ちゃんと根付いていただいて家を建てたり、買われた方もいるし、いろいろな方がおられます。今はブドウだけで精一杯かもしれないですが、少し余裕ができて地域のこともしていただければ、もう少し皆さんも一緒になって応援しやすいかなと思います。

でも自分のことで精一杯というところも温かく見守っていただければと思います。以前に比べれば、地域おこし協力隊がしっかり根付く仕組みができたので、皆さんと共に応援できればと思います。いろいろ心配いただきまして、ありがとうございました。心配なところもフォローしてこの町に根付いてもらえるように頑張りたいと思います。ありがとうございました。

- ありがとうございます。もう一つ、ごめんなさい。矢上運送のバーク堆肥のことですが、邑南町としてだいぶ援助していただきましたので、これが継続になるかどうかと思って。ぜひとも辛抱のところ、助成していただければと思います。もう去年で予約が終わりだと聞いたんですが、土作りの対策としてご援助していただけないかと思っています。以上でございます。すみません。

- 大屋町長 堆肥の助成について、続けてほしいという。何でここで会話がわかるかと言うと、いつもの付き合いなのですみません。

町として久しぶりに、昨年、堆肥助成をしました。すごく昔はやっていたんですが、それが必要かどうか、定着しているならしなくてもという見方をした中で、しばらくしていなかったんですが、使う習慣もなくなってきた。手間もかかるのでということで、削減してきました。

今の思いは、成果的には普通の堆肥は結構使ってもらえたんだけど、鶏糞だとか豚糞のような、ちょっと肥料分が高いものは思ったように使ってもらえなかったです。使い方が難しいのかなと思うので、続けれるかどうかは別にして、ごめんなさい、言い方が難しく。できれば、皆さんが使い慣れなかった鶏糞だとか、豚糞について、どちらも町内なので。それだけちょっと支援しながら、少し皆さんに使ってもらえる仕組みを考えられればと思うので、普通の堆肥はちょっとごめんなさいかなと思っています。すみません。

あくまでも町内のものを使ってもらえるように、皆さんに習慣づけて役に立ててもらえるのが大前提なので、その道筋が出来れば、一旦やめさせていただいて、できていないものについては、続けさせてもらうことを考えられればと思っています。ちょっとまだ予算の査定中なので、約束できませんがそういう思いです。

- ありがとうございます。時間もオーバーして質問させてもらってありがとうございました。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。予定をしておりました8時になりましたので、これで閉会としたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

今日は、長時間にわたりまして、幅広いご質問やご意見をいただきました。ありがとうございました。今日のやり取りの中でもありましたが、非常に厳しい財政状況の中、令和7年度は、大屋町長にとって初めての予算編成になります。厳しい財政状況ということもありまして、毎年、予算編成の段階では町長から来年度の基本

方針を示して、それに基づいて、予算の編成作業を進めます。今年の方針は、財政再建という方針となっております。こういったように、現在、事業の検証を一つ一つ行って、見直すところを見直す。これは単年度もそうですが、段階的に見直すということも含めて、見直すという姿勢で今、取り組んでいるところです。新年度予算におきましては、そういった見直しなども行っておりますので、少なからず皆さんの生活や事業活動に影響があるかもしれませんが、そういったところはしっかり説明をさせていただきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

そういった際には、ぜひ、ご意見をしっかり聞いて帰りたいと思っております。いただいた意見につきましては、またその次の予算編成の参考にしていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

また、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編につきましては、検討を進めていただいているところでございます。そういったことも中長期的に取り組まなければいけないことも皆さんとしっかり情報共有させていただいて、皆さんと一緒に協働という立場で取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、遅くお集まりいただきまして、ありがとうございます。時間が限られておりましたので、質問したくても出来なかった方もいらっしゃると思いますが、冒頭に町長が申しましたQRコードを読み込んでいただいて、ご意見をいただくなり、FAXも活用できますので、ぜひご意見をいただければと思います。お帰りの際には、交通安全に注意をしていただいて、事故のないように帰っていただきたいと思います。本日は、長時間にわたり、ご質問ご意見をいただき、ありがとうございました。また今後ともよろしくお願いします。以上です。

●大賀総務課長 以上をもちまして、閉会といたします。ありがとうございました。

町政座談会（日和地区）

日 時 令和 6 年 1 月 2 7 日（月）
1 6 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
場 所 日和公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋です。就任しまして、皆さんの声を聞かせてくださいと、選挙で関心を持っていたので、非常に人口が少なくなる中で、やはり皆さんに感心を持っていただくということが、これからの町づくりで一番大事なので、まず町の持っている情報を伝えます。そして、皆さんもそれに関心を持っていただいて、いろいろな意見を出していただきたいですというお話をしました。その中で、町政座談会というのは、公民館単位で今までずっとやってきておられましたので。なかなかいい時期がなくて、この時期になりまして、一番寒い時期に開催することになりましたが、こうやってたくさんの方に集まっていたきまして、大変ありがとうございました。

最近、公民館の使い方が、横に広く座る形が多くて、すみません。右見たり、左を見たり、どこを見てしゃべればいいかなと思うんですが、だんだん身体の向きが片側だけを向いてしゃべるかもしれません、決してどちらかを中心にという意味ではありません。こうやってたくさん来ていただきましたので、皆さんの顔を見ながらお話できればと思っています。

年が明けまして、若干このところ、日が長くなった気がしています。5時半くらいまで外におれるかなと思ったのが、6時近くまでになってきました。元々、仕事が農業であり、冬場はほぼほぼ動かない中で、少しずつ日が長くなってくると意欲が出てきて、やる気がでてくる気がしています。ちょっと寒い時期ではありますが、だんだん春に向かって、町でいいますと来年度の向かってというところです。

年明けの職員の皆さんへのあいさつでも、町として年が変わるのは、それぞれの皆さんの気持ちの中で大事なこともかもしれませんが、町としたら年度が一番大事なので、まずは本年度の仕事をきちんとしましょう。そして、来年度の準備を併せてやりましょう。非常に大変だけど、頑張りましょうというあいさつをしました。

私自身も、今、本年度の大型事業、病院や中学校、特に道の駅の最後の仕上げに入っています。霧の湯についても、この4月から再開できるように準備をしています。併せて、来年度予算の査定準備中です。なかなか厳しい中で、思いが少しでも叶えられるようにということでやっていますが。いろいろな場面で一番聞かれて、答えが難しいなと思ったのが、財政の大変さをどうするのかという道筋をきちんと示してほしいと言われると、以外と難しいなと思っています。今、ちょうど12月議会での一般質問のやりとりも宮田議員さんがおられて、今日はちょっと、どなたか覚えがないんですが、議会の中でも聞かれて、たぶん一番自信がなさそうにしゃべったのが、そこかなと思っています。

今回も、特に資料はつけていないんですが。何となく雰囲気、大型事業が続いて町の財政が大変だよねという雰囲気があるのでいいかなと思って、敢えてつけていませんでしたが、改めて聞かれると難しい話だなと思っています。

町の中でも財政について、プロジェクトチームをつくって、職員さんの間でも議

論して進めてくださいとお願いしましたが、やはりその中でも、どこが大変で何を目標にするのかという話が出ます。町の予算で財政が厳しいのがわかりにくいのは、収入がまずわからない。出て行くのはわかりやすいけどもということがあります。皆さんにとってもそうなんだと思います。

併せて、町の財政が大変であって、そうすると皆さんに対して何が起こるのか、どうなってしまうのか。極端に言うと、町が潰れるんですかと言われます。潰れることはないですよ。職員の給与も上げてきています。そこで厳しいですということのも変なんです。民間なら違うだろと言われますが、職員の給与はルールに基づくところがあるので、そこはそこです。

町の財政でわかりにくいなと思うのは、町に入る税金が少ないのは皆さんわかっていただいております。だけど、足りないのは国がみてるんだろという感じなんだと思います。

実は、交付税ということで国からきますが、決まった計算でくるのに町が好き放題やって、足りない分をくださいという世界ではないです。お宅の町は、このくらいでできますよねという計算があって、もらっています。邑南町で言えば、70億円前後がこの町の予算規模ですよと言われている。町の最低限の事業をするのに、70億円あればいいですよ。だから、皆さんからの税金が10億円あれば、足りない60億円を交付税で出しますよということです。

ただ、実際の町の財政がそれ以上にあるのは、補助金があったり、この地域特有の中山間直接支払いなど、そういうものがあるので、最終的に120億円、130億円になるんだと思います。今、大型投資が続いているので、180億円くらいになりますけど、来年も180億円の収入があるわけではないです。来年は建物を建てないので、その分減ります。

一般的に、皆さんの生活の中で電気代だとか、年金を払わないといけないとか、家賃、交通費やガソリン代がこれだけかかるというのは、お子さんに仕送りをするような感じで、このくらいあるといいですよという形で計算されてくるので。アルバイトをして頑張れば、仕送りが減らされるというような仕組みです。全額自分でできるんだったら独立してねというのが、今の仕組みなので、どうしても人口が減って入るお金が少なければますます厳しくなる。出る方については、皆さんと一緒に、物価も上がれば人件費も上がるので、そこをどうやってするのかと言えば、やはり努力していかないと厳しいのかなと。

特に、債権という言葉を使ったので、何が大変かというのは、今、道の駅とか中学校の建て替えをしています。借金を返すのは5年間据え置きがあるので、6年後くらいです。次の世代とは言い過ぎですが、トータル25年くらいかけて返すんだと思います。その当てがあるわけじゃないです。その時の人が頑張っただけというのが今の状況です。そう思えば、財政をある程度やり繰りしないとダメだし、将来のためにもきちんとしてないと先々の人も困りますよということで、財政再建と言っています。

町がそれをしないと、皆さんの生活がどうなるかというと、今日も副町長という話をして、もう少しいろいろなことを職員の中でもわかりやすくするといいいねと。例えば、水道代は皆さん高いと思われるか安いと思われるかは別ですが、かかる経費の、本当はいただかないといけないお金の半分しかいただいていません。言い方がちょっとごめんなさい。半分しかという言い方がどうかはありますが。収入が町として5億円くらいで、実際は10億円かかっていることは、水を提供する

のに10億円かかるけど、料金は5億円ですよということです。そうすると、町のお金がなくなれば、かかる経費は変わらないので水道料金を上げるしかないですよという話になります。なので、町の運営をきちんとしないと、皆さんの生活の負担がどんどん増すということです。今、払っているお金で全てが賄えているわけではないです。ただ、町としては、町も努力しなきゃいけない。かかる経費の半分しかいただいてないなら、その差額は自分たちがきちんと努力しないと、どんどん町の運営は大変になるというのを、職員の中、役場の中で考えないといけいことです。そういう両面があって財政再建をと、まず言っています。

資料にいく前に、少し最近、感じることにについて話をさせてください。よくいろいろなところで農業の話が出ます。つくる方の方もおられると思いますし、買う方の方もおられると思います。米もむちゃくちゃ高いですし、野菜も販売価格は過去に例を見ないくらい高いです。道の駅も、いろいろな小売店も、販売価格は毎年の中で最高額ですと言いまけど、量が多いより単価が高くなっているんだと思います。これだけ米が高くて、野菜の値段も高ければ、もう少し意欲を持っていたいて、この春には米を増やそうとか、野菜をちょっとつくってみようとか、仕事の合間にもうちょっとと思われるといいんですが。実は、そんな声はほとんど聞かないです。それほどに非常に高齢化していたり、今までの疲弊が強すぎて、その意欲まで結びつかない。若しくは、勤めている人も精一杯なんだと思います。昔は少し、小遣い稼ぎとか。どういう表現をしていいかわからないですが、そういうことをされていた方も多いんだと思います。

道の駅もよくなるので、本当なら、少し多くつくってみようとか、山に行っても木の枝とか葉っぱも売れるので、そういうものを取ってきて売ってみようとか、何か加工品をつくってみようとか。意欲が、食欲なものをもっとあったと思うんですが、今そういう思いを持つ年代の方が年を取られてきたというのもあるし、若い人もそういう余裕がない。道の駅もよくなるし、今、チャンスは非常に大きいんだと思っています。そうすると、予算でどういう形にできるかどうか別ですが、少し皆さんの背中を押せるようなことができるといいかなと思っています。野菜つくってくださいと言って難しかったら、苗で配れば、種を配れば、ちょっとやってみようと思われるんだしたら、そういう仕組みがあってもいいかもしれない。それは、町がやるのか雲井の里さんか、道の駅さんがやられるのかというのもありますが、何かそういうことをしないと苦しくなっているかなというのを非常に感じています。

もう一つ、最近、急激に変わったわけではないですが、いろいろな会社の方とかいろいろな方と話をすることで、邑南町の中では非常に人手不足です。今ある事業所さん、特に医療福祉系を中心に人手不足です。それはそのまま皆さんの生活に影響していますし、賃金のアップにもつながらないので、その影響は特に若い世代にしわ寄せがいくので、非常に悪循環が起こっています。企業誘致すればという声もあります。江津とか、企業団地に、こんなにあってどうなるんだろうと思っていたら、徐々に埋まりつつあって、新しく団地をつくるような時代です。ただ邑南町の中で、そういうのが良いのかと思ったときに、今、ここで人がいなくて、地元の会社も事業所も人手が足りないのに、そういうのをつくればUターンIターンが進むと言われても、ちょっといいのかな？という思いがあるんです。ITとかインターネットでプログラムをつくるような人たちは、技術をもつ人たちがここに来て、自分たちが仕事をされるというのはいいいんだけど、なかなか難しいかなと思ったときに一方で、矢上高校が地元にあります。石見養護学校もあります。今までは、そこに何人

が入りました、定員を満たしました、県外からこれだけ来ました、お金をこれだけかけました。というのはあるんですが、その人たち県外の方は、ほぼほぼ全員、地元に戻られます。町外の方も帰られる。地元の方も進学で出られて、なかなか帰ってもらえない。と思えば、その人たちがもう少しこの町に残ってもらえる、関係を持って将来この町のために働いてもらえる、地域の担い手になるという仕組みをつくらないと、人手不足の根本も定住も、人口問題も解決しないと思っています。その仕組みに力を入れればよいなと。

すごい極論です。全国的に進学率が上がって大学に行きましょう、専門学校に行きましょうという風潮です。ただ子育てをするときに、この町の若い人、僕たちもそうですけど、今、3人、4人お子さんがおられる方はたくさんいますが、非常に負担です。それが当たり前と言われても負担なんだと思うんだけど。一方で、大学とかに行かなければ取れない資格なら別だけど、この町で働いて、この町で暮らしていきたいという思いがあれば、特別、大学や専門学校に行かなくても、高校を出てそのまま残ってもらって、それをしっかりサポートできる仕組みがあってもいいのかなと思っています。選択肢の一つとしてということです。出て行くとか、学校に進学するのが一番いいんだというばかりじゃないのかなと。高校はどうしても進学実績を見られて、いい高校とそうじゃない高校と分けられるけど、そういう時代でもなくなってきたのかなと思っています。あくまでも選択肢ですし、また、皆さんがそうじゃないよとか、そうだよとか、いろいろな声を聞きながら、これから予算化するとか、考え方の中でやっていければと思っています。ちょっと一方的にいろいろな話をしたんですが、せっかく資料をつくってきたので、資料の説明をさせていただきます。

表紙のところに町長への手紙と書いています。QRコードです。使える方と使えない方とおられるかもしれませんが、これを読み取っていただければ、皆さんの前でしゃべるのは恥ずかしかったりとか、時間がなくて言えなかったということを少しでも書いてもらって、スマホで送ることができます。名前やメールアドレスがなくてもいいので。12月の町の広報に町長への連絡方法ということで、FAXとか意見箱の案内をしたんですが、ちょっと目につきにくかったり、今の時代にFAXを使う時間でもなかったり。なかなか届かないので、今回はこういうことをしてみました。興味があったら使っていただければいいですし、そうじゃなかったら、普通に文章を書いてもらったり、口頭でもいいので、公民館でも役場でも直接言ってもらえればありがたいです。何らかの方法でまた、思いを伝えていただければと思います。

今後取り組んでいくことということで、ざーっと書いています。全部説明すれば、長くなりますし、最初に話をしたのが基本となって書いています。小中学校の統廃合も全体では進めていかなければいけないと思いますし、それに関わる部分、児童クラブや給食センターのことも考えないといけない時期になってきたかなと思います。

一方で、公共施設の統廃合で自治会館や斎場と書いていますが、それぞれに議論していただいて、使わなくなってくれば廃止、解体にしていきたいと思います。町の施設、どれもほぼ年数が経って古いものばかりなので整理していかなければいけないところもありますが、皆さんと話をして、もう使わないと言われた建物が民間企業とか他の使い道があれば、その可能性も探って、きちんと定住や産業振に使えるかどうか調べながら、統廃合の整理をしていければと思っています。

住宅についても、皆さんそれぞれ思いがあるかもしれませんが、町営住宅も古くなっている一方で、なかなか入居者がいない。所得の関係があるので。一方で、若い人は住む場所がない、宅地もないということもあります。そういう定住対策をきちんとしなければいけないかなと思っていますし、産業振興について基本は、まずは町内なので、さくらカード等を使って町内で買い物をしていただける仕組みの中でできないかなと思っています。

高校の話は先ほど言ったとおりです。

保健医療福祉のところで、日本一の子育て村の在り方と福祉施設の在り方と書いています。子育て村という看板に対して、どうなんだという意見もありますし、じゃあ、日本一とはどういう意味なんだと言われてもきちんと応えられないという今の状態があるので、もう一度、きちんと皆さんを議論しながら、こういうことをしてあげればいい、こういうことをしていくべきだという話をしてからやるべきかなと思いますし、福祉施設も、医療も、子どもの関係もそうですし、高齢者関係もそうですし、人手不足で維持するのが大変。

一方で、数字はあまり出していませんが、65歳以上の高齢者が増えているわけじゃないです。イメージ的にはどんどん増えているようなイメージがありますが、高齢化率45%でほとんど変わらないので、人口が減っている分だけは65歳以上の方の絶対数は減っています。長生きをされて健康寿命が延びてきているので、地域で活躍される方は多いですが、そういう意味では、福祉施設をどうしていくのかということを考えていかなければいけない時期かなと思っています。

先ほど言ったとおり、元気で長生きされる健康寿命が延びたのであれば、老人クラブだとか一人暮らしの世帯も非常に多いです。そういう方々のつながりや100歳大学と書いていますが、学びの場であるとか、つながりの場とか、どういう名称がいいかはあるんですが、公民館活動や生涯学習とも連携しながら、つながっていければいいと思っています。

その下には、人間ドックとかいろいろ書いていますが、皆さんが年齢的に65歳以上の方が多いいんだと思いますが。ごめんなさいね。元気に暮らせているのは、今までの生活習慣とか検診を受けてきたとか、そういう積み重ねなんだと思います。邑南町がいいのは、全般的に医療費が比較的安いんです。皆さんが払うのも少ないんだと思います。それは今までの検診や保健師さんの活動の成果だと思うんですが、町にとっても負担が少なくて良いことです。そういう良いことは、続けていきたいので。特に40代、50代の方は、なかなか検診を受けてもらえない。全体の実績が低いので、そういうところは少し向上させたいなというのと。

ちょっと話が言ったり来たりしますが、地域で担い手がいなかったりとか農業をする人がいないというような心配を受けるんですが、邑南町は、20代、30代で地域おこし協力隊という形で来ていただいて、ブドウをつくっていただく方も多々おられます。若い人がということで企業でも後継者が増えて。個人でなければきちんと健康診断があるんですが、個人事業主の方たちは、20代には検診案内がないです。抜けている部分についても、きちんとフォローしながら、皆さんが長生きできて、この町で健康に暮らせる仕組みをつくっていききたいと思っています。

ちょっと飛ばして最後ですが、一つは職員の副業と書いています。地域の手が足りない中で、もう少し邑南町の職員の方にも地域に関わってほしい、出向いてほしい、いろいろな思いがあります。皆さんが窓口にくると、今の役場の人、誰かよくわからんという感じがあるんだと思います。職員の方にとっても、なかなか親し

くしゃべれなかったり、行き違いがあったり、負担なことも多いです。そういうのもいろいろなことを兼ねて、今、地域に出るのは全然、何も問題はないですし、副業やアルバイト的なもの、お金をいただくということもきちんとルールに基づけば、今はやってもいい。たぶん昔からよかったんだと思うんですが、公務員は副業をしてはいけないわけじゃないです。そういう意味で、地域のことに関心を持ってもらいたいとか、職場でも、その結果、他の課の仕事にも関心を持っていただくということが皆さんのためにもなるし、個々の能力の向上にもなるんだと思います。少し前向きに進めていきたいと思っています。

最後ですが、定期的な住民の会の開催と書いています。こうやってたくさん来ていただきました。毎年一回、必ず公民館単位で町政座談会が開ければいいと思っています。それ以外にも、女性の会などが良いかどうかは別にして、地域だとか女性だとか、いろいろな形で皆さんが参加できる場、つながる場、意見を聞ける場ができればいいと思います。

こういう会を開催する意義は、今日はたぶん職員側と皆さんとで見て、日和の中なので知らない人はそうそういないかもしれないです。一方で、職員側や私たちから見て、絶対に皆さんの顔が一人ずつわかる自信はあまりないです。たまに、あの人誰だろうというのは矢上や中野ではあります。せっかく出てきていただいた会で、人材発掘という意味で、私たちにとってもありがたいです。これからいろいろなことをお願いするのに、いつも決まった人じゃなくて、違う人だとお願いしやすいですし、「この前会議に出ていたあの人に頼んでみんなさい」とか言われると、非常にありがたいということで、町に関わる人を増やしていきたい。いろいろな意見を聞くために関わりやつながりを増やしたいという意味では、まず第一歩として、こういう会を積極的に開催できればと思っています。

いろいろなところを飛ばしながら一方的にしゃべりました。足りなかった部分もあるかもしれませんが、意見交換や皆さんの質問の中で答えていければと思いますので、まず冒頭、私からのあいさつは以上とさせていただいて、教育長からまた皆さんに少し説明させてください。

２．教育長あいさつ

皆さん、改めましてこんばんは教育委員会の大橋でございます。日頃は、学校の活動であったり、公民館活動に積極的にご参加、ご支援いただいております。この場をお借りして、まずもってお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

私から一点、カラー刷りの資料を用意いたしました。全面カラー刷りの方を表にさせていただいて、少し説明させていただきたいと思います。これを全て説明すると時間が非常にかかりますので、今回はキーワードを中心にお話をしていきたいと思っています。このことは、令和８年度、来年一年かけて地域の皆さんと学校と共に協議をしていきながら、その土地に合ったものをつくり上げていって、実際には令和８年度から導入していきたいと思っています。

何かと言ったら、全面印刷の左上、コミュニティスクールという横文字が出てきていますが、このことについて少しご説明申し上げます。そのページの中ほどあたりに、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と四角囲いで書かれています。では、学校運営協議会とは一体何かというと、邑南町はもうすでに

学校、地域との関係性が良好だと思っております。学校の思いをしっかりと地域で汲んでいただいて、何とか実現してやろうというところでご協力いただいていると思っております。そういった関係性がある地域ですので、このコミュニティスクールはスムーズに移行できるのではないかと思っております。学校というのは、校長先生が替わられると雰囲気も変わって参ります。しかしながら、子どもの教育は普遍的であると言われております。それを安定して教育制度をつくりあげていく。つまり、このコミュニティスクールは今までご協力いただいたものを少し整理して制度化していくものであると思っております。また、現在、学校は以前が学校完結型の教育中心に行ってきております。今は、地域の皆さん、家庭と共に、協働の基に子どもたちを育てていくが本流でございます。そういったものをしっかりと制度化していこうということでございます。

その協議会の中で、今までと違うところでいくと、今度は右のページに移動していただいて、四角囲いの一番上です。今までは、校長先生が学校の考えを地域の皆さんにご理解いただいていたかと思いますが、この協議会では学校の考え、校長先生の考えをまずもって地域が承認していくという作業が初めて出て参ります。ということは、この協議会の中でそういった場面ができますので、しっかりと地域の思いを学校に伝えていきながら、同等の立場でウィンウィンの関係で子どもたちを育てていくという場面が初めて生まれてくるのではないかと考えておりますので、まずもってこの協議会、学校の考えをしっかりと共に考えて承認していくという作業でございます。

右の下の方になります。邑南町はどのようにこのコミュニティスクール、協議会に期待しているのかというところでございます。以前、地域学校であったり、300人委員会、1000人委員会等で、地域の思いをしっかりとお伝えいただいた場面がございます。その延長上にあるのが、この協議会であると思っております。いいかなと思っておりますので、ぜひ設立の際には、この協議会の中で学校と共に思いを共有していきながら進めていきたいと考えております。

最後になります。めくっていただきまして最後のページです。一般的にコミュニティスクールのメリットと四角囲みで二つあります。上の四角は学校から見たコミュニティスクールだと思っております。つまり、地域と共にある学校づくりを学校が中心で行っていたときのメリットが、そこに中ボツでいくつか示されております。一方、その下ですが、地域側にとって学校と共にということで、今度は学校を核とした地域づくりで、地域づくりの一役を担っていくのではないかとということで、メリットとして挙げさせていただいております。

邑南町としては、よく小学校単位でこの協議会というのを設立していくわけですが、中学校の場合は小学校6年間と中学校3年間の9年間でしっかりと接続していこうということで、この協議会につきましては、中学校区を中心に持ち上げていこうということで、9年間の出口の部分の皆さんと子どもの力を共有していきながら、高校に向けてあるいは、将来に向けて送り出していこうという体制を組めればと思っております。また一年かけてしっかりと協議させていただこうと思っておりますので、その節はいろいろ忌憚のないご意見をいただければと思っております。私の方からは以上でございます。ありがとうございました。

3．意見交換

- 大賀総務課長 それでは、意見交換の時間にさせていただきます。本日お越しいただきました皆さんからご意見ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきましたら、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただけたらと思います。それから、一回のご発言の時には、お一つずつ、ご意見ご質問をお願いしたいと思います。もう一つ、二つある場合には、また次の機会にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、どなたからでも構いません。よろしくお願いいたします。

- 一番先に言うようなレベルの質問じゃないんで、本当は最後頃に言いたかったんですが、なかなか手が挙がらないのですみません。この一年くらいずっと思っていたことなんですけど、今、ここに執行体制というのが、今日もらった資料の中にありまして、各課の名前ですね。名前が非常に長い課もあれば、言いにくい課もありますし、それから内容がイメージしにくい中で、昔がいいとか悪いじゃなくて、私もですが特に高齢者にとっては、町民課と聞くとイメージが湧くと思うんです。今、財務課になっていますが、財務にしても財政にしても、そういうふうに言われるとある程度イメージが湧くと思うんですけど、例えば、資産経営課とか、情報みらい創造課、私は一年かかってようやく言えるようになりました。どうだったかいな？と思いながら、もう一つの地域みらい課とごっちゃになって、何でみらいが二つもつかないといけないのかね？と。

それから、その意図が分からないんです。きちんと、こうだから一番いいだろう、この名前がというような根拠がある程度分かれば、まだイメージが湧いたかもしれないけど。そこのところを私たちが説明を聞かなかったのがいけなかったのか、言われなかったのか、そこは私も自信がないですけど、イメージが湧きにくいんです。そうするとやっぱり役場が遠くなるんです。水道課とか保健課とか、こういうのは何となく。

それで、医療福祉政策課って、最初に電話をしていたときに、邑南町役場医療福祉政策の〇〇ですと、丁寧に言われるんですが、何を言っておられるのか、なかなか聞き取りにくかったです。本当に丁寧に自分の名前も言われて。最初は職員さんもすごく言いにくそうでした。医療福祉政策課というのは、何となく気持ちかわかなんかと思いながら聞いていました。また、学びのまち総務課、学びのまち推進課、これもどっちが学校関係だったかな？どっちが前の生涯学習の方だったかな？どっちに電話すればいいかイメージが湧かないんです。これは、私だけかと思って、巷で聞いてみますけど、皆さん同じような意見なんです。私が聞いたところでは。こんなもの簡単ですぐに覚えられるわ、すぐわかるわという人はあまりおられなかったように思います。

なので、新しい町長さんがされたわけでもないし、前におられる方がこれをつくられたわけでもないと思うんですが、もし本当にこれでいいとしたならば、きちんとしたことを教えていただきたいし、できればわかりやすい課名にしてもらった方が、町長さんが言われるように住みよい町づくりのほんのちょっとしたのこともかもしれません。本当はもっと大きなことの住みよい町づくりだと思うんですが、でもその小さな一点にもこれはなるんじゃないかなと私は思いますので、その辺りのことを少し考えていただいたら嬉しいかなと思います。よろしくお願いいたします。

- 大屋町長 ありがとうございます。内容に指示があるみたいなのと、あとは最初

に言ってもらおうと次が出てくるので、その最初の一人が難しくて、こっちからしゃべってもらおうための準備しておけばよかったんだけど、ごめんなさい。ありがとうございます。

おっしゃるとおり、課がつくられたときに、議会の一般質問をしながら、結局最後に、役場が遠くなると言われたら、町としても思いはそこではないということで、いいことじゃないんだと思います。かっこ悪いかもしれんけど、言われたのは漢字二文字にして総務課とか保健課とか。言われてみればそうなんだと思います。就任して課長会議とかそういうところで話をしたのは、役場の組織を変えると、名前に始まって、事業に始まって、これを変えるための看板や封筒にお金がかかるので。

皆さんには本当に申し訳ないんですけど、もう2年我慢してください。それで、2年と言うのは、お金をかけるようにできるのが皆さんのためというが、まず職員配置を変えたり、仕事をきちんとさせてください。その中でちゃんと考えて、一回変えたら5年、10年は変えなくていいように。ここのところ、毎年、課の名前が変わっていきるので、その反省も含めてこの2年間でしっかり考えさせていただいてわかりやすいように、〇〇課と漢字二文字程度にできるように頑張ります。思いもすごくよくわかりますし、今までの努力がきちんと皆さんに伝わってなくて成果がでていない反省も含めて、きちんと準備をして、体制も整えて、行財政の仕事内容も見直しながら、皆さんのためになる名前と役場の仕組みにしますので、2年、すみません我慢していただければと思います。よろしくお願いします。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。ほかにはございませんでしょうか。
- 今の質問の付随で一言。議会をテレビで見させていただいております。その中でも、今のように総務課とか町民課とか、福祉課ならいいんですけど、今の議長さんにしても質問される方にしても詰まって、呼び方が大変に聞きづらいようなこともありますので、昔の総務課とか教育委員会とか、社会教育とか、福祉課とかいうふうにやってもらえれば、私たち高齢になったものが助かります。一つよろしくお願いします。以上です。
- 大屋町長 ありがとうございます。選挙のときもそうなんです、こうやって皆さんとお話しながら、ど真ん中においてよく慣れておれば、何とも思わないけど、言われてみれば、確かになと。あとは、道の白線とか駐車場の白線とか。昼間で天気が良ければ、何とも思わないけど、雨の降った夜とか不慣れなところに行くと、線一本で安心感が違うとか、いろいろあって、やっぱり皆さんに言われてみて、初めて気がついていちゃいけないんだけど。

12月議会でも、漆谷議員さんの日本一の子育て村の看板がくすんどると言われて。自分のものだ、皆さんと使うものだ、町のものだ、一つずつ見ればちゃんとわかるんだけど、つくってしまえばおしまいで使うわけでもないしという感じで。気がつかないところがたくさんあるので、細かいことでもいいので言っていただくと。また、皆さんの前で言っていただくと問題が共有できてすぐにできなくても何回か言っていただければ、副町長も教育長もおられるので、意識がついてくるので。細かいこと言っても無駄と思われるかもしれないですが、極力、どんなお話でもいいので伝えていただければ大変ありがたいです。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ほかの方、いかがでしょうか。

- 先ほど、ここにおられるのは65歳以上がほとんどだと思います。町政座談会をしていただくのはすごく結構です。先ほど言われたように未来と考えると、私たちの未来は、墓場をどうするかくらいの未来ですので、30代、40代、50代を踏まえた町政座談会、女性も然りですけど、そういうのを計画してもらって若い人の意見をもっともっと聞いていただけるような場所づくりをしていたければ嬉しいかなと思います。
- 大屋町長 皆さんに未来がないわけじゃないですが。先ほど言ったとおり100年なので、100歳までという中では、まだまだという思いがあります。
ただ一方で、最近そうやって言っていたのが、若い人の意見をということ、聞いてみたけど、実際、石見はここが最後ですけど、30代、40代の人にはどれくらい？と言われたら、本当に数える程度です。思ったより出てきて頂けないです。時間設定の問題とか、いろいろなことがあるんだと思いますが、そこは反省として準備させてください。
もう一点、今、総合振興計画という町の基本となる計画をつくり直しています。その中でも、公募委員さんの中でも自分も出るけど、若い人の意見を聞くべきだとか、18歳以下とか高校生の意見を聞くべきだということをたくさんいただいています。
極力こちらからお願いできる場面があれば、若い人とか子育て世代とか、ちょっと大変かもしれないけど、声をかけようと思っています。その声をかける前提として、やはり、こういう会とかいろいろな行事に関わっていただく中で、こちらから声がかかりやすいですし、人もわかりますし、また皆さんに相談したときに、あの人どうだ？と言っていたと、もっともっといいかなと思います。極力若い人の声を聞くために、お互いに協力できればと思います。ありがとうございます。
- 若い人は自分たちの好きなことをやる時にはすごく集まるんです。だからこういう会合のときには、なかなか出てこないのが現状ですので、これは長い目で見てもらって、例えば若い人が集まる所に行ってもらおうとか。日和でも30人くらい若い人がおられますので、全員が来られるとも限りませんけども、10人でも5人でも、もし来られたら、そういった意見を聞くようにしていただければ、まだまだこれから邑南町が変わっていくんじゃないかと思います。私たちはこうやって現職をリタイアして、ある程度、暇がありますからこうやって来れますが、若い人たちは平日には仕事をしていますので、来にくいのはわかるんですが、そのところを何とかして意見を聞いていただくような努力をしていただきたいと思います。
- 大屋町長 ありがとうございます。さっき言いました総合振興計画をつくって、できた後にアンケートというか、町として頑張っているつもりだけど、どう感じますかというのをやらなきゃいけないという話をして、できれば簡単でもいいので、毎年したい。やり取りがネットとかであれば良くて、PTAだとか保護者だとか、いろいろなところに声をかけて保護者の方にも参加してもらいたい。一番大事なのは、今日、皆さんにも出てきていただいていますし、アンケートとかやったときに、答えたり参加したら、少し町が変わったとか。自分たちに良いことがあったという繰り返しをしないと、出て行って意見を言ったけど何も変わらない。それじゃあ、離れていくので、そういった達成感とか、よくなるとか、参加すると良いんだよというのを実感してもらえように工夫できればなと思って

います。またいろいろなところで相談させていただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方もいかがでしょうか。
- 大釜谷の〇〇です。よろしくお願いいたします。ＩＰ電話のことなんですが、うちの周りが特にそうなのかもしれませんが、雷が入って非常に故障しやすいというか、３回も４回も故障して度々来てもらうようなことがあったので、最近そういう状況のときに部品がなかなか入らないというようなことで、修理が不可能な状況です。他の方にも聞いたんですが、うちも使っていないんだよと。せっかく無料で使えるものが使えていないという状況がありますので、今、どういう状況になっているか聞かせていただきたいと思います。
- 白須副町長 副町長の白須です。ありがとうございます。ＩＰ電話のご質問いただきました。このＩＰ電話のシステム整備をして、もう１０数年、経っておりまして、部品交換ができない。今あるものを再生産していないということで、かと言って、全部システムをやり替えるということまでは、今は財政的にも非常に難しいということもあって。まず、交換をしていこう、在庫や部品、それからＩＰのターミナルアダプターとか、あるものを交換していこうというように進めてきたんですが、いろいろ工夫して在庫も確保しながら進めてきたんですが、その維持も、今は非常に難しい状況です。
それで、去年の春から皆さん方にもご協力をいただきながら、ＩＰ電話自体をちょっと見直しいただけるところは、元のＮＴＴ回線に戻すとかできるところには、そういったことの協力をしてもらいたいと、今、お願いをしております。
根本的な解決になっていないんですが、今、そういう対応を取らざるを得ない状況でして。このシステム、ケーブルテレビと一体で、町として将来もしっかりと維持していかなければいけないと思いますので、その中で、このＩＰ電話の対応については協議して参りたいと思います。現状としては、そういう状況でございます。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- すみません。元ＮＴＴなんですけども、私が退職してから最近の情勢では、一般電話がＩＰに替わっています。ですから、東京の方へかけて２００円、３００円かかっていたものが、１０円でかかるとか。そういうシステムに今、取り替えをしているという情報がありますので、また、そういうところも調べていただいて、今のこの個別のＩＰ電話が必要かどうかというのは、ちょっと調べられた方がいいかなと思います。
- 白須副町長 はい、わかりました。いろいろな技術が日々、刻々と変わっていますので、そういった情報を入手しながら、今後の対応を検討したいと思っております。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- お願いいたします。いわみ温泉が今年の４月から再開されるということで非常に喜ばしいことで、私も喜んでいる者の一人です。その中で、周辺の頑張っておられる温泉地域をみますと、邑南町の一番滞在の期間、時間を設けるには、やはり風呂だと思えます。そこで、再開されることは非常に良かったなと思っております。直近で４月ということですので、この周辺地域を含めて、指定管理者を含めた情報がわかる範囲でお聞かせいただきたいと思いますと思っております。
- 白須副町長 今の香木の森、それから霧の湯の指定管理の現在の状況についてで

す。昨年、指定管理者の募集をしまして、何件か手を挙げられた業者がありまして、そこを審査して来年の4月から、ここにお任せしようという業者を決定しました。それが、江の川さくらライン観光機構です。そういう複数の事業者が組織をつくって、そこに決定させていただきました。その代表が桜江町の今井産業さんです。その他にも、有福温泉とか、美又温泉とか、そういったところに関係する事業者がその機構に参加されておられまして、そういった方が合同で経営するということになっております。その提案を事前にいただいておりまして、その提案の中には基本的には今まであった香木の森公園の機能とか、各施設の役割というのは引き継いでいきたいということとございました。ですから、レストランとか特産品の販売とか、そういったものは基本的には今の施設で行われるんじゃないかと思います。

ただ、人材不足ということもありますので、いろいろなことを工夫しながらやりたいという提案がありました。例えば、その中の一つでいいますと、料理については、そこで料理を提供するのと併せて、できれば加工品開発も実施していきたいと。レストランで調理するところで、加工品としてつくっておいて、それを提供する。それは地元の食材です。つくったものを加工品にしてそれをその施設で提供する。あるいは、特産品として販売する。そういったことに取り組みたいという提案がありました。これは4月からすぐというわけにはいかないと思いますが、その他にもいろいろな新しい提案をいただいておりまして、期待しているところでございます。

それから、温泉につきましても、薪ボイラーで湯を沸かすというシステムを新しく取り入れております。地域にある資源をしっかりと活用して、光熱費を落とすということももちろんですが、脱炭素などの動きにも対応した施設になるんじゃないかと非常に期待しておりますので、どうぞ皆さん楽しみに再オープンを待っていただければと思います。よろしくお願いします。

- 丁寧な説明ありがとうございました。振興の流入に一つ、町としてもよろしくお願いいたします。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方いかがでしょうか。はい、どうぞ。
- すみません。ちょっと、2、3お願いしたいんですが。まず議会の様子をテレビで見させてもらって、農政会議でお願いに上がったところ、早速、漆谷議員さんから人材確保の点で、外国人の技能実習生のことについて町でも取り組みをしていくということで回答をいただきましたので、ぜひお願いしたいと。

邑南町の中でも技能実習生を受け入れている会社が9つくらいあるんじゃないかと思います。大きいところと言えばワイテックさんとかありますし、農業関係で言えば、日和で坂根牧場さんもありますし、日貫の養豚場でも、確かあったと思います。各地でありまして、それぞれ受け入れるための管理団体というのがありますが、これは全て違います。同じところはないんです。その管理団体によって、管理料が違ってきます。例えば、最初は広島管理団体をお願いしていたときは、一人当たり3万円を毎月、支払わないといけなかったので。だけど基本的に管理団体は、毎月受け入れ団体へ訪問して、様子を見てきちんと調べて帰らなければいけないのが任務になっているんですけど、その広島の業者は、年に2回か3回くらいに来ればいいのかだったんです。今は出雲の管理団体に変えたら、ここはきちんと真面目に来る団体なんです。そういったところから始まって、いい加減なところもいっぱいあるんです。その管理団体の方針によってやり方も変

わってきたり、ちょっと法律に違反しているようなところもあったりするのです。

なかなか行政が絡んでやっている自治体というのはあまり聞いたことがないので、今は民間に任せているという実態だろうと思うんですが。そういう中でやっているところで、かなり問題も多いところがあるので、国もかなり手を入れて法律を今、変えて、去年変わったので、2年先で就労育成制度が変わりますので、これになると管理が厳しくなると聞いておりますので、今みたいないい加減なことにはなっていないだろうと思いますが。

町も少しその辺りを研究していただいて、町内のそういった団体が何力所あって、外国人が何人来ていて、休みのときにどんなことをしているか、そこまでの把握はちょっとできないと思うんですが。いろいろなところから来ますので、生活習慣も違います。考え方も違うところがあったりして、我々も気を付けておりますが、目の届かないときに他県に勤めている男性が遊びに来たりというようなことも今まであったので、その辺が管理できないのも難しいところなので、ちょっと関心を持っていただいて、いろいろ事件が起きてもいいけんの、そこは情報提供でお願いしたいと思います。

それで、中山間の直接支払いの合議が終わって、始まってから25年経つんですが、まさかここまで農地が最悪の状態になってくるとは僕自身も思っていなかったんですが。その当時、僕もまだ30歳過ぎだったんで、米代は安くなったけど、何とか維持できるんだろうと思っていたんですが、ところがどっこいで。私も今年で65歳になりますので、ほぼ他所の農地の維持は集落の中でも無理になってきているので、どうしたものかなという思いと。

それから、我がところの経営です。きのこ栽培を始める前に、副町長がおられますけど、あの当時補助事業の中でいっぱいお世話になって導入させていただいたんですけど、あれから29年目になるんです。施設もまだ十分使える状況なんですけど、後継者の問題が差し当たってあるわけで、うちの場合は、埼玉の方におりますので、とてもすぐに帰ってくるような状況にはないと。だけど、こっちも65歳になって、身体がもう持たないところに差し掛かるとるわけです。施設は辞めて空き状態にしておくのも、もったいないし、今まで29年間、自分なりに技術的に確立してきたものをゼロにしてしまうのも、もったいないですし。

ちょっとインターネットで調べたら、家族の事業継承もあって、他人ではないかなと思って見たら、他人も何かあるみたいで。例えば、うちに実習で入っていて、3年先にはそこの事業を継承する。それで、施設も全部移譲して与えてしまうというようなことを、今後やっていく状況が出てくるかなと思うわけです。町としてその辺の取り組みを、これから先、どんな考え方を持っておられるかなと。ちょっと取り組んでいただきたいような気もするし。

あとは、うちみたいなんじゃないくて、いっぱいああやって来ているので、それを集約化しながら、斐川平野みたいなことにはならないかもしれないんですが、農地の整備を再編して集約して他人の農地を継承してやってくれるような人を。例えばですが、アグサポ隊とか、地域おこし協力隊で来ておられますが、そういった方にマッチングしてもらって、3年ほどおったら帰るんじゃないくて、この町内で遊休農業施設があるし、機械整備とかは当初は何かしてやるからみたいな感じで、経営移譲していけば、荒れる農地も若干は進まないんかなという気もしますし。

今、ブドウの神紅の栽培とかピオーネとか、シャインマスカットとかあるんで

すが、ピオーネも20年近くなりますかね。そうなると井原で〇〇さんも、年齢も60歳近くなってくると思うんですが、家族で経営移譲すれば、それでつながるんですが、もしそれがなければまた遊休地になるということもあると思うので、将来的にそういった農家も増えてくるんじゃないかと思うので、他人に経営移譲とかいうのも、国の事業も活用しながら考えていただければいいかなと思っております。

それと、日和に食の学校があるんですが、今、いろいろと活用を考えておられると思うんですが。これは単純に私が思うことなんですが、さっき言った神紅のブドウとかあいう果物が何種類かあるので、町内でも県外、全国に諮ってもいいんですが、スイーツのレシピコンテストみたいなのがあって、その中の優秀作品を食の学校で発表してもらおうとか。プロでもアマでも参加してもらえれば、町内にプロのお菓子屋さんもおられるので、そこら辺の商品にもなれば、また違ってくるんじゃないかと思えますし、地域の農産品のPRにもつながっていくんじゃないかと思っています。

我々も椎茸でやっていますが、全国産別生産協会というのが、全国1500人くらいの会員がいて、毎年レシピコンテストを全国にPRしてやっていますが、毎年100件くらい応募があります。超簡単レシピで15分で電子レンジを使ってできる料理みたいな、ある程度の制約をつけてやっていますが、毎年それくらい集まってくるので、やっていけば、いろいろなアイデアが出るんじゃないかと思っています。

それから、今日は振興協会の〇〇会長さんは来ておらんのだけど。すみません、灯台もと暗しで。

日和にありました農協の店舗と給油所がビレッジブライドさんでやっていたいていましてけど、なかなか経営が成り立たないということで撤退されて以降、日和地域で買い物のできる場所と、問題は給油所がなくなってしまったということで。日和の地域で何とか級友所を運営できないかという協議もしましたが、試算したところ、とてもじゃないけど無理だと。値段もJAの井原給油所は安売りができるんだけど、あそこから日和に供給してもらう値段は、そういうわけにはいかないみたいで、安くやっても大丈夫ですよと言うけど、経営が成り立たないので、売れる量が出ていかないの、そうなると無理なので。今後、どうしたものかなというところがあるんだけど、答えは出ない中で、今、動いているんですが。

とりあえず農協の店舗を何とか活用できないかということで、あのまま空き部屋にしてもやれんので、日和の振興協議会で、この前、臨時総会を開いてもらって、地域で活用していこうということで、話をさせていただいたところです。それに付随して日和に公衆トイレがないので、JAの店舗にはちょうどトイレがついているので、それもあるから、何とか借り上げできるように動いて、前に進むことができたんですけど。今後はこの活用の仕方を地域でいろいろ考えていかないといけないし、家賃も払っていかないといけないので、その財源を確保するのも大変なところもあるので、これは地域で何とかしていこうということで動いています。

これは日和に地域に限らず、邑南町内でそういった地域も出てこうようかと思いますが、その対策ができるとすれば何か考えていただければと。財政が非常に厳しい中なので、それは厳しい話になるかもしれないですけど。

それから、これは中山間の7年度からの新しい説明会を今度やられる予定なんですが、日中は出られないし、18時があるのはあったんですが、その日程が合わないの、できればケーブルテレビで録画を撮っていただいて流してもらってそれが見られるような状態にしていただけないかと。最近は会議に出られないと、ズーム会議とかいろいろありはするんですが、ケーブルテレビで録画して見られるようにしていただいて、資料は役場のホームページからダウンロードできるようにしていただければ、仕事が終わって夜にでも見られるかなと思いますので、ちょっと検討してみただけいただければと思います。

- すみません、いっぱいいろんなことを言って。まだありますが、もう止めます。
- 大屋町長 簡単に答えさせてください。町長の立場なので、そうですね、やりますと言えばやるになっちゃうんだけど、なかなか予算のこともあって、思いはあるんだけど、できないことも多々あります。「そうですね、やらんといけませんね」とあちこちで言うておけば、副町長も教育長も総務課長もおられて、職員もおられるので、だれかが気にして、どこかで何かと引っかけてくれて、また皆さんからもこうすればいいよねと言っていたらと思うので、極力いろいろなところで言っています。そうすると実現しやすいかなと思うので。

問題の共有ということで、外国人の話は、町の総合振興計画をつくるときに雇用だとか教育だとか、そういう面でという話と、〇〇さんが前に言われたとおりの話をしています。ちょっと、お話中にスマホをいじってごめんなさい。そういうことの応援をお願いするのは、行政書士だったかなと思ってちょっと調べたんですが、そういう会とかも一緒になりながら、きちんと対応できればいいですし、県人会とか県外に出たときに、島根にも邑南町にも縁がないんだけど、いろいろなつてで来られている会社は聞きます。この外国人派遣の管理団体の方です。接点を持って、これからいろいろなところにつながりを持ちたいみたいな。今、非常に重要だし、いろいろな面で町も関わっていかないといけないしということで、今日もちょっとそういう話をしています。

自分の経営のお話もされた中で、タイミングもよくて、西部農林振興センターの所長さんが来られていろいろな話をされていて、後継者の話をしたときに、後継者がいないという話をされるけど、地域や兼業であったり、専業でやっている人からそういう話を聞かないですよという話をされていて、そういう対策はあんまりしてきていなくて、今日、初めて具体的に言われたんです。

辞めると技術がなくなるとか、せっかく培ってきたものがこの地域からなくなるといのは町としても損失なので、後継者をというところは、望まれるならしっかり応援したいなと思いますし。たぶん第三者移譲が一番いいのかな。研修生で来てもらってそのまま譲りますという。その人は、移譲も含めて、新規になれば支援も受けやすい、家族は新規とは言わないので。家族で補助があると言われると、家族で息子に譲っても新規扱いとして整備できますというのが出たんだと思います。そういう中でお声をいただいたので、残す為の努力として町も考えられればと思います。

中山間は、冒頭にも話をしたんですけど、これだけ米が高くて、空いた土地を見て、これを来年つくと儲かるじゃないかと思わないということは、意欲だとか年を取ったのかなと思うので、後押しという意味もありますし、そういうところでしていただける人たち、邑南町として農業をする人はいないんですが、神紅などでたくさん来ておられて、まだ地域に関わる余裕がないので、ブドウのハウス

だけやれば生活が成り立つ中で地域に関わる余裕が出れば、田んぼという方法もあるかなと思っています。

最初からそういう方を呼ぶというのも手だし、地域貢献という形で、地域おこし協力隊の方がいてもいいと思うんですが、今、すごく景気がよくて初任給も高くて給料も高い時代に来てもらえるかというものがあるので、またタイミングを見たいかなと思います。

最後のいろいろな説明会をケーブルテレビで録画して流せば、地域の人も皆見られれば、いい話だなと思いました。これはできないわけじゃないかなと。ちょっとお願いして工夫できればいいかなと思います。

スタンドの話とかいろいろと。あとは、食の学校は、すみません。ちょっと邑南町として今、あの建物をどうしていいか悩んでいる最中です。皆さんがどこまでご存じかわからないですが、建物しかないです。中に調理器具はないです。

○ そうなの？

- 大屋町長 そうなんです。調理器具もあれば、いろいろなことができるんだけど、ただ、〇〇さんが言われた食の学校というソフト面と建物の話は別なので。

今年、米の食味とかいろいろしたんですが、あそこにホットプレートを持って行ったり、炊飯器を持って行ったりするんだけど、それなら公民館でもできるので。食に関する加工品開発だとか、あそこを使わなくてもできるので、それは継続したいです。

日和の皆さんにご相談は、あの建物は町はお金をかけずに、調理器具を揃えるとかじゃなくて、食に関わることで皆さんが活用できる場があれば、ありがたいです。日和の中で店舗を含めて、これから先、店もなくなる中で。中心部と言えば中心部で、郵便局もあって人が寄るので、何かいいアイデアがいただければ非常にありがたいと思っています。使おうと思うとお金がかかるので、今のところあそこで何かするというのは難しいかなというのが今の現状です。そこも理解した上で、何か提案していただければと思っています。

公衆トイレの話があって、あちこちにトイレがあるけどきれいじゃなくてと、いっぱい意見をいただくので、何とかしないといけんかなという気はしています。ただ、公衆トイレは誰が管理するかで、様式にしてウォシュレットで水洗にして、きれいにしてくれてすごく明るくして使いやすくしたとしても、なかなか誰もいないところは、いろいろな問題が起こりやすいので維持管理していただける保証があるところから少しでも改善するのが一つの手かなと思っているので。

何か言うと、総務課長が考えてくれるかなと思いますが。そういうわけじゃなくて、たくさん要望をいただいて、皆さんの関心が高いところなので、公民館が休みの日でも外で使えるということは、また工夫していきたいと思いますし、瀧田議員がおられるけど、4月は選挙があるので、選挙期間中にあちこちまわるときに、公衆トイレって意外と大事なもので、どこにある、ここにある、あそこはきれいだ、汚いとか情報共有しますんで、町も頑張りたいですと言うと応援してもらえるかなと思います。声が小さくなってすみません。

- 白須副町長 J Aの店舗を使われることに対して何か支援をというところなんですけど、よくあるのが、直接支払い制度とか農地水ですとか、ああいった事務所に使って。

○ 農地水の事務所で借りるように、今、入ったので。

- 白須副町長 そうですね。そういった事務費に充ててもらおうという方法が考えら

れるかなと思います。

- 自販機が2台あるので、自販機の収入で。
- 大屋町長 3台にしたらもっと儲かりますね。
- いやいや。あれが結構あるので。まあ、かつかつじゃああるけど。
- 白須副長 地域の活性化協議会などで、国の事業なんかも導入して地域を盛り上げたいという活動に対しての補助事業もあるので、出羽もそれに取り組んでおられるんですが、また役場でも、そういう方向で進もうということになれば、何らかの人的な支援をさせてもらいますので、よろしくお願いします。
- 大屋町長 今、お話をいただいている。邑南町の中で小売店、お店はどんどん減っています。新しくいろいろなことをしようと思うのは、加工品だとか飲食店は多いんだけど、なぜお店やさんをしてもらえないのかなと思っています。

一方で、何を応援すればしてもらえるんだろうという思いがあって。町内の経済循環という中で、邑南町は減っている中でアベルさん、石見プラザさんは町内資本で、町内の人がされていて、逆にドラックストアのような、よくある全国チェーンのようなお店は入ってきていないです。そういう意味では、しっかり町内を支えたいというのと、外に買い物に行きづらくなってきたり、ネットとかも送料が高くなってきているので、必ずしも便利じゃなくなっています。町が災害時の備蓄とか考えれば、やはりお店があった方がいいと思っているので、何かこういうことで応援してもらえればやりやすいんだとか、いろいろな経験だとか、こういうものを売る店があるといいとか、いろいろな声を聞かせていただいて。

少しでも今のお店を維持したいですし、移動販売なり、何らかの形でサポートできればなど。皆さんの生活が維持できるようにとは思っています。なので、またいろいろなアドバイスとかご意見をいただければありがたいです。よろしくお願いします。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、ご意見やご質問を。はい、一番後ろの方お願いします。
- 後半になってですが、一点ほどです。これは町の所管ではないと思うんですが、日和川の河川に非常に葦が生えていて、私共はあと先しますので、気にかかるところでございます。日和川はご承知のとおり、一級河川でございますので、町の所管にはなりません、これは県の所管になると思います。取り次ぎをしていたたて、葦を刈り払っていただくと非常に景観がよくなると日頃から橋を行いますのに、気にかかるところでございます。

何が原因かわかりませんが、他の地区ではあまり川の中に葦がたくさん生えているというのはあまり見かけませんが、日和川は葦がたくさん生えております。こういったことで県の方へ現地を確認していただきまして、取り次ぎをしていただけたらありがたいと、こういうふうに感じているところです。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。日和だけの話ではないので、どこも河川改修をして急流をなだらかにすると土砂が堆積をして、そのうち葦が生えだして、川の幅が狭くなってきて、水が広い川の片一方に流れて底をあらってみたい。特に矢上は、堤防の下から泥を吸い出すと穴が空くとか、放っておくとそうなるので、またそういうところも見えていただいて、教えていただいて。刈るよりは土ごと取る方の事業を順番にしている、他ではあんまり生えているのを見ないんだけどというところは、たぶん土を取り終わったところが多々あるんだと思います。なので、またその辺りも建設課でお話をしてみますし、順番にということ

で。

最終的に土を取るの、土を捨てる場所が近くにあれば、一番、事業化しやすいという話も聞くので、またその辺も、地元の方に相談させていただくかもしれませんし、また場所を帰りにでも副町長にも伝えていただいて、特に心配な場所とか見せていただいて。どこもそうですが、きちんと対応できればと思っています。

国に対してもそういう予算を続けてきちんと確保してほしいという願いを、どこの市町もしているの、その予算の中で順番にできればと思います。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他には、ございませんか。はい、どうぞ。

○ すみません。日和では地域防災をつくっておりまして、各自治会では年に一回防災訓練をされています。日和全体で3年に1回やっているんですが、これまで3回やっております。たぶん、今年が3年目なので、また日和全体での防災訓練をやりたいと思います。毎回、ちょっと言っているんですが、他所から来られた方、住宅におられる方のお名前とか電話番号とか所在がわからない。防災訓練ですので、日和全体でやる時にその人たちを除けにするわけにはいきませんので、一応、手紙を入れるようにしています。だけど、一度も出てきていただいたことはありません。もし何かあったときには、その所在をある程度、把握しておかないと訓練ですので、まあいいやで来なかったで済みますけど、本当の災害があったときには、知らなかったでは済まないような気がするの。

ちょっと、今、新屋くんの顔を見たんですけど。防災士の研修会のときに個々の連絡をしていいですかというのを問い合わせして、また各地区防災の方へするという話なんですけど、その後、どうなっているかをお聞きしたいんですが。覚えてない？一応、そういうのを防災士の訓練のときに言われたと思って期待して待っていたんですが、何も返事がないので、ここで聞かせてもらおうかと思ったんですが。今後の取り組みで、本当にそういうのを考えていただいた方が。日和は数名程度の方ですが、矢上や中野では、かなりたくさん所在のわからない方がおられると思います。

今、日和でやっているのは、災害が起きた時点で各班長さんに、個々に安全確認の連絡をしてもらいます。ただ独居老人とか、そういうところは個人情報のために、民生委員さんにしていただいております。そういう格好で3年に1回の防災訓練、それにプラスいろいろなことをやっているんですが、どうしてもこの中日和は住宅を持っている関係で、そこの自治会長さんは困ったというのが、確かにありますので、個人情報には確かに大事ですが、災害のときにどうするかということ、これを少し考えてもらって。所在のわからない人、せめて公民館なり、開示せずにそういうときに使えるようにできるとか、そういうようなことを考えていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

●大屋町長 お話を災害時の個人情報の取り扱いなんだと思います。またスマホを見ておってごめんなさい。僕は、完全にいいと思ったら、災害時はいいみたいです。

ただ、訓練時はどうするかということですよ。いざ、災害が起こったときには、町から個人情報関係なく、ばーっと出して確認してくださいができるけど、訓練のときの取り扱いもありますよね。その辺も、総務課と確認をして訓練するときに案内を出すとか、個人情報の取扱いはどうしますかということで、訓練

の時でも無条件でやってよければいいですけど、それじゃあ訓練にならないかもしれないし。

災害時の個人情報の取り扱いについて、もう一度、整理してもらってきちんとお示しをして訓練のときにはどうするかも併せて皆さんに、同じ情報を共有して同じ認識であるように。個人情報だけ何でやったんだ、いや災害時は別ですよと、訓練の時にはこういう許可をもらっていますとか、本人の同意を得て訓練するとか、ちょっと工夫させてもらって整理しますので、またお知らせさせてください。主旨はそれでいいんですよ。

○ はい。

●大賀総務課長 では、今、町長が答えましたように〇〇さん、よろしくお願いします。

それでは、予定しておりました時間になりました。以上で閉会したいと思います。以上で閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつ申し上げます。

4．副町長あいさつ

大変、長時間いろいろご意見いただきましてありがとうございます。時間が限られておりましたので、まだ質問したいという方もいらっしゃるかと思います。冒頭に町長が申しましたこのQRコードを読み込んでいただくか、あるいは直接FAX等をいただくこともできますので、またゆっくりご意見等を頂戴したいと思います。

現在、来年度令和7年度の当初予算の編成作業を進めております。大屋町長初めての予算編成なんですけど、非常に厳しい中での予算編成となっております。例年、予算編成するときには、町長から来年の方針とか重点項目とかを示して、予算編成に取りかかるんですが、今年の方針は、財政再建ということで、なかなか思い切った取り組みはできない状況もございます。今まで行ってきた事務や事業の検証をして、見直すなり、廃止することになりますけど、町民の皆さんの事業活動とか、生活にも少なからず影響が出る可能性もございます。そういったところでは、しっかりと皆さんにこうした理由でこう変わるということをしっかりと説明させていただきたいと思っておりますので、ご理解をいただければと思います。また、その際に、いろいろなご意見を頂戴することになると思いますが、そういった意見は、また再来年の予算編成の参考とさせていただきますので、しっかりとご意見等をいただきますようによろしくお願いいたします。

また、中長期的には小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編等を進めております。これらにつきましても、皆さんと情報を共有しながら、一緒に協働の立場で取り組んで参りたいと思っておりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

最後になりますが、今日は非常にお出かけにくいところ、お仕事お疲れのところでお集まりいただきました。天候も崩れているようでございます。お帰りの際には交通安全に十分注意していただいて、事故のないように帰っていただきたいと思います。本日は長時間にわたりまして、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございます。簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。以上で、閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

町政座談会（阿須那地区）

日 時 令和6年1月28日（金）
18：30～20：00
場 所 阿須那公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋光宏です。こうやって町政座談会を開催しましたところ、本当に寒い中、たくさん集まっていただきまして、ありがとうございます。就任して何とか年度中に皆さんの意見を聞く場ということで、町政座談会をしたいと思います。大変申し訳ないんですが、1月15日から2月半ばの一番寒い時期に計画することになりました。できれば、時間は6時半くらいからして早いうちに終わればと思っていますが、8時と言えば、ひと昔前は、常会とか夏時間と冬時間があって、お寺のお通夜も8時からという時代もあったなと思います。そんなに遅い時間じゃないかなと思うんですが、そうは言いながら、こういう寒い時期ですので時間を守りながら、きちんとさせていただければと思っています。

町長に就任させていただきまして、何が変わったかということ、当たり前ですが、毎日役場に行きます。今までの生活と一番の違いは、季節感がないと言えないんですが、元々農業なので、この時期にそんなに朝早く起きて仕事をする事もないですし、日が暮ればおしまいなのが、今はやっと朝も少し早くなったし、夕方6時近くまでは明るくなってきて、春が近いというわけじゃないんですが、気持ち的にも意欲が持てるようになりました。仕事に意欲がなかったという意味ではなくて、生活の中のメリハリとして自分のペースがつかめつつあるところです。

もう一つは、一週間が非常に早いです。皆さんにとって、今日はまだ火曜日なのかでしょうが、予定をいっぱい入れていただいているので、役場に月曜日に行った時点で金曜日まで予定が全部つまっていますので、こなしていただくということではないんですが、非常に早く土日がきます。ただ、土曜日か日曜日は休むことができるので、どちらかと言うと、そこで自分のペースが保てるということをしています。

本当に雑談で申し訳ないんですが、皆さんがどこまで興味があるかは別ですが、うちは昔から春にきゅうりをつくっています。種まきをこの時期にしまして、2週間前に種まきをして、この土日で接ぎ木しました。もう息子が跡を継いでいますので、ちょっと手伝うか教えるだけなんですが、仕事も同じで、いろいろな職員の方がしていただいて、その間ずっと一緒にいるわけじゃないので、ちょっと経って結果を見るだけです。種を撒いて、一週間経ってまた行って、発芽しているのを見て、順調にいくかどうかで。ダメでも何とも言えないので。ただ、うちにとっても良かったなと思うのは、息子が独り立ちした感じで、25歳くらいですけど、きちんと考えてやるんだなと思いながら見ております。自分の中の趣味というわけじゃないんですが、そういう今までの生活があると、仕事のときのメリハリとか気分転換とか、いろいろなことによって意欲が湧くかなと思ってさせていただいております。

町政座談会で主題のところに、一番下にQRコードを付けています。なるべく皆さんに意見や思いを伝えてほしいということで、12月の町の広報に町長室へのFAXや意見箱など、支所にも入れる場所があるんだと思いますが。現実、ほとんど入らないです。FAXも来ないです。今の時代なので、QRコードでメールという方法も使ってみてください。かしこまってそういうことをしなくても、役場で親しい方もおられると思いますし、支所に行って伝えてもらってもいいですし、紙の裏にメモ書きをして渡せば、ちゃんと届きますので、かしこまらなくていいので、いろいろな思いがあればしっかり伝えていただければと思います。

ここ最近、町長の大きな仕事は、今年度事業の仕上げと来年度事業の準備をしています。職員の方にも同じお願いをしています。道の駅とか中学校とか、病院の大型事業、あとは霧の湯のこともあります。それら今年度に、やるべきことをやって4月を迎えないといけない。予算も今、しっかり立てないといけない、仕上げと次の準備をしています。

今日も財務課長がおられますが、昼から予算の査定をしました。初めてのことで、ペースが全くわからなくて、どのくらいの時間をかけていいのか、いつまでにどこまでいけばいいのか、わからないんですが、そこを管理してくださいねといいながらやっています。職員の方に申し訳ないところもあるんですが、ちょっとしつこいので、非常に深く聞いたり議論したり、時間をかけるところがあるんですが、皆が納得してそれで始まれば、あとはいくだけ、やるだけなので、ちょっとスタートはしっかり議論してお互いに理解して進めたいということで、時間をかけながらしています。

皆さんにとっても4月に年度が明ければ、新年度予算をしっかりと使えて動かせるように。新年度が始まったけど、ちょっと待ってくださいねということがないようにしたいと思って、今は職員の方も大変ですが、しっかり仕事をしてという話をしています。

今日のお話ですが、2枚目のところに今後取り組んでいくこととして長く書いています。この話に入る前に少し話をさせてください。今日も〇〇さんが伝言で、農業振興をしっかりとくれと言われましたとあったんですが、最近の悩みです。あちこちで話をすると、誰かが解決してくれるか、良い知恵を出してもらえるか、職員が考えていただけるかなと思って、いつも言うんですが、これだけ米が高くて、野菜が高くて、この夏には道の駅もよくなるというのに、米をたくさんつくろうとか、野菜をつくってみようとか、あそこの土地が荒れているけど、誰の土地だろうか、借りたいんだけどというような、前向きで意欲のある話がほとんど出てこないです。農業をすとか、野菜をつくとか、米をつくとか、もしくは山に行って何か採ってきて売るとか。そういう意味ではすごくチャンスなんだけど、その意欲が湧かないということは、皆さんが年を取られてきたのか、若い人も忙しくて、そんな余裕がないのか。何か、ちょっともったいないなと思っています。

そう思うと、行政の仕事として少し良い方法で後押しができれば、米をたくさんつくってみようとか、品種を変えてたくさん採れる品種にしようとか、野菜にしても、今きゅうりの話をしましたが、種からというのはなかなか難しいので、種を配るか、苗を配るかをして強制的にでも少しでもつくってもらって、それを直売所に出してもらおうとか、何かしないと、この良い波に乗れないかなという気はしています。それは何が一番いいのかはありますが、少し後押しができれば

という思いです。

次に財政の話です。厳しいですという話をします。それぞれの地域があるかもしれませんが、町の大型事業が続いています。人口も減るといっていただける方も多々あるので、あえて今まで丁寧に説明せずに来ました。その数字も出していません。

ただ一方で、財政が大変になると、町民の皆さんの生活はどうなるの？という話になります。大変だと言うんだけど、町が潰れるかということ、潰れるわけじゃないです。職員が減るのかということ、そういうこともなかなかできないです。全国で潰れたり、経営がダメになって新しい町ができましたということはないので、財政の実感がわかりにくい。じゃあどうすれば良くなるのか。今、何がダメなの？というのは、確かにわかりにくいと思います。

役場の中でも行財政改革ということで、副町長を中心にチームをつくって取り組んでいただこうと思います。ただ、職員さんの中でも同じ意見が出ます。そう思うと、町の予算は大きすぎてわかりにくい。ただ単純に、入るお金がわからないので。皆さんの家や自治会は入るお金がわかりやすいです。年々増えればいいですが、減ることもあります。自治会費だと、人が減れば減っていきます。ただ出る方は、人口に合わせてそうそう変わるわけじゃないと思います。電気代とかも高くなっています。

そう思うと、入るより出るが増えるので、単純に大変なんだけど、でもその大変は、国が面倒をみてくれるんじゃないの？という人もいます。地方交付税という仕組みがあるので、町にお金がなくて大変なら、国が出してくれれば良くて、皆さんに迷惑をかけることはないんじゃないかと思われるんですが。そこも計算の決まりがあって、邑南町だったら70億円くらいで運営できるようねという計算をされます。細かいことは別です。財務課長がおられるので、違うよと言われることがたまにあるんですが、うなずいておられますが。70億円くらいだと、皆さんからいただく税金が10億円あれば、国から60億円で、これでやってくださいということなので、それ以上にかかってくれば、当然、町がどこから出すのかということになります。そうは言いながら、中山間とかいろいろあるので、直接支払い制度とか、いろいろな事業に取り組むので、総額で言うと120億円とか130億円の事業費で予算になるんですけど。

ただ、入るのは決まっていますよということです。非常に財政が厳しくなると、水道代が上がるとか、ケーブルテレビのお金をもっといただきますというのだと、わかりやすいのかもしれませんが。何でそうなるのかというのがわかりにくいんだと思います。そこは、町が水道代もかかるお金の全額を皆さんからいただいているんです。かかる経費の半分しかいただいている。半分しかという言い方は、恩着せがましくてすみません。そういう仕組みなので、厳しければ水道代を上げる。その上げる理由が、電気代が上がったから、何かが上がるから上げるならわかりやすいけど、町の財政が厳しいので上げさせてくださいと言われても、よくわからないですよ。

払ったお金はどこに行くの？ということになるんだけど、仕組み上、100%皆さんからいただいているということです。それは、今までの経緯でそういう仕組みなんだけど、できればそれが維持できて、皆さんに大きく負担が出ないようにするためにも、今の財政をきちんと、人が減って収入が減る分、経費がかかるものも賄わなければいけないというのが第一で、始まりです。

その中で、道の駅とか中学校とか造っているけど、その借金返済の当てがあるわけじゃないです。言い方はすごく変ですが、車を買いました、ローンを組みました、月々何万円なら、返せるだろうな、この給料ならというくらいの感じです。そこで家を直さないといけないとか、いろいろなことがかかってきたら大変だというのが町も同じ状況です。借金によっては、ちゃんと返済の当てがあって借金するもの、中学校とか道の駅を建てるのに、当てがなくて建てたのかという意味ではないですが、一応、30年くらいの中でこれくらいなら返せていけるだろうとは見ていますが、それ以上に今、物価が高騰しているので大変だということです。最初に農業もちょっと後押ししたいと言ったところの、ちょっとのお金がないので、工夫するためにも行財政改革をしっかりと行かないといけないと思っています。

もう一つ、ちょっとだけ思う話です。町内には人が足りないと言われます。福祉法人だとか企業も人がいないです。定住対策で邑南町にもっと企業誘致した方がいいと言われる方もおられます。江津市は工業団地がだんだん埋まってきます。チャンスがないわけじゃないです。ただ、今、うちの町で本当に10人でも20人でも、そういう会社を呼んできて勤めてもらえる人がいるかという話になると、町内での取り合いなので、そこじゃないのかなと思います。

まずは、町内の企業や事業所をしっかり支えないといけないというのが始まりかと思います。その人を、じゃあ、どうやって確保するのかというと、子育て世代が子育ての負担を少し減らして勤めやすい環境をつくるのは大事かもしれないけど。もう一つは、やはりこの町の出身者をという思いが強いです。UターンやIターンと言う前に、矢上高校に今、羽須美からも通ってきていただいています。県外からも町外からも来ていただいて、町もたくさんお金をかけて、定員を満たす状況です。今まで矢上高校は定員を満たしています、良いですよと言っていたんですが、本当に良いのはその卒業生の皆さんが、この邑南町に残っていただく、帰っていただいてこの町を支えていただくことなんだと思います。

今まで、そこに力を入れていなかったんで、少し力を入れて、帰ってきやすい環境か、若しくは、若しくはです。ちょっとだけ思いです。さっきからちょっとだけ思いとか、高々言いにくい話なんですけど、町長の立場で言うと、それが決まりではないんですが、できればいいなと。皆さんの意見を聞いてというところですが、資格とか取るために、大学や専門学校に行かなければ取れないものはあるんだけど、そうじゃない中で、あえて無理してとか、皆が行くからとかで、高校を出てから大学とか専門学校に行く必要が本当にあるのかなという思いをちょっと持っています。

子育て村で子育てがしやすいということで、お子さんが多いお家もあります。2人とか3人、4人が全て大学や専門学校に行くというのは、親としても非常に大変です。皆、心の中では、この町に帰ってきてほしいと思うなら、高校を出てこの町で働いて暮らして、そこできちんとスキルアップできるとか、資格が取れるとか、学びができるというのを応援すれば、この町を出なくてもいいんじゃないかという思いもあります。出ることに力を入れすぎたので、その反省として。それが全てじゃないですが、そういう選択肢があってもいいのかなという思いも持っています。

それが前段で、皆さんの意見をなるべく聞いた方がいいと思うので。今後取り組んでいくというところを見てください。小中学校の統廃合とか、行財政改革と

か読んでもらえば、こういうことがしたいのかと何となく理解していただけたと思います。公共施設の統廃合はしたいんですが、一方で、なくすだけじゃなくて必要なくなった施設を他の使い道があれば。例えば、事業者さんが何かに使うとか、新たな使い道があるとか、そういう可能性はしっかり調査して調べて、使わなくなった施設はなくすのか、違う方法で使うのかというのを事前に考えられればいいなと思っています。

次の矢上高校はと書いているのは、先ほどちょっと話した意味も含めてです。保健医療福祉のところで書いていますが、子育て村ってどういうもの？と、常に言われるので、改めて皆さんで考えればいいと思いますし、福祉施設の在り方もそうです。数字をあまり出してこなかったのも、実態に誤解もある。私もそうでした。邑南町は65歳以上の人が増え続けているかと言うと、実は増えていないです。高齢化率は45%でほぼ一緒です。人口が減るということは、65歳以上の人も、年々少しずつ減っています。ただ、皆さんの健康寿命が長いので、地域で活躍していただける期間は長いです。福祉施設にとっては、利用者さんがたくさん常にいるかということ、競合する場面もでてきます。将来にわたって成り立つ仕組みと一緒に考えないといけないですし、最初に言ったとおり、子育て世代が、子育てをしながら、そういう施設の担い手でもあるということはセットで考えないといけないと思っています。

あとは、これは何？というの、また聞いてください。人間ドックとかも書いていますが、町の財政は見直しをしないといけないですが、邑南町にとって良いことは極力続けたいと思っています。その良いことの 하나가、一人当たりの医療費が低いということです。以外だと思われるかかわりかわからないですが、県内の中ではここ数年、低い方です。それは、病院や施設が近くにあるからなのか、保健師さんの活動によって皆さんが常に検診や健康を意識していただいているのか。その前に100歳大学とかも書きましたけど、老人クラブとかそういうつながりで皆さんが社会的に出る場面や、つながりが多いからなのかというものあります。

一方で、40歳代50歳代の検診の受診率はすごく低いです。併せて、制度の隙間で、20代の自営業の方が検診を受ける機会がありません。神紅やブドウの農業している若い人とか、それぞれの企業や後継者で自営業のところは、なかなかそういうチャンスがないので、そういうところも支えて、良いことに対しては、お金をかけて、その良さを続けていきたいと思っています。

最後にその他で、職員の副業と書いています。町職員の公務員の方は副業をしてはダメだと思っていましたが、制度に則って、ちゃんと許可を受ければ、今はしてもいいです。お金儲けの副業という意味もありますが、地域の中で必要とされる役割をしっかりとってほしい、地域に出てほしい、地域と関わってほしいという思いです。それはそのまま仕事でも、自分の課じゃない人の仕事にも関心を持ってもらえるし、興味を持ててもらえれば、個々のスキルアップにつながるかなと思っています。非常に職員も少なくなる、将来的にはそうなると思いますし、負担も増す中で、地域の中でも人が少なくお互いに助け合っていければという思いです。

もう一つは、こういう住民の会をしっかりと開催させていただければと思います。阿須那に來させていただいて、私自身、皆さんの顔が全て一人一人わかるわけじゃないです。皆さん同士はどうかと思いますが、どこの地区に行っても、最後

に終わった後に、あの人誰？と聞くことがあります。他の地区から来られることもありますし、普段の地域内の行事では見かけない人が出て来ていただけることもあります。町としては、意見を聞かせてほしいということと、これからいろいろな声を聞かせていただく、いろいろなお願いをしないといけないときに、新たな人材発掘を。いつも同じメンバーではいけませんし、昨日の日和の座談会でも、もっと若い人の声を聞かなきゃダメだよと言われたときに、そのきっかけとして、一人でもそういう方がおられれば、あの人に声をかけてみようかとか。皆さんに聞いたら、「だれあれは？」と言われたときに、「だれですか？」と聞いたら、「あのときの会議のときに来て、どこどこに座ったでしょう。」「ああ、あの人ね」ということにもなるので、そういう意味でも、こういう会は積極的に開催させていただければと思っています。

ちょっと一方的に長くお話しましたが、この後に教育長がお話をして、あとは皆さんの意見を聞きたいと思います。それで、意見交換会でどこでも思うんですが、最初の一人目が出ると、皆さん質問が続きます。本当に出ないときに、こちらからどう思いますかという問いを用意しておけばいいんですが、今日は何も用意していないので、教育長のお話が終わったら、どなたかが最初に質問をしていただければ助かります。ちょっと長くしゃべりましたが、まず私の話は以上にさせていただきます、代わりたいたと思います。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。本日はよろしくお願いいたします。教育委員会の大橋でございます。まずもって、学校を支えていただいております。また公民館活動にご協力をいただいております。改めましてお礼を申し上げたいと思います。

私からは一点です。お手元にカラー刷りの資料を用意させていただきました。それを開いていただいて、全面印刷してある方を上にしていただきたいと思います。左上に、青く塗った帯の部分にコミュニティスクールと書いています。これは、今、文部科学省が全国に向かって推奨しているものでございます。このことにつきましては、邑南町としては、来年度一年をかけて、制度設計させていただいたものについて、皆さんのご意見をいただきながら、より成熟したものをつくり上げて、令和8年度に実施していきたいというスケジュールで、今考えております。

コミュニティスクールというのは、どういうものかというのを少しお伝えさせていただきたいと思っております。左ページの中ほどに、コミュニティスクールとはと、四角で囲ったところがございます。学校運営協議会を導入した学校をいいますと表記しています。この学校運営協議会とは、一体何かというところですが、邑南町につきましては、学校と地域との関係性は他の市町と比べてはいけないんですが、私としては非常に良好な関係にあるのではないかと考えております。学校の思いや教育課程を地域の皆さんがしっかりと受け止めて、それを形にいただいております。そのことで、教育の効果が非常に上がっていくと。それが、子どもに還っていくという構図で現在も進めております。

そこに協議会ということで、何が違うのかと言ったら、今度は右ページの四角囲いで3つありますが、一番は、最初の四角囲みのところです。この協議会の大きなポイントは、学校の運営方針、校長先生の経営方針を、地域の皆さんが承認していくという新たな作業が出て参ります。これが協議会の一番のポイントになるかと

思います。先ほど言いましたように、今までは学校の思いを地域が受け止めてというように一方通行ではないですが、そういった矢印から、今度は承認をする作業が入りますので、地域と学校が対等な立場でそれぞれの思いを、ぶつけながら、子どもたちを育てていくという姿が生まれてくるのではないかと考えております。協議会としては、これが一番大きな役目になるのではないかと考えております。

右ページの一番下でございます。邑南町としてというところです。以前、地域学校でもご協力いただきました。また、300人委員会、1000人委員会と、少し期間が空きましたが、地域の思いを共有したものをつくらせていただきました。それをもって、学校と対等な立場でそれぞれが役割を分担して、いろいろな活動に取り組んでいっていただければと考えております。

裏面もご覧いただければと思います。左にそれぞれのメリットを示しました。上の四角囲みにつきましては、学校を始点に置いたときに、学校としては、こういった協議会をとおして、地域と共にある学校づくり、つまり今までは学校完結型の教育を展開して参りました。それを地域と共に開かれた教育課程とも言いますが、そういった体制を明確にしていくということ。その下の四角囲みですが、これは地域の方から見たときに、こういうメリットがあるだろうということを示しております。今度は学校を核とした地域づくりというようなところ。そういった双方にとってメリットがあるというのが、このコミュニティスクールです。今までのいろいろな協力体制を明確にした仕組みをコミュニティスクールとご理解いただければと考えております。

最後に邑南町としては、本来、全国的に見たときに各小中学校それぞれにこのコミュニティスクールをつくるという動きもございますけれども、邑南町の場合は、小学校中学校の義務教育の9年間を意識したいと。9年後にどんな子どもを目指していくのかというところで、この協議会はまず中学校区でつくっていききたい。9年後のイメージをしていただいて、小学校では、中学校ではというような仕組みを令和8年度に、しっかりとしたものをつくり上げていきたと考えております。1年かけて積み上げて参りますので、その際はいろいろまたご意見をいただきながら良いものをと考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上でございます。

3. 意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、意見交換を進めて参ります。本日、ご出席の皆さんからご意見ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、しばらくお待ちいただいて、ご意見ご質問をいただきたいと思います。一回のご発言において一つずつ、ご意見ご質問をお願いしたいと思います。お一人一回だけという意味ではございませんので、誤解のないようにお願いします。それでは、どなたからでも構いませんので、よろしくお願いいたします。
- 町長と副町長に事前に少しふれている課題なんです、阿須那地域でこの前に寄りをしたときに、令和6年の人口が577人で、10年経ったら396人で。今の577人で集落が35ありますので、18人くらいになります。そうすると、10年経ったら、11人平均になるんです。さらに10年経つと275人です。人数が8人くらいになるんです。しまいには、30年経ったら184人で、集落に3人から5人くらいしか、おらんようになる。

一つは、人口論を国もやりよるけど、人口論ではやれんのじゃないかといううな気がして、私もよう整理せんのだけど、幸せ度みたいなものを考えていく時期に入ったのかなということの一つ思っています。

実は、去年の５月頃に、地域みらい課から来んさって、地域コミュニティの報告書ができましたと、それに付随して地域運営組織の話をしんさって、いよいよ阿須那でもそれを考えちゃんさらんかなと、来んさったんです。９月頃にその話を地域の中で始めて、そうは言っても銭がいるからと相談しよったら、補助金があるから使ってみんさいと。１０月に補助金申請をして５０万円を３カ年使ってやりんさいということで、もらうことになったんです。実際、１１月の末から１２月にかけて、また今年になって地域運営組織の準備とか会議とかを、いよいよ始めたんです。始めたんですが、本当に地域運営組織は、組織が合体するうな話ですから、いるのかな？と思いながら手探りでやりよります。

その中で、二つほど研究、勉強をしていただきたいんですが。地域コミュニティの運営組織のペーパーの中に、９ページに絵柄が描いてあって、ここは文化プラザと昔は言いよったんですが、今は公民館ですね。このコミュニティの提言は、組織ができれば、そこへいろいろなものを委託しましょうと。その代わり生涯学習だけは担保して、教育委員会と連携してやっちゃんさいというようなことが書いてあるんです。それが一つ気にかかってあって。実際にはそうでなくて。

この間、安来市の比田地区からここへ来ちゃんさって、地域づくりの天皇賞をもらったと言いよりんさったんです。あそこは、条例を見ると、公民館条例と交流センター条例があって、上から見ると二つの条例があって、首長部局と教育委員会部局と。だけど施設を見ると、一つのところなんです。フロアにこちらから見れば公民館職員としての仕事、こちらから見れば地域振興の仕事をしとる組織なんです。それで、スタイルはこの邑南町とほぼ一緒なんです。館長がおって、職員が邑南町は正職員でしょう。あそこは、非常勤の任用付き職員のお二人。それで、館数は２４館ありますから。邑南町は事務方が、図書やらをしながら任期付き職員さんがやっておられますよね。うちの公民館の主事さんにしても職員さんもすごく有能なんです。有能なんです、縁から見れば貸館業務が強いというか、仕掛ける側が少ないです。

そういう意味で、交流センター条例が安来市にありますし、雲南にも別の組織があります。そういうものをちょっと研究しちゃんさらんかなというのが一つです。すぐにできる、できないは別にして、それをやらんと、せっかく地域運営組織ができて、そこを拠りどころにする拠点がないんですよね。それを私みたいな、年を取りよるものが、事務をしよってもまげにいかんのですよ。だから、そういう意味で、その辺りをちょっと研究してもらえればということと。

もう一つは、その中でさらに１３ページのところを見ると、地域づくり支援町内連絡会議の定期開催というのがあって、要するに地域包括ケアシステムとか、中山間地域のこととか、生涯学習とか、地域に関連する団体の部局がありますよね、自主防災も。その連絡会をやりましょうと書いてあって、それらがどういきよるのか、よくわからんのですが。前から、これがないから、串刺しになっらんから、何とか考えてちゃんさいと言いよったんだけど、いよいよ計画書に上がったんです。計画書に上がったんだけど、実際にそれが動きよるんかなと思ってね。その辺りをうまく起動させるように、再度、町内で音頭をとるのは、以前は前の日高副長がやりよっちゃったんです。今度は白須副町長あたりを頭に、それ

をまげにやっちゃんさいというのが一つです。二つとも答弁はいらんです。

もう一つは、えーひだカンパニーといのがあるんです。比田地区に。ここは法人なんです。そこに79名の会社員さんがあって、会社員さんの中の9人が市役所の職員なんです。あんまり不思議なんで、電話して聞いてみたら、さっき町長が言いんさった副業の申請をしているんです。会社員の副業で、大したもんだなと思って、事務を切り盛りしよるんかと思って聞いたら、あがあじゃなしに、土日身柄が空くから。うちでは、地域応援隊があるんです。応援隊なんかで、委託を受けて草刈りなんかを頼まれますよね。弁償をもらうんですよね。そのための申請をしてやっておられる。

それで、邑南町の今の副業は、たまたま自治会長になったから、申請しておくみたいなパワーのない申請なんです。そうではなくて、町長が言いんさった一歩踏み出した、地域とどう関わるかというような副業の在り方について、全国でどのくらいやりよるかというのを、ちょっと勉強してほしいんです。国の規定では、一日が3時間で、週は8時間だったかな。月で30日を超えてはならないという規定があって。そうであれば公務の邪魔にならないですから。そういうところはやっていますので、ぜひ、今の2点ほど、再度、庁内に持って帰ってもらって、研究してもらえればと思います。うちも地域運営組織を動かそうとするのにつけて、田村課長のところと連絡しながらやらなきゃいけないもので、ぜひお願いしたいと思います。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。大きなお話だけお返しします。今、公民館のエリアと、自治会というか地域運営組織と一緒にしたところは、同じような公民館とコミュニティセンターと、地域運営組織とが何が違うのかという。ちょっとすみません、私自身もその線引きは何かあるの？と思ったんですけど。生涯学習とか、教育委員会の法律に基づくか、そうじゃないかということで、それは、内部の話で、皆さんにとってはそこに線があろうが見えないので。同じ職員で、どこでこうやるのかというのは、課題としてあるので、十分承知しながら、一度整理させてください。横のつながりの連絡会も必要なことだと思いますので。

そういう中で、今、12月議会の一般質問をされておりますが、常に出ているのは、町長部局と教育委員会との連携はどうなのかということなので、来年は、町長部局と教育委員会との連絡の担当、教育委員会の方の町長部局との担当をつくれればと思っています。町長は一人なんですけど、よく教育委員会の方で町長の仕事ですと、どの町長の仕事ですか？というのが今の状態なので、少し整理させていただくと、そういう問題解決とか、連携もいいかなと思っています。

副業も今、全国的に新聞とかでそういう主張をする自治体が増えてきています。隠岐の島の海士町はちょっと仕組みが違うんだと思いますが、最初から副業するために職員が雇われて、町の勤務時間は例えば半分で、残りの半分は地域の仕事をしてくださいみたいな最初からそういう形もあるんだと思うんですが。年々、地域内のどこの課題も人手不足なので、その解決のために、一番身近な公務員がそこに入っていく。ということは、いいことだと思っています。

職員さんもおられて、いろいろ踏み込みにくいんだけど、人生が長くなってきて最初に言ったとおり、できれば学校を出たあとに早く帰ってきてほしい。65歳の定年まで勤めるのは非常に長いので、その中である程度、仕事をしながら、役場の仕事をして、自分でこの地域でこの仕事をとって独立すると、皆のためになるよねとか。こういうことをして自分は、老後とは言わないけど、人生の後半

を過ごしてみたいなという思いを持ってもらって、役場の方がどんどん独立して地域でというのが一番いいと思いますが、理想です。人生が長い中でそういう考え方も一つの在り方かなと思います。

それで幸せの話があって、今ちょうど邑南町の一番大事な総合振興計画をつくっています。今年度、準備をして来年度につくって、再来年くらいから10年間だと思うんですが。新しい考えで、今言われた、皆さんの満足度や幸せ度が測ればいいなと思っています。どうやってやるかは、ちょっと課題なんです。今ちょっと提案を受けているのは、町はこういうことに力を入れました。例えば、子育て支援のためにこういうことをしました。皆さんの生活を維持するためにお店の応援をしました。高齢者の生きがいの活動で、こういうことをしました。町は満点でやったつもりです。それに対して皆さんの満足度はどうですかと聞いて、そう思うとか、そうじゃないとかいろいろと出るんだと思います。そういう形でしてもいいかなと思っています。それは大変な事務なので、5年に一回は大きなアンケートをする。間は簡単な形で、今日みたいなQRコードを皆さんに配って、参加してくださいということで、スマホを使うくらいのことでできればいいかなと思っています。

若い人やいろいろな人に関わってほしいのは、毎年やってアンケートに答えていただいたら、それが町政に反映されて翌年の予算で変わってきたよねと。特に若い人が関わったら町が変わってきたよねと。じゃあ、もっと関わるのもっと良くなるかもしれないというような仕組みができれば、もっと若い人にも参加してもらえるかなと。

今、農林業センサスで、皆さんの手元に行っていると思います。もうほぼ終わったと思うんですが、あれはすごく面倒くさくて。普通に答えてそれでおしまいなんです。何をつくっています、これをつくっていますと一生懸命書くと、翌年から、例えばキャベツと書くと、今年の実績はどうでしたか、収量はいくらでしたかと追加の調査が来て、嫌だなと思っています。嫌だなと思うのは、それをやったら何かが変わって施策が変わってというならいいんだけど、中山間というのはわかりにくくて、ここまで苦労してアンケートに答えてもと、いつも思うので。皆さんに何かをお願いしたときに反応がよくわかれば一番いいかなと思います。すみません、ちょっと長く答えましたが、またお願いできればと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい。
- 大屋町長さん、大変ご苦労さんでございますが、一つしっかりと若い力で頑張って、町政を発展させていただきたいということを、まずもってお願いしたいと思います。

財政が厳しいということは、常々言われておりますけれども、もう何年か前にここで町政座談会があったときに、今年から大型投資を3つやるんだというお話が町長からございまして、私もそのときにいっぺんにこういうことをしても大丈夫かということを質問したんです。過疎債で7割出ると、あと3割だけ負担すれば大丈夫だから、十分できるというような財政の話が執行部からの話でした。それによって、これまでのサービスの問題とか、或いは、地域によって改善しなければいけないようなことを持ち越しにするようなことがあっては困るということを申し上げたんですが、そういうことはないというようなことでございました。そのような状況の中で、3大事業が興されたというようなことでございます。

現実には、これから確かに厳しくなるというのは、我々も十分わかっておりますけれども、これによって住民サービスが低下するようなこと、先ほど町長さんの取り組みについてお話がございましたが、結局、財政再建には、いろいろなものを統合するとか、縮小するとかというような項目が出ております。これは、十分に地域を考慮して。これまで特にこの地域は、学校の問題については大変歴史的なものもございますので、昭和35年の議会の議決があるわけです。そういうふうなことの項目も十分、熟読していただいて、慎重な検討をしていただきたいと思うことが、まず一つ。

もう一点、大変すみませんが、簡潔にお答えいただいて結構ですが、大型事業で邑智病院もほぼ完成で、中学校もそうですが、今、道の駅が大々的に想像を絶するような広大な敷地の中で建設されております。建設は町の方で実施されるんですが、今後の運営について、固定費といいますか、電気料とか今後起きるだろう修繕とか、どういう形態で運営されるのか、その辺が心配ですので、お聞かせ願えればと思っております。

やはり、霧の湯とかいこいの村の運営も、右左といろいろございまして、問題も提起されたという経緯もございますので、十分にそこも理解できる説明をできればよろしくお願いしたいと思っております。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。先ほど、借金の返すあてもなくとは言いましたが、ちゃんと交付税措置があって負担も少なく、やり繰りをしてサービスを続けることができますということできました。

ただ現実には、少しいろいろな事業をするのに時間がかかりすぎた。そこに人とお金をかけてきたので、若干、職員の中でも仕事量や人の配置とかの課題が出てきて、一般のサービスが難しくなっている。

今、一番大きいのは物価高騰です。その当時なかったことといえば、今、同じ工事をしようと思っても、2割、3割高くなっています。そのあたりのことをどうするかという中で、当然、住民サービスは低下させないように、そのために行財政改革をしなければいけないと思っております。ただ、町内の全ての施設は修繕が行き届いて、きちんとしておれば、統廃合とかそう考えなくてもいいんですが、やはり修繕と人口減を合わせれば、今は少しサービスを維持しながら。この町から何もかもなくなるんじゃないで、今までよりも若干遠くに行かなくても、この町にサービスが残るよう。

学校について具体的に言うと、数あわせでの統廃合はしませんと言っています。今日、数字は出していませんが、今、邑南町全体で小学生が一学年70人くらいです。保育所になると、全体で300人なので、一学年50人くらいです。今、毎年生まれるお子さんは、35人から40人くらいです。という話をしてしまうと、邑南町の中で、小学校が2つくらい、中学校は1校でいいよねとなってしまうので、そこは数字として定住対策とか、UターンとかIターンを増やして努力していきたいので。今ならそれぞれの地域でどういう教育ができればいいのかということで、学校を全て残す約束はできないけれども、全くそれぞれの地域でゼロにしないでいい可能性があるんじゃないかと思っています。

お話していただいたとおり、それぞれの地域の歴史があるので、それを踏まえながら、今、具体的には来年度、教育委員会には、教育としてどういう学びをするために、どういう学校がいいのかという話を。地域みらい課では、今、〇〇さんが言っておられたコミュニティとか地域の話をする課には、過去の歴史もあり

ますし、それぞれ地域の思いもあるので、学校の配置はどうすればいいのか、全く違う始点で考えてくださいと言っています。皆さんの思い全ては叶わないけれど、思いに近い形でできればいいかなと思っています。

道の駅の運営の話ですが、今まではどんぶり勘定という言い方は変ですね。受けていただいたところに施設を全部、売り上げとか収益でみてもらっていました。ただ、あそこは観光の案内所とか、皆さんが普通に使える公衆トイレがあります。それは行政側が負担すべきところなので、そういった掛かる経費はしっかり払いながら、その他の施設については、直売所、産直市として運営してもらえよう。経費も分けながら、分かりやすい中で、責任を明確化して進めたい。

それで一番の不安は、ものが集まるかどうかだと思います。人が減ってきて、面積が広がってということはあるんですが。面積が広がったのは、通路を広くしましょうとか、棚が2段、3段なのを平棚にということなので。

ここから先も、本音だ建前だといつも言っていますが、建前上は、ものがたくさんあるから道の駅を広くして大きくしたけど、ものが無いけれどどうするかと言われても困っちゃうので。まずは、生産で応援しながら、ものがつくれて出るようにしていきたいと思います。

霧の湯の運営についても指定管理料を払うものはしっかり払って、努力すべきところはしてもらいたい。一方で、その他で少し書きましたが、自治体連携ということで、いろいろなことで浜田市、江津市に似た施設があります。温泉、観光地もあります。うちの町だけで人を呼ぶんじゃないくて、2つの市も含めて協力しながら人を呼んだり、浜田市に來られたお客さんを少しでもという思いもあります。そういうことでしっかりサポートしたいですし、三江線の関係についても、今、それぞれのグループで一生懸命頑張っておられます。それを沿線の自治体で連携して応援できれば、お客さんを呼ぶにしても相乗効果で良くなるんじゃないかと思っています。

私自身が、それぞれの自治体のトップの方と面識があるわけじゃないので、しっかりお願いしに行って、思いを伝えて協力してもらえればと。今までの付き合いが少ない分だけ受け入れてもらえるかなと、勝手な思いもしています。飛び込めばいいのかなと思うので、そういうこともしながら、しっかりこの町の観光や事業を支えていければと思います。ありがとうございます。

●大賀総務課長 はい、どうぞ。

○ 冬の停電対策について、お願いと私の意見を申し述べたいと思います。先般の雪で宇都井地区が停電したんですが、県道しか町道しか、車や歩いていますと、電信柱にカズラは巻き付いているし、上の方にはスギや雑木が垂れ下がっている。いつ停電が起きてもおかしくない状況なんです。この寒いときに停電なんて、特に高齢の方は大変だと思うんです。ですから、町で音頭をとっていただいて、ちょっと雪が降ったから停電したというようなことのないようにしていきたい。

と言いますのも、3年くらい前に所有地で電線に木が倒れそうなところがあって、中電に話をしたんです。そうしたらすぐに来て、木を切って処理をしてくれました。そのときに中電の方がおっしゃるには、やってくれと言われるなら、いくらでもやらせていただきますと。今は結構、町内に住んでいる人が少なく所有者がわからない。今は民法が改正になって、3年以内に相続しないと国庫に帰属するような強い法律改正になっていますが、誰が持ち主はわからない。例え

切ったら、これはいくらだったとか何とか、えらい目をつけられて。そういう作業がなかなかできないんだということを中電の方がおっしゃっていましたので、ぜひ町で音頭をとって、森林組合、中電とよく協議されて、町民が困らないように、雪による停電対策をされるとありがたいと思います。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。冒頭に言わないといけなかったです。今日、お昼にケーブルテレビが止まりました。大変すみません。というように、どれも大変大事です。それは線が切れたわけじゃなくて、原因は違うんですけど、雪が降るたびに停電するのは困ると思います。町長にならせていただいて、中国電力の方もあいさつに来られてそういう話もしました。何かあってからでは大変なので、議会でも常に一般質問でそういう話が出ます。もう一度、役場の中でも整理させていただいて。

除雪もそうなんです、今のところ、雪とかで倒木があったら切ってくださいという仕事はあるんです。事前に危ないと思えば切れればいいと思うんですが、その対応だと思うので、少し整理させていただいて。倒れれば切りやすいけれど、倒れてないのに切ると文句を言われるということだと思うんです。それはまた地域の人とも相談しながら、思いが叶うように。私たちもそう思うので、何かあって後でかかるよりは、最初に天気の良いときに切った方が楽なので。思いはよくわかりますので、また建設課なり、役場の中で、中電さんも含めて、話をさせてください。ありがとうございました。

- もう一点よろしいですか。先ほど、道の駅の話も出ましたので、関連してお願いしたいと思います。阿須那地区を見渡しても田んぼの圃場整備はほとんどできているんです。私は今、西集落ですが、田んぼの圃場整備は完璧にできています。私の家の近辺は、昔、蚕を飼っていたものですから、畑が結構あるんです。私の所有の畑でも10枚くらいあるんです。畑の圃場整備は全くなされていないんです。だから、機械で畑の作業をするのも大変ですし、うちの集落に斉藤哲夫さんがいますので、国土交通大臣をやっていたんだけど、畑の圃場整備を少し国庫の補助でやってくれよという話をしたんですけどね。今は辞めて、公明党の幹事長をやっていますけど。

そういうことで、畑の圃場整備をちょっと県や国と掛け合って音頭をとっていただければ、ある程度の自己負担はします。そうすれば、道の駅にも野菜をね。私は去年までは広島市場に直接里芋とヤーコンとかつくって持って行っていたんです。道の駅も充実すれば、野菜の出荷もできるんじゃないかと思うんですけど。

その圃場整備と併せて、野猿対策を徹底してやってもらいたい。2、3日前にも雪が溶けて、普段はビニールハウスにネットを張ってサルが来ないようにしているんです。ネットを張っておくと、雪が降ってビニールハウスが倒れるので、ネットを外したら早速サルがきて、にんじん全部を引っこ抜いて、だいこんも引っこ抜いてかじって。そこらあたりにバラバラと撒いていて。道の駅に野菜を出荷しろ、農業振興をしろということであれば、いの一番に野猿対策をやっていただかないと、どうにもならんと。

それを野菜だけじゃなくて、そのうち通学する小学校の児童に手を出すようなことになっては、取り返しのつかないことになるんじゃないかと。町長の責任にもなるんじゃないかと、こう思いますよ。大けがでもしたとなったら、大変なことになるんじゃないかと。テレビでも大騒ぎしていますけど、岩国だとか、どこ

どこでサルに襲われたとか言っていますが。ぜひ、農業振興に併せて野猿対策をやって、地域住民の安全を守っていただきたいと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。本当に申し訳ないです。地域的に桑ノ木があって畑があってという中で、邑南町の中で畑に対する振興がすごく弱くて、農地水とかも、畑も対象になるけど、入れているかという、ほとんど水田だけできているんだと思います。

○ うちに入れていますよ。

- 大屋町長 入れていますか？

○ それと、さっき養蚕の話が出ましたが、私が10数枚畑を持っていると言いましたが、そのうち2、3枚は桑畑だったせいかもしれませんが、現状は畑で私も里芋をつくったり、ヤーコンをつくったりしてきているんですけど、資産台帳を見ますと、種目は山林になっているんです。畑なのになど。桑畑だったから山林でも通用したのかなと思っているんですが、そこは私は調べていませんが。

- 大屋町長 ありがとうございます。どちらにしても、今ちょっと課題なのは、土地に価値があると思われる方がほばいないので、土地を借りてもお金をつけてほしいという時代で、自己負担してもいいのと言われると少し考えやすく。今後、県ともそういう会議があるし、この前、農地については建設課長と少し話をしたんですが、土地改良について少し勉強させていただいて、必要なら県や国に要望する機会があるので、対応させてください。

サルに関しては、どこへ行っても地域性があって、井原でも同じ話をいただきました。つくったものへの被害もあるし、逆に言うと、羽須美の方は以前からずっとサルが出て、すごくノウハウがあってという思いもあるんですが、それを超えてきているということで、町も産業支援課に担当があられて、以前に比べたら、毎月、新聞を配られたりアンケートがあると思います。その方たちにも相談しながら、今までやってきたことと、今の現状と何を足せばいいかを少し勉強させてください。ありがとうございます。

- それで、その辺の農地の圃場整備がちゃんとできないと、サル対策もできないということであれば、この前も業者に相談したんですが、太陽光をやろうかなと。ただ、トランプが掘って掘って掘りまくれなんて言っていますからね、地球環境対策なんて関係ないと言っていますからね。そういうことで、電気代が低くなれば。太陽光をやってもある程度の年度で交換すると、コストがかかりますから、ばかばかしいなとも思っているんです。ぜひ、サル対策、農地の圃場整備をよろしくお願いします。

- 大屋町長 はい、ありがとうございます。

- 大賀総務課長 はい、ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- 町長さんの最初のあいさつにあった財政が厳しいところで、町民の皆さんにとってはわかりにくいということで、自分もちょっとわかりにくい点について質問させてください。

消防団の人数が、今減ってきているところで、年俸も上がってきているというところですが、積載車の管理で阿須那の分団で管理している積載車が、修理しないといけないということで、エアコンの修繕があるんです。町の財政が厳しく、予算がないのでというのが説明の主な内容で、積載車のエアコンの修理ができないとありました。町長さんが言われたように、財政が厳しいからエアコン修理ができないというのは、今の3大事業との結びつきじゃなく、なかなか説明がわか

りにくいというのと。ひどい説明になると、他の分団はエアコンがついていないから我慢しなさいというような。夏に農業されている町長さんなら、夏の炎天下の中、消防の積載車に乗ってあるくと、エアコンがない車で走ろうとすると、夏の暑さを思い出していただくと、エアコンのない車に乗って活動するということは大変厳しいということです。

自分なりに財政ということで、消防団で幽霊団員さんがおられて、年俸2万円とか、全然活動していない幽霊団員さんがおられるんです。町として条例の見直し等をされて、ただでさえ団員の確保は町として大変だと思いますが、年間に全く活動されていない方には、財政で積載車の修理とか他の支出が必要だから、年俸の支払いは、今年度活動していないのだから、我慢してくださいというような、何か施策をとってエアコンの修繕とかをしていただければと。財政が厳しいんだということでは、なかなか説明の理解が難しいというところがありましたので質問しました。回答をとということはないんですが、ちょっとそういう意見があったということをお願いします。

- 大屋町長 ありがとうございます。個別に聞くと何とかと思うんですが、ちょっとごめんなさい。たぶん新年度予算ができて、あらゆるところで予算が少なくなっていると思います。本当はそれに理由をつけないといけないんだけど、現場では財政が厳しいからじゃない？ということになるんだと思います。今そこは、横並びで持ったときに、まだエアコンもついていない車もあるので、ちょっとこちらは我慢してもらって、みんなエアコンが付けられる段階になったら直しますよという話だと思うんだけど。そこが全部飛んでいっちゃうので。

今、査定している中で、先ほども子どもの安全があったとおり、学校の統廃合をしようと思っても、先々無駄になるであっても、今の子どもたちの教育環境のためのものは維持しましょうと。例えばですが、ここはLEDか蛍光灯かわからないですが、LEDに変えますというのは、照明上、差し障りなければ延ばせるなら、延ばしてほしいとか。工夫しながらと思っています。

説明が足りなくて、非常に申し訳ないです。うちの町で、もう一つ難しいのが、おっしゃるとおり、団員さんであまり出て来られない方は辞めていただいて浮いたお金となるんですが、浮くかと言ったら、たぶん交付税の計算でくるので、浮くわけじゃないという、そこは努力がそのまま結びつかないというわかりにくさもあります。全てじゃないんですが、そういうところもあって。

思いはよくわかります。すみません。改めて説明の仕方として、財政は厳しいけど、やりくりの中で、皆さんにもちょっと我慢してほしいですとか。こういう経緯の中で今年はちょっとできませんとか。消防団の方もあちこちで不足していて、将来は大丈夫かと言われています。そういう意味では環境を整えていかなきゃいけないので、エアコンが壊れたままでいいのかというと、それだと、入り手がないよと言われちゃうので、そのタイミングとか工夫とかで。

決して財政が厳しいから全部止めますということではないので、先ほど言ったとおり、サービスを維持する中で、どのレベルでできるかということなので、丁寧に説明させていただきますので、ご理解いただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。
- すみません、〇〇です。消防団の絡みでちょっと。まずは、出初め式をなぜしなきゃいけないのかというところです。この前も出たんですが、外での実演がで

きない。体育館の中で話を聞くだけ。だったら別にいいんじゃないかと思うんじゃないですか。

それで、もしやらなきゃいけなかったら、春の火災予防運動が3月頃ですよ。その温かい時期にやればもっと集まったり、ギャラリーも多かったりするのかなと思ったり。それで偉い人も都合をつけやすいんじゃないかと思うんです。1月の頭に持ってくるから、今年は知事がおられました。皆さん代理で来られたり。たぶん答えは出ないと思うんですけど、一消防団の思いです。伝統的な出初め式かもしれないけど、伝統を崩すのもこれからの町に必要なのかなと思って言ってみました。

- 大屋町長 今年、役場で年末の仕事納めと年始の仕事始めをやめさせていただいて、仕事始めはちょっとずらしました。単純に、年末にあいさつをして、休みが明けてすぐにあいさつをするんだらうというくらいの気分でしたが、長く休みが取れていいとか、9連休した上にまだ休むのかなと思ったり。すみません、そういうことを表立って言うてはいけないんですけど、いろいろ話を聞いたら、学校がまだ始まっていないので、親としたら預ける場所がないので、仕事始めがなくて良かったです。あ、いろいろなことがあるんだと思いました。

出初め式もおっしゃるとおり、どういう意味があってどうなのかと。統率という意味では必要だけど、本当にそのときでいいのかと。元々、5日か6日にやっていたのをずらした経緯もあるので、またそういうところも工夫させてください。出初め式が負担で消防に入りたくないと言われたり、その日に飲み会があって若い者は出てこないと言われるのも嫌なので、その辺も工夫できればさせてください。絶対の約束ではないですが。はい、ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

- 私は今、産直で勤めさせていただいております〇〇と申します。冒頭に町長から、そういった農産物が集まるかどうか不安だというお話がありましたが、私自身としましては、やはり売れさえすれば、つくる人は増えていきます。儲かるものはどんどん搬入していくということで、その辺の心配はしておりません。昨年は産直市も市場価格の高騰とか、令和の米騒動があったということもありまして、売り上げも過去最高だったといった中で、今、運営させていただいております。

私が一番不安視しておるのは、どうやって邑南町に消費者を呼び込むかということです。今、ガソリンも高騰している中で、わざわざ野菜を当地区まで買いに来られるのは採算も合わないし、どうやってこの邑南町の魅力を発信していくかということで、町長が今後の邑南町の魅力をどういうふうに発信しようかと思っておられるかということがもしありましたら、教えていただければと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。〇〇さんがおられるので、適当なことを言っちゃいかんなと思いながら、すみません。集まらないとか、そういうわけじゃないという中で、生産量がというところですよ。おっしゃるとおり野菜の値段が高くて、広島のお店で買うよりはお得な来らるんですよ。そうじゃなくなったときにどうなのかということもあるし、広島の方に聞いても、やっぱり道の駅みずほは、ものがよくて安い。安くないといけませんかと聞いても、ちょっとでもと。やっぱり比較対象なんだと思います。そこで絶対的に来てもらえるかという中で、つながりというのはやはり大事なかなと思います。先ほど言ったとおり今、邑南町

は広島広域都市圏ということで、広島市と一緒にやっている。一方で、吸い取られる気分が少しあって、来てもらうという意味では、江津、浜田と協力してきてもらうということをしていないといけないと思っています。魅力があると言われましたが、人のつながりはやはり大事なんだと思います。ここの出身であるとか、関係があるとか。そういう意味では、ふるさと納税も含めてもう少し。

ここにはあまり書いていなかかもしれませんが、対象を遠方ではなくて広島であるとか、松江、出雲、そういうところからきちんと呼び込むことによって、邑南町に来ていただくというのが始まりかなと思っています。農産物の魅力もあるかもしれませんが、地域の魅力としてアピールする先が広島であるとか、山陰道がつながるので松江出雲、香木の森も含めて。

もう一つは、町内の呼び込むため、来た人に町内で周遊してもらうための観光計画のビジョンも策定ということでやっていきたいと思っています。当然、その中心は、道の駅おおなんの中でと思っていますので、またご協力いただければと思います。ありがとうございます。

- ちょうど明日にグランドオープンに向けた栽培講習ということで、今現在76名の方に参加申し込みいただいております。種苗から始まって研修をびっしりやりますので、ものは安心していただければと思います。

- 大屋町長 はい、ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

- 町長は、去年の3月に議員さんのときに石橋町長と財務課長を相手に経常収支比率の99.9%の議論をやっておられて、あの件が面白かったのは、100万で何かいい政策しようと思ったら、100万円をどこから削らないとできんでしょうかと。いわゆる経常収支比率が99.9じゃあ、何もできんという話をされましたよね。

さっき、副町長を中心に財政の見直しを今からやっていくと。中期財政計画が令和4年から10年のスパンで、去年の3月だったかな、提出されておるんです。その見直しをするということは、前倒しで見直しをするということだと思うんです。経常収支比率を見るとずっと横ばいで、99.9と書いてあります。たまたま今年が、93.6だったんですね。令和5年度実績が。それで、不思議なのが総予算がだんだん計画では少なくなるんだけど、人件費は令和中に上がっているよね。そういうこともひっくるめて、本気で見直さないといけんなというのが一つと。

もう一つは、事業仕分けみたいなものがあると思うんですよ。例で言いますと、前に石橋町長に電話したら、ごつう激怒されたんですが、非常勤特別職の顧問制度というのがありますよね。それで、4人おりんさる。一人だいたい60万円でやりよる。それで×4ですから、240万円。その成果がどうかというのを整理してほしいんです。頭ごなしに240万円がもったいないとは言いませんが、その4名の顧問の先生がどこまで邑南町に貢献しとりんさるかというのも事業仕分けの一つだと思うんです。

というのも、240万円をかけて職員を鍛えると、職員が勉強をして力をつけると邑南町の蓄積になるんです。研修制度を見ますと、職員の研修の報告を広報でやっておられるんですが、国とか県とか自治研の研修は置いてその他の研修というのがあるんです。あれに700数名が参加している。だけど職員212人で割り崩すと、3.5回しか行っとらんです。その240万円を使って、他流

試合というか。さっきの地域運営組織でもいいですし、産直市でもいいですから、どこかモデル的なところに一週間くらい行って、いろいろな勉強をしてきて、帰って報告するとか。その240万円の使い方はそういうところで使って、職員ストックしていくような方法もあるんだと思います。

これは一例ですけど、部門別の事業仕分けみたいなものが一つあるんじゃないかと思います。総務課長が総務課長の事業を評価すれば全部丸にしんさると思うんですよ。だから、総務課長の事業仕分けは、例えば地域みらい課の課長が評価するというような仕組みを中につくるとか。せっかく副町長が今から音頭をとってやられるし、選挙公約で財政再建がまずないと何もできんと言うとりんさるんだから、そこら辺をずっと意識的に動きよるようなシステムをつくらないと。いつまでにつくって5カ年計画でやりましょうというような流れでは、邑南町は持たないと思いますので。これは何の答えもありませんので、ぜひ家で研究しちゃんさいませ。よろしくお願いします。

- 大屋町長 では簡単に。役場で今、査定中です。見ながら正直な感想です。なかなかその課や担当者でこの事業を止めてもいいよねというのは難しいなと。さっきあったように、逆に直してほしいというのは言いやすいけどと思いました。今、私が査定中なので、私の段階でやってみて、これはちょっと難しいなと思えば第三者を入れるということも必要だと思いますが、まず今年は自分自身でちゃんとやれればと思っています。

顧問の話についても、議員の時代から経緯を知っていて、元々、町がいろいろなことをする、職員がいろいろなことをするとき、専門の顧問さんがおられて、外に頼まなくて一緒にやることによって計画がつかれる。ノウハウが残るとというのが始まりで、研修の一環だったかもしれないです。ただ現実にはわかりにくさがあるので、これは辞めようかなと思っています。顧問ということで、何を頼んだかわかりにくいよりは、アドバイザー契約のような形で、町としてこういう人たちに頼めますよという環境をつくっていて、職員が困ったりしたときは、この専門はこの人に聞こうというやり方もあるかなと思っています。ちょっと初期の思いと結果が違ったものはきちんと。それは議員をさせていただいていたので、過去の経緯がわかるので、最初の予算を立てたときの説明と思いが違えば、それは私の責任で変えていってもいいかなと思っています。

経常収支比率が99.9でいろいろ言われたけど、実績は93くらいじゃないかと言われるのは、自治会とか団体と一緒に、予算を組むときは入ると出るが一緒なので。ただ決算すると100%のことはないので、電気代も10万円と思っていたら9万いくらかのところを、予算としては10万円としてつけると実績では余るというのが、最後に経常収支比率が実績より低いのでというのは当たり前なので。予算を立てにくい状況ですよということで、皆さんの理解を得て進めていければと思います。予算のときで95%であっても、100億円があれば5億円は何か皆さんのために使えるということなので。99.9は100億円あっても、1千万ないということなので。そういう意味では、ちょっと工夫してそういうのが一つの目標でもいいかもしれません。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございました。他の方、いかがでしょうか。

はい、どうぞ。

- すみません、これもどうでもいい話かもしれませんが、レジュメの裏を見てほしいんですけど。執行体制、各課の名前が書いてあります。最近できた名前が長

いんですよね。それで、これ自己紹介したりするのに、全部これ住民に対しても、医療福祉政策課長の坂本ですとかって言っているのかなと思って。もっと町民に寄り添うなら、言いやすい名前とか、覚えやすい名前の方がいいんじゃないかと思うんです。特に、2、3年前にできた学びのまち推進課とか、これは事務分掌も変えたみたいですけど、その反省や振り返りはどうだったかもあるので、ちょっと聞いてみたいんですけど。

- 大屋町長 たくさんそういうご意見をいただきます。言っても些細なことだと思われることでも伝えていただくと、皆さんの声だということであれば、変えないといけないと思うので、極力そういうことも伝えていただけるとありがたいです。

今、課長会議等で話をしているのは、組織としては2年間はそのままさせていただきますというお願いをしています。2年間はこの名前で申し訳ないですが許してください。人の配置を変えるのは、今に合わせて変えていかなきゃいけないけど、名前を変えちゃうと、印刷物から何からいろいろお金がかかって、やってみただけど、ああやっぱりというわけにはいかないので、2年間考えさせていただいて、きちんとわかりやすく。

それで、いろいろなところから言われたのは、漢字二文字にしてくださいとも言われました。そうかなとも思います。総務課とか、課長にしても総務課長くらいが言いやすいかなとも思います。あとは中身がわかって。元々、町が思ったイメージと実際に皆さんが受け取るのが、わかりにくい、親しみにくい、縁が遠くなってしまうというのは本末転倒なので、名前も含めて事務分掌も含めて2年間かけてしっかり話し合いをさせてもらった上で、変えさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。その他は、ございませんでしょうか。それでは、ないようでございます。予定をしておりました時間にまもなく閉会になります。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつをお願いします。

4. 副町長あいさつ

副町長に白須です。本日は長時間にわたり、様々なご意見をいただきました。ありがとうございます。時間が限られておりましたので、まだまだ質問したい方もいらっしゃるかと思います。冒頭に町長からありました、このQRコードを読み込んでご意見をいただいたり、それからお知り合いの職員にお伝えいただいても結構ですので、ご質問なりいただきたいと思います。

話の中にもありましたが、現在、令和7年度の予算編成作業中です。大屋町長が就任されて初めての予算編成となっておりますが、例年、予算編成をするときには、町長から来年の重点項目とか、予算編成の基本方針を示されます。この度は、財政改善ということで、それ自体が予算の編成方針、あるいは重点項目となっている状況でございます。各課でいろいろ検討されて、今やっている事業の検証等を行いまして、その結果を今、町長が査定しているところでございます。その内容によりまして、少なからず、皆さんの生活とか、事業活動に影響を及ぼすこともあるかと思っています。

しかしながら、今日も意見がありましたが、財政が厳しいからできないという説明ではなくて、こういう理由でこうなるんだということをしっかりと、その際には説明させていただきますので。当然、皆さんからいろいろなご意見もあると思います。

すので、しっかりとご意見をいただきたいと思います。その次の年の予算編成の参考にさせていただきますので、よろしくお願いします。

これから中長期的に考えてみますと、やはり小中学校の在り方とか、地域コミュニティの在り方、そういったことも皆さんと一緒に進めなければならないと考えております。しっかりと情報を皆さんと共有した上で、皆さんと協働してそういった取り組みを進めて参りたいと思いますので、ぜひ、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日は、本当に寒い中、夜にかけてお集まりいただきましてありがとうございます。お帰りの際には、交通安全に十分気を付けていただいて、事故のないように帰っていただきたいと思います。簡単ではございますが、閉会にあたりましてのあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。以上をもちまして、閉会といたします。気をつけてお帰りください。

町政座談会（口羽地区）

日 時 令和 6 年 1 月 2 9 日（水）
1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 0 0
場 所 口羽公民館

1 . 町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町長の大屋光宏です。町政座談会を開催しましたところ、こうやって、本当に寒い時期、暗い時間帯にお出かけいただきまして、大変ありがとうございます。町長にならせていただいて、まずは皆さんの声を聞かせていただく場面をしっかりとつくりたいですということで、町政座談会を計画しました。ただ、本当に申し訳ないんですが、時期がこういう寒い時期になったということと、町の立場から、今、予算の査定中なので、来年しますと言えるわけでもないし、皆さんからお話を受けて、じゃあ実行しますというわけにもいかないという非常に難しい時期になりましたが、こうやってたくさん来ていただきまして、大変ありがとうございます。

町長になって、2ヶ月、3ヶ月経つ中で、実は公務という形で羽須美に来ることはほとんどないです。本当なら、石見に役場があって、瑞穂支所があって、羽須美支所があるので、定期的に訪れていろいろ話を聞かせていただいたり、行き来する中で、この地域の雰囲気を感じなければいけないんですが、羽須美支所に来させていただいたのは、年明けの仕事始めが初めてでした。

町長になって思うのは、自分で何かできるわけじゃない。行きたいと言っただけじゃいいわけですが、予定が詰まっていてできない。行き来も車に乗せていただけるので、自分で運転するのと違って景色を見ながら考えながら感じながらでもない。それで、いろいろな場で話をしたり、いろいろなことをしますが、ほぼ蓄えた知識を消耗するだけであって、新しいことを感じたり、思ったりする場面が非常に少なく。私にとっても町政座談会を、こういう形で開催させていただいて、この後、できれば1時間くらい意見交換をしたいと思います。いろいろな思いを伝えていただく場面は非常にありがたいと思っております。

今日、臨時議会を開いたわけですが、議員の方からいろいろ質問を受けながら、今までは議員で、この度、町長にならせていただいて思ったのは、議員の方はやっぱりすごい。議会に出ておられているところは、そこだけでも役割かもしれないけど、それまでのところで日常生活があって、皆さんの声を聞いて、いろいろな思いをもって、皆さんの代表として質問をしていただいています。実は今日、十分答えられたかという、今日、中村議員さんが来られておるんですが、道の駅みずほの造成工事の工期の延長をお願いしました。建物全体がどうなるのか、予算がどうなるのか、資料を後から出してくださいと言われました。本当なら、全然わからんし、コロコロ変わってくるし把握できんのだけど、資料を出してもらわんと分からんわと言われたら、どうしようかと思いました。

平野議員さんも、いつ本体ができるの？開業がいつなの？と聞かれました。質問としたら、造成工事の工期の延長なので直接関係はないのではと議長が判断されたんですが、造成工事の工期が延びたら、建物にどういう影響があるのか、全体の話をしてくれないと判断がつかないと言われたらおしまいだと思ったんですけど、そこ

は後でと優しく言っていたいたんです。

非常に足りない部分がある中で、やはり町長はどちらかと言うと、視野が狭くなる一方です。いろいろな思いが消耗していくばかりで、本当に町民の皆さんに寄り添えているかという、微妙なところがあるのが事実だと思います。それを補うのが、議員の方なので、やはり議会の委員さんがしっかりしてくると、それは町民の皆さんのためであり、町のためであり、そういう意味で町と議会が両輪であって、切磋琢磨してというところは、そこなんだなと思いました。

議員の方にチェックしていただく役割というのは、益々これからも高くなるし、そこが一番大事になるので。今、対年度予算の査定をさせてもらっています。財政が厳しい中で、どうするかと思ったときに、議員をしていたから分かるという。いろいろな課の仕事を見てきたので。

例えば、出された課がこれが一番いいと思っているこの仕事を違う課がやった方が効率的じゃない？とか、そういうのもあるんだと思います。それは、幅広く見てきた経験かなと思いますが、一方で予算チェックという、議員さんの強みは予算書を全部くまなく見るから、もっとこうできると、広く視野が持てるということなんだと思います。そういう意味で、ますますこれから厳しい中で議会とのやりとりの中で、しっかりと議員の方は皆さんの代表であってというのを尊重しながらお互いに、いい町づくりができればと思っています。

12月議会が過ぎまして、今、ケーブルテレビでもやっています。以外と堂々と答えさせていただいた時と、これは困ったなという質問があります。町政座談会を進めていく中でも同じなんです、財政が厳しいです。再建しますという話をします。今回も、今後取り組んでいきたいことという話をしようと思うんですが、財政がどれだけ厳しいのか、このままだとどうなるのかという数字は出していないです。何となく雰囲気、皆さんにご理解いただいているかなと思います。大型投資も続くし、人口も減ってくれば、それは大変だなと。ただ具体的に何が大変で、どうするつもりなの？と言われると、確かにわかりやすい説明は難しいなと思っています。決して、町が潰れるわけではないです。何かしなかったらどうなるのかと言われても、何とかする気が皆さんしているし、職員もそうだと思います。

本当にどうなるのかと言うと、皆さんにいろいろお願いしていることをもっとお願いしなければいけなくなる。例えば、財政が厳しくなるので、水道代が上がりますと言うと理解していただけますか？資材費が高くなったり、人件費は町なので。原料費が高くなった、維持費が高くなった、物価高なのでその分だけお願いしますなら、理解していただけるんだと思います。お金がないので、値上げしますって何か変ですよ。そこが分かりにくさかなと思っています。水道で言うと、皆さんからいただいている水道代は企業であれば、当然、利益が出るお金、かかった経費プラス利益分をもらうのが本来ですが、町はかかった経費の半分程度しかいただけていないです。その差額は町が負担しています。そうすると、その差額分を町が負担できなくなれば、かかる経費に近い分だけくださいますので、上がります。やはり財政が厳しくなると、必然的に上がる仕組みです。今までの住民サービスが、お金をもらわなければできなくなる。例えば、こういう施設を使うのに、地域の方はほぼ無料だと思います。当たり前になっていますが、電気代は常に上がります。じゃあ、今まで無料だったものを同じように使っていただくためには、どうするのか、誰が負担をするのかという話です。

極力、そういうサービスを下げたくなければ、やり繰りするしかないです。皆さ

んのお家と一緒にです。入るものは決まっている中で、出るものが増えれば、やり繰りされるんだと思います。今、財政の予算の査定をして思ったのは、町は今までそういう経験が少なくてやり繰りをする。町の中も誰かがやってくれていた仕事です。職員の中でやり繰りをしてというのは難しいですし、今までしていたことを止めますという判断もつかない。これは町長の責任として、職員の方は必要だと思っていることであっても、これは今はやめましょうとか、変えましょうというのをしっかり伝えながら、やり繰りをしていかなければいけない。その経験の積み重ねでやり繰りしながら何とかするから、サービスが続けられるのかなと思っています。

今、きちんとしなければ、そのやり繰りが続かない。先々で大型投資の借金の返済も始まる。今、どこの自治体も悩ましい話で、今日も福井県議に来ていただいて、県の状況を話していただきました。事業をされている方には、直接、関わる話かもしれませんが、公共事業で、人件費は上がる。資材費も上がる。2割、3割が上がっているということは、予算を2割、3割増やさないと、企業の利益もできる仕事量も一緒にならない時代になってきている。県はそこを応援するために積極的に予算を上げます、その姿勢ですと言われました。ものすごくいいことなんですが、当然、ものによっては町の負担が半分であるとか、10分の1とかつきます。町負担も増えるわけです。そうすると、せっかくなのでいただいた予算をしっかりと使おうと思うと、それに町もついて行かないといけないということは、もっとやり繰りをして財源を捻出して、町負担を満たさないと、皆さんのためにならない。非常に課題が多くなっています。

地域的にも町全体がそうですが、人口が減るのは皆さん分かっていただいています。ただ世帯数はあまり減っていないくて、若い人が家を建てていただくのはありがたいですが、一人暮らしの方も増えてくる中で、住民サービスを一軒で2人、3人おられた時代から、一軒、一軒をまわらないと、住民サービスに負担も増えてきて、じゃあどうするんですかということです。本当に職員の方も含めて工夫して努力して、その積み重ねがないと続かない状況です。それは私たちの責任としてしっかり取り組まなきゃいけないと思っています。

1月の仕事始めで初めてここに来てさせていただいて、町全体もそうですが、職員の方にお話をしたのは、町として行政として、1、2、3月は今年度事業の仕上げです。今年度のことをしっかりしましょう。そして。来年度予算も、併せて大変だけれどしっかり組んで、4月になったら、これをしますといったことを議会に認めていただいたことをすぐできるようにしましょうということを言いました。本当に大変だけれど、この1、2、3月は頑張らないといけない。それが先々で、皆さんのためになるというところを理解しながら、進めていければと思っています。

財政の話をし少ししましたが、細かいところに入る前に、もう少し話をさせていたくと。地域経済の応援というのは大きなことだと思っています。町内消費を増やす、羽須美は地元のお店や企業が少なくなっていますが、邑南町全体でいえば、ドラックストアのような町外の資本が入ってきていないはず。それぞれ地元の方が頑張っているということは、その地元の企業を何とか応援して支えながら、経済対策をしてもそれが極端ですが、お金を配れば、そのお金をどこでも使えるお金なんです。商工会の商品券とかおおなんさくらカードを活用すれば、町内で使っただけ。少しでもそういう道筋をつけるべきだと思いますし、12月に商工会の方が来られて、いろいろ話をしたときに、贈答品のカタログをつくられた。職員の方に配ったら、いろいろな業者さんが来て昼休みに宣伝して歩かれているなら、許

可をもらって同じ感覚でいいんじゃないですかという話をしました。やはり、職員の方にもしっかりアピールしていただいて、町内でというのを皆でしていければと思っています。具体的にということもありますが、人がすごく少なく、人を育てるにも資格を持っている人に来てもらえればいいけれど、そうでない時代であれば、まず雇ってからその人を育てる、バックアップをしていかなきゃいけないと思いますし、地域に人がいないということで、少し書いていますが。

今まで矢上高校に、とにかく来てくださいというところから始まりましたが、来ていただいた人がどれだけ地域に残っていただいているか、地元のお子さんもそうです。やはり矢上高校に来てくださいということにすごくお金をかけてきたので、今度はその生徒さんたちがこの地域で、支えてもらえる人材になるように応援していかなきゃいけないと思っています。

これは相談です。皆さんも一緒に考えていただきたいんですが、大学に行くのがいいとか専門学校に行くのがいいとか、親も送り出さなきゃと思いますが、非常に負担も大きい時代になったんです。そう思えば、この町に残って、この町で仕事をしながら生活をして、生涯が送れるような仕組みを。町としても、資格を取ったり、学びたいという応援をしながら、この町のために生活する、暮らしていくという仕組みがあってもいいのに。それが全てとは言わないけど、そういうものを町としても示さないといけない。今、どこの企業も求人では必死です。うちに来れば、こういう人生が送れますというのを示しています。資格をとって、この年代であれば、こういう役について。町としても、この町で暮らせばどういう人生を送れるかという提案をしてもいいと思っています。全てが大学を出て、専門学校を出てというわけでもなくていいんだと思います。そういう人生があってもいい。それをしっかり支える町であっていいんじゃないか。それが人手不足の解消につながってもいいんじゃないかと思っています。

今日、矢上高校に行ってお話をする機会がありました。支えます、この町にまた帰ってきてくださいとは言いますが、一方で私たちは、若い皆さん期待しています。ぜひ帰ってくださいと、いっぱいお願いするのはプレッシャーなのかな、喜びなのかなという疑問もあります。やはり喜びをもって、この町にと思ってもらえるように、また皆さんと相談しながら、どういう手法がいいのかというのを考えて進めることができればいいなと思っています。

それから大きなもう一点が、農業や農地や山の話です。道の駅の産直市が新しくなります。町内には、羽須美はすみません、距離的にいろいろあるかもしれませんが、瑞穂の産直市があって石見には雲井の里があって、261号線上には川本があって、それぞれのお店の中でも野菜を直接出せるところがあります。そういう条件がいい上に、米の値段が高くて、野菜の値段も高い。そうすれば、もう少し今年の作付は米を増やしてみようとか、野菜をちょっとつくって売ってみたいとか。売場所があるので、手芸品をつくってみるとか、山にある何かで特技を生かしてとか。そういう話が出てくると、一番ありがたいですが、そういう雰囲気ではない。どちらかというと、農地を続けることは難しいとか、中山間の面積を減らしたい、辞めたいという話になっています。

農業でも林業でも第一産業の全てとは言わないですが、非常にいい時代でチャンスが来たと思っています。なかなかものがつくりにくくて、単価はいいけど売り上げが伸びたわけじゃないという方も多いですが、でも頑張ればいいチャンスかなと思っています。そこが意欲に結びつかないということは行政として町として少し後

押しを、何らかのことをしていかななくてはいけないんだろうなと。引っ張るとかじゃなくて、背中を少し押す感じでやってみようかなと。

具体的には、勝手に思っているだけですが、今までは皆さんが種を撒いてつくっておられたけど、そこからという大変な時代になってきたなら、野菜の苗を配って、つくってくださいくらいはしてもいいかなと。そういうのがあれば、やってみようかなと。スタートを変えてみるのも手かもしれませんし、米にしても面積ができないんだったら、収量が上がる品種に変えてもらうことを後押しするとか。来年度予算ですぐは、時期的に難しいのかもしれませんが、そういう工夫をしないと難しくなってきたのかなと思います。

最後の方に書いたんですが、その他で、職員の副業と書きました。役場職員、公務員が副業をしてはいけないと思っていましたが、12月の一般質問もあって、課長の皆さんと話をしたら、制度に基づいて許可を得ればできます。そこまでいなくても、地域のことに参加するのは自由なんだと思います。もう少し職員の方に地域課題を見て参加していただきたい。それは個々の能力アップですし、役場の中の他の課の仕事にも興味を持てるかと思います。農業も許可を受ければやってもいい範疇だと思います。野菜をつくって朝収穫して出荷して、家族に頼んで出勤して。今は無理ですが、日が長くなればできない話ではないです。儲ける稼ぐというのもありますし、地域で直売所にものがないなら、そういうことも考えられるかなと思っています。

具体的なことを書きながら大きな話をしました。ここにあることで、抜けていることではないんですが、また見ていただいて気になれば質問していただければいいんですが。大きな課題になるのは今後、小中学校の統廃合、併せていろいろな施設の統廃合だと思います。町内で持っている施設の全てを維持管理がきちんとされて、大規模修繕が終わっていて、すぐに建て替えなくていい状況なら、あまり考えなくてもいいんですが、そういう状況でないのが事実です。

併せて、人が減る中で、人口も具体的な話を書けばいいんですが、書くと結論が決まって、この先マイナスの思いになるので書いていませんが、お子さんの数でいうと、小学校だけでいうと、町内全域で一学年70人が目安です。その下の0歳から6歳の保育所の人数になると、300人になります。1学年50人です。全員がまだ保育所に行っていないかもしれませんが、そういう雰囲気です。ここ数年、去年、今年がどうかなと思いますが、生まれるお子さんは40人を超えるか超えないかです。この話を先にして、その統廃合の話をしたなら、町内に一つでいいじゃないかという話になってしまうので。

今なら、具体的に言うと教育委員会には、教育として邑南町らしい学びとして小中学校がどうあるべきか。併せて、皆さんにコミュニティや地域のことに関わっている地域みらい課には、町として地域として学校がどうあるべきか、全く違う立場で考えてくださいと言っています。将来的に、今、生まれるお子さんが40人くらいなら、そのまま上がってくればそうかとなるけれども、それじゃあ教育や地域の在り方が難しい。もっとこのくらいがいるといいよねという人数もあるのかもしれませんが。そうすると足りない数合わせで。すみません、お子さんの数が足りないとか言っては申し訳ないんですが、理想的にはもう少しおられるといいなと思えば、1ターンのリターンを求めていかないといけない。そこは行政の仕事なんだと思います。そういう目標を定めながらやっていければと思っています。

具体的に今、この地域の学校をどうします、どこがどうですという思いではない

です。ただ現実の中で考えていかなきゃいけない時期が来まして、この問題を先延ばしにしていくというのは、ますます最後の結論が小学校1校、中学校1校でいいですとなってしまうので。やはり今なら選択肢がたくさんあって、今、考えれば、そして統廃合は、5年後とか数年後というようなやり方ができるんじゃないかなと。学校の修繕が必要になっても時間がかかるのでと思っています。それぞれの地域にとっては、非常に重要な問題であります。だからこそ、きちんと早めに議論して将来のために備えていければと思っています。

その他については、いろいろな課題がある中で、今の思いの中で読んでいただければ雰囲気がわかるかなと。ちょっと説明する時間がないので、逆に質問とかご意見をいただきながら、説明したり意見交換ができればと思っています。まずは、私の冒頭のあいさつということにさせていただいて、教育長から少し説明がありまして、意見交換をしたいと思います。

意見交換でできれば、どこの会場もそうですが、比較的活発にさせていただいていきます。ただ、最初に誰が手を挙げるか様子を見られますので、だれか最初にぱっとやっていただくと助かりますし、本当ならこちらから投げかける中で答えてもらうやり方もあるんですが、何も用意してきていませんので、ぜひ我こそはと第一声を発していただくと、場が盛り上がりますので、よろしくお願いします。それでは、教育長に代わりたいと思います。ありがとうございます。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。まずもって、小学校、中学校の活動に際しまして、特にふるさと教育、ふるさとを介して学習、これは公民館も同じでございますが、参加含めましてご支援ご協力いただいております。本当にありがとうございます。

私からは一点、お手元にカラー刷りの資料を一枚用意させていただきました。それをご覧いただきながら、わずかな時間ですがお伝えしたいと思います。広げていただいて全面印刷のものを上にいただければと思います。まず、左上でございます。青い帯の中にコミュニティスクールという言葉が読み取れます。これは、文科省を含めて邑南町も導入していきたいという思いでございます。ただ、まだまだ議論の余地が非常にあり、熟慮をしていかなければいけないということで、この制度につきましては、来年度、春以降にしっかり一年をかけて地元の皆さんと協議させていただきながら、令和8年度の導入を目指していきたいと思っています。

コミュニティスクールとは、一体何かということですが、左ページの中ほどあたりに四角囲いでコミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と表記しております。この学校運営協議会とは、一体何かというと、右ページのコミュニティスクールの3つの働き、重要なものが四角囲いで3つ並べております。特に一番上です。校長が作成する学校運営の基本方針を承認する場が協議会であると、まずご理解いただきたいと思います。現在のところが、学校の校長先生が経営方針を示されます。それを地元の皆さんにご協力いただいて、学校の思い、校長先生の思いを協力していただきながら、形にしていく。いろいろな体験活動もそうだろうと思っています。それを、協議会の中で地元の方が、校長先生の経営方針を承認するというように変わって参ります。今まではお願いごととして受けておりましたことを、しっかりとその場で議論を交わしながら、あるいは地域の思いをぶつけてい

ただきながら、お互いが対等な立場で、子どもを中心に据えて、育んでいこうという話し合いの場がまず設けられます。それが協議会とさせていただければと思います。さらに、そのページの一番下です。邑南町のコミュニティスクールが目指すもとありますが、邑南町としては少し期間が空いて申し訳ありませんでした。以前より、地域学校と我々は呼んでおりましたけれど、そういった取り組み、あるいは300人委員会だったり、1000人委員会ということを数年前にやらせていただいて、地域の共通の思いを学校にぶつけさせていただきました。そういった地域の思いを今度は協議会の場でしっかりと学校にも伝えていくという場面もつくっていききたいと考えています。

それでは、裏面をご覧ください。ここには、現在のところ、メリットとしてはこういうものがあるだろうなということをお示しさせていただきました。まず上の四角囲みでございます。これは学校がコミュニティスクールを導入することで、いいことがありますよということです。つまり、学校は以前、ご承知のとおり、学校内完結の教育を実施して参りました。数年前より、学校サイドに立って地域に開かれた教育課程、社会に開かれた教育課程を目指しなさいという文科省の方針も示されております。そういった意味で、学校としては、地域と共にある学校づくりをどう進めていくかということでのメリットを示させていただいております。

その下ですけれど、これは今から地域の皆さんと協議して参りたいと思いますけれど、地域の皆さんにとって、このコミュニティスクールがプラスになるような取り組みをしたいと。一般的には、これがメリットとして示されております。学校を各として中心とした地域づくりで、今度は地域を中心に考えたときに、学校との在り方について、今後しっかり検討していきたいと思っております。

最後ですが、邑南町のコミュニティスクールのイメージとしては全国的に見れば、小学校単位でコミュニティスクールを立ち上げる、中学校単位で立ち上げるのが主流のようです。邑南町の場合、義務教育の9年間を一つの道筋として、小学校中学校がともに連携して、義務教育最後の中学3年生が卒業する際に、地域をあげて、こんな子どもに育てたいという共通のことを小学校一年生から積み上げていきたい。そういう思いで基本的には中学校区で、このコミュニティスクール、協議会を立ち上げていきながら小中連携のもとに子どもを育んでいくシステムをつくり上げていきたいと思っております。

本日は、時間の関係でここで私の話は終えようと思っておりますけど、来年一年かけて、この口羽に合った、あるいは羽須美中学校区に合ったコミュニティスクールの姿、形を共にご意見ご指導いただきながら確立して参りたいと思っております。いろいろな機会を設けさせていただきますので、よろしくお願いしたいと思います。私の方からは以上でございます。

3．意見交換

- 大賀総務課長　ありがとうございます。それでは、続きまして意見交換の時間に入ります。全体の終了を午後8時と予定していますので、約1時間、これから意見交換をしたいと思っております。皆さんからご意見ご質問をいただきたいと思っております。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきたいと思っております。発言される際には一回に一つずつお願いしたいと思います。できるだけ多くの方にご発言いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

どなたからでも構いません、よろしくお願いいたします。

- 今日は宣伝も兼ねて参りました。平素は、公用車の給油に來させていただきまして、ありがとうございます。また、各戸に灯油も納品させていただいております。ありがとうございます。一つずつというわけにはいかんですが、今日は2点ほどお願いしたいと思います。

去年の6月19日に本庁から、担当者が來られまして、ガソリンスタンド存続のために改修費支援の補助金ということで、私のところに来られました内容は、ローリーと計量器の補助を町独自でプラスαでやっていくと言われたんです。補助というのは大変ありがたいと思うんですけど、計量器はざっと20年は使えるんです。20年のローリーも現役で動いております。そういう20年後というよりも、ある程度、毎年予算をつけていただいて、補助していただけたらいいなと思うんです。

実際に例を言いますと、去年の11月に地下タンクの圧力検査を3年に一回やらないといけないうです。ご存じのように全国のガソリンスタンドは減っています。何がいけんのかというと、地下タンクの年数がまずダメだと、その後、後継者です。それで、私共は見積を取ったら、1千万円でした。国の補助をいただいて、持ち出しが300数万円です。それを10年前にやりました。それで、3年に一度の圧力検査がありまして、去年11月にやったのが、17万円8千円です。それで、補助をいただいて、補助が5万円くらいで、持ち出しが12万円です。それを3年に一度やらないといけんです。それに兼ねて、今度は計量器の検定があって、それが5年に一度です。それもちょうど地下タンクの検査と一緒に、これが8万5千円です。これは補助はなかったです。それに向けて、ローリーを3台持っていますから、毎年車検がトラック2台、軽が2年に一回の車検が1台で、11月は赤字です。ですから、補助もいいんですけど、毎年これくらいの金額がかかっているというのは、どこのスタンドでもあるんです。だから、そのせめて何割とか。さっき町長さんが言われた財政が厳しいですが、私たちもまだ厳しいです。だから、そういう意味も込めて、20年に一度と言ったら、なかなか使うところもないですから、毎年の固定費、車検もトラックだったら、10万円もかかりますし、そういう固定費と。

あとは消火器の点検も10年に一度は更新です。私共も5台あって、8千円にしてもそれくらいはかかりますし、屋外タンクを持っていますから、大きい消火器が2ついるんです。それは一つが10万円で、10年に一度交換せんといけん。それも持ち出しです。維持をしていこうと思うのに、それだけの経費がかかるんです。だから、ローリーの補助も大変ありがたいんですけど、今のような感じのことが実際にかかっていますので、町としても存続のために、電気自動車やハイブリットもありますし、なかなか人も減っていますから、存続するにはどうしたらいいのかなと思います。

これは、ぜひともお願いしたいんですが、去年の12月いっぱい阿須那のJAのスタンド関係者がやめられるということで、何とかせんといけんかなということで、はっきり言って、赤字で引き継いでおります。黒字だったらやってもらえるんですが、赤字なんです。何で赤字かといったら、給油に來られないから。1回目の給油がなかったら、2回目も來ないです。私も羽須美の車を見たら、この人はこういう車に乗っているなと全部わかります。ちょっとこれを聞きたいんですが、町の職員さんは給料とは別に通勤手当が出ますよね。そのお金はどこか

ら出ていますか？国とか町とか、県とか。通勤手当があります。

- 大屋町長 町からですけど、その元がどこかといわれると、税金は間違いありません。

○ それでね、普通の会社は通勤手当はないですよ、普通の一般企業は。ですから、給料とは別にということは、せめて通勤費のいくらかは、この人はだいたい三次に行かれますけど、3円、5円高くてもいいじゃないですか。せめて職員の皆さんは、通勤手当の金額は地元で注いでもらうように極力してもらう方が。1回目の給油があって、2回目の給油があるから、何とか成り立つんだと思うんです。だからそういうところをちゃんと。強制ではないですけど、そういう意識をもってもらってやってもらったらいいと思います。

その例が、公用車の方が軽トラで給油にこられました。それで後ろに新しいチップソーを積んでいる。それで、私がこれをどこで買われましたか？と聞くと、本庁からもらいましたと。それで、また一か月したら、新しい草刈り機が積んであるんです。これはどこからもらいました？本庁です。じゃなくて、私共もチップソーも売っていますし、草刈り機も置いてあります。というように、金額ばかり言ったら、それはそうですけど、私がそのチップソーのときに対応しなかったんですが、金額が合わなかったんです。3千円までだと言われたから、ちょうどそのときに置いてあるのが3千600円です。私だったら、600円が合わなかったら、600円を下げた3千円でいいです、買ってくださいと言うと思うんですけど、対応もちょっとあれで。本庁からもらいましたというようなことから。やっぱり地元は地元で買っていただく。見積も本庁の希望金額はこれだと、羽須美地域、瑞穂地域で、こういう金額を予定しているんですけど、ならないですか？というようなことで、少しでもお互いが歩み寄って地元で買ってもらうというようにしていただいたら、若干でもいいんじゃないかと思うんです。予算がないから、安いに越したことはないんですが、羽須美の関係の支所長がこれぐらいの予算の前後は任せるよと、その代わり差があったら一言相談してくれというようなことも、地元は地元でというようにしてもらったら、少しでも潤いまではいいんですけど、利用があるんだと思うんです。

今の2点をぜひとも、さっきのJAのことではないですけど、赤字ですから。何が赤字かといいますと、金額は言わないですけど、資料をいただいているんです。まず、固定資産税を払ってくれと、それはわかるんです。減価償却費を払ってくれと。それを言われたんです。それを商工会に聞いたら、ちょっと違うんじゃないかと。でも言われたままということもないですけど、それでOKにならなかったから、一応、地域のことを思って言われましたよ。ようやってくれたねと。今日も月水金の8時から12時まで開けているんですけど、お客さん来られません。バスのお客さん〇〇に来られますから。昔のイメージがあるから、1月8日からやっているんで、なかなか思うようにはならないんですけど、今までの現金価格は11円下げました。1回目の給油のときに聞くんです、現金ですか、チケットですかと。こういうように言うと、これほど違うんだったら今度は現金にするようというように、同じ人が2回目に来られますかね。というようなことで、減価償却費と固定資産税、何とかお願いしたいと思います。よろしくお願いします。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。ちょっと、ごめんなさい、誤解がないように。町は財政が厳しいです。何とかしたいと思っています。それは、皆さんに対

して押し付けるためじゃないです。皆さんを応援するためのお金を捻出するために、努力しないといけないと思っています。

今、お話があって、議員のときにも質問した気がしますし、議会でもあったと思います。例えば、町がものを入れるときに安ければいいのか、地元から買うのかというのは大きいと思います。決して財政が厳しいから、安ければいいという思いはないです。先ほどいったとおり、地域があってそれぞれの事業者が成り立たなければ始まらないので、まずは地元を使わせていただくのが第一であって、そこで安い高いとは私自身は思わないですし、そこは徹底しなきゃいけない。おっしゃるとおり、確かに通勤手当を出しておって、どこで使うかは、それぐらいはと思いますね。私自身も農業してきゅうりをつくってやっている、いろいろ頼まれたりする中で、どこに生産者があって、誰がどこに出していて、お店から無茶苦茶相場が高くなると、うちに来るんだけど、本当は誰々が出しておって、相場が高いから、高い方に出して、ないわと言ってうちに来たとかいろいろわかるけど、地域でお店をしておって地域におられるとよくわかるんだと思います。

そういう中で、思いを持ちながらやはり地域のためにしていただいているので、当然町としてまずは地元を使わせてくださいというのは当然だと思っていますし、職員の方も極力とは思いますが。気持ち的には買い物の楽しみとして安ければ安い嬉しさがありますけど、そこまでガソリンがいくら安くて、一回入れて数百円の中で、そこまでは地元の店でお話をしてというのも大事なことです。強制はできないと言われたとおりですが、そういう中で自分たちが努力できる範疇の中でしっかりさせていただければと思います。

スタンドの話をしていただいて、何も約束はできませんが、存続していただくために、大きな投資に対して補助しますが始まりだったと思いますが、年数がかかるまでとか、毎年きちんと成り立たないと次がないというのは事実なので、毎年かかる経費をどこまでみるかというのは、やり方もあると思うので、その事情をまず知っているか、知っていないかという話から始まります。本当に何をすればいいのかというときに聞こえた声が地下タンクが大変なのでそこに補助しようということで始まっているので。ただそこに自分で投資をされた人もあるから、それはいいのかというのは別の話なんだと思います。

事情はよく理解しましたし、地域のためにという思いがあって、地元の業者さんはしていただいているところもありますので、役場の中で情報を共有して、産業支援とか応援として何がよくて、この町で何が必要なのか。それぞれの地域でも違うかもしれないので、そこを考えながら。今日こうやってお話を聞いたので、お話いただいたことはきちんと記録に残して、共有しますので。差し障りのあるところまではしませんけど、しっかり参考にさせていただきますので、お話いただきましてありがとうございました。

小さい声で余計なことを言います。今、脱炭素のことを〇〇さんの顔を見ながら、あーっと思いつつ思っていたのは、町は今、脱炭素でということではいろいろ進めています。この間、予算のときに話をして、脱炭素の先行地域でこれからどうするの？といったときに、計画上はいろいろあるけど、役場の担当は横展開と言われたので、農機具の電化とかそういうのも思ったけど、よく話を聞くと、今は矢上や中野、田所でしか屋根に太陽光をつけられないのを、ほかの地域でも広げていきたいという話でした。そういうことなら共通認識でそこを進める。それが来年か再来年になるかは別にして、電気自動車とか町が積極的に入れ

るかどうかは別の話かなと思っています。この度も電気自動車の要望があったんですが、すごくお金がかかるので。地域のことを思ったり、修理だとか購入だとか、ガソリンを思えば、普通の軽自動車でもいいのかなという思いもあります。それは地域貢献につながる、産業振興につながるということもあるので、一つのものごとについて、直接応援じゃなくても、何かすれば間接的な応援になれば、そういうこともしていければと思っています。結論というわけじゃないですが、いろいろなご意見を聞きながら地域のためになるお金の使い方をしたいと思いますので、よろしくお願いします。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

○ 失礼します。口羽地区坪釜集落の○○といいます。よろしくお願いします。今後の方針の項目で気づいたのは、昨年度来からやっている自治体再編とか、新しいコミュニティの在り方の方向性とかについて、継続されていくんだと思うんですけども、今、私たちが課題に思っているのは新しく運営組織をつくっても、そこを切り盛りする専門のマネージャー的な人材、要するに事務局長的な人、ある程度が専従でやっていかないと、いろいろな地域課題は解決できないと思うんです。それを、確保するための人件費の捻出がすごく難しいと。

それで昨年、情報交換の中で総務省の集落支援員制度を導入しながら対応していったらどうかという話もちょっと聞いたんです。その方向でぜひ考えていただいて、専門の地域運営組織をマネジメントする人材を各公民館区に一人ずつ配置できるようになれば、住民活動も盛んになっていくと考えています。それに対して、今ある自治会の再編問題もあって、ある程度自治会を解消して、小さい自治会を解消して一つの自治会にまとめるということをやったら、そういう支援員を置いてもいいというような条件めいたものがあったような気がしたので、そういうような条件もなしに、自治運営組織が発足したところからどんどん、そういう人材を当てがえるような支援策を、町として今後引き続きやっていただきたいなという思いがありますので、ぜひ引き続き、地域運営組織の応援をお願いしたいと思います。以上です。

●大屋町長 文章の中には、それぞれの自治会やコミュニティの今の活動を応援していく思いです。それぞれの地域や成り立ちとか考え方が違うので、できればそれぞれに合わせながらということで、強制的に自治会をやめてくださいという意味ではなくて、一緒になったらいいなと思うならという道筋だと思っています。ちょっと細かいことについては、副町長に代わって説明させてください。

●白須副町長 副町長の白須です。先ほどの質問についてなんですが、具体的には今、当初予算の中でいろいろ協議をしているところですが、方向性としては、○○さんがおっしゃったように専門のマネージャー、集落支援員のような方が必要だろうということで、その方を雇えるくらいの補助を当初予算の中には盛り込んでいきたいと思っています。

ただ、一つ一つの自治会にというわけには今のところ、考えていませんで、ある程度、自治会を集約するとかという要件はどうしても付けざるを得ない状況だと考えております。これがまたはっきりしましたら、地域の皆さんにお知らせしようと思います。

●大賀総務課長 ありがとうございます。

○ この地元根布集落の○○と申します。大屋町長には、若い人が期待しているように思います。私からお願いしたいのは、女性の方がＵターン、Ｉターンできる

ような仕組みを考えていただきたいと思います。特に口羽地区を見ますと、珍しく男女の差がほとんどないんです。高齢者で一人暮らしが意外と多いし、50歳以下で独身の男性が結構多いんです。高齢者の女性の一人暮らしが多い割に、男女差がないんです。ぜひ、邑南町全体としても若い女性が輝く町というようなことで、外部に出すパンフレットはできるだけ女性の方が活躍している写真を使ってください。よばよばのおばあさんが車に乗って運ばれているようなものは外部に出しても、あれを見て、UターンIターンする人はいません。私もUターン組ですが、当時は三江線が走っていましたし、地元タクシー会社があったんです。免許がなくても、私はUターンしたんです。ただ途中から、これは不便だなと、60歳で免許を取ったんです。空き家がいっぱいあるんです。以外と外部に対しては、花桃があったり、トロッコ列車が走ったりしていて、わりと有名なんですが、じゃあそれを見てIターンするとかUターンする人はいないんです。出ていく人もいますよ。うちの集落なんか、こんなところは嫌だと年寄りが二組も出ていきましたよ。普通、帰ってくるのが当たり前なのに、出ていくんですよ。だから、そういうことがないように。私たちと同じような仲間がUターンしましたけど、皆一生懸命生まれ育ったところを良くしようと頑張ってくれるんです。お金なしでも。だから、できるだけ女性が、UターンIターンできるように。募集するときに、女性ってできないんですよ。女性を募集というのはできないから、大変だと思うんですが、採用するときにでも少しぐらい成績が悪くて女性を採用するとかね。そうして、できるだけ女性が働けるように。邑南町は女性が輝いている町だと。外部的には議員の方が3名も女性がいるのは、めずらしいですよ、こんな田舎で。もう一人ひょっとしたら増えるかもしれませんよね。4月になって増えそうな雰囲気ですかね。そうしたらすごいですよ。3割は女性じゃないですか。そうしたら、そういう女性が輝く町というのをぜひ目指していただきたいと。私は老人会をやっていますけど、年よりのことはいいですよ、どうせ先が短いんだから。ただ生きているうちは、元気に暮らせるような施策をやってください。よろしくお願いします。

- 大屋町長 ありがとうございます。ありがたいことに座談会に歩くと、そういうご意見をいただきます。わしらのことはと言っていたくんだけど、あまり話をしていなかったですが、福祉施設の在り方とか、健康寿命が長くなっているの、年を重ねても楽しく暮らしていけるという意味で、100歳大学とか書きました。学ぶ場所とかサポートというのは、しっかりしていきたいと思います。若い人が、気持ちの中ですよ。あまり表には出せないですが、まずはUターンIターンで若い人に選んでもらえる町。特に女性に選ばれるかどうかは、ポイントが高いと思います。女性に対してアピールしていくという意味ではなくて、やはり結婚してもそうですが、比較的に縁のないところに行くことが多い女性にとって、どこに住むか選択できるのであれば、邑南町が選択肢に入れるようにとは思っています。

そういう中で、若い人のということで、今、総合振興計画を作成する準備をしていて、来年から本格的にということで、公募委員さんをお願いしていて、あまり言っていないかどうかですが、この中でも2人、応募していただいています。そういう応募の中でも若い人の意見をもっと聞いたものをつくりなさいと言われていいますし、公募の中に女性もおられますし、本当にありがたいことだと思っています。町としても、あまり話をしなかったんですが、定期的にこういう会を開催

したいですと書いてあるんですが、その意味は、私自身が皆さんの声を聞かせてくださいというのもあるんです。いろいろな会を開く場面があれば、少しでもいろいろな方に出てきていただきたい。その中で、普段見かけない人がおられると、「この人、今日、来ているじゃない。」と。僕らがこちらから見て、この人誰だろう？と思ったときに、次にいろいろなことをするときにお声がけしやすかったり、皆さんか紹介もしていただきやすい、人材発掘という思いもあります。

議会のときも町民議会をしたのもそういう思いがあつてです。総合振興計画、いろいろなことをつくる中で、話は若干違うのかもしれないですけど、若い人の声を聴く場面をつくりたいと思っています。それが、できれば毎年して、何らかの方法をお願いをして、思いを聞かせていただいたら、それが反映されて町政がよくなるとか、自分たちのためになったんだというのを、きちんと示すことによって、この町に来て声を出すと変わるんだとか。一人一人のことをきちんとしてもらえてるんだということにつながればいいと思っています。この町から出て行かれる方もある中で、その理由は多々あって、不便だというのは仕方ないです。それぞれの思いなので。ただこの町に住んでいても気持ちがよくなかった、嫌だったというのは、嫌なので、そこはサポートできるところはしっかりして、気持ちよくというのは選挙とのときも今も所信表明でも使いましたが、住み心地がよいというのは、つながりがあって、自尊感情が持てるというのは、そこだと思います。この町でいいなと思ってもらえるところは応援できるので、しっかりやらせてもらえればと思います。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。

○ ○○といいます。今、○○さんが、年よりはいいと言われましたが、やっぱり今、一人暮らしをしているので、皆さん、誘って体操とかいろいろやってもらうと、皆さん喜ばれて元気になってくださるんです。それに女性というのは、人を誘うのが上手ですからね。それによって、うちの娘はという話になったら、それが帰ってきてまだ一人でおるけど、どがあな？というところまで話がいきますよね。まだそこが結婚したというところまではいかなんですが、出てきたらいろいろな話が聞けます。そういう面で、年よりのおばあさんもまだ活躍されておりますので、まだ。去年の秋に前の町長さんが辞められるときに、一人暮らしの一番出てほしい人に年金が少ないというので、陳情に行きました。それで、つけてやっただと言われましたが、金額的には聞いていない。たくさんつけてください。また女性で古い人でも頑張ります。すみません。

●大屋町長 ありがとうございます。12月議会でも、野田議員が同じような話をしていただきました。極力、いろいろな会をつくりたいですし、出かける場とか、つながる場をつくりたいと思いますし、そういう中で、皆さんが話をして盛り上がっていい話になれば、また伝えていただければ応援するということができるばいいと思います。お金で今は何も約束はできませんが、何とか捻出して頑張ればいいなと思っております。気持ちは重々わかりますので。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

○ コイサイドの○○と言います。大屋町長の最初の所信表明を見させてもらって、一番最初に情報公開と広報公聴活動の充実というのを挙げられていて、とてもいいなと思いました。合併して20年が経ちますけど、最初の頃はそんなに思わなかったんですけど、最近特に思うのが、町の施策があまり伝わらずに、進められ

ているなというのをすごく感じます。たぶん施策を進めているときに、最初に何でこれをやるのかとか、認識の共通とか、それをやらないといけないという気運の情勢とかが、まずあって、それから全体方針の決定とかをされると思うんですけど、そういうのが見えずに、いきなりハード面だと、ものができ出してから、あれは何ができるんだ？とか。ソフトだったら、それが始まってから、あんなふうなことが始まるとるんか？というのを、すごく感じるんです。

今、身近なところでいうと、ここの隣にバスターミナルができるらしいんですが、正式にどういうものができるとかは、住民に説明はないと思います。そのバスターミナルがどういう背景があって、何のためにできるのか。それができたら、どうなるんかというようなことが全く分からないんですよ。私は、ここに鯉の養殖の池がありまして、あそこは潰れるらしいんですけど、養殖はさせてもらっているんですけど。ただ、らしいというだけでそこを潰して、じゃあ、その池をどうするんかというのは、正式には何も聞いていないんです。

それで、コイサイドで宿泊施設もやっているし、今、飲食店みたいなものもやっていますけど、そこにバスターミナルができるということは、デマンドとの接続もあるのかもしれませんが、当然路線バスも停まって、観光の人も少ないかもしれないんですが、来られると思うんです。それを増やしたいと思って、いろいろやろうとしているんですけど。そういったときに、そのバスターミナルがどういうものができるとかもわからないので、果たして観光客も来て、観光案内所みたいなところもつくりたいといけないんじゃないかとか。来たときに時間があったら。どこか休むところとかいるんじゃないかとか、いろいろ考えるんですけど。僕ら民間は、町がやったことに対してそれからいろいろ考えるんですけど、できてしまってから考えるとかなり後手にいってしまうんです。もっと計画の段階でわかっていたら、もうちょっとこちらもいろいろなことを考えて対応できるんです。そういったところが、すごく最近、施策が見えない。

特に、地域づくりもいろいろなスタッフがおられると思いますが、特に地域づくりとかは、3カ年とか、5カ年とか、長い間でやるんですけど、そのときもアンケートとかワークショップをやっているんですけど、その後どうなりよるんかが、あまり見えない。地域づくりも目指すところがどこかというのがはっきりして、それに対して今は現状がどこかというのを常に情報発信をして、中村議員さんも言われましたが、発信だけじゃなくて、共有するところまでいかないと、なかなか住民も参加するということころまでいかないんじゃないかと。逆に、そういう情報が全く出ないで、どんどん進んでいると、無関心になるんです。今、それがすごく気になっていて、一つ無関心になると、いろいろなところに無関心になって動かなくなるんです、人って。そこらへんをもうちょっといろいろな情報を出してもらって共有してもらって、誰か一人が動き出したらそれにつられて、いろんな人が動くんだと思うんです。そこら辺をぜひ、よろしくお願いします。

- 大屋町長 ありがとうございます。今日、来させていただいて、どこの会場でもいいんですが、町長の立場でものをしゃべると、してもらえるかもしれないと思われちゃうとしゃべれないので。今から予算だし、いろいろなことが大変で、全てができるわけじゃないんですけど、ここで何かしゃべっていると、副町長とか教育長とか職員の方もおられて、問題を共有してもらえると、誰かがしてもらえるかなと思ってしゃべることもあります。情報を出すときに、予算が決まっていないうのに出せないという建前があったり、いろいろあって、私も議員でおったとき

に思うのが、物事が突然に起こる。それが流れが読めないから。この雰囲気で、町がこういうことをしゃべって、こうすれば、次こんなことをすれば、出てきたときに、ああなるほどと思えたり、ちょっと説明を足してもらえれば理解できるんだけど、流れがわからないと全くわからない。今日、こうやって出させていたでいていいるのも、いろいろな話をしながら説明すると、全てを話しているわけじゃないし、ここで話していることと違うことをしても、その流れの中にいれば、皆さん、何となく理解してもらえるとというのもあるんだと思います。だから、決まったことを話すだけでもダメだし、今からの思いで、必ずそうじゃないかもしれない。前は、そういうことを言うと、あのときにああ言ったのに、何でせんのだと言われても、いろいろな説明の中で、難しかったですと理解してもらえればいいんだと思います。町長の立場になって、説明をしました、決裁もありますと言われるけど、理解しているかは別なんだと思います。

全く雑談です。10月くらいにちょっと縁があって、ここの会場に来たときに、石見の議員さんと一緒に来たら、そこに渡り廊下ができていました。それは議会でも説明があって、予算があると知っていたんですが、何でこんなものが急にできているんだという議員さんもおられたんです。わしは聞いてないし、どこから金が出たんだと。それは説明しているけど、やっぱり理解や認識がなかったということなんだと思います。たくさん説明を受ける中で、きちんと意味が。説明したから、皆さん理解したわけじゃないと思いますし、わかって帰ってもらったわけじゃないと思います。そこで、ちゃんとこれだけやるんだよ、絶対だよという説明をして本当に認識したかどうかというのができていないから、説明しましたという一方通行なんだと思います。

個別のことに関しては、なかなか話がしづらいですが、情報発信をしてやりとりをという中で、議員のときもしつこいくらい、たぶん役場の人は嫌だろうなと思うくらいに聞きました。それは、説明を受けたことが、自分が説明を受けて資料を見たことと、自分が思ったことが一致しているかどうかの確認作業だと思いました。職員の方とも、今もしつこくやりとりがありますけど、認識が一致しているかどうかというのは大事だと思いますので、ちょっとご迷惑をかけたり、いろいろありますが、今後はまず役場の方も説明できることと、できないことはあるんだけど、お互いに地元のことなので、雰囲気で伝えるという手もあると思いますので、それは職員も現場に出たり親しくしたりできないかと。情報漏洩とは違う意味で、上手にしてもらえればいいと思っていますので、それぞれの地域の中で。最初に〇〇さんが言われたのもそうです。地域の中で上手にやってもらえれば、細かいことはという思いもありますので、お互いに上手にできればと思います。あのときに、町長はああ言ったのに、何でせんのだとか、あんまりないようにしてもらえれば、というところで。議員さんが前におられて予算とか今からのことをぺらぺらしゃべるって、わしらは聞いてないのになぜと言われるとしゃべれないれないけど、この場の雰囲気とか、思いでしゃべっただけだと言えればいいと思うので、お互いにそこは上手にしながら必要な情報とか、道筋だけはお知らせできればと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方は、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちします。

- 青石集落の〇〇と申します。今、NPO法人のはすみ振興会を手伝っております。ちょっとアピールになるんですけど、はすみ振興会、先ほどの〇〇さんの方

から、地域運営組織と地域マネージャーというお話がありましたけど、振興会の方も〇〇さんが代表になって、立っていただいておりますが。ボードメンバーとして、50代が1人、40代が1人、30代が2人、20代が1人で、5名のボードメンバーが定期的に集まってやっております。私は60代ですけど。それで、もちろん、その方たちは自分の仕事をお持ちになって、その中で時間を割いて協力してデマンドか、小さな拠点づくりモデル事業とか、その中で地域運営組織をどう考えるのかとかいうのに取り組んでもらっています。

先ほど、〇〇さんからも話がありましたように、比較的若い人がおる中で、それを支えていくためにも、先ほどの予算の話は少し考えていただきたいと思います。今、町の方からも去年、提言があったように、地域運営組織というのは公民館単位である程度考えましょうというのが出ていると思うんですけど、教育委員会から出たこのコミュニティスクールの方は、中学校区単位ということになりましたね。羽須美地域は、中学校単位だと一つでよろしいんでかね。ですよね。公民館単位だと二つという組織になっていくということで、これはやはり、役職だけが増えていくみたいな、住民代表のね。ここは、羽須美は石見や瑞穂とは人口規模が違いますので、役が増えるとまた大変で、地域運営組織はそれを何とかしようと逆に考えているわけですから、その辺のことも含めてこの二つの組織は、今後うまく擦り合わせて運営できれば、本当に上手く住民の参加が見れるんじゃないかと思います。よろしくお願いします。

- 大屋町長 私の方から冒頭で、人口が減ってくる。いろいろな行政コストがかかる。家を訪ねるのも大変だということで話をしたときに、今のNPOであるとか、地域の皆さんが今までされている活動を支えることによって、職員の負担が減って、超過勤務だとか、いろいろなことが減れば、町としてはいいので。財政の問題もいろいろあるけれど、お金の使い方として、今の私のスタンスは地域に、地元業者さんにとったのと一緒で、地域を応援すれば、それが回り回って町の職員の負担が減るのであれば、その仕組みもあるのかなと思いました。そういう考えの元にできる範囲のことをさせていただければと思います。お金を出しますとか約束はできませんが。くどくて、すみません。思いはよくわかりました。考え方で、町も応援の仕方はあるなと思いました。ありがとうございます。コミュニティスクールについては、代わらせてください。
- 大橋教育長 ありがとうございます。中学校区とご説明申し上げました。先ほどもお伝えしたとおり、9年間でどういう子ども育んでいくのかということを教育委員会としては大事にしていきたいと思っております。中学校区での議論を各小学校にも下ろして参ります。そういったしますと、小学校から中学校への接続もきつとうまくいくであろうという。これは、今からでしょうけども、そういった中で、今おっしゃられたご意見等を来年度一年かけて、我々も研究、検討して参りたいと思いますので、またご指導いただければと思います。ありがとうございます。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- 下口羽の〇〇です。直接、担当課へ行ってもよかったんですが、ちょっと頼まれたことなので。私は、口羽に住んでおりますが、自治会は上田自治会の世話をさせてもらっております。先日、自治会の総会を行いまして、今度、座談会があるんだけど、来られない方は、何かご意見があれば出してくださいと言いましたところ、出なかったんです。いきなり言ったもので、なかなか出なかったんです。

が、一つ言われたのが、町道、県道の白線が薄かったり消えたりしているところ
がかなりあるので、そこを何とかやってもらえんだろうかと。それを言っておい
てくれと言われました。具体的にどこですかと聞いたんですが、それは言われん
かったんです。特に県道だと言われまして、県道口羽阿須那間でも路側帯を歩い
ておられる方もいるので、そういう方は、歩く方も危ないし、車で通行する方も
危ないと思うので、またそれを県に伝えていただければと思います。よろしくお
願いします。

- 大屋町長 ありがとうございます。いろいろなところで声を聞きますし、だれ
もが安心して運転できる意味では、大事なことだと思います。特に私たちは、不
慣れなところに行くと、線がはっきりしているかどうかは大きいので。たくさん
声を聞きます。何とかできればなと思います。ありがとうございます。

それで、最初に言い忘れたんですが、表に町長への手紙ということで、QRコ
ードもつけています。足りない部分があったら、それを読み込むとメールが送れ
ます。私自身、匿名だろうと返信先がなかりと、それはご意見として区別はし
ませんので、思いを伝えていただければと思います。それ以外でも、紙にちょこ
っと書いて、支所長なり役場職員に、町長へ渡してと言え、きちんと届きます
し、職員の方に伝えていただいても届きます。どんな形でもきちんと町長まで
届きますので、活用していただければと思います。ありがとうございます。

- バイパスのところに、横断幕で日本一の子育て村ってありますね。一年前に私
の子どもが3人で出雲から帰って参りました。それも私から頼んだんじゃなくて、
子どもの方から帰ってみようと思うけど、どんなだろうかと。向こうから言うの
で、帰ってねと。3人で帰ったのが、3ヶ月前に、一人増えて4人になりました。
それが、聞いた話しなんです、保育所で預ける時間が家で見える人がおったら、
今度はお迎えの時間が早くなりますと聞いたんです。それは、2歳半くらいの子
どもですから、ぎゃーぎゃー言うか、寝とるかのことなので。お母さんが一人で
子守をするなら、見るんでしょうけど。保育所から帰った、それで2人はよう見
れないということで、息子が今までお店を閉めるまでは一緒におってくれたん
ですが、1時間ちょっと早く家に帰る。お店を閉めるのも私なんです。全然、楽に
なっていないんです。だから、一年間に何百人も生まれんじゃないですか。だか
ら、子どもに手厚く、親にも手厚く。私たちも老いていきますので、楽というこ
とはないですが、帰ってきて、仕事を辞めて上がるんかというようなものでね、全
然日本一でもないかなと思うんです。そのことは、本当なんでしょうか。

- 大屋町長 答えが正しいかどうかは確認をしなきゃいけないですが、一般論で、
今の町の事情を話させてください。本来ですと、希望通りお預かりしたいです。
それができないのは、保育所にもスタッフが足りないという事情があります。保
育所がたくさんあって、十分な保育をする人材を確保するのが、すごく苦しくな
っています。そうすると、どうしても皆さんの希望にしっかり応えられないと。

建前か本音かは別にさせてください。保育所は措置ということで、福祉施設な
ので建前上は、家でだれも仕事勤めに行かれておって、保育ができないので、預
かるという建前があって、どうしてもという時は申し訳ないですが、若干優先順
位をつけて、本当に大変なお家から預らせていただいて、少しお家の方の協力
が得られそうなところについては、相談しながら1時間でもということをしてい
るかもしれませんが。個別については。そういうことが、邑南町においては極端に
言うと、0歳児を預けたいですと言って、希望のところに預けることができない

くらいに、今、保育所は苦しんでいます。職員が確保できないというところで。

そういう意味では、保育所の仕組みや統廃合なり、預かれる仕組みをまず考えないといけない時期、それも早急にという状況になってきています。申し訳ないです。うちも自営業なので、よくわかります。家におるから子どもの面倒が見れるわけじゃないです。同じだと思います。仕事をしているので。でもどうしても協力をというときに頼らざるを得ない事情もあるかもしれませんが、すぐに何とかできますという状況ではないので、町の責任として保育所のことをしっかり考えた上で、皆さんの希望に添えるように。この町は、保育所しかないの、じゃあ、お金を出して幼稚園に預けるからいいよという選択肢はないし、その他のところもない以上は、地域を支えて仕事をしっかりしていただくという意味では、本音と建前があるにしても、制度上、保育所はそこができるようなことをしていないといけないと思っていますし。

児童クラブも町の責任でと言ったのは、それもはっきりないと安心して働いていただけない。若い世代というは、地域を支えていただいておりますし、福祉施設を支えていただいているということで、何度もそういう人材確保の疲弊が、若い人にしわ寄せして、町全体のマイナスになっていきますと言っていますので。少し協力していただけないといけないですし、逆に、保育所を何とかしたら、ちょっと遠くまで預けてくださいというふうになるところもあるかもしれませんが、全てが全てできるわけじゃないですが、事情もよくわかるので。

町の事情もあって本当に申し訳ないところですが、町が今までしてこなかったツケだと思っていますので、しっかり対応するために、事情を聞かせていただいた中で早急に考えていかないといけない課題だと思っています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました8時になりました。活発にご意見、ご質問いただきましてありがとうございました。これで、閉会にしたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつ申し上げます。

4. 副町長あいさつ

本日は、長時間にわたりまして、さまざまなご意見、ご質問をいただきました。ありがとうございます。まだまだ質問をしたい方がいらっしゃったかと思いますが、町長も申しました。この座談会にQRコード等も載せております。電話でも結構ですので、わからないことご意見等を頂戴できればと思いますので、よろしくお願いします。

先ほど、私も言いましたが、現在、来年度の当初予算の編成作業中です。例年ですと、この予算の編成作業の前に、町長から来年度の予算の方針とか重点項目とか、そういったものを示して予算編成作業にあたるわけでございます。今年度の方針につきましては、財政再建そのものが予算編成の方針となっております。そういった中で、これまで実施してきた事業、事務、様々な見直し等にも取りかかっているところでございます。皆さんの生活や事業活動に何らかの影響もあるかもしれませんが、しっかりとそこは今日のやり取りの中にもありましたように情報を共有しながら、皆さんと協働で乗り越えていきたいと考えております。しっかりと、こういう理由でこう変わるということはしっかりと説明させていただ

きたいと思っておりますので、またその際にはしっかりとご意見等もいただきたいと思います。意見をしっかりいただいて、その意見を次の参考とさせていただければと思います。

小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編、そういった中長期的に取り組んでいることもございます。そういったことも情報を共有して、皆さんと協働で進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、本日はお仕事お疲れのところ、夜分に、そして天候も悪い中お集まりいただきまして、ありがとうございました。お帰りの際には、交通安全に十分に注意していただいて、事故のないように帰っていただければと思います。簡単ではございますが、閉会にあたってのあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございました。以上をもちまして、閉会とさせていただきます。

町政座談会（出羽地区）

日 時 令和6年2月3日（月）
18：30～20：00
場 所 出羽公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町政座談会を開催しましたところ、こうやって寒い時期に多くの方に集まっていたいただきまして、大変ありがとうございました。町長に就任させていただきまして、ちょうど3ヶ月経ったところです。まず、皆さんとこういう会をつくりたいということで調整しましたが、どうしても日程が1月半ばから2月半ばという一番寒い時期に開催することになりました。大変心配しておりましたが、まず今週の出羽は何とかできたかなと思っています。この一週間で瑞穂地域を全てまわる予定ですが、何とか予定通りできればいいかなと思っています。こういう寒い時期に、お仕事でお疲れのところ集まっていたいただきまして、大変ありがとうございます。資料に今後取り組んでいくことという細かいものを出していますが、それに入る前に、少し今の状況や思いだとか、大きな話をさせてください。

今回もこうやって多くの方に集まっていたいただきました。なるべく皆さんに思いを伝えていただきたいということで、12月の広報には、以前からあります町長室への直接届くFAXであるとか、瑞穂支所にも目安箱じゃないですが、意見箱があります。そういうものを使ってくださいと言いましたが、実は一つも入ってこないです。今の時代にFAXを出すのも大変なことですし、思いがあれば職員の方でも結構ですし、支所長に伝言でもすれば届きます。

ただもう一方で、今日、次第のところにQRコードをつけています。スマホでこれを読み込んでいただければ、メールを送ることができます。直接、私に届くようになっていきます。町のホームページにもそういうものをつくりましたけど、これについてはお名前が書いていなくても匿名で大丈夫です。設計上、そういうことができるので。返信先がなくても思いだけを伝えたいとか、名前が出るとちょっとという方でも送っていただいて。名前がないから、どうということはありませんので、思いがあれば伝えていただければと思います。

今、就任して、今日の資料も本当は細かい数字をたくさん出せばいいのかもしれませんが、数字を追いかけていってもなと思います。その中で、一つは財政の話です。財政が楽ではないです。これを数字に出して示すべきかなとも思いましたが、大型投資が続いているので、何となく皆さんにはご理解いただいているかなという思いと、町政座談会が今、7カ所済んだんですが、いろいろなやり取りをしていると、財政が厳しいとあまり言うと、若い人たちは何もしてもらえないと思うとか、財政が厳しいからこれを止めるんでしょということになるので。

本当の思いは、出るお金は皆さんのお家や自治会と同じですけど、人件費や電気代が上がるといって増えていく。入るお金は年々増えるわけではないので、何とかやり繰りをして、そのやり繰りの中でお金を見つけ出して、皆さんのために使っていきたいという思いです。財政が厳しいから、何もかも止めるんじゃなくて、これからも皆さんのために使えるようにするためのやり繰りのお話です。

例えば、本当に大変になると、町が潰れるのかと言われますが、潰れることはな

いんだと思います。じゃあ、何が困るのかというと、皆さんにしているサービスが難しくなります。例えば、この建物を地域で使うときに使用料をいただくことはないです。今日もそうですが暖房代や電気代がかかっています。それを負担してもらわなきゃいけないのかもしれませんが。水道代とか、下水道代は、かかる経費を皆さんに全額負担していただいているわけじゃないです。必要なお金の半分程度が実際に皆さんに支払いをお願いしているお金です。財政が厳しくなれば、かかる経費を全部くださいとなれば、今の倍以上払ってもらわないとできない事情があります。年々、電気代等は上がるので、上がった分だけ高くしたいですというのは理解していただけたと思うんですが、何も変わらなくて町の財政が厳しいので倍にしますは理解していただけないと思いますし、何のためにするかになるので、そこはやり繰りをして、今あるサービスを続けたいというのが本当に思いです。

じゃあ、そんなことができるのかという話になったときに、皆さんの生活だとか仕事もそうだと思います。今振り返って見たら、よくこれでやってこれたよねということがたくさんあるんだと思います。それは、環境が厳しくなっても、いろいろなやり繰りをしながら、その積み重ねだったと思います。今の町にそういう積み重ねが十分にあるかというと、来年度予算を今、立てていますが、なかなかちょっと厳しいかなと。そのままかかる経費が来年の支出になって、予算を組むのが今大変で、それをどうしようかという状態にあります。

あくまでも、何もかも止めて皆さんにこれからは続けていけないという意味ではなくて、これから益々財政支出が増える中で、やり繰りをしてどうするかというための財政再建だと思っていただければいいです。当然、どこかで今まであった事業がなくなったり、皆さんに負担を求めることがあるかもしれませんが、それは何々の代わりにこういうことをしますということができればいいと思っています。誰かを切り捨てるとか、そういう思いではないということを理解していただければと思います。

一方で、町長が代わったから仕方ないよね、あの町長だからそうかもしれないと言われるかもしれないんですが、非常に突然、変えないといけないということがたくさんあります。一つは、今後、取り組んでいくことにありますが、小中学校の統廃合がそうです。今まで、ある程度段階的にいろいろしておけば、できたんですが、今はもう、するしかない状況です。それが、具体的な数字でいうと、今の小学校、中学校は一学年が70人程度です。それで、6年間で450人くらいいると思います。今の保育所は、0歳から6歳時までの6年間分の人数で300人で、一学年50人です。今、生まれているお子さんは、年に40人程度です。先にその数字を出せば、統廃合は当然しなきゃいけないし、学校も中学校は一つでいいよねという話になるので。そこはそういう意味ではないんですが、非常にいろいろなことを考える余裕はなく、やめざるを得ない。変えなきゃいけないということがたくさんあります。

今まで議論ができなかったというのが事実だと思いますが、何とかごまかしてやってきたけど、ごまかしきれなかった。ちょっと表現が悪くてすみません。町長も替わったので、この際、相談して変えたいというのもあります。

選挙前からそうですが、例えば社協さんが石見でのデイサービスをやめるとか。もうすでに現場は非常に疲弊している。特に、若い人や人材確保が難しく続けることができない状態のものがたくさんあります。それはそのまま、何もしなければ、サービスがなくなって、今の皆さんの生活を支えられないという現状があるので、

そこは支えるためにどうしたいのかということ、一定の統廃合とかやり繰りという意味では、変えていかないといけないところがあります。

私が町長になったからと、逃げるわけじゃないんですが、本当に何とか頑張ってみたけど、もうダメだねというのが一気に来た。それは人口が、合併したときには1万3千人くらいいたのが9500人というだけでも大きく違うと思います。その辺を少し理解していただて協力していただければと思っています。

もう一点ほど、そういう中でも何とか地域の産業を支えていって盛り上げれば良いと思っています。例えば、道の駅を再整備しています。霧の湯も、この4月にはと思います。いろいろなところで復活してきて、それをつなげて、地域を盛り上げればと思うんですが、なかなか人手不足は大きな問題があってどこに行っても人が足りない。外国人の方をという話になります。

農業振興においても、これだけ米代が高く、野菜代が高ければ、黙っていても米をたくさん作ろうとか、増やしたいとか、野菜を増やしたいとか作りたいとか、道の駅ができるなら加工品を出したいとか、こういうことをしてみたいんだというのが本来の姿だと思うんです。すごくチャンスなので。

ただ、なかなかそういう雰囲気を感じ取れないです。皆さんのところもそうなんだと思います。産業振興において一つは、そういう意味で農業はチャンスなので、そこで何とか今、後押しをして、この波に乗れるというのは変かもしれませんが、その儲かる感じが今、出ているのであれば、少しそういうところに踏み込んでもらいたいなと思います。勤めをしていても、朝少し早く起きて収穫して出すとか。なかなか時代が違うので、難しいとは思いますが、種からつくってくださいは大変なので、野菜の苗を配るとか、少しつくることに関心を持ってもらえれば、産業振興上、すごくいいかなと思っています。

それらを踏まえながら、もう一つだけ大きな柱というか思いは、人手不足の中で矢上高校なり、島根県立養護学校の卒業生の人に、もう少し邑南町に残ってもらうとか、帰ってきてもらえればいいかなと思っています。高校振興ですごくお金をかけて、定員は満たしています。その実態は、県外からの生徒さんもおられるし、町外からの生徒さんもおられます。ただその人たちが矢上高校で学ぶけど、その後につながらないというのは、非常に歯がゆいものがあるのかなと思います。

どこの会場でも一緒に考えてくださいとお話しているんですが、全国的は流れに乗れば、専門学校とか大学に行くとか進学率を高めなきゃいけないと言われているけど、島根で進学率を高めると、どうしても県外に出て行く。邑南町でいっても、町外に出ていくということになって、親としても負担が大きい。地域としてもどうかと思うことがあります。大学や専門学校に行かなきゃ取れない資格もあるけれど、先々、いろいろな資格が有利なものもわかるんだけど、この町に残ってそのまま働いて、地域を支えて、その中で本人が学ぼうという姿勢があれば、それを町が応援するということがあってもいいのかなと。大学進学が全てではなくてもいいかなと、ちょっとと思っています。

もしくは、企業がされているように、邑南町で暮らすとどういう生涯が送れるかということを示していかないといけない。そういう形でもう少し、地元のお子さんたち、矢上高校に来ていただいた人たちに、この町に残っていただくことを考えられないかなと思っています。

その辺を踏まえて、今後取り組んでいくことと書いていますが、全部しゃべりませんが、少しずつ思っていることをしゃべらせてください。学校の統廃合も、財政

のことがあっても行財政改革も必要なことだと思っています。その後、何らかの形で必要なくなった施設や、斎場のように3カ所必要かどうかという施設は統廃合していかなくちゃいけないですし、一方で、必要なくなったら全て壊しますじゃなくて、他の使い道を考えないといけないと思っています。企業誘致に使えるとか、産業振興だとか、他の目的で使えるのであれば、そういうことも研究しながら、施設の統廃合を進めたいと思っています。

その下に住宅の話も書いています。人手は足りないんですが、いろいろな話をすると最後には住む場所がないという話になります。公営住宅は、条件があるので、全てが全て入れるわけじゃないんですが、試験的運用見直しができれば、若い人所得に関係なく入ることができないかとか。特に若い人と書いてありますが、住宅や宅地の確保というのは、考えていかないと周辺の自治体に若い人が出て行く。この町に住んでももらえないということになるので、しっかりと考えていきたいと思っています。

産業振興についても、書いてあるとおりですが、極力、地元の産業や経済を支えたいということで、その一環として、さくらカードを上手く使えないかなと思っています。邑南町は、一軒一軒は非常に少ないんですが、多種多様な業者さん、事業所がある。お店についても、外からの資本が少なく、地元の人が頑張っているお店がたくさんある。石見だと、アベルやプラザ、瑞穂のフーズフーズさんのようにあるので、まずは頑張っている人を地元のためにという人を支えていければと思っています。

あとは、保健医療のことも書いてあります。日本一の子育て村も考えなくちゃいけないですし、福祉施設の在り方ということで、子どもからお年寄りまであらゆる分野で。町が数字を出していなかったんですが、例えば、社協がデイサービスを辞められる。これから私たちの老後を誰が支えてくれるのかという話になるんだと思います。現実、高齢化率は45%くらいでほぼ変わらないです。人口が減っている分だけ、65歳以上の人口も減っているのが現状です。そうすると、どうやってサービスを維持するかと。増え続けているイメージがありましたが、現実違うというそのギャップから、その在り方をきちんと検討しないと、いずれは皆さんが共倒れで、どこも成り立たないということになるんだと思います。特に、子育て世代を支えていかないと、子育てをする人と福祉施設で働く人は、ほぼ同じ人なのでそこを支えていかなくちゃいけないという思いがあります。

財政が厳しいのでというお話をする中で、何もかも切り捨てるんじゃなくて、サービスを続けたいということと、良い面についてはしっかりとお金をかけていきたいという思いがあります。

その良い面の一つが、邑南町は一人一人の医療費が比較的安い町です。県内の中でも安い方です。それは、日頃皆さんが気を付けておられるとか、健康管理を十分にされているとか、町も保健師の活動であるところだと思いますし、結果として検診の受診率も高いです。ただ40代、50代あたりが非常に低いことと、若い世代は検診の案内が該当していないということもあるので、今後のためにも良い面はしっかり投資をしていきたいと思っています。

もう二つほど、最後のところを話をさせてください。今日、こうやって町政座談会を開いています。定期的にこういう会を開きたいということで、一つは皆さんの声を聞かせてくださいというのがあります。もう一つは、すみません、私はあまり出羽に来たことがないです。議員として意見交換会に来させていただいたんです

が、そのときとは出ておられる方が違うんだと思います。皆さんにとっては、顔を見て久しぶりに見る人がおれるとか思われるかもしれませんが、いろいろな会を開くとその時間に合わせるとか、出やすいところに出てきていただければ、普段なかなか町としても接点がない人ができてきていただけることがあります。

そうすると次から、いろいろな会を開くときに町としても協力を求めたい、皆さんも地域のことをしていただきたい人を探すときに、人材発掘の一つの場にならないかなと思っています。極力、こういう会を開くことによって町政や地域に関心を持ってもらえる場を増やしていきたいというのも一つのねらいです。

併せまして、職員の副業と上に書いてあります。公務員の方、役場の職員が副業をしていいかどうかとなると、私も今まではいけないと思っていたんですが、正しくは、許可を受ければやっていいものについては、してもいいということです。そうすると、お金を稼ぐだけというのもおかしいですが、そうじゃない部分で、地域のことに對してとか、人手が足りない簡単なことに對して許可を得れば、役場職員がすることに何ら問題はないです。それはそのまま地域の人手不足の解消にもなりますし、私自身の一番の思いは、地域に関心を持っていただきたい。それがそのまま今度は役場の中の他の仕事に関心をもっていただきたいという思いがあります。

就任してからずっと感じていたのは、今の町の課題は、一つの課で解消することができない。例えば、福祉分野で人材がいません、どうしようかといったときにそれは福祉の課が考えるのか、産業として考えるのか、定住として考えるのか。地域で農地が荒れてきています。鳥獣害の問題がありますといったときに、山の担当が考えるのか、だれが考えるのか、地域のことなので地域みらい課なのか。非常に自分の仕事が地域の課題の問題のどこにつながっているのか。自分の仕事ができれば、皆さんにどういうメリットがあるのかというのがつながりにくい。

例えば、私が批判的に思っているかどうかは別にしてください。施政方針や所信表明で一つもふれてはいないですが、例えば脱炭素先行地域、今、町は国の先行地域でCO₂を減らしましょうとやっています。ただその手法は、太陽光パネルを付けましょうということで進めています、これを進めると地域の皆さんの生活の不安や、どこにつながるのかというのが、実は議員のときからちょっと疑問に思っていました。わかりにくいかなと。

賛成をしてどうこうではないんですが、住民の皆さんに、この事業を進めると、私たちの生活は良くなるの？と言われたときに、例えば農業であるとか、鳥獣害の問題や人手不足の問題にどう繋がるんだろうという疑問を持っています。それぞれの仕事はいい仕事だけど、常に疑問を持たないといけないと思っています。

そう思うと、もう少し山に力を入れた方がいいのかもしれない。そういう意味で、職員の方にも地域に出ていただいて感じてほしいですし、役場の中でも人の仕事に首を突っ込むのはいいことじゃないかもしれませんが、縦割りと言いますけど。関心を持つのはいいんだと思います。自分の仕事をよくするために、この人の仕事をもっと知ると、よくできるかもしれないというのはいいことなので、そういう関心を持ってほしいという意味で、副業なり地域にもっと出て行ってほしいと思っています。

正直、今、予算を組んでいるときに非常に苦しい状況です。なかなか、どうしていいかなと悩んでいます。一方で、就任した今でないと大きく変えることは難しいかなという思いもあります。ここで変えないと、これで一年を過ごしてしまうと、来年やっぱりこうしますという時に、受け入れてもらいにくいという思いもありま

す。あくまでも良くするために、皆さんのためにという思いは変わりませんし、そのためにきちんとした財政運営や組織については2年間、このままさせていただければと思いますが、事業については今、変えるところは変えなきゃいけないと思っていますので、予算についても今、すごく時間をかけています。思いを伝えた中でご理解いただければ。4月になって新しい予算ができたときに、あの時の話からこうなったんだろうな。これは将来のために役に立つんだろうなと筋道として理解していただけるように勤めていきたいと思っています。

この後は、話し足りなかったり、皆さんの思いが私と違うとか、疑問に思うことがあれば、意見交換会とさせていただきます。普段はこの後に、教育長が5分くらいしゃべられるので、その間に、皆さん何聞こうかなと考えてもらっていますが、今日はないので。どこの会場もそうですが、誰か最初にしゃべっていただければ、皆さん聞きやすいんだと思います。誰か最初に手を挙げていただければ、大変助かります。こちらからどうですか？と聞く準備をしてくれていませんので、ぜひ。こんなことを聞いてもいいのかなと、皆さんの前で言う話でもないんだけどという方も前もって言われますが、全然構いません。些細なことでも気がつかないことはたくさんあります。

今日、議員さんも来られていますが、最初に持ち上げなきゃいけなかったんですが。議会でも議員の方がおられて、町民目線でしっかり質問していただくと、気がつかないことがたくさんあります。ぜひ、いろいろな話を聞いていただければと思います。ごめんなさい、ちょっとタイミングを逃して。よろしくお願いします。

2. 意見交換

- 大賀総務課長 それでは、意見交換の時間ですが少々お待ちください。皆さまからご質問ご意見を頂戴したいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、一回のご発言で一つずつお願いしたいと思います。できるだけ多くの方からご質問ご意見を頂戴したいと思いますので、ご理解の程よろしく願いいたします。

はい、マイクをお持ちます。

- 三本松集落の行政協力員の〇〇と申します。今日、お話を伺えて良かったと思うんですけど、コミュニティスクールとか、そういう資料や、統廃合の資料があったので、まさにこれが聞きたいことです。行政協力員で来たんですけど、今、瑞穂小学校PTA会長2年目でして、瑞穂中学校のPTAの役員もさせてもらっています。それで、このコミュニティスクールと統廃合は、現場に入らないとわからない話で、一つの質問ではなかなか難しいんですけど。自分としては、小学校中学校が平成29年に国がエアコンをつけてよかったねなんですけど、電気代は町がもっているの、子どもが先生に暑いですと言っても、ごめんけどお金がないからつけてやれないんだと言っているのが実情で、暑い暑いと言っています。小学校も同じような感じです。小学生はまだ要望を言えないので。それで、瑞穂小学校に関してはPTAから一部、電気代を出しています。

これは、学校教育法にも地方財政法にもこの辺をいつも聞くんですけど、義務教育の教育課程において必要な椅子とか机は、法律上、町が持たなければいけないとなっています。だけど微妙なものはすごくあって。例えば、カーテンが破れているとか、いろいろあるんです。町長さんの中で学校運営に関わる、それは町

が持たなければいけないという法律の中で、実際に学校は皆さんの中で学級に一つずつあるような黒板消しクリーナーとか鉛筆も、実は各階に1個しかなかったり、全校で3つしかなかったり。それは大きく学校というイメージから外れているんです。

だからこの前も、瑞穂小学校は幸い伊藤宣二基金というものがあるので、そちらでICTに使うスクリーンやモニターとか、そういうものを40万円分買わせてもらいました。でも、これが本当に法律に抵触しないかどうか、いつもビクビクしながら買っています。学校からはっきりしたおねだりはないですけど、現状はPTA会長として、皆さんと話し合っ、これは監視の目がないときは、理科の実験道具とか、そういうものとか、体育で使う高飛びのバーとか、校庭のランコとかサッカーゴールも伊藤宣二基金で。これはPTA役員で、話し合いの中で買えるものなので、PTA会費で買っているのです。その役員のコンセンサスというか、全体のコンセンサスを得なくても扱えるお金なので、かなり瑞穂小学校は使えるお金は大きいんです。PTA会費をそこをどう使うか。学校としては、なかなか難しいと。プールの塩素もPTA会費から出してもらえないかということがあったりですね。おおよそ学校運営という部分で、これは出してはいけないんじゃないかというものをPTA会費から出したりして。そういうのをずっと何年も見ると、もう無理だと。統廃合は絶対にしなきゃいけないという思いになっています。

ちょっと長くなってすみません。去年の夏に県のPTAの大会に行ってきました。奥出雲町であったんですけど、奥出雲町は統廃合がまさに進んでいまして、人口は瑞穂の1.5倍くらいあります。面積は邑南町より狭いです。出雲部なので、教員も松江に近いので、あてがわれるというのはかなりいい条件であると思うんですけど、統廃合が進んで、8つか10ある小学校が、今、仁多小学校と横田小学校になっている状況です。ちょっと詳しくは忘れたんですが。これはプラスの話をしたいので、町長さんも来ていらっしゃったので、かなり冷や汗をかきながら話しておられましたけれども。

一番関心したのは、各学校のPTA会長さんですね、これが前向きでした。失礼ながら、各学校の管理職の先生なんかは、言い方が悪いんですが他人事のようにおられましたけど。やっぱり各学校のPTA会長さんは、自分の母校だったりするので、すごく熱心です。その方に聞いたんですが、統廃合して自分の学校の文化が消えるとか、どの学校の文化を残すとかでケンカになったりしませんかという話を伺ったんです。それはある部分もあるけど、どちらかと言ったら広くなっていく中で、やることの選択肢が増えるんじゃないかという前向きな気持ちでやっていこうというようになっています。

例えばある小学校では、50年間PTAが地域との運動会を一生懸命やっておられると。それが消えるのは悲しくないですか？とすごくいい文化ですよと。それは、消えるかもしれないけど、それがまた一つの選択肢になって、別の地域のあそこに参加する可能性も出てくるとおっしゃっていて、そういうふうに、母校の方で保護者の方が多いので、そういうのを聞くと前向きに取り組んでいく部分がすごく。やっぱり学校の先生から意見が上がるというよりも、管理職の先生から上がってくるよりも、その学校のPTAから意見を上げてもらう方が、今の財政の部分でも何でもそうですけど、すごく意見が上がってきやすいと思うんです。もちろん自分の子どもがお世話になっているわけですから。

部活の統廃合もすごく難しい部分はすごくあるんですが、現状を見ると本当に統廃合しないと。エアコンの話もですが。県からの職員を当てがわれるという発想なんですけど、人口比率でいくと出雲部と石見って8対2くらいの比率なんで、たぶん県の職員さん、あてがう方からすると、こんな山奥のこんな学校に一人先生がいれば、30人から35人は見られる状況に、なぜこんなに職員を配置しないといけないんだという感覚もわかるんです。

だから、これが逆にここまできたら、本当に統合ありきで、現場の声を集約してもらうんですけど、子どもたちがかわいそうになるのは、エアコンの話もですが、どこかで邑南町の子どもはかわいそうだねみたいなことにならないようにするためには、例えばコミュニティスクールにしても小学校の統廃合にしても、ICTを活用する側面から見ても、公民館はすごく大事だよと。あとは地域資源というか、江の川があるとかスキー場があるとかキャンプ施設があるとか、プールがあるとか、そういう広い中で、それぞれが持っている場所の良さを皆で分かち合うような分断するような。

中学校では総合の時間とかありますけど、その中で細かに細かに野菜をつくっているおじさんは何か教えてくれないかな？とか、そういうことで一生懸命関わってもらったんですけど、そうじゃなくてスキー場も含めいろいろな邑南町という中で、皆を大きく動かしていった、すごく広大は場所で、すごく自然もあっていうものを、例えば、Wi-Fiの環境を整った公民館を中心にこれは地域みらい課も関係すると思うんですけど、バスでぐるーっとまわっていくような、そういう学びも一つ頭の中にあります。

今までの学校の常識で、これからものを考えていったら、本当に持たないので、それは大きく動かなければいけないというときなんだと。現状とイメージを、知恵とかいうのはたぶん学校の管理職からは絶対に上がってきません。リスクが高すぎるので。ぜひとも、そういうPTA会長とか、そういう人たちに声をかけて意見を上げていただけたら、コミュニティスクールと統廃合、あとはフリースクール、不登校の子どもも含めて自分の居場所づくりも。邑南町っていいところだよなと思えるような格好で。そうすると邑南町に来たいなと、邑南町で育ててもらったので、邑南町のために力を使いたいな、そういうふうに思ってくれる子どもが増えるような状況が今、ギリギリなのかと思います。だから最初は、これは理解してもらうのは難しいかなと思うんですけど、ここで声を上げさせてもらったのは、PTA会長を2年やらせてもらったら、もう学校がきついです。かわいそうになってくる。

だから、ここで言うておきたいのは、衝撃的だなとということを言うておきたいんですけど、職員室にある一定の電気代を超えたら、ブザーが鳴るんです。先生がブザーが鳴ったねと、どこかの電気を消さないといけない。これは去年の夏の暑いときにも鳴っていました。先生たちはどこか消さなきゃって。それを聞いてびっくりしました。これ瑞小だけですか？と。いやー、どうですかねと。それで聞いたら、瑞中もでした。ということは邑南町は全部そういうブザーが付いている。だれがどの時点でつけたのかわからないですけど。子どもたちにこういうことをさせてはいけないと思います。だから、本当なら、財政とかわけのわからない財務省がわけのわかんらんことを言っとるんですが、それは今はどうにもならないんだったら、統廃合をがーっと進めて、子どもたちにいい環境を少しでもつくってやるというのが、この数年でやるべきことじゃないかと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。ちょっと話を整理させていただくと、学校の統廃合については、来年度、教育委員会では学びの在り方として、邑南町の子どもたちにどういう教育の仕方をすればいいのか、そのために学校はどうあるべきかという話を進めてくださいと言っています。地域みらい課には、コミュニティスクールもありますし、地域の関わりとして学校配置をどうしていけばいいのか、地域の中で学校はどうあるべきか。もしくは、教育の中で地域の関わりをどうすべきかという話をしてくださいと言っています。私はこうやって皆さんの声を聞かせていただいております。一年かけて議論して全く違う答えかもしれないし、同じかもしれないし、あらゆる面でまず考えています。

それと、学習環境でお金がないというのは、ある意味、別だと思っています。PTAでと言われたとおり、非常に大変申し訳ないです。財政が厳しいという中で、現場からの要望に担当課が予算の関係で要望に応えられませんというものは、町長までは上がってこないの、要望が全部来て、私の責任でこれはごめんなさいとする世界ではないところもあって、現場では財政が厳しいのでというのがあります。

今回の査定の中で、子どもたちの学習環境や生活環境に関わることで、例えばトイレの洋式化、統廃合があれば、無駄な投資かもしれないけど、今の子どもたちのためにはしなきゃいけないということはきちんと予算をつけますという話をしています。電気代やエアコン代もそうなんだと思いますが、ちょっとそのあたりをどう見るかは別ですが、スタンスとすればお金がなくて学習環境を整えることができないから統廃合をしますはいけないと思っています。

まず、どちらにしても、来年も再来年も今の状態でやる以上は、学校の環境はきちんと責任を持ちたいと思います。私も高校のPTA会長をしていてPTAの在り方を思う中で、そういえば以前、議会でも学校でPTAの予算を使ってどの程度維持管理をしていますか？把握していますか？と聞いたことがあるなと思いました。答えは、していません程度で、そこから先を追求していないのはこちらの責任なんですけど、PTAが今、社会でも問題になっていて、絶対加入じゃない中で、自分たちの活動に使うのが本来だけど、町の小中学校でそういうところに備品だとかに使うのは好ましくないことだと思っています。

いろいろな面で、保護者の声を聞きながら進めたいですし、コミュニティスクールというのは、今、保護者だけが頑張って学校維持になっていますけれども、少し地域の方も協力してもらって。どの程度というのものもあるにしても、奉仕作業とか、良い悪いはありますが、保護者だけではできないところをカバーしてもらえれば、一番いいと思っています。PTAに現状、それだけ負担をかけているというのも好ましくないですし、学校現場がそれだけやり繰りしていることが、大人がやり繰りして何とかならいいのですが、子どもたちに直接影響があるのは好ましくないの。それを役場がやっているか、自分たちがやっているかという別なので。財政と統廃合は別ではありますが、教育に関してはしっかりお金をかけさせていただきますし、統廃合は別の意味で、子どもたちの学びを支えるフリースクールとかそういう話もありました。学習機会をどうすれば確保できるかということで進めたいと思っています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方は、いかがでしょうか。
- 私は、元気館でプールに行きよったんです。去年の11月頃に止まりまして、1ヶ月半ほど休んでおりました。そのときは、町長さんが新しくなられたので、

予算のことで改修が遅れとるんだろうかと思いましたが、そういうことがあったんでしょうか。

それと、もう一つは、検診の結果が5枚くるんです。私たちは二人暮らしですが、胃がん検診、大腸がん、夫も前立腺がん、それで5枚来るということ、5枚袋もいりますし、5つとも110円に上がります。そんなことをせずに、一つのところに来るんだだけえ、一つでいっぺんに来ればいいのにとします。もったいないと思うんです。いっぺんに袋にするのが手間がいるのか、一枚のハガキに今は、隠すぶんがありますわね。それに丸がしてあって、あなたには全部異常はありませんなら、全部丸で異常はありませんで来れば、一つで済むのにとします。小まいことのように、それこそ財政が厳しいなら無駄なことは。今でいえば5枚来ますので550円もいります一つの家に。それから、袋を破るときがとてもドキドキします。何でもないので。どがあだろうかと思します。それよりもぱらっと見れば一つ丸がしてあって、この度は何もありませんなら、ただそれだけで済みますので、いらんお金を使わんようにしていもらいたいと思します。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。最後にちょっと言ったんですが、議会の議員さんもおられて、皆さんのという中で、さっきの学校の話もそうです。何となくわかっていながら、そうやって言うていただければ大変助かりますし、仕事上、ついつい、これを一緒にすると早いんだけど、段取りが狂って間違っはいかんので、一個ずつ出そうと、僕らも個人でやるときはいろいろあるんですけど、やっぱり無駄だと思うので、そこは工夫させてください。お気持ちも。

それで、元氣館のプールの詳細は副町長に話をさせていただきますが、今の町で非常に困っているのは、何もかも施設が古くて、維持費がとか思うんですが、町は建ててしまえばおしまい。維持費がどうだとか、経営がどうだとか、人がいっぱい入っているとか、仕組み上です、職員が悪いとかどうこうじゃないです。どうしても維持管理が疎かとは言いませんが、判断が難しかったりして、あるときに壊れてご迷惑をかけることも多々ありますし、担当者で何とかすればいいのにと見ておきながら、予算もなと思うと、先延ばしとか。

まだ私の思いです。来年度くらいからは、少し職員さんとか違う課の課長とか、財政の担当者とか副町長とか、なるべく現場に行って、これが困っているんだけど、このままでいいと思う？ どう思う？ と判断してほしいと。現場で判断がつかないことは、やっぱり見に行き、話をし、先々で維持管理費がかからない仕組みも考えないと、続けていけないかなと思しています。

それじゃあ、元氣館の話を少し。

- 白須副町長 質問ありがとうございます。副町長の白須と申します。元氣館の故障では、非常に迷惑をかけて申し訳ございませんでした。先ほど、町長も言いましたが、施設が古くなって故障が発生して、昨年元氣館も老朽化で故障が発生しました。それで、期間がかかってしまったんですが、どこが悪いのか調査をした上で、それを直すためにいくらかかるかというのがわかったら、予算が確保されているうちでできる修繕ならいいんですが、ちょっと見積もりが高かったもので、しっかりとその分は予算を確保しないといけないということで、その一連の手続きで時間が必要になりました。

なるべく早く皆さんに利用していただくように急いでやったつもりではございますが、どうしてもちょっと手続きに時間がかかったことで、皆さんにご迷惑を

おかけしたことをお詫び申し上げます。

- それなら、今ここに書いてありますおおなんさくらカードを使ったポイントの付与。これはプールは人が今頃は少ないんです。プールに来ればポイントが一日に一つとか、そがあなところに使われても。筋トレの方は割合おられますが、プールは、今時は着替えるのが寒いとかでなかなか人が来られません。私はほとんど毎日行っております。別にポイントがほしいわけじゃありませんが、このカードを使ったポイント付与とありますが、ああいうのにも使われるとか、広告や宣伝もしていっぱい来ていただけるようにされんと、だんだんと人は少なくなると思いますので。川本がいつ頃だったか、ダメになるという話を聞いておりましたが再開されました。あがあなことにならないようにやっていただきたいと思います。
- 大屋町長 ありがとうございます。こちらの立場とか、議員のときもそうだと思うんですが、あれはやれんとか、あがあなことをせんでもいいという話はよく来るんです。これを続けてほしいんで、こうしてほしいとか、私は助かっとなるんよという話は、なかなか聞くことがなくて。ついつい否定的な声の方が大きくなってしまふので、今の時代はちょっと不快に思われる方があれば、大多数がよくてもできないということがあって。特に、プールとか先々でお金がかかる中で、どれだけの皆さんに役に立っているかという、やっぱりこういう場でいいんだと言っていただくと、僕らも考えが変わってくるし、残すためにしなきゃいけないかなと思います。

ちょっと話は違って、おっしゃるとおりで、さくらカードのポイントでというのは以外とあちこちで、特に女性の方から聞きます。こういう会に出てきてもポイントが付くとか。独り言ですよ。一回1ポイントで毎日行っても300ポイントくらいなんだけど、何でそんなに嬉しいんだろうと実は思いながらも、今日もこういう話があったので、やっぱり違うんだと思いました。そう思うと、図書館で本を借りてもポイントが付きますし、こういう場とか、ちょっとそのポイントはそのまま町内での消費になるので、少しその辺も考えさせてください。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- 座ったままですみません。
- 大屋町長 座ったままでどうぞ。僕も座ったままで答えるようにします、すみません。
- この間、町からアンケートが来て、答えながらまとめるのが大変だろうなと、ふと思いました。ここに2次元コードを載せておられますが、もうちょっとデジタル化を推進して、例えばハガキ通知で賛同できる方は、通信はかかるけど、この2次元コードから答えてくださいとすると、データの集約も早くなるし、その分、職員の方の負担も少なくなるんじゃないかと思っています。現状がどうなのかわからないので、もしかしたらトンチンカンなことで、もうやっているよということになるかもしれませんが、そういうところで、働いておられる職員の方のそういう負担をなくして、他で時間をつくっていただくというのは、とても大事だと思いますし。

これお金が発生しますから、簡単には言えないんですけど、いろいろな提案とか検討のときに生成AIを活用してそこの意見も参考にするとか、そういうデジタル化を推進していただけたら。働く方に余裕が生まれると、その時間でまた他

のことができるし、心の健康も保たれるんじゃないかと、ふと思いました。これは私の意見です。

- 大屋町長 ありがとうございます。今日もいろいろな課と話をする中で、ある程度、スマホでのやり取りができることは、そういう方向でいきたいですねと話をしています。使える方、使えない方とあるんですが、スマホを持っていたいている方は使えるだろうなというのと。ただ年代的に、75歳を超えられると、ちょっと所持率が低くなるとあるんですけど。お二人で住んでおられて、どちらかが持ってもらえればいいのかとか。ちょっといろいろな話をしました。

今、来年度からまた総合振興計画をつくるという中で、いろいろなことをするのに、できればスマホでアンケートが取れないかなという話をしています。何年かに一度のきちんとした統計調査、今は農林業センサスとかお願いして終わっている時期かもしれませんが、それは併用したり、紙もつくらなきゃいけないけど、間で少し皆さんの意見を聞きたいですというのは、こういうQRコードで案内をして、そこで答えてもらった人だけで一部になるけど、簡単なやり取りで意見を聞く。メリハリをつけてできればと思います。

おっしゃるとおり、できれば事務の手間を省いて、その時間を自分の時間か、もしくは皆さんと接する時間を増やせば一番かなと思います。

生成AIは、ちょっとそこは考えます。個人的にはたまに使うことがあります。第三者的に、客観的に見てもらえるのでいいかなと思います。

- 白須副町長 生成AIについては、私も個人的には使っているんですが、まだ役場でしっかりとした検討とかルールづくりとかは、ちょっとまだされていない状況です。

ただ、デジタル化の方向性というのは確実にその方向にありますので、職員の負担軽減、それから住民サービスの向上という意味で、ぜひ前向きに検討はしてみたいと考えております。ありがとうございました。

- ちなみに、私は日本人学校でイタリアに行っていて、あちらのPTAはアンケート全てメールでした。これでした。ですので、1日か2日で集まって、すぐに集約ができたというのもあるし、時間は有限です。ありがとうございました。
- 大屋町長 ちなみに、今回QRコードをつけていますが、始まりは何かの記事で、こういう会でやりとりをしたときに、皆さんその場で思ったことをスマホに打ち込んでもらえれば、ここにプロジェクターが何か置けば、すぐに出る。それで、どう思いますか？と○×でとか、やりとりができて。スマホをお持ちで初めてでもお教えすればできるんだと思います。

それがあったので、QRコードを付けてその場でなくても、意見を後でも出してもらいましょうと、全員を対象にできないけれど、大多数とか一部、協力できる人ということであれば問題がないと思うので、積極的に考えていきたいと思っています。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- 常識の外れたような問いになりますが、空き家対策と固定資産税について、ちょっとお願いも含めて話したいと思います。事情があって、空き家をどうしても管理せにゃならんことで、去年から固定資産税がびっくりするような税がかかっています。役場にも相談に行きましたが、空き家対策の登録が役場でできるということで行きましたが、ちょっとこれは、ハザードマップで条件が悪くて登録にはなりません。そうですかと。それでも、固定資産税はいりますよね。かなり

私の経済には負担になっておるんです。

それで、業者にいっぺん広島の方から来てもらって、見てもらいましたが、これは家が大きすぎて話にならんというような、一般的な大きな家なんです。それが今年の固定資産税が来ますので、何とかこの空き家を役場が管理者になって固定資産税はその間は免除する。それがまた賃貸や売却で金になれば、当然今まで役場に立て替えてもらった固定資産税は、そこで相殺で差し引いて残りをやるとか。解体のことも考えたら、数百万円かかるんで、ように困っているんです。

一つは、こんな夢のようなことを言ってもダメだということになるかもしれませんが、最近は大きな災害が各地でありまして、生活に困っておられるというような方が多分にあるわけですが、そういう方を迎えて、その家に住んでもらうようなことができるものか、できんものか。できれば、そうしてもらいたいということをお願いしたいんです。以上でございます。

- 大屋町長 お気持ちは非常によくわかりますが、なかなか本当に申し訳ないです。今、町で持つというのは難しいです。災害時というアイデアもいただいたんですが、ああ言えばこう言うというところがあるんですが、公営住宅も空いているので、町としては他の自治体に何かあったときの受け入れ先も十分あります。本当にすみません。

大きな家ほど、今は若い人とかＩターンで来られる方は管理が難しいので、なかなか好んでももらえないです。場所がと言われて、そこをどうクリアするかはあるんですが、壊して更地にして場所がわからずしゃべっていますが、極力安全な場所で自分たちが住める程度の家にするということであれば、買われた方だと思うんですが、解体に少し補助と建てるのに少し補助があったと思います。それは買われた人だと思うんですが、今持っているものを何かというと、非常に申し訳ないです。

ただ、一つだけ言い訳をすると、昔は持っていて固定資産税を払えば、国保税とかも資産に落ちてとかあったんですが、今はそれがないので、持たれていても固定資産税だけで済むので勘弁してくださいという言い方は変ですが。その辺り、買われて更地にして、誰かおられれば、今はそれが一番いい方法かなと思います。非常にすみません。協力が。

ちょっと、個人資産になってくると非常に関わりにくくて、ちょっと雑談です、余談です。家が大きくてというのもあるんですが、併せて農地が付いてる、やまが付いてる。自分たちに息子の代は邑南町に縁がないので、所有者や相続がはっきりしている間に処分したいですという相談は、司法書士さんのところにもたくさんあるみたいです。買いたくても農地が付いているので、買う人が少ないとか、山だけでも町が持ってくれんかとか、いろいろあるんですが、非常に申し訳ないですが、今のところ個人のものについては、町も管理しきれないので。

ただお話を聞いてまた役場の中で、そういうのをどうしていけばいいかとか、相談はさせていただきます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方も、はい。
- すみません、ちょうど今〇〇さんの思慮に富んだようなご発言があったんですが。私のいろいろな情報の中で、お試し住宅に取り組んでおられる自治体が結構あると認識しております。と言いますのも、こちらに来られてすぐ入居ということも想定できるんですが、空き家の改修とか、新しい住宅も、そんなに十分に供給できる体制に、今あるとは思えません。そういったときに、ここの地域で一週

間でも、数日かもしれませんが、ちょっと来てみたい、見てみたい、この町に触れてみたいという、関係人口ということにもなるのかもしれませんが、そういった取り組みのために、先ほど〇〇さんが言われたような住宅を町が借り上げて、そこに来ていただく場所をつくる。それは他にも、地域的に数か所、設けてもいいのかもしれませんが、そういったような取り組みは、お考えになることはならないでしょうか。

- 大屋町長 ありがとうございます。ちょっと過去にお試し住宅をやりますという話がでて、だけど結果的に予算はつけたけどしなかったときがあるんです。今、お話を聞いていて、〇〇さんのお家をお試し住宅にするかという、たくさん要望が出てくると困るので。例えば、邑南町で体験していただくためのお試し住宅をどこかにつくる。それで、その間に邑南町の暮らしを経験しながら、空き家を何軒か回っていただいて、条件に合うとか、ここなら住めそうとかいうのをしてもらおう。

それで今日ちょっと、保育所で一時預かりとか、保育所のお試しという話もあったりして、制度的にできる保育所とできない保育所があったんですが。今、地域おこし協力隊の方にも、お試しではないけど一回来てもらってということもしています。突然来て、この町でというのも大変なので。

少しアイデアとしてどういう形で実現できるか考えさせてください。それがそのまま空き家対策になればと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。はい。
- 私は財政再建、町長さんの申されていることに非常に同感、感銘しているわけですけども、財政再建にあたってはいろいろ意見があると思うんです。これだけは別途、公聴会というか、財政再建だけについても場を設けていただければ嬉しいかなと思います。

それで、一つは総合振興計画というのは、今は第3次を作成中というか、来年から作成されるという。今、2次が進行中なんですけど、この方針において、PDCAというのをまわしてもらえればいいかなと。Pはプラン、あるいは方針ですけど。Dは実行、Do。それからCはチェック、最後のEはアクション。

10年の振興計画一つとっても、10年というのはいかに長いと。1年とは言いませんけど、何年かに一回はそういうPDCAをまわしてもらって、効果を確認してもらってアクションを。うまくいっていたらそれでいいし、問題があればアクションを起こしてもらおうというように、PDCAを何をされるにしてもまわしてもらいたいと思います。

それをするにしても、財政の再建というのは、今の町の財政は間違っているかもわかりませんが、地方交付税と地方債、それで数10%を占めていると思うんです。国も新聞を見ていたら、地方交付税も下がるんじゃないかなと。だったら、今の状態でいろいろ施策を遂行するにあたっては、地方債を増やすというようなことをしたら、北海道の債権団体じゃないですが、若い人の先が悩ましいことになるんじゃないかと、このように思っておりますので、ぜひ財政改革については、これ一点に絞って場を設けていただければ、うれしいと思います。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。今、いろいろなご意見をいただいて、よくご存じで、よく調べておられるなという思いを持つ中で、いろいろな情報を出すから、皆さんで考えていただけるという思いが、私も最初にあったので、財政再建だけの説明の場というか、説明しながら一緒に考えていただく場を。

さっき言われたとおり、封筒を一つにすればいいじゃないとか、それから始まって、創意工夫だとか、やり繰りなので、どのタイミングでどうして、どういう内容かというもあるんですが、いろいろな場を設けたいというお話をしたので、その一つのやり方として考えさせてください。ありがとうございます。ぜひやりたいということを思っていますということで。

すみません、いろいろな場で、ずっと好き放題しゃべらせていただいているんですが、町長がやると言えば、できるかと思われるんですが、必ずしも。課長方に、いやーといわれると、最近ちょっと弱いところもあるんですが。今日もこうやってしゃべっていると、今日も職員さんがおられて、副町長も総務課長もおられるので、皆さんの声がここだけだと思ったら、違う会場でも同じ話が出てきてやっぱりなという認識になるので、そうやって皆さんの前でしゃべっていただいて、共通の認識をもっていただければ、私の思いも聞いていただいているので、ぜひこうして皆さんと一緒に考える場、アイデアをいただける場をつくれればと思います。ありがとうございます。

- 続けて、今日の資料で財政再建というのがありますけども、これをするによって、どのくらい改革になるのか、効果がどのくらいになるのかを示してもらえれば、なおわかりやすいというか、皆さんも、町の財政はこんなに悪いのかと協力する方も多数出てくるんじゃないかと思いますので。

文章でざーっと、これもいいんですけど、数値目標というか、これをやることによって地方債はどのくらい減るかとか、こういうふうに具体的に書いてもらったら。財政再建することによって、社会福祉とか補助とか、援助も同じだけど、実際に実行できますので、よりそれを充実するためには、財政再建がまず何より大事だと思いますので、ぜひそのようにお願いしたいと思います。以上です。

- 大屋町長 ありがとうございます。役場の中も今、副町長を中心にそのチームをつくっていただいています。その中でも、目標であるとか、これをするとうなるとか、それがないと職員皆さんでとか、そのメンバーで共有できないところがあるので、少しその辺りも整理しながら、また場を設けさせていただいて、お話をさせてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方は、いかがでしょうか。

- さっき、一番最初に○〇さんが、学校の統廃合の話をされました。まさにそうだなと思います。年々、児童生徒が減る中で、今から2年くらいで検討していくということなんですが、なるべく早く結論を出していただいて、統廃合するんだという結論が出れば、いろいろな雑音も入ってくるとは思うんですが、早めを実施していただかないと、うちの町の教育環境がいいわけじゃないです。ある意味、劣悪かもしれません。そういう中で勉強しているのが、それがだんだん延びていくと、長い間そういう子どもがずっといるということなので、早めに結論を出して、ぜひ早めに実行してほしいと思います。

それと、もう一点なんですけど、よく行政は地域に寄り添ってとか、地域の皆さんの目線でとか言われます。私がすごく疑問に思うのは、行政の各課のことなんですけど、名前が非常にわかりにくいんですよね。例えば、よくお世話になる地域みらい課、地域みらい課って実際何なの？ということもあるし、情報みらい創造課、それ何なの？と。私も行政の経験あるんですけど、私も全然わかりません。

最たるものは、学びのまち推進課とか、学びのまち総務課、これ何なの？と思うじゃないですか。その辺は、住民の目線に立って組織の中の、そういうサイン

を出していないと思うので、できれば。これは、前の町長さんのときの話なので、代わられたので、ぜひとも。今はできないでしょうけど、4月くらいには、中で検討されてなるべく住民の目線でいろいろなことをやっていただきたいと思います。

それにつけて、もう一つ思うのは、元気館に行くと、男女ともサインが青なんです。男も女も青。結構間違えて女性も青なので、入られる方もいらっしゃるし、トイレはどちらがどうですか？というようなこともあるんです。それはおそらくジェンダーとか、そういう問題をいっていると思うんですけど、その啓発が全くされていないんですよ。ましてや、公民館は昔のままのサインです。あそこの元気館だけ、一番大きな中心の元気館だけがそういうふうになっているんです。そうするなら、あらゆる施設の中で、こういうことで、こういう意味で、だからこうするんですよということの啓発をしてもらおう。それも教育ですよ。その辺がすごく欠落しているんじゃないかと思うんです。あれをつくった以上は、こうだという本気度を皆さんに示すべきだと思うんです。

よく言われるのは、行政はいろいろな部分でいろいろな計画があります。そうすると、委員に参加した人が一生懸命、我々も自分の仕事を調整しながら忙しいのに出て来て、計画をつくるんだけど、行政は本気度を見せない。文章はつくるけど、文章にしたものをどうするかという本気度を見せてほしいと、よくあるんです。

まさに、今のサインもそうですけど、あらゆるところで本気度を見せていただきたい。学校の合併云々があれば、2年くらいで結論出してどうするんだという本気度を行政が示してもらえれば、我々も一緒になって考えていけると思います。以上です。これは回答も何もありません。

- 大屋町長 回答させてください、簡単に。ありがとうございます。ちょっと最後の方からいきますが、本気度と言われたとおり、いろいろなことで協力していただいています。その成果をきちんと返さないと、次に協力していただけないと思っているので、協力していただいたことに対してはしっかり応えていきたい。じゃあ、また協力しよう。この会もそうです。出て来て話を聞いてもらって、すぐに変えられるかは別にして、毎回出て来て、言っただけで何も変わらないねとなると、だんだん減っていくので。やっぱり出て行ってしゃべった、何かお手紙出したら、聞いてもらった、変わったという仕組みは大事だと思っています。

ジェンダーの話をいろいろあったんですが、内部のいろいろな話になるので置いておきます。

課の名前は、あちこちで言われています。行政側が思って付けた名前なんですけど、思いがしっかり届いてないんだと思います。漢字2文字くらいにした方がいいという話も聞きます。それで、これは就任したときに言ったんですが、2年間は、ごめんなさい、このままさせてください。2年後に課の統廃合も含めて整理させていただきたいと思います。この2年間というのは、一度変えてしまうと看板代や封筒代とお金がかかるので、少し時間をいただきたいという意味です。そこまでかけるのかはあるんですが、じっくり議論して、これから先にどういう名前でどういう課で、どういう職員体制であればいいのかということで、まず課の名前を変えなくても職員異動から変えていくこともできるので。ちょっと申し訳ないところもあるんですが。ただ、こういう意見が多いので、そこは2年が1年かもしれないです。早めないといけなかなと思わないこともないです。

学校の統廃合は皆さんのご意見を聞かせていただきたいです。議会の一般質問でも所信表明でも、2年間で結論を出して統廃合は少し先にとっていました。それは、これから入るお子さんたちが、この学校は何年後かにはなくなる、このままあるということを書いて入って、少し時間をかけたい。小学校の3年生くらいのお子さんが、統廃合するらしい、6年生のときにはこの学校がなくなるという形がいいのか。という思いがちょっとあります。その進め方に。

ちょっとニュアンスだなと思ったのは、気を付けないといけないと思っているのは、それぞれの公民館単位で小学校があるところとないところがあります。保育所があるところとないところがあります。両方ないところもあります。学校は地域のために必要で、地域の発展には必要だと議論されるところもありますが、一方でこうやって早く決めて、早く教育環境を良くすべきだという議論も正しいんだと思うんです。それぞれの地域の中で、学校のあるなし含めて、背景もあるあるかと思っています。統廃合はしなきゃいけない、ただ時期についても、教育環境も含めてもう一度整理をさせていただいたり、来年からの議論の中で考えさせてください。

2年間でという意味は、1年目でほぼ結論を出した中で、2年目は説明をして住民の理解を得たいという思いです。そういう2年間のつもりではありますが、いろいろなご意見をいただいています。ありがとうございました。

●大賀総務課長　ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

○　岩屋の○○でございます。石橋町長が20年続けられました。去年の10月には、農家待望の農家から出られて専業農家をされていて、議会議員も十分な経験を積んでおられる大屋町長さんが誕生されたことに、私たち農家の者は、非常に心強く思っております。

そういう中で、農業問題についてお話をしてほしいんですが、私も後期高齢者で、高齢者は今増えておりますが、今度はそんなに増えない。高齢者になる人が少なくなるので増えないかもしれません。やはり年を取りますと、どうも農業をするのも大変で、する気力も落ちますし、体力的にも落ちるわけです。

そういう中で、耕作放棄地がどんどん増えている。出羽全体ではないですが、ちょっと奥に入って谷間には、耕作放棄地がたくさんあるわけです。これは、振り返れば、2018年の転作事業を国が弾いてしまった。だから、そのころは3割は転作をしようとしたんです。その転作は、コスモスをつくっても景観作物も補助金も出ようとしたんです。だけど、それは廃止して稲をつくってもらえるかと思ったところが、なかなか転作地を水稻に還すということがほとんどできておらんで。今の水稻をつくる面積は、ずっと横ばいではないかと思うんです。

そういう以前は転作制度があったので、農地も守られていたんですが、それが今の政府も転作奨励金はやめるとなると、それと農家が減るということもあるんですが、やはり耕作放棄地になってしまう。この耕作放棄地が、やはり4、5年しますとススキ野原になってしまいます。そうしますと、有害鳥獣の住処にもなるわけなんです。そういう中で、へき地は苦慮しております。

まず、私が一番気になるのは、そういう所に住んでいる者の住環境が悪化する。例えば、私も一生懸命頑張ってきて、息子も50歳少々で、サラリーマンを定年すればやるんじゃないかと思うんですが、孫にこういう環境に残って、ふるさと邑南町に残れと期待はするんですが、こんな環境で残るかどうか、そういう気持ちも湧くんです。子育て日本一の村を目指しておられる中で、子育てをした子ど

もが将来この邑南町を継いでくれるようでないと、今のようにへき地においては、耕作放棄地がどんどん増え、住める環境ではなくなるんです。岩屋の奥の方は限界集落に近い、これはもう5年10年したら消滅集落になってしまいますよ。そしたら農地はみんなススキ野原になる。非常に残念なことなんです。

今度は専業農業者の大屋町長が誕生されましたので、農政に関しても言うのはみやすい、やるのは難しいことなんです、そういう所にも環境面での耕作放棄地を農地に戻すように、何とか対策とか考えを示してほしいと思います。答えはいいです。

- 大屋町長 ちょっといろいろ悩んでいて、いい表現がないなと思っている中で、住環境が悪化すると言われて、この言葉はいいなと思ったんです。いろいろな場面で、農地は里山周辺から全て残したいと話をしています。それは、いい場所とそうじゃない場所を分けて、いい場所だけ管理すればいいじゃないと言われるんだけど、そうじゃない場所の住環境が悪くなるとか、耕作放棄地になれば、いい場所も悪い場所になってしまう。どんどん山が深くなるとか迫ってくるというか。そういう意味では、一番奥地と言ったらごめんなさい、きちんと残さなければいけない、住環境もそうですし、鳥獣害もそうですし、水路も全部奥から来ているということもあるので、何とか残したいという思いがあります。

そういう思いで今後取り組んでいくことの産業振興の下から二番目の丸に、農地の維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施ということで、山の整備に合わせて住環境もよくなるような。耕作放棄地はどこでも話が出ます。余計なお節介かもしれないけど、それがどうなの？と思う方もおられるかもしれないし、昔は人がたくさん住んできちんと管理されているのが、今はしていないのが寂しいと思う方もいるので、地域の人のがんばりを思えば何とかしたいなと思います。

じゃあ、どうするんだと言われたときに、基盤整備にしても、少し工夫ができないか、自己負担だとか集約の仕方とか、集めれば集めるほど自己負担は減るんだけど、そこをどうするかとか。

一方で、今まで集落営農ということですずっと来たけど、個人で請け負う人を育ててこなかったんで、そういういろんな場所に行ってつくりますよという人を育てないといけないし、バックアップしなければいけないと思います。

つくれる状態であれば、昔ほど集約的に生産性や収量を高めなくて、ある程度、簡易な管理で最低限、採ればいいのか。野菜にしても同じ土地で一生懸命つくって連作障害が出るなら、今年は耕起だけする土地、こちらはつくる土地とか選べて、もうちょっと楽な農業という言い方は変ですね。つくりやすくできないかなとも思っています。そういう意味で、所信表明でも技術と書いたんですが、ちょっと創意工夫で、広く管理してやる方法もあるんじゃないかと思うんです。

最初に〇〇さんに言ってもらったとおり、私も山際での生活なので、今までとは見える視点が違うので、少し違った始点で町内全域が何とかの残せるように頑張りたいと思います。また、いろいろ相談させてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- 失礼します。財政再建の中に、公共住宅運用見直しと謳ってあります。これを具体的にちょっと聞いてみたいんですが。私事で大変恐縮なんですが、出羽の三本松住宅の〇〇と申しますが、ここに住まわせていただいております。42年です。

もちろん、ここは所得制限で、定額制ではないので、所得が高いときにはめい
いっぱい払わせていただいて、いくら払ったかは自分でもわかりません。それで、
今もここに住まわせていただいております。今後のことは、自分もいつまでも公
共住宅でお世話になるのもちょっとなと思って考えているんですけど。

とりあえず今住んでいて、これも老朽化してきました。42年が経っております。
付属の備品、水道の施設の配管とか、吹き塗りとかは替えていただきましたが、
これができたときには邑智郡でも3階建ての初のとかがいう謳い文句で大変よ
かったんですが、今はちょっとお荷物的な感じになっております。

それで、私が言いたいのは、付属の備品がほとんど老朽化して、見えないとこ
ろもございしますが、いろいろお願いして少しずつ直していただいているんです
が、この運用見直しというのは取り壊しとかの意味ですか。家賃を上げて、財政
難ですからここに補填するとか、そういうお考えか。または、きれいにして新し
い住宅を建てていただけるのかとか。どういう見直しの方向で、これは考えれば
よろしいんでしょうか。

- 大屋町長 ありがとうございます。すみません、ちょっと、今住んでいる方へ
の配慮とか思いが少なくて申し訳なかったです。

今の住宅については、この先も使えるものについては長寿命化とか修繕をしな
がら、今住んでおられる方もそのままと思っています。この見直しというのは、
年々、制度が変わってきて以前よりも所得制限が厳しくなっています。今の条件
では、若い人たちが結婚して町営住宅にということは、若者定住や特公で条件が
違うのは別なんです、普通のところには入れないです。入れないのが、今の現
状です。

見直しというのは、そう言いながらも町営住宅はたくさん空いているので、一
部試験的に、石見、瑞穂、羽須美で一カ所くらいずつ補助金等の縛りのないもの
について、町独自で所得制限なく、ここに入ってもいいですよということができ
ないかなと思っています。今の条件で入れない人たちを何とか救済できないかな
ということを考えていて、今住んでいる方にご迷惑をかけるとかじゃなくて。古
いとかいろいろあって申し訳ないですが、今のルールの中で順次、修繕とか、長
く使えるようにしていこうと思っています。

- わかりました。じゃあ、ぜひとも三本松をモデルにさせていただいて、きれいに
直していただいてモデル住宅にしてください。どうかご一考をお願いいたします。
- 大屋町長 ちょっと雑談です。町営住宅も以前からずっとあるものと新しいもの
がある。Iターンの方は、Iターン専用の条件で入れるところがある。長く住ん
でいて、若い人たちも最初は条件で入れたけど、子どもが増えてきて場所を変わ
りたいけど、変われないとか、町営住宅のルールの中で現実上、非常にご迷惑と
か負担をかけていることもあるので。古いというのはちょっと許してもらいた
いんですけど、みんなピカピカにはなかなか。最低限の設備は整えますが。
- もちろん最低限の先ほど言ったような配管とか腐敗して濁り水が出るとか、そ
ういうことも多々ありますので、最低限の生活をさせていただければもちろん結
構です。

ただ、こちらも住まわせていただいている身分ですので、いくら家賃を払って
いると言っても。だから、その辺は上手く調整していただいて、財政難ではあり
ますが、人間が住むことなので。それから、それだったら、あんたたち出て行っ
て空き家を買ってやれやとおっしゃれば、それまでの話なんですけども。

- 大屋町長 ごめんなさい。最初に話をしたとおり財政難だからと、それがそのままご迷惑かけたくないということなので、やっぱり町の努力で何とかやり繰りをして、すべきことはしていかなきゃいけないですが。施設の数も多くて、全てが。そうすると学校だからということになる、そういう意味ではないんですが、最低限しなきゃいけないことはしっかりと。その財源を捻出するために、財政の見直し、改革をしなきゃいけないということもありますので。財政が厳しいから、我慢していただかなきゃいけないところはあるけど、教育だとか住環境とか別の話だと思っていますので。頑張ります。
- また逐一いろいろお話をさせていただいて。せっかくですので、邑南町に住んで余生を過ごしたいと思いますので、よろしく願いいたします。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。予定しておりました8時になりました。この辺りで閉会としたいと思います。閉会にあたりまして、白須副町長からごあいさつを申し上げます。

3. 副町長あいさつ

失礼します。本日もたくさんのご意見をいただきました。財政再建から小学校の統廃合、空き家対策、本当に各方面からご意見をいただきましてありがとうございます。時間も限られておりましたので、まだまだ質問し足りなかったことと思いますが、町長からもありましたこのQRコードを読み込んで、質問もできますので、ぜひよろしくお願いいたします。

町長からも、ただ今、令和令和7年度の当初予算の編成作業を行っているという話がありましたが、非常に厳しい中で作業を行っております。各課で今までやってきた事務事業について、改めて見直しをして、見直すところはしっかり見直すという姿勢で進めております。新年度におきまして、こういった見直しや事業の廃止といったようなものが、少なからず皆さんの生活とか事業活動に影響が発生するかもしれないかもしれませんが、こういう理由で、こう変わるということをしっかりと説明しながら皆さんの理解を賜りたいと思っております。その際には、しっかりと皆さん方からも意見をお聞きして、その意見をまた今後の参考にさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、大きなところでいいますと、今日も話がありましたが、小中学校の在り方の検討、あるいは他の地域では、地域コミュニティの再編等の協議も進んでおりますが、こういったことも皆さんとしっかりと情報を共有しながら、皆さんと一緒に協働の立ち位置に立ってしっかりと進めて参りたいと思いますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、今日は天候が崩れると聞いておりますし、夜遅くなっております。お帰りの際は交通安全に気を付けていただけて、くれぐれも事故のないようにお帰りいただきたいと思っております。本日は長時間にわたりまして、ご意見ご質問いただきましてありがとうございました。

以上、簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。本日はありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございます。以上をもちまして閉会とさせていただきます。ありがとうございます。

町政座談会（布施地区）

日 時 令和6年2月4日（火）
18：30～20：00
場 所 布施公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。座ったままさせてください。皆さんが座っておられる前に立つと、すごく上からで。足も楽にしてください。何かお願いがしたくて、こちらが正座しているわけじゃなくて、正座していた方が楽だったり、崩したときに楽だったりするので、皆さんも楽にしてください。

町政座談会をこうやって開催しましたところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。町長に就任しまして、毎年度、町政座談会をしたいということで、いろいろ調整していただきましたら、どうしてもこの時期になって、非常に寒い時で申し訳ないけど、何とかできればと思いました。今日こうやって寒い中でも集まっていたいただきました。ありがとうございました。

今日、9カ所目で、今週やれば全部終わると思っていたんですが、私自身あんまり天気恵まれないというか、雨男というか。これで終わるとかいろいろなことを思うと、天気が崩れるんですが、案の定、明日の田所は延期させてもらおうかと思っています。皆さんにとっても、今日やって、田所が延期したぶんが2月の18日になっていますので、今日、足りないぶんは、田所にまた来ていただいても全然構いませんので、チャンスが増えたと思っていただければと思います。

今まで町政座談会をやってきて、30分くらい話をさせていただいて、1時間くらいやりとりをするんですが、以外と皆さんは思いがあったり、こういう形でしゃべりやすかったりして、たくさんご意見をいただいたり、やり取りができるので、極力しゃべる時間を短くできればと思っています。

表紙のところの一番下に町長への手紙ということでQRコードを載せています。足りない部分があれば、これを読み取っていただければ、スマホでそのままメッセージを送ることができます。名前とかがなくても、受け取りますので、こういうもの使っていただければと思います。

町長に就任させていただきまして、バタバタとしながら過ごして、いつ来年度予算とか、いろいろな思いを形にするんだろうかと思っています。議員の立場のときも、3月になれば議会があって、新年度予算が出るんですけど、事業内容がわかりにくかったり、何でかな？と思っていたんですが、いざ当事者になってみますと、国が予算をつくって、12月、1月くらいに示される。それから県が出てくる。そういうものを受けながら町がやると、どうしても議論して、2月19日くらいには、3月議会の議運が始まるので、それまでというのと、どこで煮詰めるんだろうと。森田補佐がおられて、今日も一日話をしていましたが、今、町長査定ということで財政を見ていますが、制度設計をきちんとして皆さんのために新年度になったらすぐに事業ができれば一番いいんですが、難しいところがあるなと思っています。

ただ、私自身もそうですし、職員の皆さんにもお願いしていますが、まず今年度の事業をきちんと仕上げて、今の間に来年度の事業についてもしっかり考えて、4月になったら、議会で認めていただいた予算を皆さんのためにすぐに使えるように

できればと思っています。非常に時間がなくて厳しい中ですが、しっかり議論して進められればと思っています。

2枚目に今後取り組みたいことをたくさん書いています。その前に、ここに行き着くまでの思いをしゃべらせてください。財政については、再建という厳しい表現を使っています。何となく、大型事業も続いているし、人口も減ってくるので、大変だろうなと皆さんにはそういう思いを持っていただいていると思いますが、その大変さをどうやって伝えればいいのか、大変だということだけが伝わっていくと、生活に身近なことを何もしてもらえなくなってくるとか、若い人にとっては、この町にいても何もしてもらえないとか、ちょっと大変さの理解が、財政を何で再建するのか、改革しないといけないか、改善しないといけないか正しく伝わっていないと思っています。

今までどおり、皆さんにサービスを続けるために、また新しいことをする財源を捻出するためにも、まず今の状況を見直さなければいけない。皆さんのお家と一緒に出ていく分は増えていく、それは物価が上がるとか、買い物をしても高くなったなと思われるんだと思います。入るものがすぐ増えるわけじゃないということは、やり繰りをしないと、新しいことはできない。そういう意味で、人件費が上がるといっても、すべて皆さんにお願いするんじゃないくて、やり繰りの中で努力して得られたものをまた皆さんに還せればと思っています。

ちょっと理想は高いんですが、予算を組みながら本当に厳しいなと。それは、過去の道の駅を建てたどうこうという部分もありますが、それはそれで、きちんと見直しをつけて建てましたが、年数がかかったので、どうしても物価上昇の部分もありますし、これからの維持費というところもあります。いろいろな意味で、常にやり繰りを考えながらやっていかないときびしいかなと思っています。

何点かちょっと思いもあるんですが、よくあちこちでやってきて、農業関係とか耕作放棄地とか、山の話が出ます。鳥獣害も含めてそうですが、今年は米の値段も高く野菜の値段も高いので、もう少し、皆さんに意欲が出てやりたいんだけどということがあって、応援できればと思ったんですが、なかなか意欲が見られないかんじです。それほど地域が疲弊していたり、皆さんが年を取られたりという方が多いのかなと思います。

道の駅も新しくなって、どちらかというと、新たに何かを出そうという思いをもっていただければいいんですが、なかなかそこにつながらないので。いいチャンスなので、生産意欲だとか、加工だとか何かをつくって売ろうというところにつながれば、生きがいという部分もあるので、何か応援ができないかな。どういう形がいいのかなというところを今、考えているところです。

もう一点ほど、どこに行っても同じ話なんですが、人手不足というのは大きな課題です。福祉事業所でもそうですし、進出企業でもそうです。定住対策で企業誘致をした方がいいという話もあるんですが、そういうチャンスがないわけではないです。ただ、企業を呼んできても、働いてもらえる人がいないのが現実で、地元でも人手が足りないということは、まずはそこを何とかしないといけない。外国人労働者という話もたくさん出ています。来られた人をどうやってサポートするかという課題もあります。

矢上高校の卒業生と石見養護学校の卒業生、特に矢上高校は、町もすごく支援をして、定員を満たすために町外や県外からも生徒さんが来られていますが、そのままだ部分が地元ということになるので。せっかく邑南町に来ていただいたので、

大学や専門学校を出た後に、邑南町に就職してもらえないか。もしくは高校を出てすぐ邑南町で働くという道があってもいいのかなと思っています。邑南町で働いて暮らしながら、それをしっかりサポートする。学ぶ意欲があれば、それを支えていくということも。今は会社でも、うちの会社に勤めれば、こういうキャリアアップできます、経験が積めますというのを示していますので、町としてもそういう仕組みがあってもいいのかなと。

子育て応援ということでやってきましたが、高校生までの子育てはすごく負担が少なくなっているけど、どうしても進学率が高まれば、外に大学や専門学校に送るというのは親としては非常に大変なので、全てがそれでいいのか。選択肢として地元に残って、そういう中で、地域に支えられながら暮らしていく、キャリアアップしていくという仕組みがあってもいいのかなと思っています。それは、子育て支援の負担軽減もあるし、地域の人材確保というか。出さないという言い方がいいかどうかはありますが、考え方として必要なのかなと思っています。

今後、取り組んでいくことということで、たくさん書いています。今回、公民館単位で座談会をさせていただいています。私にとっても良かったと思うのは、一つは、それぞれの地域で集まりやすかったかなと思います。もう一つは、同じテーマでも公民館ごと、地域ごとの思いの違いがはっきりよくわかる。瑞穂でとやってしまえば、具体的に言えば、例えば小中学校の統廃合に対する考え方で、すみません、布施は小学校も中学校も学校がない地域。小学校はあるけれどというところと、全部温度差というか考え方がすごく違って、やはり皆さんの声を聞くという意味では、公民館単位でお話を聞くのはいいことかなと思います。

小中学校の統廃合も書いています。財政についても、人口についても、小中学校の統廃合も、もっと数字を出して示してほしいとか、財政だけで説明会をしてほしいという話もありました。今回もそういうことをしようかなと思いましたが、あまり数字を出すと結論が一つになってしまう。

具体的に言いますと、小中学校についても今の小学生は1学年が70人です。保育所になると、1学年が50人です。去年、今年に生まれているお子さんは40人です。そうすると、おのずと中学校一つでいいよねという議論になるので。決して数合わせで、小中学校の統廃合をしたいわけじゃない。教育の在り方として、どうなのか。地域なり、地区としてどうなのかということがあるので、あまり数字は出していませんが、非常に様々な面で厳しいところはあります。施設がたくさんあるのをどう維持するかも含めてではありますが、決してお金がないから統廃合という意味ではなくて、現実的な面で教育の在り方がどうあるべきかということです。

産業振興についても、以前から農業振興ということと、丸の下の方になるんですが、基本的にいい農地と悪い農地ではないけど、いい場所と悪い場所という言い方も変ですけど、区別せずに全てを残していきたいと思っています。特に、里山周辺部は鳥獣害もあって、そこは不便だから大変だからということはあるんですが、それをじゃあ、辞めましょうとなると、どんどん中心部まで山が迫ってきて、できる農地が少なくなる、鳥獣害の被害が広がってくるということになって、すみません、大変だと思いますが、何らかの形で周辺林地の管理を含めて、住環境も含めて総合的な対策ができればと思っています。

その他にもいろいろ書いてありますが、またお話をしながらできればと思います。その他のところに書いていますが、もう一つ、町長になって何とかしたいという思いは、いろいろな課題がそれぞれの課だけではできない。人口問題もそうですし、

教育の問題もそうです。住むことについても、自分の仕事が地域の課題でどこに結びついているのか、皆でやればよくなるんじゃないかとか、総合的な問題に対応していくかという意味で、職員の方にも幅広く、人の仕事も地域のこともそうですし、知ってほしいという思いがあります。

そういう意味で、その他のところですが、職員の副業を書いています。地域にもっと関心をもっていただきたいです。その前提で、公務員が副業をしてはいけないというわけではない。きちんと許可を受けてできる範囲であれば、やってもいいことになっています。お金をいただかなければ、地域の行事なりサポートをすることは何ら問題ないと思います。地域に関心をもっていただければ、役場の中の他の人の仕事にも関心をもってもらえるんだと思います。そうすると、自分の仕事をしながら、誰と一緒にすれば、この問題が解決できるのか。皆でもっと考えられるかなと思っています。そういう意味で職員の副業という制度をつくるなり、今の制度の中でできるか、もっと良くなるというのを考えたいと思っています。

もう一つは、定期的な住民の会の開催と書いています。今回こうやって開催させていただきました。また、財政だけでという話も昨日されました。一緒に考える場としてテーマを絞るのもいいかもしれませんが、女性とか仕事とかで分けるのもいいかなと思っています。町としては一緒に考えたいです。意見を聞かせてくださいというのが、一つあります。

もう一つは、いろいろな会を開くことによって、普段出てこられない人とか、見かけない人もこういう会に出ていただいて、一緒に何かをしたいという思いがあります。人材発掘というのは大げさですが、町としてもいろいろなご相談をしたいけど人がわからない。地域の人に紹介していただいても、町としても、こういう会に出ておられれば、「あの会のどこどこに座っておられた人だよ」と言われると、次に頼んでみようかという話が始まるので。ありがたいことに、この町政座談会も比較的、参加者が多いです。何に比較してかということ変ですか、以前をあまり知らないのです。間違いなく町議会の意見交換会よりは多いです。それほど関心をもっていただいたりとか、時期が寒い時期だったんですけど、よかったのかなと、家におられる時間も長い時なのでという思いもあります。工夫をしながら、たくさんの方に出ていただければと思います。

まずは非常に簡単で、話し足りない部分もありますが、こちらからの話とさせていただきます。この後、教育長が少ししゃべられて意見交換のやりとりに少し時間を取らせてもらえればと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは。教育委員会の大橋と申します。よろしくお願いいたします。まずもって、小学校、中学校のいろいろな活動に際しまして、本当にご支援をいただいております。特に、学校完結型の教育を目指しているわけではございません。地域と共にというのを学校としても全面に出していきながら活動させていただいております。本当にありがとうございます。併せて、公民館活動も同様でございます。いろいろな行事にも協力もいただいております。改めまして、お礼を申し上げます。

私の方から一点、お手元にカラー刷りのプリントを用意させていただきました。全面印刷がしてある方を上にご覧ください。今日お伝えしたいのは、コミュニ

ティスクールとは、一体何かというところをご説明申し上げたいと思います。

まずは、スケジュール感ですが、令和7年度の来年一年をかけて、いろいろ協議させていただきながら、熟議も重ねて、令和8年度の制度設計を目指していきたいと思っております。まず、これはどういうものかといったら、左中ほどに、コミュニティスクールとは学校運営協議会を導入した学校と謳っております。

では、この学校運営協議会というのは一体何かというところです。邑南町は、いろいろな意味で、学校と地域との関係性は良好であると私は感じております。もちろん、それはしっかりとベースになって、現在のところは、学校または校長先生のお考えを地域がしっかりと汲んでいただいて、いろいろな体験活動などに、協力あるいはアイデアを出していただいて、子どもたちのために支援いただいているという関係性でございます。そういった関係の中で、将来にわたってしっかりと制度設計をした上でつないでいこうということで、今までの活動を少しより充実させたものにしたいというのが運営協議会と思っていただければと思います。

右の方の四角囲みの一番上です。この協議会になったときの一番の目玉といいましか、大事なところは、学校の経営方針、運営方針を地域の皆様が承認していくという、承認の場が新たに出てきます。今までは、お願いされて協力体制を組んでいた形から、まずもって学校が進むべき姿を地域が認める。ということは、もうここで学校と地域が同等の立場でお互いに思いを持ちながら、子どもたちを育てていくというすっきりとした体制ができるというのが一番大きなことでございます。これが協議会の一番大きな役割だと思っております。

そのページの一番下です。では邑南町がというように書かせていただきましたが、少し時間が空きましたが、地域学校でも協力をいただきました。また、300人委員会、1000人委員会等の開催もさせていただいて、地域の思いをしっかりと明確にした上で、学校にもそれを伝えて参りました。そういった中での関係性がベースにあって、この協議会を充実させていこうというのが大きなねらいでございます。

裏面を見ていただければと思います。左に、導入した時のメリットを2つ書いています。まず、上の方ですが、これは学校から見たメリットです。つまり、学校は地域と共にある学校づくりを目指していくという一つの宣言だと思っていただければと思います。これは文科省が示しております学習指導要領の中に社会に開かれた教育課程というのが明確に謳われております。先ほども申しましたが、学校完結型の教育ではないというところで、学校にとってのメリット。

併せて、下の四角囲みは、今度は学校を核とした地域づくりということで、地域にとってもメリットがありますよということを示させていただいております。お互いにウィンウィンの関係で、この協議会、コミュニティスクールがスムーズに運営されるように来年度一年をかけて、いろいろ協議させていただきながら、先ほども町長が申しましたが、各地域に応じた特色あるコミュニティスクールを起ち上げていきたと思っております。

いろいろな場面、学習の場面も提供させていただきますので、その際はいろいろと意見をおっしゃっていただいて、より確実なものをつくり上げていきたいとおもっておりますので、来年度一年間、よろしくお願いいたします。以上です。

3．意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、続いて意見交換を進めて参り

ます。皆さんからご意見、ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、申し訳ありません。後ほどこの場の意見交換も会議録をつくって公開したいと思いますので、すみませんがマイクを使っていただきますようお願いいたします。その際は、一回のご発言で一つずつお願いできたらと思います。皆さんから一人でも多く、ご意見ご質問を頂戴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。それでは、どなたからでも構いません、よろしくお願いいたします。

- ○○です。お世話になります。いろいろと勉強してきたんですけど、町長が出された町政に関する6つの重点項目、議会でも所信を発表されて、いろいろとあるんですが、その中に一つないのが、地域振興というのがないんです。

これって何かいろいろあるのかなと。というのは、16年に合併して、合併する前からこの布施地域は夢づくりプランで一つの地域計画をつくって、それから今度は24年に地域再生事業、それから地区戦の実現、発展事業、20年間かけて、ずっときて、それなりのものがある程度はできておるんです。これも住民に浸透はしつつあると。それで、大屋町長は地域振興がないというのは、これだけ静粛しているのかなと、その辺を最初からお聞きしたいと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。確かにふれていないです。特に、意味があるわけじゃなくて、中村議員さんからの一般質問もあったり、その前にもいろいろ話をしたりする中で、基本的に今は、作野先生がつくられた地域コミュニティの再編や計画があって、もう大きな流れができていて、その中で動いていると思っているので、あえて変える必要もないですし、応援していくその流れの中に乗っているという思いがあったので、あまりふれていないというところです。

関心がないとか、そういうわけではないです。一般質問も過去にふれたことがなくて、得手不得手で言うと、ちょっと苦手かなというのはありますが。12月議会でも中村議員さんからそういう質問があったりする中で、理解しながら地域の活動はしっかりと応援していきたいという姿勢に変わりはないです。

- これは、とりあえずこの一問だけなんですけど、大きな流れができていているということは、この事業、地域づくりに関する事業がここまでで一つ終えて、この前、作野先生が出した地域コミュニティの検討会、今は地域運営組織をいかに地域がということで、井原は自治会をつくって地域運営組織に臨もうという心構えが今できていて、そこをあと11地区がどうかというところがあるんでしょうが。

そういうものは地域運営組織ってものすごく大きなもので、そこそこすぐに取りかかるより、いろいろな意見交換が必要なんですけど。大屋町政の中で、地域づくりに関わる事業は、こういうものを持ってこようとかいうのがあるのかなと。ということで。これは後で質問させてもらおうかと、そういうところでございます。

- 大屋町長 ありがとうございます。地域のことは、まず地域でというのはなしと、石見と瑞穂と羽須美で自治会や組織の成り立ちの歴史が違うのと、いろいろと話をしてみると、運営の会費の負担にしてもそれぞれに違う。ということで、まず一律ではやりにくいという話と、逃げるわけじゃないですが、それぞれの事情に応じてということ。

今回も、それぞれの地区でいろいろ話が出ました。ある程度自治会が合併して次に進むところと、最初から、出羽やこもそうです。自治会と公民館単位が一緒のところもあって、まず相談窓口をきんとして、それぞれの事情に応じて相談を受けながら、一番いい方法を考えていかないといけないかなと。敢えてこうし

ますというのは難しいかなと思っていますし。町が示した今までの方式でも現実的にはちょっと難しい。何がどうか、それぞれ違うので、相談も受けています。そう思うと個別対応で、ある程度人が揃っていると人件費かもしれないし、まずそこにいかないところは人を育てるところからかもしれないので、それぞれの実情に応じて、最適なものを相談しながらきちんと提示できればと思っています。

一方で、町がこっちの方向に行ってくださいというものでもない。それぞれの地域のやり方があるので、どういう方向でも対応できるように、思いにも応援できるようにという思いはあります。

- ありがとうございます。また他の方もいるみたいですから、ここまでお渡しします。

- 大賀総務課長 はい、ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- ○○です。一点、この地区はタクシーの補助券をもらって、利用する地区になっておるんですが、もっと利用の仕方に柔軟な対応をしてもらえないかと思っています。

私は、80代の方と60代の方から意見を聞きまして、80代の方は、怪我をされて運転ができないので、タクシー利用券を申請に行ったら、免許の返納をしないと利用券をもらうことができないと。また治ったら、自分は運転したいので、結局それを利用させてもらうことができなかったと話をされて、ああそうなんだと。

それと、もう一つ、60歳代の方は、事情があって軽自動車を手放されたんです。それで、交通手段がないので、タクシー利用券をいただきに行ったら、免許証を返納しないとあげられないということで、60代の方が免許証を返納されている実態があります。また自動車を持たれたときに、再度、自動車学校に行って20万円から30万円近く払わないといけなないので、それはもう少し利用券にあたっては考えるべきところがあるんじゃないかと、お二人の話を聞きましてつくづく思いましたので、ご配慮願えればと思います。以上です。

- 大屋町長 様子を調べて考えさせてください。お話の意味はよくわかりました。家族もいなくて怪我をして一時的に車に乗れないとか、何らかの事情で免許は持っているけど、例えば車がない場合とか、利用できてもいいんじゃないかという話ですよ。ちょっと、そこに柔軟な対応がどこまでできるのか。意味はすごくよくわかったので。

本来の目的はそういう車が運転できないとか、移動できないという方をサポートするのが目的なので、一時的にそういう事情になった人をどうするかということだと思います。ちょっと、担当課に状況を調べて、現状などいろいろ考えさせてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

- 布施2集落の○○です。誰も言いんさんから、ちょっと言わせてもらおうかと思うんですが。今、町長さん並びに教育長さんから、コミュニティスクール、学校運営協議会制度でしょうか、広報にもそのことが掲載してありまして、感心を持って読ませていただきました。

かつて、そういう制度ではないですが、町が児童クラブを設置したり、あるいは高原小学校なら瑞穂は瑞穂で、教員の経験があるないは別として、そういう関心を持っている人たちに委託されて学校評価委員会ですか。そういうもので私も校長さんと意見を交換させてもらったことがあります。そういうところから、学

校だけではなくて、地域、保護者、三者連合の教育づくりをしないといかんということで、大賛成だったんです。その発展で、合併する前の瑞穂町は、公民館を主体として社会教育ですね、その中でいろいろな地域の子もたちとか、大事にして育てる雰囲気というか、公民館活動としてもありました。その発展として、今、こういう形で新しい町長さんになられて、ちょうどいいと思われたんだと思いますが、それをもっと深めていきたいということだと思います。

それで、広報では、学校関係者とそれからその地域の知識者というか、そういう方とか、民生児童委員とか、そういう奉仕活動に関わった人たちとの委員会をつくって協議したいというようなことが書いてあったと思いますが、それもすごく大事だと思います。どういう形態で今後スケジュールをつくって、どういうメンバー構成でやっていけるんだろうかと。

それで、学校長、学校関係者ですね、あるいは知識者とか、そういう民生児童委員とか、その辺りのメンバー等というように書いてありますが、その「等」にあたるところがどのあたりまでいくのか。それで、地域によって違うんですよね。羽須美と瑞穂と石見とでは。地勢的にも違うし、風土も違うし、そういうときに、合併前の地域の関係とか、どんな形を考えられて、今後それをこの邑南町の学校運営協議会制度ですか、そういう形にもっていかれようとしているのかということに関心をもっていますので。

それで、特定の学校の先生とか、専門的な方が中心ばかりではなく、これから人口がどんどん減っていくし、邑南町をどう引っ張って未来に育てていくのかというときに、8千人くらいの地域になるという時代に、どういう形で、そこへ持っていかれようとしているのかという、その構想みたいなものがあればお聞きしたいと思います。いや、これからだというなら、そういうご意見があるなら、その辺も考えさせてもらおうというようなことだろうと思いますが、お考えがありましたら、町長さん、教育長さんに伺ってみたいと思います。

- 大橋教育長 ありがとうございます。本当に今から熟議を重ねていこうと思っておりますけど、まず委員構成につきましてご質問いただきました。基本的には、各地域でどなたを入れていくかというのは、お任せしていきたいと思っております。ベースにある一番は、学校と共に地域と共にということで、学校と地域が対等の立場で、子どもを中心に据えていただきたい。そうした時には、やはり当事者意識、あて職がいけないというわけではないですけど、そういった思いの持った方々にしっかり入っていただきたいと思っておりますので。これは一年をかけて各地域で議論いただければと思っておりますし。

もう一点、このコミュニティスクールを立ち上げた先には一体、という構想ですが、邑南町としてはまずもって、小学校中学校の接続をしっかりと意識していきたいという思いがございます。9年間で、義務教育最終の中学校3年生に、どんな力をつけていくのかというのが、一つ大きなポイントになるかと思っております。先ほど説明はしましたが、その協議会の一番大きなくくりとしては中学校区で、小中の関係者に集まっていいただいて、9年間でどうしていくのかというのを中心に議論いただきたいと。それが接続も含めて、地域の思いが伝わっていくのかなと今のところ、そう考えておりますので、そこを目指して一年かけていきたいと思っております。以上でございます。

- 大屋町長 私が町長になって、新たに始めるわけじゃなくて、先ほどの地域づくりもそうですし、教育もそうですけど、いい流れと大きな流れは変える必要はな

いと思っています。

〇〇さんがおっしゃったとおり、元々それぞれの地域なり、旧町村と町の中での思いがありながら、地域と学校が関わってきたので、その形を法律に基づいて、地域の権限が少し強くなるんですが、その代わり、思いが伝わるという話もされましたが、学校長が代わっても、地域の思いが常に伝わる。いい面は残していけるということなので、制度化したいということで議員のときから一般質問でどうですかと提案していて、教育長が2年くらい前に3月議会で表明されて準備をされてきていることです。

少しそれぞれの役割身分が地域の方はしっかりしてくるところがあります。大きく今までと変わるわけじゃなくて、それが制度化して皆さんの思いもしっかり伝わるという、いい制度だと思うので、町としても応援しながら、この仕組みが取り入れられればと思っています。

ちょっと雑談です。高校はすでに、ほぼこういう形になってきています。今度は小学校、中学校ということで。どこも地域と関わりながら、学校で学ぶというのが、受験勉強が変わってきているので、やはり地域の方にお世話になりながら、いろいろな学び、地域のことも知りながら関心を持ちながら学んでいかないと、これからは高校も入試が変わってきているので、社会が求める能力が変わってきているということで、今の時代に合った人たちを育てるという意味でも、地域の皆さんの力を借りたいということで、こういう制度を取り入れさせていただければと思っています。よろしくお願いします。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、どうぞ。
- 八色石の〇〇でございます。先ほどのコミュニティスクールに関連して質問と、思いをお話させてもらえたらと思っています。まず、質問ですけれども、中学校単位で学校運営協議会の設置と3ページに示してあります。以前も、教育長さんにも立ち話でお話させてもらっていて、小学校単位の方が実働的にスタートしやすいだろうと。つまり、ここでも地域学校ということで取り組んでおりますけれども、そのあたりは小学校とつながっていくのに、非常にパイプが強いと思っていますので、その辺り、実働的にスタートするのがいいんじゃないかなと思っています。質問として、それをどうお考えか聞かせていただければと思います。
- 大橋教育長 ありがとうございます。全国的に見たときには、小学校単位でのコミュニティスクールが、感覚ですが多いだろうと思っています。

一方で、これからまだまだ研究していかないとはいっていますが、ふるさと教育の見直しも併せて、今、検討させていただいております。先ほど町長も申しましたけれども、高校はすでにこのような仕組みを取り入れております。小学校、中学校、ひょっとしたら保育所等でも、自慢できる学びの場は邑南町にございますので、それを一つの串に刺した状態で送り出していくことが一番いいなと、そういった構想でふるさと教育の見直しを図っております。

コミュニティスクールは中学校区と申し上げましたけど、小学校も同じ土俵の中で、ある場面では小学校の校長先生のお考えを小学校の関係者で承認いただかないといけないというところで、若干、その線引きがどうなっていくのかというものの楽しみにはしているわけですけど、あくまで9年間を意識してやりたいというのが一番でございます。その中で、小学校をどうしていくのかというのを、来年度一年をかけて、いろいろなお知恵をいただければと思っています。以上で

す。

- 大賀総務課長 はい、どうぞ。

- 続いて意見を言ってもいいですか。

- 大賀総務課長 はい。

- 今年の二十歳を祝う式典がございました。そのときに、決意文を読まれた男性の方が、将来、教員になって邑南町に貢献したいとおっしゃった。非常にありがたいなと思って聞かせてもらいました。

町長のお考えのところも併せて、コミュニティスクールの良さとして、地域の将来を見据えた人材育成と書いてありますけども、やはり、これからの人口を考える上でも、将来の姿を考える上でも、端的に言う土地元の先生が土地元の子どもを育てるというスタイルが何とかできないかなと思っております。以上です。

- 大屋町長 教育長も人事面でも、いろいろな面でそう思われると思います。私自身も、改めて思ったときに、自分が小学校、中学校、高校で学んだ先生はほとんどいなくて、その保育所の先生だけなんです。今、いろいろ振り返って思うと、やっぱり、そういう先生がいてくれると嬉しいという思いもあるんです。

そう思うと、土地元の先生を育てないといけない中で、個人情報満載で話をしますと、実はうちの一番下が今度、先生になります。島根は落ちました。福岡は受けました。それで、やっぱりなかなか島根も競争率が。逆に都市部のすごく給料だとか、競争率も低いですし、すごく吸収力が高すぎて。島根も今、逆に囲い込みを見しているんですけど、県外から帰ってくると、枠が狭くなっている。島大とか県立大の生徒さんは優先枠じゃなくてもあって。非常にもどかしさを感じています。

ただ、ある程度経つと、帰ってきやすいというのは島根の教員採用も、ちょっとびっくりしましたが、3月31日までに出して、面接だけで5月くらいにやる試験もあるので、いろいろな方式を紹介しながら、土地元の先生がいるというのは非常にうれしいので。

今、高校とかいろいろな教育の中で、皆さんそう思って先生になるんだけど、都会に出るんだけど、帰って来られないという事情が非常にあるので、そこは。島根は石見枠もあるので、そういうのも見ながら、またいろいろ教えていただきながら、まずはターゲットを絞るのもいいかなと、今、話を聞いていて。

まず先生と言えば、奨学金も医療福祉とかもやっていますが、ただちょっと長くなってすみません。帰ってきて、実質5年間おれば償還免除になるんだけど、5年間だと短すぎるのかどうか。5年間経てばノルマを果たしたにもなるので、町がどういう応援をすると、この町にと思ってもらえるかも含めて、ちょっといろいろ考えさせてください。また相談させていただければと思います。ありがとうございます。

- 大橋教育長 ありがとうございます。ちょうど来年4月からの教職員人事の真只中でございます。詳しくはなかなか言えませんが、土地元の先生にかなりお帰りいただいたと思っております。今、どうしても先生はブラックであると、非常に厳しいというイメージがついておりまして、働き方改革というふうに言われております。

教育委員会としては、まずもって人材育成も去ることながら、学校現場の厳しさを少しでも和らげていく、いろいろな施策も考えていかなければいけないと思っております。そういったイメージの払しょくも併せて、我々の業務としてやっ

ていかなければいけないと思っております。もちろん私もいろいろな手を尽くしながら、地元の先生を追っかけさせていただいておりますので、またいろいろお知恵をいただきながら。あるいは地域で先生を目指してみたらというようなお声がけもいただきながら、将来を見据えていきたいと思っております。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。○○さん、いかがですか？

- すみません、布施1集落の○○です。提案を一つしたいと思うんですが、その前に、エアコンがひと月、ふた月前まで壊れていて、直していただきました。大変ありがとうございます。私の持ち物ではないんですが、ありがとうございます。ついでに言えば、事務室の暖房も壊れておりますので、次の機会によろしく願いします。まあ、私の持ち物ではないんですけど。

提案が一つです。私は長らく農業に関わってきておりまして、農業関連の提案です。結論を言えば、2回目の大きな圃場整備に取り掛かるべきではないかという提案です。理由は、私は今、アグリサポートおおなんという合同会社に勤めておりますが、特に今回、中山間の直接支払いの切り替えになります、この3月、4月のところで。それで、これを境に法人経営が難しくなってきた、ちょうど今回が区切りなので、法人を閉鎖しようかというようなところも出てきております。

それで、瑞穂地域でいうと小林集落は、市木の方の個人の大型農家さんが入っておられました、おそらく3分の1から、半分近い面積をカバーしておられたはずなんです。その方はもう市木の方で手一杯なので、小林集落からは撤退すると。それで、小林集落にはもう跡継ぎのいる家はほとんどないので、しかも、他から入ろうと思っても、そういう希望者がいないという状況で、うちの会社にお願いに来られたんですが、うちの会社も手一杯持っていて、お断りをしたんです。それで、この4月から、7年度作がどうなるのか心配は心配なんです、他に手段がないので、お断りをさせてもらったということがあります。

ひょっとすると、そこは荒れていくのかもしれませんが。やっぱり今、特に千数百ヘクタールあるんでしょうが、主にこれを維持していこうと思うと、稲作しかないですよ。例えば、園芸をやっても果樹をやっても、面積的には大きなものではないので、これだけの面積をカバーするとなると、やっぱり稲作をやるしかない。

それで、今の稲作は10アールでいうと、2万円程度しか所得が上がらないはずなんです。そうすると、若い人が専業で稲作農家になって、所得を4、5百万円でも稼ごうとすると、20ヘクタールくらいを一人でやらないとそれくらいの所得にならないということです。今のうちの形状で、20ヘクタールを一人でカバーできるかという、とても不可能です。

それで、前回の圃場整備が昭和40年代の後半から60年代くらいまでやったと思うんです。その頃は、機械化も少しずつ進み出して、鎌からバインダーに、手上から二帖、四帖の歩行型の田植え機に。ということで、その頃の圃場整備の形状でちょうどいいくらいの機会化が進んできたんだろうと思うんです。農地形状は、40、50年前のままで、機械だけどんどん性能が良くなってきて、しかも大型化していますので、今の形状には見合わない。

特に先ほど言いましたように一人で20ヘクタール経営しようとする、今のスマート農業機械、大型機械を導入してGPSや自動運転をフルに活用してやっ

と20ヘクタールできるかどうかだと思っんです。そうすると、例えば可能な限り、一区画を50アール程度に、急傾斜地でも何とか30アール程度にまとめて、のり面はどこかの端に追いやるといような方法を取るしかないと思っんです。

併せて、昔の圃場整備は、区画は区画、有害鳥獣は別の事業で有害鳥獣というように分かれていましたけど、今からは区画整理に合わせて有害鳥獣対策もやり、それから水管理も手でやらざるを得ないところもあるんでしょうが、かなり機会化できるものが出ておるようですので、そこまでを含めて区画整理、圃場整備を行うことによって、一人の農家が4、5百万円の所得を得るようにする。そこまで持っていかないと、農業に従事する人はどんどんいなくなるばかりかなと思っます。

結論を言えば2回目の大規模な圃場整備をしましょう。これをやると、邑南町はたぶん30年くらいかかるんです。それを一気にやる必要はなくて、そういう条件不利を抱えているところからやる。例えば、瑞穂で言うと、元氣館まわりは放っておいても入り手があるので、そういうところは後回しでもいいと思っんです。ないところから順繰りで、石見でもそういうところは端の方にはたくさんあると思っるので、そういうところから順番にやっていくと、30年かかりでも将来、もうちょっと夢があるのかなと思っます。すみません、長話で。

- 大屋町長 ありがとうございます。最近、そういう話がたくさん出てきて、出てくるんだけど、小規模でも自己負担が2割、3割という事業はいっぱいあるんだけど。結局、儲かる儲からんと、土地に価値があるかないかということなので、昔みたいにまず自己負担は出してもらえない、できない。ましてや、自分の土地ならいいけど、預かっている土地や借りている土地とか、委託を受けている土地はできないので、自己負担のある圃場整備は難しいだろうと。

ただ、集約すればするほど、自己負担がなくなってくるので、集めて大規模にすれば自己負担が少なくてできるだろうと。じゃあ、誰が集めるの？という話になって、そこが今。この前に、福井県議もそういう話をしたり、今度は県の土地改良か何かで会議があるので、建設課長がその話をしてくださいという話があった。

それでさっき言われたとおり、本当に冗談話ですよ。例えば集約するのに、奥の方と言われたら、谷ごとの一番奥の、さっき言った一番不便なところを、ここ1ヘクタール、ここ1ヘクタールとやって、10ヘクタール集まったので、やってくれませんかというのは難しいんだけど。邑南町でいうと、どちらかというと。○さんの話もそういうことじゃないですか。本当にやれんところを集約しても、2反、3反しかないけど、それを集めて全部一気にするとか、ちょっと考え方を変えてもらわないとできないかなという思っちはあります。

あと、ちょっと雑談です。今ずっと農業に関わっていて、今、法人が10年くらい経って、中山間をきっかけに辞めるとあるじゃないですか。補助金も機械も何もかも長く農業をするような仕組みにはなっていない。最初はお金があるけど、更新するときにはない。結局、みんな10年くらいで辞めるといのは、そこなのかなということもあって、長くできる仕組みも考えなきゃいけないだろうし。

あとは、本当に相談と悩みですが、ほぼ悪魔の循環で、さっき言われたとおり、所得を上げようと思っくと、圃場整備はしないといけない。機械も大きいものを買わないといけない。機械の大きいものを買っくと、どんどん良くなるから、機械代がかかるから、また面積を増やさないとけない。何かこう、悪魔の循環みたい

に、一人で作業をするために投資をした。その投資を回収するために面積を増やした。益々休みがなくなるから、もっといい機械がいる、みたいな。どこでいうのもあるんですが、その辺も含めて、投資と収益のバランスとか、長くできる仕組みとか。

どちらにしても圃場整備は、土地がいっぱいあるのに、考え方で、さっき言われた、逆に機械でのり面ができるような仕組みでもいいし、畔を広くとるとか、あるんだと思います。つくってもらって収益を上げるということと、まず管理してもらえることに対して少し応援するというのもあると思うので、ちょっといろいろな面で、思っていますが。いつも言うんですが、これだけしゃべると副町長もおられるし、職員もおられるし、誰かがみんなで考えてくれるかなと思っていますが。地域として、これだけの課題があるので、さっき言われた区画を大きくして圃場整備をして有害鳥獣をセットでと言われたように、そういうことにみんなで知恵を出してできれば一番いいと思います。すぐにできる話ではないかもしれませんが、何となく、地域や皆さんの共通認識になりつつあるので、いい方向に進められればと思っています。ありがとうございます。

- さっき言われた、谷で頑張って予算をつけてつくった田んぼが2枚で30アールしかなかったというような所はさすがにね、それはやれんと思うんですよ。切らざるを得ない所もあるので。
- 大屋町長 切っちゃうと、その下もダメになるという。ちょっとやり方はいろいろあるし、それは集約の仕方です。
- 早く取り組んでいただきたいと思います。生きているうちに。
- 大屋町長 今のでいうと、布施はこの辺はいいところなので後でもいいということですか？ではないですよ。
- そりゃあね、担い手のないところ、土地がどうかよりも担い手のいなさそうなところからやらないと、外から入ってくる人がいない。
- 大屋町長 それと、個人の今までは集落営農でずっと来たので、個人の人を応援してこなかったのが、いざというときに行ってやってあげるよという人がいなくなってきたというのもあるって、ちょっと集落営農とか個人であるとかも、ちょっとバランスを取りながら考えさせてください。ありがとうございます。
- 大賀総務課長 はい、ありがとうございます。他の方がでしょうか。
- 質問は2回目ですけど。産業振興と財政再建の重点項目に入れておられて、その産業振興、医療福祉サービス充実で、雇用の確保だとか、資格を取らせるとか。それから町の社協のデイサービスとか、石見地区で今年度に閉鎖すると。それから、福祉法人だってマイナス経営とか。非常に大変なものがあるし、それから財政再建というか、財政規模69億円。それにプラス起債とか借金を払うためには、100億円。でも5年度は160億円くらいだと。かなり厳しいというのはこの数字から読み取れるのと、7年度は100数億円、結構な数字では払わないと、198億円と書いてあるんですよ。

それで、町の各職員には事業を見直しをかけておられますよね。これは守りだと思うんですけど、守りばかりやっても職員は意気消沈しちゃうだろうから、逆に守りと攻めもやらないといけん。結構まだ8千人から9千人近くおられますよね。それに12公民館地区を生かして事業を進めていると。守りも必要だけど、攻めの事業もどんどん職員に働きかけながらとってきた方が。邑南町は結構ネームバリューがあって、いけると思うので。そこの辺はどうなんでしょうかね？今

の町長や教育長では。

それから今、小学校が8つあって、びっくりしたのが統合を2年間いろいろなことを考えて今後と言っておられました、それは何でかなと思ったら、市木が9人、それと日貫が。いわゆる特任の学校にしても、やっぱりそれ以外の所から子どもさんが来ても、やはり人数は増えないんだな、だからこれをというところに、8つをいくかにするかというところもあるんでしょうが。でも統合というのは、先ほど言っておられた教育の豊かさがという、いろいろな特徴があるので。でも地域にとっては、学校がなくなることによって衰退するのは確かなんですよね。その辺りも非常にコンビネーションを考えないと。さっき言ったコミュニティスクール、これも地元の思いを強くと言っておられましたよね。だから、そのかみ合わせが今後非常に難しい課題もあるでしょうし。

先ほどに戻りますが、攻め守り、この辺をちょっと聞かせていただきたいと思います。以上です。

- 大屋町長 財政が厳しくて何とかやり繰りをして皆さんのためにと話をした中で、就任して最初に、職員さんや課長会議でも同じ話を何度かしたと思います。民間であれば、やり繰りをした、何か努力をした、利益が出たというのは、会社と株主さんと従業員さんのものみたいです。じゃあ、町がやり繰りをして、財源を何とかやり繰りする。もしくは、新たな財源を見い出したら、それは誰のためかと言ったら、職員の方にも話をしたんですが、給料として職員に返すことはできない。であれば、町民のために使うべきであって、自分で何をすると一番いいのか。今の仕事で、こういうことをするといいと思うとか、その皆さんの思いを形にしてもいいですと言っています。

それは、今度は町民としてその利益を受けてくださいという話をしています。なので、攻めの部分だと思いますし、明かな攻めは、今はちょっと財政が厳しい中で、ネームバリューと言われたように、もっとふるさと納税を努力しないといけないかなと思っています。企業版のふるさと納税もあります。ありがたいことに、町長の立場で、ふるさと会で広島や東京に行く。来られている方は会社を興された方もいますし、さまざまな勤めをされて、知り合いの多い方もおられます。アピールの場なので、そういう場でふるさと納税をお願いしたいですし、企業版では、企業は地域貢献だと意外と数十万円単位や百万円単位でいただけます。そう思うと、それぞれの知り合いとか、町が今まで関わった会社の方をお願いする、郵便を出すだけで、来ないかも知れないけど可能性はあるので、そういうところはすごく努力をしないといけないと思っています。

学校の統廃合を少しふれられました。人数ではないというところと、一方で施設の維持、お金かという部分もありますし。ちょっと最近強く感じているのは、それぞれの学校の大小ではなくて、今のお子さんたちを様々な形でサポートしようと思うと、予算も人も必要です。先ほど学校の先生の話もあったんですけど、この町にサポートする予算をつけたら、人が来ていただけるかといったら、人はいない。と思えば、やはり統廃合をしないと、それぞれのお子さんに合わせた良い教育やサポートが十分にできないんじゃないかという不安を持っています。さっき言われた学校と地域のことで、学校がなくなると地域が廃れるという話になると、布施がそういう経緯だったのかちょっとわからないですが、そういう認識もあったんです。

現実には今、来年度以降の総合振興計画を立てる中で、人口とかを見た中で、必

ずしも学校があるなしと地域の人口が減るというのはリンクしていないです。日和は、日貫よりも人口は少ないですが、若い人の割合は若干高いとか。先ほど言われた、この地域としても学校の関わりもあるので、必ずしも地域振興と学校は別かなとちょっと思っています。

ただ、進める手続きとすれば、来年度、教育委員会にはより良い教育を提供するために学校はどうあるべきか。地域みらい課には、さっき言われた地域と学校の在り方、全く違う側面からいろいろな検討をしてくださいますと言っています。それが、思いが正しいかどうかもありますし、統廃合と地域がどういう関わりになるかも調べながら進めていければと思います。答えになった部分と、ならない部分と、足りない部分があったら、また言ってください。

- 布施地区は、学校がなくなったのは昭和32年に、瑞穂町に合併して布施小が一部は変わって、それが高原に移ったというところで、その辺は十分に。学校は高原というものがあるから、庭にあるから学校がないから廃れるというより、逆に言ったらいいものがどんどん出来上がっているかなと私は思っています。

それともう一つ、すみません。地域おこし協力隊とありますよね。今、ホームページを見れば、20名近くの方がこの邑南町に入っている。それで総務省の7年度の予算が、今度はもうちょっと所得がアップしてというように。それから、一人の人にもお金が上がるし、団体にも。地方自治体がこれを受けるようになっていますよね。だから逆に言ったら、20名だろうが何人だろうが、結構必要なところが出てくるんじゃないかと。

一つは、地域運営組織を12地区が動くとすれば、地域マネージャーというのが必ず必要に。その地域の人がやればいいんですが、地域の人はいろいろなしがらみがあったり、動きがそれほど振るわないのかもしれない。だから逆に言ったら、今、地域マネージャーって各県にはいろいろあって、能力の高い方が結構、受けていますよね。それって今さっき言われた邑南町のネームバリューが結構あるので、強く打っていけばということも。それは地域づくりをちょっとやってみて、そういうふうになりました。というところでしょうかね。

イノベーターが今日締め切りなんです。2名です。イノベーター自体は今、2人ほど入っておられるのかな。だから本当にイノベーターというのは非常に大切なポイントだと思うので、その辺はいろいろなことで進められたらいいかなというところで、ちょっと聞きました。

- 白須副町長 ありがとうございます。副町長の白須です。先ほど、〇〇さんが言われた地域マネージャーで、地域おこし協力隊が活用できないかというご意見でした。実は、さっき紹介してもらいましたが、地域イノベーターという形で募集をかけています。今、募集をかけている地域イノベーターというは、将来的には地域支援員、マネージャー、集落支援員なり、そういったところに将来的には就いてもらいたいという思いで、今、募集をかけております。

まだ応募があったかどうか確認していないんですが、そういった形でしっかりと地域おこし協力隊をつかって地域づくりの面でも人材を確保していこうと考えております。よろしくお願いします。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。
- 大屋町長 若干、ご相談というか、いろいろ思いがあって。今、地域おこし協力隊は先ほど言われたとおり、月26万円くらい、年間で300万円くらいになります。昔に比べれば、100万円くらい上がっています。非常にいいんですけど、

地域おこし協力隊の方は、理想は3年経ったらこの町に残って、何らかの形で地域に貢献するなり、生活をしてほしいです。ただ、自力で地域おこし協力隊のときくらいお金を稼ぐのは非常に大変なので。ちょっと審査を厳しくさせてもらっています。先々、この町に残っていこうとか頑張っていこうという思いがあるかどうかを見ながら、この町で生きていけるかというところも思いながら。

ただ、町長自体はこういう面接に関わらないので、そういう思いの中で地域の人に見ていただいて、この人なら育てられる、支えられる、意欲があるというのも見えていただきながらやろうと思うので。応募があっても、若干いろいろな事情でお断りすることもあります。来ていただいたけど、合う合わないとか、3年経って、この町では生活できないと思われるなら、最初からお断りした方が本人のためかもしれないという思いもあって。それがまたどうかという皆さんの思いもあるので、そういう事情も汲みながら、いろいろな地域おこし協力隊の制度をどう使ったらいいかと、またいろいろ教えていただければと思います。ありがとうございます。

●大賀総務課長 はい、他の方はいかがでしょうか。

○ 布施1の〇〇といいます。ちょっと難しい質問でなくて申し訳ないんですけど、除雪の件でちょっとお聞きしたいんですけど。今、布施に1台、除雪機械があるんですけど、結構、脇道が多くてなかなかスムーズに除雪をしていただけないんです。それで、今、ここには布施の1と2があるんですけど、もう1台用意してもらって早く取ってもらえるような形には。

これは地域で協議するものなんでしょうか。町に質問するものなのかどうか、わからないんですけど、どうなんでしょう。

ただ、ボランティアで福祉のことをしていると、病院へ行ったり、買い物に行ったりするのに、除雪していなかったら車が入らなかったりするので、どうかと思って質問させていただきました。

●大屋町長 ありがとうございます。話の雰囲気からすると、除雪車はあるけど、オペレーターは地元の人じゃなくて、他所の地域から来られるかんじですか？

○ おられますけど、思いは違うんだと。自分だけの順番があるって言ってたんで。支援をしなきゃいけない日がわかれば、そこを先に空けるかどうかということにもなると思うので。そこは地域と〇〇建設の管轄で動いているんでしょうけど。そこをつなげる人がほしいんですよ、そういうところに。

●大屋町長 ありがとうございます。そういうご意見を聞きながら、正直なところ、もう一台用意するのは、リース代とかがすごくかかるのと、いつも予算の時にも言うんですけど、お金の問題は頑張れば何とかできるけど、オペレーターとかやっていただける方が確保できるかどうかという問題は、別になってくるので。今はそちらの方で非常に苦労するので。地域と上手くつなげながら、曜日によってか、ルートを変えてもらえるかというのは、また建設課にも話をしてみるの。早くしてくれとか、そういう話ではないので、利便性が高まるようにということなので。一日かかる中で、どこからという話したと思うので、そういう話なら相談できると思います。一度聞いてみます。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○ 除雪の件ですが、今、八色石は県の除雪車が通った後、両サイドからものすごく雪ずりがして、ちょっとのことではできない感じで。昔は融雪ですぐ流してもらいよったんですが、高齢になってできないので。

そこで、八色石地域に今の除雪車を運転する資格を持った方がおられるので、これが簡単に利用できるなら、利用してすぐ取れば楽なんだが、どがあなんだろう。どういう関係で利用したりすることができるんだろうかと言って聞かれたことがあるので。空いている時には利用できるのか、それとも全然利用できないのか、その辺りをちょっと教えてもらいたいです。

●白須副町長 八色石に機械があるんですか。

○ いや、ここの機械を。

●白須副町長 なるほど。ちょっと詳しくは確認してみないとわからないんですが、県道ということもありますし、それから、オペレーターで管理をしていただいている方がいらっしゃいますので、ちょっとその辺は確認をして。そういった要望があったということを建設課に伝えておきますので。

●大屋町長 それと、話の始まりは、県道なので県が除雪するんだけど、その後に空き家とかいろいろな家の雪がまた落ちてしまうんですね。ということもあるんですね。261でもそういう場所があったりして、矢上の町の中もあったりして、除雪した後に落ちたのは家の責任なのか、そのタイミングなのか。ちょっとその辺もあるので、いろいろ相談させてもらったり、考えさせてください。事情はよくわかりました。ありがとうございます。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。

●大屋町長 些細なことでも、こうやって歩かせていただいて、さっきこのエアコンがという話も聞いたんですが、自分たちでは気づかなかったこと、外のことでもそうですし、こちらの立場になると見えるものが見えなくなったりするので。皆さん、些細なことでも、こんなことって言われることでも大事なことであったり。以外とその話が他でも出たりするので、どんなことでも結構なので、お話いただければと思います。

●大賀総務課長 いかがでしょうか。

○ すみません、目が合ったもので。布施1集落の〇〇です。自治会の事務局をさせていただいております。今だんだん人が少なくなって、高齢化が進んでいくので、地域の組織の在り方というところで、自治会の中でもどうしたらより少ない人で必要な手立てを回していけるのか検討をしています。

片や、地区別戦略も今年度が最終年度ということで、今後に向けてどんなふうにも今まで頑張ってきてきたことを続けていこうかという検討に入っております。たぶん、近い将来になると思うんですが、地域運営組織の検討もしていけないといけない時期がくると思っています。

この少ない人口の布施地区にとって、公民館は人が常時おられて、すごく頼りになる存在だと皆さんは認識しておられます。そういう頼りになる公民館が今後、地域運営組織を検討するときに、どういうスタンスなのか。あるいは、どういう役割を期待していったらいいのかというところは、何か検討がなされているものでしょうかというところを聞きたいです。

●大屋町長 そういう話が少し出始めています。地域の運営組織と先ほど言われたように人を配置して地域のことをする人と、公民館の人がどう違うのか。そこにそれだけの人がいるのかと言ったら変ですが。公民館の人が地域をサポートしてもいいとは思いますが、公民館とはちょっとその辺りが一般的な見方と法律の違いがあったりするんですけど。地域のことは地域。公民館は社会教育としてということで、体制的には増える。ただ、無駄と思われるか、そこなんだと思いま

す。

もう一つは、公民館を統廃合しようという気は全くないです。当然、今のまま、それぞれの生い立ちがあるので、人数の多い少ないは関係ないと思っています。ただ、人員配置はちょっと考えなきゃいけないかなと。今までのように館長さんを除いて二人は、将来的には厳しくなるかなとは思いますが、それは、地域運営組織をつくっていただいたからいなくなるだろうという意味ではなくて、それほど人員配置が町も難しくなってきたということで、別のこともあります。

- 大橋教育長 この後にコメントをするのは、なかなか難しいんですけども。教育委員会としましては、地域コミュニティの在り方という答申を町にいただきました。その中では、社会教育、人づくりという領域はとても大事であると。それを土壌にしていけないといけないというのは、共通認識です。建物の中に社会教育という機能は必ずや残していこうと。人づくりということは、必ずマンパワーが必要になって参ります。そういった意味での配置というのもありますし、今、町長が申しましたように、地域づくりという面でのマンパワーも必要であろうと。そういった中で、構成は今後、検討していけないといけないとは思っておりますけど、機能は必ず残していきたいという思いは強く持っているところです。
- 大屋町長 もう一点、思い出しましたという話ではないんですが、最初に〇〇さんにも言っていたんですが、地域コミュニティの在り方の中に、役場の組織の見直しというか窓口の一本化というのもあったと思います。それぞれの課で聞くんじゃなくて、どこかに聞けば地域のことがわかる。それは当然していかなきゃいけなくて。今、組織の見直しはできれば2年をかけて考えさせていただいて、2年後という話をしています。

それは、就任した直後に、短時間でするのは、ちょっと難しい。十分に皆さんの声を聞きながら、課の名前も含めてどういうものが一番いいのか。今日は出ていないんですが、課の名前が長くてよくわからないというのは、実はたくさんでています。2年待ってくださいと言うと、最初の頃は、まあ2年かと言われていて、最近は2年もかと言われ出すので、組織の再編も2年より1年かなと。ちょっといろいろ思うんですが、皆さんの期待からすると、もう少しスピード感を持って、組織を変えて、名前も変えないといけないなと思いつつあります。

その辺で、少し形は違いますが、地域の方の応援ができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

- 大賀総務課長 はい、ありがとうございます。たくさん意見やご質問をいただきました。最初をお願いしましたように、終了予定を8時としておりました。間もなく8時となりますので、このあたりで閉会とさせていただきたいですので、閉会にあたりまして白須副町長からごあいさつをお願いします。

3. 副町長あいさつ

今日は長時間にわたりまして、ありがとうございます。他の会場と違うのは、すごく近くて、町長も心のありのままを今日はいろいろしゃべられたところもありました。

非常に財政が厳しいという話も冒頭に町長からさせていただきました。ちょうど今、予算編成をしていますが、例年、新年度の予算編成をするときに、町長から来年度は、こういったことを重点項目で予算編成をしようという方針を示されるんで

すが、令和7年度につきましては、財政再建そのものが予算編成の基本方針となっております。

今日は、町長査定の段階でございますが、各課でいろいろな見直しをしております。新年度になりますと、少なからず、皆さんの生活や事業活動に影響があるところがあると思いますが、そこはしっかりと職員から、こういった理由でこういったところを見直すという説明をさせていただきたいと思います。その際にはしっかりとご意見を頂戴したいと思います。ご意見をその次の年の予算編成に生かして参りたいと考えております。

それから、中長期的に見ましても、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの再編などを進めております。こういったことにつきましても、皆さんと情報をしっかりと共有して、協働の立場で一緒に取り組んで参りたいと思いますので、いろいろな意味でご理解とご協力をいただければと思います。

本日は、天候の悪い中、こうして遅くまでいろいろご意見、ご質問をいただきましてありがとうございました。お帰りの際には、くれぐれも事故のないように気をつけてお帰り頂きたいと思います。簡単ではございますが、閉会にあたりましてのごあいさつとさせていただきます。本日は、ありがとうございました。

●大賀総務課長 以上をもちまして、閉会とさせていただきます。気を付けてお帰りください。ありがとうございました。

町政座談会（市木地区）

日 時 令和6年2月6日（木）
18：30～20：00
場 所 市木公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。大変寒い時に集まっていただきまして、ありがとうございます。町長に就任させていただきまして、何とか毎年度、皆さんの元にうかがって、声を聞かせていただければということで、町政座談会を企画しましたが、どうしてもこの時期しかなくて、一番寒い時期ですが何とかできればいいかなと思っています。昨日の田所は、雪のために中止しました。明日も最後の高原ですが、18日に延期させてもらいました。なかなか難しい時期でもありましたし、今日も非常に寒い中でこうやって出かけていただきまして、大変ありがとうございます。

各地区公民館単位でまわりまして、10カ所目になると思います。私たちにとっては、こうやって皆さんの元に出向いてお話を聞かせていただいて、大変良いと思っています。その一つは、町の課題であるとか、いろいろな問題に対して、公民館単位それぞれの地域や地区で、思いがすごく違うんだということがわかりました。そういう声を聞きながら、また改めて考えないといけないことはたくさんあるかなと思います。

今日、少しお話をして、具体的に書いていますが、できれば極力、皆さんとお話をする時間をつくらせていただければと思っています。話の時間が短かったり、後で家に帰ってやっぱり聞きたかったなと思うことは、次第の下に町長への手紙ということでQRコードをつけています。お名前を書いていただかなくてもメールを送ることができます。今、何通か来ている中で、匿名の方もあります。その中に、この場の雰囲気良かったので、今まで思っていたけど言えなかったんだけど、メールだし書きやすいのということで、何通かいただいております。また活用していただければと思います。

この自治会の皆さんからは毎年、町に対して様々な要望をいただいております。十分お応えできなかった部分があるんだと思います。疑問点等がありましたら、改めてこの場で聞いていただければ助かります。

町長就任から、今、ちょうど来年度予算を作成中です。非常に町が大変だなと思うのがお金云云より、まず国が予算を立てられて、県がされて、その後の町になるので、どうしても国とか県の流れが分かってから町の予算を組もうと思うと、最終的に行うのが2月になってしまう。3月には議会が開かれるので、本当に短い中で調整して、皆さんに対して示さなきゃいけないというのは大変だなと思っています。ただ、新年の職員さんに対してのあいさつでも、行政は年度区切りなので、今年度の事業はしっかり仕上げていただいて、併せて短い時間になりますが、来年度の予算もしっかりとって、4月には新年度の予算がすぐに動かせるように、まずそれをしないとずるずるいきますし。

最近、様々なところで話をしているのは、町の課題を来年度の予算を組んで最初にできないことは、次年度にしないといけない。8年度にしようと思うと、ものによっては、すぐ決断して皆さんに7月8月に示して、9月には議会にも方針を示さ

ないと、次の年度のことはできない。大きなことは変えられないということで、非常に町にとっても今年度から来年度になりまして、夏までは非常に慌ただしいのかなと思っています。

その慌ただしい原因が、やはり世の中が大きく変わることに対して、あまりに今まで町が対応できていなかった。今までが悪いというより、想定以上で。例えば、物価高もそうです。町にとっても電気代や光熱費の値上がりは非常に大きいですし、民間の方に対しての公共事業の予算についてもそうです。県は、積極的な財政を組みますと、福井県議の県政報告会でもいただいています。事業費を2割、3割増しにしないと、同じだけの仕事ができない。県が積極的にそこをカバーするというふうに出されると、必然的に町もついていけないといけなないので、町負担が増えるということで、そこをどうやって捻出するのか。人口が減る中で、皆さんの家もそうだと思います。例えば、年金が大きく増えるわけじゃない。所得や給料が大きく増えるわけじゃない中で、出ていく方は増えていく。そのやり繰りをどうするかだと思います。そのやり繰りの積み重ねの中で、どうしても表現は財政が厳しいですと言うと、大変だから何もかもしてもらえないとか、しわ寄せがあるんじゃないかということもあるんだと思います。やり繰りをして、できるなら今までどおりのことを続けたいと思っています。

ただ、一緒に考えてくださいという意味なんですけど、邑南町は何もかも無料にしてきた。副町長や教育長にも初めてする話ですが、最近ちょっと思ったことです。非常に、経費が上がる中で負担が増してくる。本当にいいのかなと思っています。例えば、皆さんが公民館を使われるときにほとんどお金は必要ないですが、維持費はどんどん上がってくる。保育料とか医療費についても、無償化してきたけど、その負担はどんどん増している。国からしていただけることはありますが、継続して将来にわたって、今以上のことを何かしたいと思ったときに、本当に今のままでいいのかなと。このまま町として住民サービスが続けられるのか。新しいことをするためにはどうすればいいのかということをしごく悩んでいます。新しいことという中に、社会の構造が変わる。

例えば、教育でいうと、今までは一つの教室にいた子どもが、その中にさまざまなお子さんがおられる。外国人の方もおられるようになりました。じゃあ、新しくサポートが必要だけど、その財源はどうするのか。学校に行きにくいお子さんに対してどういうサポートをしていくのか。一人一人に目を配ったときに、そのお金をどうしていくのか。これもすみません、統廃合の話が一緒というわけではないですが、新しい取り組み、新しい社会の変化に対して、どうするのかということに対して、非常にこれから苦慮しなきゃいけない。

そういう中で、今まで何もかも無料にしてきたけど、それが本当によかったのか。今さら変えられない制度もありますし、非常に難しいんですが、そのバランスと取らないと、これからサービスが続けられない時代になってくるかなと思います。

行財政改革とは言っていますが、やはり町として成り立つために、皆さんにサービスを続けていくためのやり繰りであって、まずは町の中の話であって、極力皆さんには直接的に負担が出ないようにとは思っています。負担の仕方というのもまたお願いの仕方については考えなきゃいけない時期がくるとは思いますが、まずは来年度予算をとっているところで、今進んでいるところです。

その他、少しお話をさせていただきますと、どうしてもどこの地域に行っても、本当は山の話がもう少し出てきてもいいかなと思いますが、関わる人の人数からい

くと農業の話が出てきます。米にしても野菜にしても、非常に高い値段で動いているので、そう思えば、もう少し積極手に取り組んでいただけたらと思うんですが、規模を拡大するとか、新たに取り組んでいきたいというよりは、辞めるか縮小が多いのが現状です。

そういう中で、その原因ではないですが、やはり基盤整備であるとか、機械化であるとかという話も出てきます。もう少し基盤整備をしないと、よその人のところも受けにくい、新たに規模拡大はしにくい。新しい技術を入れたいというのもあるのかもしれませんが。道の駅もよくなりますので、そういう意味では、少し皆さんに意欲を持っていただいて、どうやって後押しをするか。生産量を維持するか。

つくる側の話をしますと、やはりこれだけ米が高くて野菜が高くて、買う方にとって大変なのは好ましいことではないので、まずつくられている方をしっかり支えて新たな動きができる仕組みを考えていかなければいけないと思っています。それに対して、皆さんに意見をいただきながら、アイデアをいただきながら、町としてそれが形にできればいいかなと思っています。

もう一つ、どこに行っても話が出るのは、人手不足です。人口の話になったときに、UターンとかIターンの定住の話になれば、まずこの町に企業誘致をしたらどうですかという話が出てきます。ただ、企業誘致ができないわけでもないし、チャンスがないわけでもないと思っていますが、地元の事業者さん、福祉施設でも人が足りないのに、企業を誘致したらどうなるのかというのはあります。まずは、地元の事業所さん、特に福祉施設、子どもの福祉施設もですし、高齢者の福祉施設もそうです。まずそこを何とかできないと、人手不足は解消できないし、それが今、勤めている人、特に若い人は仕事の負担が大きくなって、この町にいても住みにくくなる。そういう問題も出てくるとしています。

併せて、外国人労働者もかなり各事業所は、そこに頼るしかない状況です。その募集等については、各事業所でしていただくしかないと思うんですが、来られた人たちをどうサポートしていくかは、町の課題だと思っています。家族で来られればお子さんのサポートも必要ですし。今、制度がいろいろあるので、来られる方の日本語能力もさまざまだと思います。きちんとそこが対応できて、能力が上がって、長くいていただければ。そういうところは、町としてサポートできればと思っています。

併せまして、せっかく矢上高校があって、島根県立養護学校があって、皆さんも何らかの関わりがあって、話を聞かれるかと思いますが、町外の高校生やお子さんは決して多くないですが、県外や町外から来ていただいて定員はほぼ満たしています。そうすると、その子たちにもう少し、邑南町に戻っていただく、帰ってきていただく、もしくは一度来られてからそのまま残るなり、学校を出てまた来るという仕組みをつくらないといけないと思っています。やはり、高校振興でお金をかけていますので、その成果として次は子どもたちにといいところにつながればと思います。

どこの企業も今、自分ところの会社に来ればこういう人生が送れますというのを示しています。キャリアアップができますというのを示しています。そうすると、邑南町に住んで働けば、どういう生活が送れるのか、どういう仕事ができるのか。それに対して町がどういうバックアップをして、試験を受けたり、能力向上できるのかというのを示しながら、この町にというのをもっとアピールしていければと思います。まずは、関わっていただいた方がこの町を選んでいただければ、先々、U

ターンイターンというのも増えてくるのかなと思っています。その辺りを、今の課題としながら。

もう一つ、役場に入りまして、大きな課題だと思っているのは、組織が云云ではないんですが、先ほど言いましたような人手不足だとか、財政もそうです。大きな課題、地域課題に対してそれぞれの仕事では解決できない、皆が力を合わせるか協力しなければならない時代になっています。協力し合うということをどうするかというのをずっと考えていまして、今後取り組んでいくことに書いていますが、その一番下に、職員の副業と書いています。

公務員が副業をしていいかどうかということで否定的な意見もあると思うんですが、昔からそうだと思うんですが、制度的にきちんと許可をとってしていい仕事と、してはいけない仕事はルールで決まっていますので、していい仕事なら許可を受けて兼業することができます。お金をいただかなければ、地域の行事なり地域のお手伝いをするに何ら差し障りはないです。積極的にすべきところかもしれません。

まずは、地域に関心をもっていただく。そこで協力してもらおう。それがそのまま、役場の中でも、他の人の仕事に関心をもつ。もっとこうすれば良くなるんじゃないかということを積極期に思ってもらおう一つのきっかけにして、職員の副業をもう少し制度化するなり、考えられればと思っています。一人ではできないことを皆でというところのきっかけと思っています。

若干、今後取り組んでいくことについて、話をさせてください。小中学校の統廃合については、考えなきゃいけない時期にきています。今までの町長は、触れなかったんだけど、残しますと言われたけど、町長が代わって突然するのかということになるかもしれません。ただ現実には、全ての施設がよくて、さっき言ったマンパワーもたくさんあるのであれば、私も残したいと思いますが、現実とはそうではない。施設の改修もありますし、教育環境、支えるサポートの人たちの人数。併せまして、議員をしていて、わかっていなかったのかと言われそうですが、現実として数字で示されることがなかったので、そういうところを見れば、考えざるを得ない、考えなきゃいけない。

若干、数字だけ言いますと、今の小学生は邑南町内で一学年70人です。保育所は一学年50人になります。今、生まれているお子さんは、一年で40人いるかいんです。この数字を出して議論をすると、邑南町には小学校が一つか二つで、中学校も一つでいいよねという話になるので。決して、人数あわせで統廃合をするつもりはないです。この現実ではありますが、Uターンイターンの方も可能性があるかもしれません。

それで、教育委員会には、教育の在り方として、子どもたち学びとしてどういう学校がいいのかという、ちょっと理想論です。もう一つは、地域みらい課に地域と学校の関わり方、教育の中において、地域とどう関わるべきか、どうあるべきか、そういう観点から学校の配置とか人口バランスを見た時に、どうすべきかという話を来年度にしようと思っています。私は私で、こうやって皆さんの顔を見てお話をしているので、私は私で考えます。それでその三者で話をして、思いが一致するかもしれないし、違うかもしれない。話をすれば、もっといいアイディアが出るかもしれない。まずはそういうことから、準備をしていかなきゃいけない、その時期がきたと思っていますので、させていただければと思っています。

その他につきまして、産業振興はできるだけ、まずは町内循環ということでしていきたいと思います。それぞれの地区にお店が十分あるのかないかもしれませんが、

さくらカードがあって、邑南町の商品券を使うことによって、地元で買い物を増やすというところから支えていきたいという思いがあります。ずっと課題になっている日本一の子育て村の在り方も大きな課題だと思っています。何をもって日本一の子育て村というのか、ご理解いただいているところと、どうなんだというところがあります。改めて議論をして皆さんと共有しながら応援していきたい。

先ほどちょっと出ました、全て無料がいいのかどうかも、やはりあるのかなと思います。福祉施設の在り方というのもあります。何となくイメージとして、邑南町は少子高齢化で、高齢者が増えているというイメージがありますが、現実的には、高齢化率、65歳以上の人の割合は45%でほぼ変わっていません。総人口が減っているのに、65歳以上の人口は少しずつ減っています。ただ、長くお元気で生きておられるので、65歳以上は増えていると思われると思うんですが、現実とは若干違う。そういう中で、高齢者に対する福祉サービスをどう維持するかというのを町としても考えなきゃいけない。

併せて、生まれるお子さんが少なくなる以上、保育所の在り方も考えていかなきゃいけないので。それぞれの考える理由は、そこに携わる人も少ない。高齢者のサービスの量を確保するというのもありますが、質という意味でもマンパワーが足りなくなっていく現状を考えれば、少ない人数の中で多くの職種のある邑南町ではどうやって町内全体で人のやりくりをするかというのを考えないといけないときがきていると思っております。

そういうことを踏まえながら、一番最後に一つだけ話をさせてください。その他で書いてありますが、定期的な住民の会の開催と書いています。この本当に寒い時期にこうやって会を開催していただきましたが、言い方がちょっと難しいんですが、意外と参加していただいています。今日も寒いと思いますが、冬で6時過ぎると暗くなって、農作業があるわけじゃないので、ある意味出かけやすい時期かなと。これが夏とかだと農作業をされて汗かいて、シャワー浴びて間に合わないから行けなかったということも、議会のときには多々あったので、ある意味よかったかなと思います。

私たちは皆さんの声を聞かせていただきたいという大事な場です。今後も毎年、こういう会をしたいですし、形を変えて、女性とか男性を分けるとかもありますが、お仕事や年代とか、PTAの会に出向くなりして、極力、議論や話をさせていただきたいと思っています。

併せて、人が少なくなる中で、地域もそうですし、町もいろいろな役割があって、役が多すぎて人が足りないと言われます。頼める人がいないというのも現状です。こういう会を開きますと、初めて見る方であるとか、普段出られない方が出たおられたりすると、お互いに次はあの人に声をかけてみようとか。あの人に頼めるかなというのがありますので、会議に出るのは嫌だなと思われる、出てもらえないんですが、人材発掘という面でも極力こういう会を開きながら、皆さんと顔を合わせて話ができればと思っています。

ちょっと長くなりましたが、まず私からの最初の話させていただきました。教育長の方からも少し話をさせていただきます。ありがとうございました。

2. 教育長あいさつ

改めましてこんばんは。教育委員会の大橋です。よろしくお願いします。まずは

って、学校行事、運営、また公民館等を本当に支えていただいて順調に活動が行われている報告もいただいております。感謝申し上げます。ありがとうございます。

また、はっきりとお伝えできないんですけど、以前、市木小学校事務職と養護の先生の配置について、ご協力をいただいて、県まで上がって要望活動を実践させていただきました。何となく、明るい兆しが見えつつあるなというように私は実感しておりますので、またそういった報告ができればいいなと思っております。

また以前、市木市、私にとっても強烈なインパクトがありました。あの当時の小学生の発案が中学校になっても、その思いを遂げたいというところで、地域の皆さんに投げかけて、じゃあ一緒にやってやろうという協力体制が出来上がったというような実践も目の当たりにさせていただきました。そういった中で、本日お伝えいたしますコミュニティスクールについては、その延長線上にあるなと私自身は実感させていただいたところです。

早速ですが、そのコミュニティスクールにつきまして、少し話をさせていただきたいと思います。全面印刷してある方を表にさせていただいて、その左側から説明させていただきたいと思います。まずもって、このコミュニティスクールという制度は、令和8年度実施を目標に今後進めていきたいと考えております。令和7年度につきましては、その準備期間として、皆さんからご意見等をいただきながら熟議を重ね、市木らしいと言いますが、そういったものをつくり上げていきたいと思っております。

コミュニティスクールでございます。左の中程あたりにコミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と位置づけられております。この協議会というのは一体何かというところですが、今までは基本的に、市木市でもそうであります。学校発信のことを地域の皆さんがしっかりと受け止めていただいて、共に体现していく、形にしていくという姿があったと思っております。

この協議会をさらに充実させたものということで、右側の四角囲みの一番上をご覧ください。この協議会の一番の目玉となります。学校の経営目標、運営目標を地域の皆さんが承認していくという場面がこの協議会で新たに設けられます。位置づけられます。これが今までと大きな違いだろうと思います。今までは、先ほど言いましたように学校長等の要望により、いろいろ地域の皆さんに協力いただく。あるいは、学校の運営についての評価をしていただくという作業は今もやっておりますけど、スタート時点の方針を地域の皆さんと共に決めていくというのが一番大きなところでございます。

そういった場面をとおして、次に見えるのは一体何かということですが、この時点で明らかに学校と地域が対等な立場でお互いの思いを共有していきながら、協働していくという姿が生まれてくるのではないかと考えております。

裏面をご覧ください。左の方に、メリットというふうに四角囲みで2つ掲載しています。上の方は学校のメリットとお考えいただければと思います。学校にとって地域と共にある学校づくりが今の命題になっております。文科省が示します学習指導要領等にも社会に開かれた教育課程、つまり今までは、学校完結型の教育を行って参りましたが、それではいけないということで、学校自らが社会と協働していくというようなところでのメリットを記載させていただきます。

一方、さらに想定されるのが、地域にとってはどうなのかというところで、学校を核とした地域づくり。先ほど町長も申し上げましたが、教育の本質という部分と、地域との関係性という部分を来年度しっかり研究させていただきながら、一つの答

えを導き出していければと思っております。

最後です。邑南町のコミュニティスクールの範囲でございますが、全国的に見たとき、基本的に小学校単位でこの協議会をつくっていくというのが、本流だろうと思っておりますけど、邑南町の場合は、9年間を意識したいと思っております。小学校中学校の接続をしっかりとした上で、中学3年生義務教育をどのような力をつけて卒業していくかということで、小中の9年間を意識して参りたいと。そういう意味で、この協議会の大元になるものは中学校区でつくっていきたいと考えています。いずれにしても、今、協議会で制度設計させていただきましたけど、今後それ肉付けを皆さんと一緒に一年をかけてできればいいなと思っておりますので、その際にはいろいろとご意見をいただいて、充実したものを目指していきたいと思っておりますので、その節はよろしくお願いいたします。以上でございます。

3．意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それではこの後、約一時間、皆さんとの意見交換の時間とさせていただきます。皆さまからご意見ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、少しお待ちいただきたいと思います。ご発言の際には、一つずつご意見ご質問をお願いしたいと思います。どなたさまからでも結構ですので、よろしくお願いいたします。挙手をお願いいたします。

○ 生家集落の〇〇と言います。ちょっとお尋ねしますが、町で電力会社を立ち上げておられるんですが、あれは今、どうなっておるんでしょうか。今、途中経過かもわかりませんが、いろいろいいことを考えてもらって。公共の電気代でも年間2億円くらいかかると、その電力で減らせるように考えたらどうかと。その辺はいかがでしょうか。

- 大屋町長 詳細は副町長から説明します。逃げるわけじゃないんですが、ちょっとだけ補足させてください。町長に就任させていただいて、今まで町長が自動的になる役がたくさんあったんですが、今はちょっとお断りをさせていただいております。全てが私の思いでなったら良くないということで。

今まで電力会社については、町長が社長だったんですが、今はP P Aということで、国からの補助金とかで各家庭の上に太陽光パネルを付けて発電して、そのお家を買ってもらおうという仕組みで、今、すごく投資をしています。規模が大きすぎるので、専門の人がちゃんと社長をして経営を判断するということにしています。ただ副町長がかわりに役員に入っていますので、副町長の方から説明をさせていただきます。

- 白須副町長 副町長の白須です。会社というのが、おおなんきらりという株式会社です。先ほど町長も申しましたが、将来的に地域でC O 2を発生しないような形で太陽光を使って発電して、それを地域で供給していくというのが将来目指す姿です。今、現在で言いますと、P P Aという事業形態をとって、民家の屋根とか工場の屋根の上に太陽光パネルを設置して、そこで発電をして電力をつくっている状況です。

ただ、この電力を売るところまでは軌道に乗ってなくて、今、太陽光パネルを整備しているところで、整備が完了して、一定規模の発電ができるようになると、会社にも収入が入ってきて、そういった電力を皆さんの元に、地域へ供給す

るという形ができてくるんじゃないかと思います。できれば、その際には通常の電気料金より安い値段で利用していただければと考えております。なかなか、今は設備投資を集中的にやっているときで、今現在、会社がしっかりと収益を上げているか言えば、そういう状況ではございませんが、この状況がだんだん改善といたしますか、良くなっていくんだと考えております。

- わかりました。ありがとうございました。
- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、マイクをお持ちします。
- 矢上高校の〇〇と言います。小中学校の件について、検討中といたしますか、お話をされていたように思うんですけど、ただ今の学校の在り方というか、各地の散らばりで、小学校はいろいろな地域から、その後、中学校に行って、高校に入ってという流れがすごくいいと思うんです。

それは何でかと言うと、いろいろな地域の特色というのが子どもたちに出てきて、その特色によって、中学校、高校でいろいろな人との関わりが増えるという点で、地域の特権というか、いろいろな種類の人ができると思うんです。

それともう一点、もし、統廃合をするということであれば、旧中学校区の形で瑞穂に集めて、市木小学校は瑞穂小学校に統合とか、矢上小学校に統合みたいな形になると思うんですけど、そうなった場合、基本的にバスか親の送迎ということになると思うんです。その時に、子どもたちは遊ぶ時間が少なくなって、交流の時間も減ってしまうんじゃないかと思います。交流の時間が減るとなると、人間関係をつくるのに、なかなか苦手になってしまうことがあるんじゃないかと思っています。僕も小学校のときに、あまり外に出ず一人で遊んでいたりで、今、人間関係に苦労していますし、そういうのは地域にとっても良くないんじゃないかと。

やっぱり正直、最後に言わせてもらおうと、この地域が好きなので、もし小学校がなくなってしまったら、このままどんどん衰退していくと思うんです。矢上や瑞穂に人が集中してしまって、端の方は人が少なくなってしまう。山しか残らないみたいなことになるので、その辺りで一本化はちょっと考えて、もっと明確にお話を聞きたいなという感じです。

- 大屋町長 ありがとうございます。私自身も地元の保育所、小学校、中学校、高校で。その中で、選挙のときにも統廃合をどう思いますかと聞かれて、もう考えなきゃいけない時期に来ていると思いますと言いました。町としても来年度予算の中で考えたいと思います。

統廃合はしていく方向です。ただ、同じ思いもあって。今ならというのは、数字をあまり出さなかったのは、今なら、今のお子さんの人数とかを考えると、少し余裕をもった統廃合ができるんじゃないかと。その余裕を持ったというのは、邑南町には一つ高校を残したいです。養護学校は別ですが、矢上高校があって、近隣に新庄があったり、島根中央高校がある中で、高校が一つの下には、中学校はできれば2つはほしい。それは、さっき言われた一緒にとか、それぞれ違うところで学んだ子が一緒になる必要がある。そうすると、中学校の元にも小学校が1つではなくて、2つか3つということになる。今なら、そういう可能性を考えながらできるんじゃないかなと。教育委員会とかそれぞれ考えてくださいという話をしていて、私は私で、私の考えを先にしゃべっちゃったんですけど、選択肢として可能性があるならと。遊ぶ時間とか人間関係というところで、やはり選択で

きるとか一緒になるということは必要かなと。

その中で悩んでいるのは、また考えてくださいと役場の中で言っているのは、例えば、児童クラブはどこにあるべきか。例えば、あくまでも例えです。仮に、市木が矢上と一緒になったとき、瑞穂と一緒になったとき、じゃあ、児童クラブはそこにあるのか、帰ってきてここにあるべきなのか。それはどこの地区でも一緒なので、その児童クラブの在り方というが、遊ぶ時間とか、人間関係なんだと思います。

もう一つ、学校がある土地、学校がなくなる土地、地域の人にすごく支えていただいて、関わっていただく中で今の学校はあります。小学校も中学校も高校もそうです。そういうときの地域はどこにあるのかという話なんだと思います。これは、今、町の総合振興計画を来年度以降につくる中で、人口分析もしています。あまり学校と地域を結びつけちゃうと、例えば、日和は保育所も学校もありません。布施もそうです。出羽は保育所があって、学校がない。それぞれがあるので、その辺の分析もしながら。

併せて、コミュニティスクールで地域という話をされましたが、お子さんにとっても地域のことなのか、矢上高校で言うところ、地域でと言ったときに、町内のお子さんはいいけれど、県外のお子さんはどこが地域なのかということもあって、生まれ育った家がある場所、学ぶ場所、それぞれがあると思いますので、その辺りもそれぞれの立場で話をしないと一緒にはできないという思いがあるので、別々でやっていければと思っています。

同じようにこの地域で、市木で育ってきて、今、自分があるのがこの地域のお陰と思いを持たれる方はたくさんあるので、その思いをどうやってこれからもつなげていくかということで、今ならということです。ちょっとこれは先延ばしすると、もう有無を言わず一つしかないのも、川本も美郷もそういう形なので、そうじゃない形が今なら議論できるのかなという思いがありますので、少し共有していただければと思っています。すごく思いはよくわかります。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。

●大賀総務課長 よろしいですか。はい、ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○ ○○といいます。森林のものなんですけど、庁公農林というんですかね。一緒に植えたのを親父から聞いたことがあるんですが、あれはそのままの状態で置いてあるんですが、これはどうされるんですか。今後、構われることがあるんですか。

●大屋町長 すみません。記憶が定かではないところがあるんですが、7、8年前に一度、庁公造林して順番に切っていくという時期がきているんだけど、あまりにも木材が安いとか、出すのにお金がかかっている、そういうことですね。

それで、取り扱いを変えて、少し切る時期を延ばしたことがあるんです。それで、今それが続いているので、何もしないわけじゃないです。順番に。ある意味、今、木の値段が高いということと、庁公造林がそうだと思うんです。県の人曰く、島根県にはちょうどいい木がたくさんあるみたい。ちょっと遅れていけば、そうして伸ばしていけるので、価値が上がったら切り安いという話をされたので、順番に。ただ、森林組合にも人がいないので、なかなか予算は他のことも含めてくるんですが、予算どおりに事業ができない現実もあります。そういう意味で人を確保するというのは大きな課題なので、そういうことも含めながら、させてい

ただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。
- 市木の自治会長の〇〇です。よろしくお願いします。実は、市木でこの春からちょっと準備して、市木の課題とか問題点とかを出してもらって、自治会で解決できるものとか、できないものとか、いろいろありますので、解決できないものについては、場合によっては前回も町にお願いしたことがあるんですけども。そんな感じで、市木には町議がおりませんので、自治会なんかで、そういう部分をちょっと主な意見を吸収して、内容によって町とか県の方をお願いしようと思っていますので、今後ともよろしくお願いしますというのが、一点と。

先ほどから統廃合の話が出ていますけれども、別に町長をよいしょするわけじゃないんですけど、市木でもさっきの課題とかそういう中で、市木小学校を残してほしいという意見もよくありまして。実は今まで自治会主体でやっているんですけども、保育園、小学校、中学校のPTA会長さんと意見交換したり。先般、各種団体長とか集落長と意見交換したんですが、やっぱり残してほしいというのがあって。町長の言われることもよくわかりますし、皆さんが言われるのもよくわかるので。これは要望なんですけど、市木全体の意見が集約されたわけではないんですが、中途半端な状況なんですけど、8割はだいたい決まっているかなと。集約したと思うんですが、その時点で別なところで町長と意見交換させてもらいたいと思うんですよね。よろしくお願いしますと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。町議さんがおられようとおられまいと、それぞれの自治会や地域で要望書を上げてきていただいています。おそらくきちんと町としても返していただいていると思います。返す中で、これでいいかというのが町長決裁できます。

独り言ではないんですが、職員さん同士でチェックする中で、ずっとこの返事なんだから、早く解決しないといけないんじゃないですかというメモ書きがくるときもあります。過去の経緯もあって、非常にお答えが十分にできていなくて、毎回要望されて、毎回同じ答えだとつまんなくなります。ある程度責任を持って、職員の中でもいろいろな問題意識を持っていたいておるので、進められこと解決できることはしていきたいと思いますが、答えがダメだったからと言って、あきらめずに、どこまでも上げてください。皆で問題意識を持つのは大事だし、非常に地域課題として認識できるので、非常に助かります。

学校の統廃合の話ですが、中身はふれませんが、先ほどもいろいろな話をしましたので、他の地域でも例えばテーマを絞って座談会はどうですかと言われました。確かに、統廃合とか学校の在り方とか、テーマを絞って、またそれぞれの地域の話をするのも大事だと思いますし、統廃合事態は非常に大きな問題ですので、改めてこちらが時期を決めるのが、それぞれの公民館単位で時期を決められてはどうですかというのもあるかもしれませんが。意見交換をさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。
- 大屋町長 少ししゃべります。意外と場所によっては、こんなことを聞くのとも言われる方もありますが、町長でこちらの立場にならせていただくと、意外と気がつかなかったり、今までは意識していたのが見えなくなるとか、いろいろあります。日常的に困っていることだとか、ここは良くなるといいのにとか、町がこうしてくれるともっと良くなるんじゃないのということを一言でも言っていた

くと、他の場所でも同じ声が出ていたりして、こちらの認識も変わりますので、一言でも、疑問なことでも、いいことでも。

- すみません、市木の○○です。不満や文句ではないんですが、先ほど教育長さんがコミュニティスクールの説明をなさったんですが、現在ある学校の在り方と、どう違うのかがちょっとわからなくて。

私は学校司書で学校に勤めさせてもらって学校のいろいろな深いところまで入って、学校ってこんなことを会議するんだとか、そういうのを見てきた中で、これがどういうふうに、この新しいものが、今ある学校と大きな違いがちょっとわからなくて、すごく簡単に言ってもらったら嬉しいです。

- 大橋教育長 ありがとうございます。説明不足で申し訳ありません。現在の学校は、学校のいろいろな取り組みについて、地域の方に学校にお入りいただいて評価はしていただいております。これは法律でせざるを得ないということです。

一方で、これは法律どうこうではないです。基本的に学校が、地域の皆さんに向けて協力要請といいますか、こういうことをお願いできないだろうかということをおっしゃっていただいて協力体制ができています。このコミュニティスクールの一番大きなポイントは、学校の運営を地域と共に考えていくということです。決して校長先生だけの思いで学校が動くのではなく、地域の思いもしっかりとぶつけながら、共に共通の子ども像を描きながら取り組みをしていく。その中で、いろいろな場面が出てくると思います。

まずは共通の思いを双方が理解して、それを学校としていろいろな取り組みをする場合と、地域、公民館も含めて役割として地域がそれを担っていく場合と、また地域と学校が共に担っていく場合と、いろいろな関係性をつくりながら子どもを中心に据えていくというのが、一つ大きな目的だろうかと考えています。

発端は、地域との関係性が希薄であるというようなところからも発想ではあります。土壌はしっかりと邑南町にはあると思っておりますが、協働という同じ立場というのをしっかりと制度化していくというのがコミュニティスクールということであります。

表情を拝見しますと、なかなかまだご理解いただけないかなと思っております。もう少し私も勉強してお伝えさせていただきたいと思っております。以上です。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

- 思うんですが、この邑南町の良さというんでしょうか、これを全国的にPRしてもらって、広めてもらいたいと思うんですが。さくらほろほろの歌もですが、何年か前に線香のCMで流れておったんです。線香でもいいことはないんですが、日本香堂でしょうか、歌が流れて線香の宣伝があつて。何か寂しいような気もして。町の何か、ちょっと元気が出るかなと思って。

今、思うんですが、谷龍介が歌っている暮れに帰ろうかのという歌が流行っているんです。邑南町でも帰ろうかのというような歌を吉幾三にでもつくってもらって。それから全国的に宣伝してもらえればと。ヒットすれば、邑南町に帰ってみようとか、邑南町に住んでみようかなとか。

しっかり病院もあるし、広島も浜田も、江津も大田も三次も高田もちょっと1時間から1時間半くらいで高速でなくても行かれるし。いい町だかということになりゃせんかと思うんですが。何かの拍子にでも。子どもさん連れで町内に住んでもらって、子育て日本一の町ということでやられておるんでね。何かいいことがあれば、PRしてもらって。

いい悪いはわかりませんが、米にしても毎日食べておれば、こがあなもんだなと思って食べよりますが、他所へ行ったときには邑南町の米は、こがあにうまかったんかと思うたりすることもありますし。何かそういう機会があれば、PRしてUターンしてもらうなり、来てもらうことがあれば人口も増えますし、いいと思うんです。どこかで邑南町にという人がおられれば、いい町ですからぜひとも来てくださいと言われていいような気がしますし。勝手にいろいろ考えておるんです。何か町のいいところをPRして一人でも人口が増えれば、活気づくと思うんです。

もうちょっと長くなりますが、14、15年前にある人に言ったんですが、「そっちの息子さんに帰ってもらえればいいことにならんか」と言ったら、「この方へ帰ってきてもらえば給料は安いし、米をつくっても銭にならんし、帰らんでもええ」と言っておるんだと言えたんです。それで、親が帰ってこんでもええと言ええ、なかなか帰りづらいことでもありますし。

ちょっと年末に寄ってみたんですけど、息子さんが帰っておられて、お父さんはと言ったら、春までどここの施設で見てもらうんだと言っておらんからと言われて。旅行したり、いい思い出があるから、またときどきは話をしに寄りよったんだが、それが残念ですと言って。あんたはこっちに帰りんさらんか、帰ってきんさいと言ったら、他所のことではありますがね、言ってみたんです。今は中学校の子どもがあるし、ここへ帰っても、まあと言いんさって。何かのきっかけで帰ってみようかということになればね、子どもさんが一人でも帰ればいいと思うんですがね。親が帰ってこんでもいいと言ええ、その子の孫になるのも。お父さん、家の方もきれいに処分しておかんと、構わりやせんけいのというようなことで、それでも大朝の方にいい話も出て家も売ったんだということだね。家も田も山も畑も農機具一式と軽トラまで、一切合切売ったんでね。それは良かったんじゃないと言ったんですけど。それだが、涙が出たと言いましたかね。そこに来る人が子どもを連れてこられて、それから田んぼもやったことはないんだが、農協や近所に習って米をつくろうと思うんですと言ってね。家は改良して、住むらしいんですよ。だけど、それはそれで良かったんじゃないかと言って。墓ほどは、置いといてくれと言ったんだが、あれもきれいにしたからないわと言って。

ええ言ええ、ええこともあるんだが、なかなか、そんなとうのことにいかんことが多いものでね、何かいい町のPRがあればね、いろいろなところで宣伝してもらって、1人でも2人でも邑南町へUターンしてもらうなり、他所から住んでもらうなりしてもらえればね。住民も元気が出ると思うんですよ。他所の子でも、小学校や保育園でもおればね、その子にでも。年寄りから見ても元気がでるんです。子どもがおればね。我々のような賞味期限切れのような者ばかりでは元気が出ないですけど、子どもがおればね、もうちょっと踏ん張れるということになればと思って。

すみません、長々と言いました。いい場所にあるからね、この邑南町は、島根の中心でね。アピールしてもらって、できるだけ帰ってきてもらうようにしてもらったらね。他所からでもね、住んでもらえるようにしてもらえればと思っているようなことです。すみません、いろいろと長々と。

- 大屋町長 ありがとうございます。一般的に、人が減っていくのは寂しいし、耕作放棄地も今までは誰かがつくっていたのが、つくられなくなる。自分ができるわけじゃないんだけど、そういう景色を見るのが嫌だという声もたくさん聞

きます。人口問題もそういうことでも、皆さんと一緒に考えていきたいんですが。

先ほどと一緒に、邑南町で生まれ育ったお子さんにはこの町を支えていただきたいし、帰ってきて働いてほしいと思います。それを今日は高校生がおられるけど、私たちは君に期待しているんだよというのを堂々と言うのは、うれしいのか、プレッシャーなのか、いろいろだと思います。ただ、帰ってこなくてもいいよ、この町には。というのは寂しいだろうと、選択肢として、この町に帰ってきてもいいし、近いところにいてもいいしという中で、やっぱりこの町でと、私たちは思っていますというのは伝えた方がいいのかなと思っています。この町のいいところをもっとアピールしなきゃいけないんですけど、その点と点がいっぱいある中を繋げられない町の責任だと思います。学校にしても、少し負担が増えても残したいのがいいのかという話をしたとおり、まずきちんと高校まで学校があるというのは、いいことだと思っています。

邑智病院も今、山口医院長というちょっと年は多いですが、小児科の先生なんですが、公立病院が地域にある意味は、産婦人科と小児科がなければ、町に貢献できない。だからきちんと先生を確保していくんだという思いを持っておられます。

そういう意味で、この町の施設は、例えばお店も、アベルとかプラザとか、元気館の前のフーズフーズにも行くんですけど、他県のドラックストアみたいな施設はいなくて、地元が頑張っている。そういういい点がたくさんあるので、それをきちんと支えていくということもしなきゃいけない。

今日、邑智郡広域財団の会議があって、先月、ふるさとフェアを広島でしたときにアンケート結果を見せていただいたんです。まだ、きちんと分析していないんですが、瑞穂ハイランドや断魚溪や、道の駅もそうです。もので言うと、神紅とか、きちんと認識されているんだけど、邑南町とつながっているわけじゃない。いい点をつなげてしっかりアピールしていきたいですし、そのアピールの仕方 まずは、広島、松江、出雲あたりの近場からと思っています。邑南町が有名になるか何かすると、外の人から邑南町を見たよと言われるのもうれしいですし、いろいろつながりになります。

町としても、ふるさと納税はちょっと、個人はどこに的を絞るかということもあるんですが、企業版のふるさと納税であれば、企業から頂ける単位も大きいので。10万円以上なので、企業に対するPRも。邑南町に関わる会社は、広島、松江、出雲にはたくさんありますので、そういうところに少し地道な形ですが、しっかりアピールしながら、住んでいい場所というのもつなげていながら、皆さんにとっていきがいであるとか、楽しみであるとか、この町はもうやれんと思われるないように町としても務めていきたいと思っています。

いい点がたくさんあるのはわかっているので、それを今度は、つなげていくのは町の役割だと思います。また、お子さんたちにどこまで期待していいのか。困るよね。

- 誰に期待をかけていいのかわかるかは、僕としてもめっちゃくちゃ嬉しくて、今も大声で叫びまわりたいくらい嬉しいです。学校でも、邑南町に将来残りたいとか、進学の話とかもするんですが、県外に出たら、戻るつもりはあまりないという人が、やっぱり多いのかなと。就職するときに、ここに行きたいという会社とか、大きいネームバリューのある会社とかがあってもいいかなと思います。

企業誘致となると、さっき言ったみたいなネームバリューの大きい大企業は難

しいと思うので、観光地としての魅力みたいなものもPRしていけるんじゃないかと、今、ちょっと思います。

ゲームが今、子どもたちみんな好きで、学校でも流行っているゲームとかもあるんですけど、ちょっと前にゲームが流行ったじゃないですか。あれでやるんですけど、地域は企業と連携をして、ここがゲーム特有のものがある場所ですという所が結構あります。大阪の梅田のあたりもそれでちょっと有名というか。ちょっとした界限では有名だったりするので、そういうゲームとか、アミューズメントというか、娯楽ですね。それとの連携も一つの手として有りなんじゃないかなと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。私たちが思って、これがいい、この方法が皆にというよりは、ある意味、若い世代やゲームをする人とか、これが好きな人とか、全国から情報発信して、全国から来られるので。あるコアな、ピンポイントでもいいのかなと思っています。さっき言われたようなゲームであるとかも必要かなと思います。

それから、うれしいと言っていてありがとうございます。なかなか、大人がいいと思って、自分の子どもたちに負担をかけたくないと、家を処分したり、墓を閉まったりするんだけど、子どもから見ると、大人になって自分のルーツがわからない。それはさみしいということも聞くので、自分たちがいいと思っていることが本当にいいかどうかは、やはり全体で。

ちょっと雑談になってすみません。来年度以降に、邑南町の総合振興計画をつくり出すという中で、若い人の意見を聞くべきだという声がたくさん出ています。高校生の方にも聞きたいけど、どうやって聞こうかと。こんなに立派に答えてもらっているし、極力若い世代からと思っています。大企業に入るのは無理だと言われたんですが、実は最近、チャンスがたくさんあって、その理由がどこもそうなんです、全国異動があまり好まれない。

そうすると、昔はダメだったような有名な大企業であっても、地方に行っていただけの人を地方で採用する。東京本所で大手銀行だとか、大規模ないろいろな会社が広島や島根の出身者を採用して、広島島根に配置するという時代みたいなので、そういう意味では、表現は悪いですが、大きな会社に入っても、都会に出て、近くで勤めるという時代が来たので、それも選択肢かなと思っています。

またそういう情報を伝えながら、極力、邑南町に関わっていただけたらと思いますし、私たちがいいと思うことが必ずしも次の世代にもいいわけじゃないと思いますので、その声を聞きながら進めていければと思います。ありがとうございます。

- 町営住宅のことについて、お尋ねというかお願いをさせていただきたいと思います。我が家の後ろに町営住宅が8戸あると思います。今、5戸が空いております。子どもさんの声が聞こえておりましたが、最近子どもさんもおられなくて、高齢者の方が3戸に入っておられるんですが、その住宅にいたいと言われた方も、収入がよくなったので、いれないということで出られました。とてもさみしく思いますし、周辺も荒れますし、空き家にしておかれるなら、何か規定はあると思いますが、短期で今からこの地区に、今から工事に来られる人もおられるんじゃないかと思いますが、そういう人が使われるというようなことはできないんですよね。

長期におられる人は困られると思うんですが、短期間で入られるような人に貸

して上げられれば。家も荒れますし、周辺も荒れて、若い人が入られる若者定住住宅ですか、それがありますけど、そこも空いているような状況です。なんとか、収入に関係なく入りたい人に入らせてあげることができればと思ひまして、お願いさせていただきます。

- 大屋町長 ありがとうございます。すごくごもっともなことだと思います。邑南町が今困っているのは、町営住宅はたくさんあっても空いている。若い人たちは住みたいけど住む場所がない。ちょっと、おかしい話なんですけど、それは先ほど言っていたいたとおり、町営住宅は収入や所得の基準があるので、ある一定を超える方は入れないし、家賃が高くなる。その基準があつて、以前のように結婚したから町営住宅へということとはできなくて、若者定住住宅にしてもらうしかないのです。

今後取り組んでいくことの最初に財政再建と書いてある○の4つ目なんですけど、公営住宅の運用見直しと書いています。ご希望どおりの場所でそうなるかは別なんですけど、ある程度、国からの補助金も返し終わって、町として管理できそうなところ、基準を変えてもよさそうなところ、試験的に各地域くらいで一か所でも所得基準関係なしにどうかということができないかなと思っています。それが運用の見直しです。町営住宅を入りやすく、それはあくまでも試験的に限られたことしかできませんが、そういうことであるとどうなるかということを試してみればと思っています。

お話の意味のよくわかって、すごくもどかしいところもあるんですけど、思いに近づければと思います。ありがとうございました。

- 小武家城集落の行政連絡員をしています。と申します。空き家があるんですけど、今屋根も落ちるような状態の家屋があるんですけど、これは中に動物が入っておるんかどうか。ちょっと屋根が落ちそうなので、危なくて入れないんですけど、これらは行政でどうかされておるんでしょうか。持ち主との連絡とか。うちがすればいいんだろうけど、なかなか連絡する方法もわからないので、電話番号なんかも聞くことができないので。

- 大屋町長 ちょっと現状をまず話をさせてください。

- 白須副町長 現状なんですけど、そういった空き家が増えてきて管理の行き届かないものもたくさん見られるようになっていきます。役場も空き家対策という仕事をする部署がありまして、いろいろな対策のことを話をしたり、実際に対策したりしています。

それで、よくあるのが、危険な空き家を役場が解体をして、その費用を所有者の方に請求するという仕組みはあるんですけど、そこまでいくには、いろいろなことをクリアしていかないといけないので、たどり着くのはなかなか難しいところもあるんですけど。

まずは、やっぱり所有者の方にお話をして、対策をしてもらうことが必要になってきます。危険な空き家だと認定すれば所有者の調査などを行政ができるんですけど。通学路にあるとか、そういう空き家なら危険空き家として調査もできるんですけど、そうでない空き家は、なかなかできないところなんです。

それで、ただ非常にお困りですので、場所をちょっと教えていただければ、ちょっと役場でも場所を確認して、どういったことが役場でできるのか、あるいはどういふことを地域にアドバイスできるのかという説明をさせていただければと思います。また、会議が終わったあと、ちょっと教えていただければと思います。

ので。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方がいいのでしょうか。
- コミュニティセンターという名前が出てきて、話題になったんですけど。私もよくわからないんです。コミュニティがつくと、なかなか難しいんです。このコミュニティスクールも難しいです。コミュニティセンターは頭の中では、1公民館に複数自治会があるところをまとめるための会みたいのように感じて、市木には関係ないという理解でおるんですが、そういうものでいいのでしょうか。今、どうなっているのか、よくわからないんですけど。
- 白須副町長 コミュニティの在り方検討会というのも開いて、町で構想をつくりました。基本的には、市木は1地区に1公民館なんですが、想定しているのは、一つの公民館に複数の自治会があるようなところを想定して、そういったところになが、自治会それぞれに同じような組織があって、成り手も少なくなっていることで、それを一つにすれば役職も整理できるのではないかとということで、そういう動きを進めています。
それで一応、公民館単位でそういう動きを進めておりまして。ここは最初から、1公民館で1自治会でありますので、大きく今の自治会を変えるということは必要ないと思います。ですから、形としては今のままでいいと思います。ただ、コミュニティセンターという言葉を使うのが、公民館の中にそういったコミュニティの組織をつくる場合、今ですと公民館ですので、なかなか制度上、使いにくい、使いづらいというところがあるので、今からの公民館はだんだんコミュニティセンターとしての機能を中心に考えていくべきじゃないかということも、その構想の中に含まれていますので、もし市木の方で考えていただくのであれば、そういった公民館をコミュニティセンターとして利用していく、地域づくりの中核として利用していく。その中に、社会教育という機能も一部残すというような形でこの施設の使い方を、地域で使いやすいように考えていただければと思います。
これといった決まった形はありませんので、その地域地域で、使いやすい、あるいは、組織として継続しやすい形を考えていただくことが大事だと思います。回りくどい説明の仕方でも分かりにくかったかもしれませんが。
- 市木は、昔、公民館を中心に動いていたんですよ。いろいろなことを。そのような状態にするということですか。公民館を中心に運動会とかいろいろやっていたんですけど、これをまた元に戻すということですか。
- 白須副町長 今あるやり方がベストなら、今の形を継続してもらえればと思います。いろいろな問題が出てきたときに、一つの方法として新しい形を考えていければと思います。基本は、皆さんのやりやすい形でこの地域を維持していただければと思います。
- 大賀総務課長 はい、どうぞ。
- ○○と申します。よろしくお願いします。先ほど町長さんから、職員の副業ということがありました。その後に、地域コミュニティのことにも関連して、役を担う人材がいなのが現状だろうと思います。そうすると、地域コミュニティになると、そのセンター長が一人決まると、誰かの役はいらなくなるということもあるかと思います。役減らしをするためにも、その方がいいと思いますし、今の職員の副業ということで地域に関心をもつということが書いてありますが、関心を持ってくれると地域に根付いてもらおうと思います。そうすると、その中が今のように、地域コミュニティのセンター長なり、いろいろな役を担う状態にな

ってきますが。この副業という意味は、ほとんどが地元で職員がおりますが、若いんですよね、うちのところは。地区外におられますので、それはまた難しいということになれば、町内の誰でも構いませんので、そういう方を送っていただいて、そこで今のような関心をもって力を入れてもらって、地域を覚えてもらうということをしていかないと、今の役、地域でいう集金の役とかいろいろありますけど、その役が減ってくれば、かなり年寄りも楽になるので、その辺を考えていただければありがたいと思うんですが、どうでしょうか。

- 大屋町長 ありがとうございます。まず、町で職員の方が副業してもいいですよと言っておきながら、仕事が目いっぱい残業もあるのに、そんな余裕はないと言われてはいけないので、財政改革というのはある意味、事務量も効率化して、職員の方にもまずは残業がないようにした中で、地域にも関心を持ってもらえらると思います。

その中で、どこまでできるとか、あんまり地域のことを率先してやりなさいとか押し付けちゃいけないみたいなので、気持ちはあれなんです。

あとは、今、町外から来られている、邑南町以外の出身者が邑南町に勤めていただいて、移住してきたという方も多いです。なので、役場に行っても、支所に行っても知らない人ばかりだしと言われるのは、世代が違うのと、元々この町ではない方もおられます。そういう方にも、町を覚えてもらうという意味では、地域の中に入るといえるのは大事なかなと思います。

コミュニティの再編も、一方で制度に乗れば、センター長にも予算が出て、外部の人を雇えることもあるんです。そういう意味でも、制度をうまく使っていただけたらと。ただ、人がいなければ何もできないので、お金があっても雇う人がいないというのは困るので。役場の職員も協力しやすいようにということです。

元々、地域の役は大変だからという話で始まったこともあって、十分、その辺も考えながら進めさせてください。またいろいろな相談をさせていただければと思います。私も副町長の地域のことにしましては、ちょっと自信なさそうにしゃべるのは、それぞれの公民館単位とか地域で生い立ちが違うので、一律にこうした方がいいですと言えないところがあるので。また相談しながらという言い方しているのは、ご理解いただければと思います。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 よろしいですか。はい、ありがとうございます。皆さんからたくさんご意見ご質問をいただきました。閉会を8時ということで最初に説明させていただきました。間もなく8時になりますので、この辺りで閉会とさせていただきます。たいいんですけれど。最後に白須副町長からごあいさつをさせていただきます。

3. 副町長あいさつ

本日は、寒い中集まっていただきまして、様々なご意見ご質問をいただきありがとうございます。時間が限られておりまして、質問をまだまだされたい方もおられると思いますが、町長が冒頭に言いました町民への手紙で、ぜひまたご意見いただければと思います。〇〇さん、ぜひこれを矢上高校でも広めていただいて、若い方の意見を町長に届けてもらえればと思います。よろしくお願いします。

財政再建というのを一つの柱として、予算編成を進めております。今、ちょうど作業中ですが、新年度になりますと、新しい予算の元に、またいろいろな仕事をしていくわけですが、財政再建ということでいろいろな見直しも現在してお

りまして、皆さん方の生活や事業活動に様々な面で影響がある可能性もございます。しっかりと、こういう理由でこうなるんだということを説明させていただこうと思いますので、その際にはしっかりとまた意見を頂戴いただければと思います。またその意見を今後の事業、あるいは予算編成の参考にさせていただきますので、よろしくお願いします。

また、小中学校の在り方とか、地域コミュニティの在り方、そういったことも今、検討を進めております。皆さんをしっかりと情報共有しながら、皆さんと一緒に協働の立場で進めていきたいと考えておりますので、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりますが、気温も下がって凍結していると思いますので、交通安全に十分に気を付けて事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は、長時間にわたりまして、ご意見ご質問いただきまして、ありがとうございます。以上をもちまして、簡単ではございますが、閉会のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、以上をもちまして令和6年度市木地区町政座談会を閉会とさせていただきます。皆さま、ありがとうございました。

町政座談会（田所・高原地区）

日 時 令和6年2月18日（火）
18：30～20：00
場 所 田所公民館

1．町長あいさつ

皆さん、こんばんは。町政座談会を開催しましたところ、こうやってたくさん集まっていただきまして、大変ありがとうございます。町長に就任しまして、ぜひこういう座談会は続けていきたい、毎年やりたいということで予定を組んでいただきましたが、1月半ばから2月半ばの一番寒い時期しか予定が組めなくて、田所地区と高原地区につきましては、天候の加減でこうやってずらさせていただきました。

併せて、本来はそれぞれで開催すべきところを、大変申し訳ありませんが、一か所でさせていただきました。改めて、町政座談会をしまして、まとめてやっておいて、こういうことを言うのは本当に失礼なんですけど、各公民館単位でやって何が良かったかという、同じテーマであっても、それぞれの公民館単位なり、地区で発言の内容がみんな違うんです。一か所で集まってそれぞれの人の生い立ちとか、住んでいるところがわからないと、たまたまそう言われるだけって思うんだけど、やっぱり公民館単位で細かく歩かせていただくことは非常に大切ななと思いました。すみません、まとめとやっておいて冒頭に言う話ではないんですが、今後もこういうことはしっかり続けていきたいと思っております。

資料としては、今後取り組んでいきたいことと書いていますが、それはそれで置いておいてください。若干ふれながら説明はしますが、こういう座談会がはじまって一か月経ちまして、この間に来年度予算を、今、準備しています。明日が議会運営委員会なので、明日にはきちんと出さないといけないので、ほぼ決まっています。査定をしてみています、最終段階は明日ということなんですが、どこまでこういう場でしゃべっていいのかなというのと、座談会でのやり取りの中でかなり好きなことをしゃべらせていただいております。町長が言ったから決まりだとかいうわけじゃなくて、私自身もやり取りの中で、何が正しいのか。思いはあるんだけどということと、皆さんにも言っていただくと、今日、副町長も教育長も総務課長も、職員さんも何人かおられると、問題が共有できるということと、中には質問でこんなこと言っているのかなという方もおられるんですが、それぞれの立場だと思います。

議員をさせていただいておって立場がこちらに替わりますと、意外と見えるものが見えなくなってくる。皆さんにとって疑問だったり不思議なことがこちらにくると、そうじゃなくなってくるので、思いはしっかり伝えていただければ、ありがたいと思っています。

来年度予算の話をいろいろしないといけないんですが、総額で言うと130億円代なので、かなり下がりました。ただ、お金が全然足りないの、4億5千万円くらい貯金を崩します。過去最高だと思います。じゃあ、総額が下げられたのに何でこれだけお金が足りないのかという部分が大事ななだと思います。

一つは、やっぱり町の財政全体がなかなか見えない、見えないのは一つ大きいのは石見中学校、邑智病院、道の駅をやっています。それが悪いんじゃない、今年度中に終わらないといけないのが、来年度も工期が延びたり、事業が延びてくると、

年度年度の町としての区切りがきちんとつけられない。今年度予算のその他の繰り越しもたくさんあります。町は一年一年の区切りなので、その区切りがきちんとできていない、難しくなっていることが財政全体を見通せないとか、仕事の区切りができない。1月の仕事ははじめのときにも職員の方にも言いましたし、自分自身に対してもですが、行政は年度が区切りなので、1月から3月はしっかりその年度の仕事をし、来年度の準備も併せてしましょう。一番大変だけど頑張りましょうとあいさつをしました。まずそこができないといけないんだらうなと思っています。

そういう意味で、今、大変ではなりますが、非常に短い中で、来年度予算の準備をしています。財政が大変だという話をしますと、どこでもそうなんです、捉え方として、お金がないなら何もしてもらえないのか、やり繰りだけで、今の投資、将来の投資、地域に対してきちんと投資ができるかという話をされます。やり繰りをして財源を見つけて、きちんと投資をしていくのが大事だと思っています。

4億5千万円くらいの赤字がありますが、一部不確定要素がたくさんあります。不確定な要素があるというのは言い方が悪いんですが、新たな取り組みでは事務組合でデータ処理をするのに、非常に国のシステムに入るのに見積もりがはっきりしないので、最大で取っているとか。

あとは、フィンランドとの交流を矢上高校とか石見養護学校とか町外の高校に行かれる方もそうですが、高校生や中学生の交流を復活したいと思っています。ただ、今のご時世はお金がかかるので、毎年やるのかという話をしたときに、どうしても大人が何人か着いていくとコストだけがかかるので、2年に一回にして、その代わり高校生をたくさん連れていく方法を取りませんかと提案したり。やはり、1年ごとより、2年に一回なので、来年度はちょっと負担が増えると。そういう長い目で見れば、効率的だけど、来年度は負担が増えるというのも若干入っています。

そういう意味で、しっかりした投資をしながら、できた部分もあると思います。具体的に少し述べてもいいかなと思いますが、教育関係の人的配置はかなりしっかり予算をつけたつもりです。サポートが必要なお子さん、図書館司書の方など継続する部分はしっかりさせてもらおうと思います。顔ぶれを見て言うわけじゃないですが、老人クラブであるとか一人暮らしの世帯の集まりに対しても、現状維持で、若干組み換えをして一部減らして一部付け替えなどしていますが、総額ではそういう方に対してもしっかりしているつもりです。

一番できなかったのは、農業振興をしますと言いながら、農業分野はかなり予算を削減しました。財源がなかったというのも一つですが、いろいろな要望がある中で、本当に何をすれば一番いいのかというのをこちらから提案するのがいいのか、まず皆さんに考えてもらう。農政会議やそれぞれの団体からご意見いただいています。農業委員会からもいただいています。皆さんで一回考えてもらう場があって、そこに対して予算付けして皆でやっていくという仕組みがないといけないかなと思ったので、再生協議会とかそういう団体に対して皆で考えましょうと予算付けをしました。

商工業の振興についても商工会の予算をしっかりと維持しながら、商工会の中で人手不足をどうしたらいいか。こちらからやるよりも自分たちから課題を見つけて動いていただくという方が長い目で見るといいかなというところがありまして、今までとは若干、意識を変えながら予算編成をしたつもりです。

そういう中で、一番関心が高かった部分を少し話をさせていただくと、今後取り組んでいくとこに書いていますが、小中学校の統廃合については、来年度から検討

したいと思っています。具体的には、教育委員会では、学校教育として邑南町の子どもたちをどのように育てていくのか、今後の教育はどうあるべきかということを教育委員会で考えてくださいと言っています。

当然、これまでもあちこちで話をしていますと、それぞれの学校の生い立ちであるとか、地域とのつながりであるとか、違う面での皆さんの要望や思いが学校に対してあります。そういうことで、地域みらい課には、地域との中で学校の在り方、地域の人たちとどういう関係性をもっていくのか、全く違う面で考えてくださいと言っています。

私は私でということで、あまり深入りするといけないと思っているんですが、今ならその議論ができるというの、若干余裕があるから。その余裕というのは、今の小学生は1学年70人です。保育所になると、1学年50人になります。今、生まれているお子さんは、1年間に40人いるかいなにかです。あまりこの話だけすると、もう近い将来、1学年40人なら、中学校1校、小学校1校でいいでしょという議論になってしまうんだけど。

今、現実には70人で次の世代が50人前後というのは、それを念頭に統廃合なり、学校の在り方に選択肢がたくさんあると思います。その選択肢を維持するために、町として定住対策をしていくということも大事だと思います。この地域は矢上高校もありますし、県立の養護学校もあります。周辺には新庄高校もありますし、島根中央に行かれる方もある。そういう選択肢の中で、教育をどうしていくかというのは、非常に大事ななことかと思っています。

併せて、地域みらい課も含めまして、少しきちんと成果を出したいと思うのは、人手不足の解消として、矢上高校や石見養護学校であるとか、地元出身者がこの町の次に担い手になる、支えてもらえる仕組み。例えば、矢上高校に多大なお金を町も出して応援しています。県外からもたくさん来ていますというのを今までやっていましたけど、その子たちがこの地域の担い手になっているか。お金だけ出して学校の定員を満たして、それでよしでいいのかということがあるところがあって、やはりこの邑南町で働く、支える、暮らすということをもっと積極的に呼びかけたり。

今、企業も含めてどこも人手不足です。みんな困り込みです。うちの会社に来たら、こういう人生が送れますという提案をしています。そうすると邑南町も、この町で働けばとか、高校を出てそのままこの町で暮らしたり働いても、こういう人生が送れますよと。町はこういうサポートをしますよ。学びの環境はこういうものがありますよ。キャリアアップしながら、この町で生活できるというのをもっと示してあげないといけないかなと思います。

こういう話をしたときに、私たちやこの地域に住んでいる人たちが、今の若い高校生や小中学生に対してこの町で暮らしてほしい、支えてほしいというのをすごく積極的に言うのは喜びなのか、プレッシャーなのかという思いがあります。たまたま市木で、お父さんが高校生の息子さんを連れて来られたところで、そういう話をしたら、僕は嬉しいです。周りの子はそうじゃない子もいるけどという話もありました。やり取りをしながら、期待されるのは喜びの方もいるし、この町はやめたほうがいいよ。こんな町はと言うのはあまり良くないことだと思います。

自分たちがしっかりと誇りを持ってしっかりPRしながら、それが定住につながって人手不足の解消になって、この地域を支える人が育つということを、しっかりと町としても取り組んでいきたい。大きな課題としてやっていきたいと思っています。なるべく皆さんと意見交換をした方がいいと思いますので、来年度の予算

や、今後の課題を書いています。最後にその他で書いてありますが、ちょっと冒頭にもふれましたが、極力こういう会を開きたいと思っています。私自身にとっても、皆さんの声を聞ける場で地に足をつけて、行政が運営できる大事な場所だと思っています。

併せて、いろんな面で人手不足で、いろいろな会議があれば、いろんな人に出てきていただけます。都合がつくときに、初めて出ましたという方もたまにおられます。そうすると、町としてもいろいろお願いするときに、担い手になっていただきたいときの声かけとして、やはり人材の発掘の一つとしても、こういう会も大事かなと思っています。町政座談会として、産業別とか、町が積極的にくるのか、若しくは、今ある既存の会議に私たちが出かけていくかという方法もありますが、極力、続けていきたいことだと思っています。

もう一つは、職員の副業と書いています。今まで、公務員の方が副業をするのはいけないことだと思いましたが、ルールに基づいてやっていいことと、やってはいけないことがあって、許可を受ければ、副業はやってもいいです。副業で金儲けというとおかしいんですけど、地域でいろいろ困っていて担い手がない。地域の支え手がないということであれば、お金をもらうことであっても役場職員が手助けであれば、やっていいと思いますし、ボランティアでも地域の役は当然やるべきだと思います。それはそのまま、地域に関心を持つとか、役場の中で他の人の仕事に興味をもつ。

今、役場に入らせていただいて一番の悩みは、いい意味で縦割りで、どうしても地域の課題は複合的要因があるんだけど、もう少しお互いのことで協力し合うといいのになと。例えば、自分の仕事が福祉であっても、それをやることによって農業振興になるとか、どこかでつなげてもらって、地域の担い手の不足だとか、支え手につなげてほしいという思いがあって、その一歩として、副業というわけじゃないですが、お互いの仕事に関心を持っていただければ一番いいかなと思っています。

今日も課長会議を開いて話をしましたが、そのためには今の役場の状態は、非常に残業も多い。残業が多いと言うと、それが悪く聞こえちゃうんだけど、皆さんのために一生懸命働いてもらっているけど、働き過ぎの部分があります。少し町のトップとして、そういう環境をまず改善する。そこで生まれた余裕を皆さんのためとか、自分のために生かしていただければいいかなと思っています。

財政もそうですけど、職員も努力して財源を見つけ出す。一般企業であれば、それが利益で、その利益は株主や会社の職員の給料になります。役場は職員の給料にできないので、見つけ出した財源を施策にしてもらって、職員は住民として、町民としてその利益を受ける、そういう仕組みができれば頑張りようがあるかなと思います。やる気が出て、職場がいい職場になることは、そのまま皆さんためになるとしています。そういうことも含めまして、取り組んでいきたいと思っています。

簡単に話をしましたが、それぞれ思いを持ってきていただいていると思いますので、質問のやり取りの中で足りない部分をお話させていただければと思います。私からは以上で、次に教育長から話をさせてください。ありがとうございました。

2. 教育長あいさつ

改めまして、こんばんは、教育委員会の大橋でございます。よろしくお願いいたします。日頃より、瑞穂小学校、高原小学校、瑞穂中学校、各公民館にご支援ご協

力をいただいておりますことを、この場をお借りして、まずもってお礼を申し上げます。ありがとうございます。

私の方からは一点、お手元に全面カラー刷りのものがあります。これを上にしていただいて少し説明をさせていただきたいと思います。これはコミュニティスクールという一つの制度を今後、邑南町に導入していくための説明資料です。これは目標として令和8年度に導入を目指して、来年度の一年間しっかりと地域の皆さまと協議させていただきながら、各地域に合った特色あるものをつくり上げていきたいというスケジュールで考えております。

では、コミュニティスクールとは、一体どういうものかということですが、この前面カラー刷りの左中程あたりをご覧ください。四角囲いで、コミュニティスクールとは、学校運営協議会を導入した学校と示されております。

では、この協議会とは一体どういうものかというところです。現在は、こういった制度では、学校の評価員、第三者の評価員として、各学校に地域の方に協力をいただいて、学校の一年間のいろいろな取り組みに評価をしていただいております。このコミュニティスクールの一番は、その右側をご覧ください。四角囲みで3つあります、その一番上です。今までは、基本は評価を中心に協力いただいていたものが、この協議会を導入することによって、学校の運営方針をまず承認していただく。地域の皆さまに承認していただくという新しい動きを導入して参ります。このことによりまして、子どもを真ん中に据えて、学校の思い、もちろん校長先生の思いもあるでしょうし、あるいは地域の思いが対等の関係になっている。協働によって、子どもたちを育てていくという一つの大きな仕組みが出来上がるのではないかと考えております。今までは、学校からの依頼であったり、行政であったり、各地域に協力をいただいております。それは、運営方針自体を承認していくわけですので、お互いにいい意味での責任も出てくるのかなと考えております。

このベースになるのは、以前に少し時間が空きましたが、地域学校であったり、300人委員会であったり、1000人委員会であったりと、コロナの前に実施してから、しばらく期間が空きましたが、そういう中で地域の皆さまが学校に対しての思い、子どもに対しての思い、しっかりとした土壌のある地域にこそ、明確な制度としてこのコミュニティスクールを取り入れていきたいと考えているところでございます。

その右のページの一番下をご覧ください。目指す効果というところです。あくまでも子どもの像と言いますか、目指したいものを学校と共有するということで、いろんな場面でブレることなく、公民館活動、地域活動、自治会活動等々を学校と共に育てていけるのではないかと期待しているところでございます。

最後に、裏面をご覧ください。これは想定しておりますけれども、この協議会を導入した際は、このような良い面が出てくるのではないかと考えております。まず資格囲みの上の方です。これは学校から見たメリットです。地域と共にある学校づくりを学校が行っていったときに、このようなメリットがあると。

また、下の四角囲みにつきましては、これは先ほども町長が申しましたけれども、今度は学校を核とした地域づくりという視点で考えたときには、このようなメリットがあるのではないかと考えているところでございます。

邑南町としては、このコミュニティスクールは、基本は小学校単位でつくられるのが全国的に多いようですが、邑南町は9年間で意識したいと考えております。小学校、中学校の9年間、義務教育を卒業するときに、このような力をつけてもらい

たいという思いを、学校と地域が共有していくという体制でいくと、このコミュニティスクールというのは中学校区につくっていきたいと思っております。このことにつきましては、先ほども申しましたように、今後、対話を通して熟議を重ねながら各地域に応じた姿をつくり上げていきたいと思っておりますので、来年度いろいろな場面を提供させていただきますので、ご意見等をいただければと思っております。私の方からは以上でございます。

3．意見交換

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、皆さまとの意見交換ということで、進めて参ります。皆さまからご意見、ご質問をいただきたいと思います。手を挙げていただきますと、マイクをお持ちしますので、一回のご発言の際に、一つずつお願いしたいと思います。たくさんの方からご意見を頂戴したいと思っておりますので、一回に一つずつということで。一回しか発言してはいけません、困りますというわけではございませんので、ご理解いただきたいと思います。よろしく申し上げます。それでは、どなたからでも構いませんので、よろしくお願いいたします。
- 高海自治会の〇〇といたします。４点くらい質問をしたかったんですが、まず一点。一つは、新しい地域コミュニティ、地域運営組織というものですが、既に自治会を統合された地区もありますが、高原ではまだそういった話合いもしていません。ただ、気になるのは自治会館が今あります。合併時に建ててわずか２０年、まだまだ新しい施設です。今、自治会で活動しているのは、その地域に身近にある会館なので、いろいろな面で利用されているし、自治会としてもこれまでいろいろな取り組みをしていて、非常に使用頻度も上がっています。その中で、地域運営組織、２つの自治会が一つになるような方向なんですよ。ところが、先ほど言いましたように、身近な人が気軽に来れるところ、合併すれば、今度はその場所がどこになるのか。たぶん公民館などを想定されるんでしょうが、そうすると、特に高齢者にとっては遠くなる。利用頻度が非常に難しくなるという面があります。もし、統合したら、今の自治会館は、必要なら残します。いらないなら町が解体しますといったようなことを聞いています。必要なら、今度はそれを地域が管理していかないといけない。固定費はいりますから、その財源がない。会費を上げて運営していくしかない。そういったことがあって、考えたらデメリットしかないんです。地域運営組織、地域コミュニティは建物がなくとも、その地区の２つの自治会で１つにできることはあるかもしれませんが、それは館がなくとも運営できるのかなということになると、やはりそこに住む住民が一番利用しやすい自治会館を継続していくことが、私は一番理想だなと。ただその管理と運営をしていく費用がなかなか捻出できない。だからといって、会費を上げるとすると莫大な会費になって負担をかけるということで、悩みもあつたりするわけです。だから、必ずしも合併しなくてもいいんじゃないかという言う考えを私は持っています。他の人はどうか知りませんが。そんな話をまた具体的に進めていませんけど、地域で運営するメニューもありましたけど、今までのメニューはやっぱり身近な自治会館での活動というのは継続していく方がいいんじゃないかという気がしています。

それで、ここにも書いてありますが、自治会館の解体とか書いてありましたけど。公共施設の統廃合の中に、自治会館とか斎場とかが上げてありますので、そういったことをにらんでやっておられるのか。それぞれの地域で、必要な会館もあるということは、やっぱり継続していてももらわないといけないし、そうなる、今、町から施設の管理費など出ています。そういったものがどうなるのか、いろいろな具体的なものが出てこない、なかなか前に進めないというのが、まず1点です。

- 大屋町長 ありがとうございます。簡単に答えさせてください。地域事情があって、この度のコミュニティの再生で、地域運営組織というのは、それぞれの自治会は邑南町の中で大きさが違うので、成り立たないというのであれば、再編したらどうですかという提案であって、全てが再編してくださいというものではありません。それぞれに、自治会が使いやすかったり、今のままでよければそれでもいいし、選択肢の一つだと思ってください。

公共施設の統廃合で自治会館と書いてあります。皆さんにとって必要がないよということがあれば、壊します、何とかしますという話であって、今のままだ良ければ、それで全然いいです。それに対して、統合しなければ自治会活動費も減らすというような条件は出していないので、もし役員のなり手がないとか、今のままでは維持できないんだということがあれば、再編していただければいいし。先ほど言われた公民館単位で一緒に何かするときには、一緒にするけど、あとは自治会毎でよければ、それで全然いいです。今が良ければ、今のまま維持します。

この話があちこちで出ながら、なかなか返事がきちんとできなかったのも、それぞれの地域の事情があるので、地域に合わせて相談させていただいて、今がよければ今のままで、変えたければ変える方向でと、町として積極的にじゃないということを理解してください。あえて一つにしてくださいという意味ではないということだけ思っていたいただければいいです。今のままだ良ければ、今のままで頑張っていたいただければ、応援するところはしっかりさせていただきます。

- いいですか。地域運営組織を自治会館を残したままでつくった場合、地域運営組織にはマネージャーの手当が400万円くらい出るんかいね。それと、その活動の補助金が100万円か200万円出るそうなんですけど、それも自治会館を残して地域運営組織をつくったときには、全部出るということですか。

- 大屋町長 石見の自治会館がもう50年くらい経っていてどうしようということがあったので、地域運営組織をつくっていただいて、例えば、今の自治会館を活動拠点にするとかなら、それで成り立つし。公民館を使うなら、じゃあ自治会館はどうしますかと提案すると、自治会館は自治会館で使いたいと言われたときには、また相談だと思ってください。ある程度見てもらえるところがあればですが、その自治会としての活動も指定管理なので、そこで2つとも指定管理を受けて今までどおりにしたいということだったら、また相談で。そういう手もあるんだと思います。どちらも新しいのはわかっているので、敢えてそれを棒に振ることもないです。

一方で、公共施設の統廃合というところで、遊休公共施設の新たな活用策の検討と書いています。もし使わないとか、大部分を公民館で活動するけど、空いたときだけ自治会館というときに、だれが負担というときに、使い道がないとか、使わない期間が長い公共施設を町として持つのも大変なら、新たな使い道はないのかということも考えなきゃいけないと思います。いろいろな事情に対応できるよ

うに、こちらとしてもしっかり準備させていただいて、相談するなり提案させてもらえればと思っています。それぞれの事情を聞かせていただいて、対応させていただければと思います。ちょっと逃げみたいな答弁でごめんなさい。

●大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。

○ 私は、財政の町長の話について聞きたいわけですが、ご存じのとおり私も30年この町で議会をやらせていただいて、議会を離れて4年間ということで、私はその4年間の間にここまで財政が厳しくなったのかというのが、この度の選挙で聞いたわけです。それで、この財政につきましては、今の大屋町長さんは議会でも数字に強いということで、基本的には実質公債比率というのを私たちが考えるのは毎年出てくる。その%が、今15くらい？

●白須副町長 14、13くらいです。

○ あれは、だいたい18くらいが危険で、ここまでいくようになったら、夕張みたいに総務省が財政再生みたいにするということで。これは要するに、合併して20年間で財政が厳しくなったということは、誰がいい悪いではなく、基本的には執行部と議会の中で、毎年、財政帳を見ながら公債比率を見ながらやってきて、その中でこの4年で、こんなに予算が組めないくらい悪くなったんかなという疑問が、この度、出ました。

ということは、議会をやっていた私たちにも責任があると。という中で聞きたいのが、町の財政再建という言葉が使われています、この度。財政再建というのは、基本的には、その町が自主財源でやっていけない、赤字が増えたということで、財政再建団体に総務省が認めて、今度はそれに対して、町として一番やらないといけないのは、職員の削減、そして今度は人件費を抑制していく。あとは、町の収入である自主財源、これを上げていくというようなことが、私は財政再建という言葉だと思っておりました。

ただ、それが財政再建団体になったということは、町長さんは使われていなかったんで、その言葉でこの会場にも議員さんとか、元役場の皆さんもおられるので、そういう皆さんは、いよいよ邑南町は金がなくなったかと。もうこれはやれんのかというのが、そのまま出てきたら、若い人もやはり金のない町に帰ってこいと言われても、よう帰られんというような悪い方に動いてはいけんと思ったのが、それが一点です。

その中で、24、25年前になるとと思いますが、臨時財政対策費というのが出ましたね。

●白須副町長 臨時財政対策債です。

○ 臨時財政対策債ですか。国が各地方公共団体に地方交付税を出す金がないということで、その対策債というのをつくって、各長を市長を助けましょうと。自治体は起債ですが、最終的にはプラスマイナス0で、あなたの町にあげますよというようなことで。最近、これがコロナの関係で国もどんどん金がなくなって、そういう臨時対策債というのは、当てにならないということでしょうか。

●白須副町長 あります。それで100%財政措置されます。それで、来年度は、初めてなくなりました。税収が延びて、国全体の。というような状況です。制度自体は。

○ 国の方から、それは当てにならないということ。

●大屋町長 それも含めて答えます。

○ というようなことで、一つ心配だったのは、地方がいよいよやれん時には、そ

のやり方で初めはもらいよった。リーマンショックのときくらいから、それができて、その事業が、この4年間の中でなくなって町長さんが言うように、大変厳しい再建だから、それも国から出てこなくて厳しいんかなという言い方をしよってかなというような思いで。その思い。

それで、長くなってすみませんが、20年前に合併して3町が一緒になって、合併特例債も出ましたが、後ろにおられる山本副町長さんでした。あの頃にもう町もやれんからということで、三役さんが報酬をカットされました。議会も18名がカットしました。というように、また3月議会をやられるということで、本当に厳しくてやれんということになると、そのような三役の報酬カット、そしてまた議会の皆さんも。何ヶ月かは解散するから、新しい議員さんが決めないといけないことですが。そういうような格好で、一時は合併のための甘い蜜ということで、合併したらすぐ交付税をカットされて、今度は、新たな町長さんと三役さん、議会の方が報酬をカットしたと。そこまで厳しく、今なっているのかというようなことで言いたいのは、厳しいというのは分かりました。

分かりましたが、それをあんまりどんどん言われると、町長さんというものはある程度、町民に夢を与える仕事も一つの大きな仕事だと思いますので、中身は厳しく、それはしっかりと議会と執行部で徐々に下げいく。しかしながら、町民には補助金を出さなくてもいいので、夢をしゃべっていただいてというようなことで。私は20年間の今までの町政と今後の町政は、大屋町長が選ばれた。これは町民が選んだ以上は、大屋町長のカラーでやっていくのに、あまりまじめにまじめにではなく、町長は夢を与えていくということをお願いしたいということで、今のことで答えられるようにまたお願いします。

- 大屋町長 財政が厳しいですという話を、皆さんにしていかなきゃいけないということで、再建という言葉も使ったんです。他の地区でも同じ話がありました。借金を抱えて大変で夢がないから、この町に若い人が来なくなるよと言われてました。そういう捉え方があったんだと、非常に申し訳ないなという思いと、あえて再建という言葉を使ったのは、職員もそうです、私たちもそうです、町民の皆さんにも意識を変えていただかなきゃいけない時期がきた。

合併して1万3千人近くいた人が、今9,500人で、近いうちに8千人前後になるというところで、どうしても施設の統廃合をするとか。今あるサービスは維持したいですとか、学校にしてもきちんと残していかないといけないけど、若干は不便さが出てくるということも理解してもらわないといけない。

役場の中でいうと、ほぼほぼ、ウルトラCは使い果たしています。先ほど、〇〇さんに言ってもらったとおり、いろいろな数値を見ると、うちの町は決して悪いことはないです。悪くないように、例えば道の駅の償還は、30年にすることによって、1年辺りの金額を下げている。今後は若い人たち、次の世代が何かしたいと思ったときに、逃げ道は一切ないということがあって、あえて財政再建というのを使わせてもらっています。国からの支援がなくなったわけじゃないです。

臨時財政特例債という話があったんですが、それは交付税の一部なので、総額の中で現金としてもらうか、借金として国に返していくか、ちょっとややこしい話ですみません。ただ、国からのお金も人口が減ってくる分だけは、しっかりと減っていきます。出る方は変わらないです。

意識改革をしてほしい。例えば、職員の方もいるんですけど、邑南町は世帯数は大きく減っていないです。一人暮らしの人が増えていて、住民サービスのコス

トはどんどん上がっているけど、それをどうするのかというアイディアを出してもらわないといけない。それで、やり繰りを何とかする中で、しっかり皆さんに投資をしたいですということで、今年度予算についても、財源を子どもたちのためであるとか、地域のためということで必要なことには、しっかり投資をしています。それをアピールしながらやっていきたいですし、ふるさと納税というのも大きな財源なので、もう少し頑張らないといけないし、頑張るためには、町の魅力などの伝え方も努力していかなければいけないと思います。

あとは、本当に厳しいなら、三役なり議会なり、職員の給料を下げるべきだという議論もありますし、そういう指摘も受けたことがあります。三役が報酬を下げるのは、どちらかというとパフォーマンスに近いので、議会もそうだと思いますし、今の時代に理解されにくいところの一つは、議員の報酬も議会の時上げました。職員の給料も要求どおりに全部上げています。今の時代、人件費は削減しちゃいけない。しっかり掛けないと働いてもらえないし、地域の所得を上げていくためにも必要だと思っています。

ただ、その中で、人件費総額は増えていくので、ちゃんと仕事を見直して、総額は下げていかなければいけないと思っています。ちょっと、財政再建のイメージが悪く捉えられてしまうということは、私の責任だし、議会でも宮田議員から指摘もありました。上手に伝わっていないところもあると思いますが、長い目で見たときに、しっかりとした財政運営をして、ある意味で、夢が語れるようにと。今日はあまり夢を語っていないなど。それほど今、心に余裕がないのかもしれないかもしれません。そういうところも反省しながら進めさせていただければと思います。ありがとうございます。

- 町長さんが4年間のうちの2年間で、ある程度の道筋をつけるという言葉を使われとったんですが、やはりハード面でどうしても縮小しないといけないところは、私は議会の皆さんも一緒ですが、やっぱり説明をしっかりと、お互いが思考して、住民の皆さんに理解してもらおう。4年でできるものが、8年になってもいいじゃないですかというようなところで、思い切った政策をやられるべきだと思いますので。

20年間で邑南町が人口が9400人、9500です。しかしながら今、川本町、美郷町についても言いましたが、今、一番人口の減っているのが美郷町、そして川本町、そして邑南町というように、やはり20年間いろいろな面に金をかけたその成果が、ある程度邑南町の人口の減る率が少ないというのも、これは結果的に20年で出ておりますので、やはりそういう人口のことに對しましては、締めるときにはぐっと締めるというような格好でやっていかない限りは、今からの20年は難しいかなと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。はい、どうぞ。
- 田所地区の〇〇といいます。私は、森林環境税、これについてちょっとお願いしたいと思っています。この6年度からは、住民税を払う方が納税者になって、そういうことで関心が出てくるのかなと思っていますが、まだまだ邑南町の山は85%あるんですが、関心が少ないんじゃないかということで、町長が重点項目に入れておりますというように、広報、あるいは、ここにも今後取り組んでいくところに、農地維持のための周辺林地の管理を含めた総合対策の実施ということをして上げておられます。山も含めてやってもらえるのかなと思っています。

それで、ちょっと振り返ってみると、大賀課長が産業支援課長で、今、総務課

長。それから、白須副町長がその後任で、産業支援課長だったので、私も譲与税のときに、そのときに前倒していろいろ予算が邑南町に上がってきとったんだけど、これについて元年度と2年度には積立金を使わずに、その2年間で3千2百万円くらいあると思うんです。ホームページをちょっと見ると、そういうのが公開されております。

ただ、5年度がまだアップされていないので、何であんなに遅れているのかと。もう決算も終わっているし、そういうところはどうなんかなと思っておりまして。そういうところも早め早めにどういうことでこういうのを使ったという内容を、もうちょっと細かく広報でもいろいろ間伐をやったりして、それから基幹林道をつくったり、そういうところに使われているのはわかっているんだけど、それは写真を入れて、皆さんがそういうことで森林環境税が使われているということがよくわかるようなことで、広報も。あるいはいろいろと意見が出たときにでも、こういうことで知らしめておりますということをやってもらいたいと思っております。

それで、今の積立金が3千2百万円くらいあるんだけど、これはどういうふうにされておるのかなと。年度以降に事業に必要なだから、積立をしておりますよという理由だと思うんですけど、それが今でもどういうふうに6年度ではそれが使われたのかどうか、そういうのがわからないから。計画も含めてその内容をもうちょっと細かく知らせてもらいたいなと思っております。

- 白須副町長 副町長の白須です。前に担当をしていたこともありまして、最初は私の方から説明させていただきます。積立金ですが、積立てしたものについては、基本は翌年度にはしっかりと使うということで予算組みをしています。ですから、なるべく毎年積立金が少なくなるように、予算組みをしています。

ただ、予算計上したんですが、実績がそこまでなかった場合はそのまま積立金に残ってしまいますので、それはまた次の翌年にそれを財源に予算組みをしていて、決して他のことに使ったり、貯めたままにしていることがないようにしています。

それから、広報については、今後ホームページにも、令和5年度はまだ掲載されていないということだったんですが、毎年使い方については広報させてもらっています。ただ、今、言われたように写真を使ってとか、そういった見やすい形の広報はしておりませんので、そこはちょっと研究させてもらえればと思います。

- 6年度に配分の見直しがあったでしょう。大都会に配分されとるから、それが割合をちょっと変えて、そういうことで配分しますよということで、かなり増えたと思うんですよ、6年度は。そこら辺りがどのくらいになったとかね、そういうところも知りたいということがあります。

- 大屋町長 ありがとうございます。邑南町はさっき言われたとおり山が85%ある以上は、もうちょっと有効に活用しないといけないという思いと、きちんとした管理ができないと、どんどん山が迫ってくるじゃないですけど、遊休農地がそうじゃなくなってくるとか、鳥獣害の被害がということで、言っていたいたとおり、集団的な管理をと思っています。

先般、東京で、林野庁で意見交換があって、県もそうなんです、邑南町は比較的、頑張っているイメージを持っていたいて評価が高いです。邑南町の取り組みを真似るとか。たぶん今まで森林環境税でやっていたことを国が予算化していただければ、その分、町は他のことに使える。

併せて山の関係はすごくいろいろな予算があって、もう少し頑張っという予算を邑南町が取り込めるようにすれば、森林環境税は自由度が高いので、組み合わせてもうちょっと山に対して投資ができるかなという思いを持っています。今日も課長会議があって基盤整備、農業関係のことと、山の関係は情報収集しないとわからないことがたくさんあるので、町長としても頑張りますと宣言したので、頑張ります。期待していただければと思います。よろしくお願いします。

- 田所地区の〇〇と申します。よろしくお願いします。実は農業振興について、お願いをしておることについてです。この度、産直市、道の駅ですね、これを新しく建て替えておられまして、大変ありがたく思っております。前の産直市はどうも、駐車場が狭くて、他所から来られた方も駐車場を停めるところがないから、そのまま出ていかれる方もあったように思います。そういう点では、非常に期待しております。

また反面、心配なのは、生産が伸びていかなければ、産直市の運営が難しくなってくると思います。私もわずかですが、農業をさせていただいております。今、農家の人が一番困っているのが、獣被害ではないかと思ひます。イノシシであるとか、シカ、サルとか、その他いろいろな獣が出て野菜を食べたり、被害を被っております。

それで、今獣を捕獲するのが捕獲資格のある猟師さんをお願いをして捕獲をしていただいておりますが、その捕獲のときの町から補助金が6千円でしょうか。あると聞いております。その猟師の資格を持っておられる方も年々、高齢化されてきて、若い人が引き継いでくれる者がいないと大変だと思います。猟師さんの話も聞いてみるんですが、捕獲した一頭あたりの補助額の6千円がもう少し何とかならんだろうか。やはり、若い人が後を継いでくれないといけないこの資格ですから、そのためにももう少し補助額を上げていただいて、せめて一頭あたり1万円くらいにならないかなと思っております。

実は、合併前の瑞穂地区の場合はまだ補助金額が高かったんです。それで、猟師さんも十分に満足しておられたんじゃないかと思ひます。後継者対策からもその辺を一つご検討いただければと思ひます。

- 大屋町長 ありがとうございます。冒頭のあいさつで、ここではしなかったんですが、いろいろな地区で、産直市がよくなる一方で、米の値段や野菜の値段は高いけど、新たに農業に取り組もうとか、加工品をつくって売ろうとか、そういう雰囲気を感じられない。

そういう中で、どういう投資をするといいんだろうと思ひながら、鳥獣害の被害の話が出たんです。捕獲奨励金をもう少しというのは初めて言っていたんですが。役場の中でも担当者が3人おられて、鳥獣害被害とか専門的に取り組んでいただいて、けもの新聞も出していただいております。その被害の軽減と捕獲奨励金と後継者の話がつながるかは別にして、最終的に後継者というか、猟をしてみらう人がいなければ終わるので、そういう人を育てるのに、捕獲奨励金になるのか、他の支援になるのかはあると思ひますが、ちょっと役場の中でも議論させていただいて、整理させていただいて、そうすれば跡が育つか。地域としてもこういう人たちが必要なんだということをアピールしないといけないと思うので、そういうことも含めて、第一は後継者のことで、そこをどうすればいいのかということ一度議論させてください。ありがとうございます。

- 大賀総務課長 はい、どうぞ。

- 今回、お話できる機会をつくっていただき、ありがとうございます。今日は、子育てについてお聞きしたいことがあって参りました。私は、小学校の子どもを育てていますが、子どもたちが遊ぶ場所が少ないと感じていて、外で遊ぶのはいいんですが、雨が降った日に遊ぶ場所がない。なるべくSNSやゲームとか、そういうものに頼らずに子育てをしたいと思っているので、子どもたちが走り回れるような施設があったらいいなと思っています。

体育館とか、元気館のアリーナとかも問い合わせをしたことがあるんですが、1時間千円かな、ちょっと料金がかかる。それはもちろん照明とかもあるので、当然だとは思いますが。ですけど、雨の日が続く、毎日千円となってくると、ちょっと難しくなったりとか。それじゃあ、おばあちゃんのお家で遊ぼうかということで行き来したりもあって、遊べる場所がないかなと思っています。

田所公民館とか、ホールもとてもいいよと言われるんですが、4年生で大きくなってきて、バスケットボールがしたいとか、野球がしたいと言っていて、そうだと公民館ではちょっと難しくて。

土日であれば、大朝にタイヨウセンターという体育館があるんですが、そこに行ったらバスケットをやったり、野球をやったりしています。そちらは1時間で200円とか、利用しやすい金額でさせてもらっているんですけど、平日に30分かけて行くのも難しく、もしそういう施設が今現在あれば、教えてもらいたいのと、なければそういう場所があるといいなと思うんですけど、どうでしょうか。

- 大屋町長 ありがとうございます。かなり以前、子育てのアンケートをとったときに、遊ぶ場所という話がたくさん出たんだと思います。それで、香木の森やふれあい公園に遊具の整備とかもしました。おっしゃるとおり、確かに雨が降ったりしたときに、気軽に遊べるとか元気館のどこかで走れるとか、大人もそうですけど、ないなと思いました。

それで、SNSに頼らずにということで、ちょっと踏み込めなかったんだけど。来年度予算で、実は、0歳、1歳、3歳のお子さんに本を配布することをやっているんですが、ちょっと見直しませんかという投げかけをしました。その思いは、保護者さんに本を読む余裕があれば必要だけど、町が本を渡してよしみたいなのも、どうなんだろうと。読む余裕だとか、そういう環境を整えてないと、渡す意味があるんだろうかという思いがあって。

おっしゃるとおり、その延長線上で、確かに特に冬場に遊ぶ場所と言われると、なかなか難しいのでなるべくいい答えが出せるように少し考えさせてください。アンケートをすると、やっぱり遊ぶ場所がほしいという投げかけがあると、たぶん香木の森でも遊具をつくってよしだったんです、今までは。

ただ、思いにしっかり答えているかどうかは別なので、やっぱりやったことと、思いが伝わるかというのはあるので、こういう機会で発言していただいて思いが聞けたので、ありがとうございます。

もう少し踏み込んだ中で、日本一の子育て村をどうすべきかというのをしています。本当に必要だと思われることができるよう、やり取りを深めながらさせてもらえればと思います。空いている施設はいっぱいあるので、一般開放の在り方もあるんだと思います。この日は解放するので、皆さん来てください。例えば、100円でいいですよとか、参加料とかいうやり方もあると思います。無料でというのは、あまり長続きしないので、良くないと思っているので、お互いに負担できる料金で、こちらでもできる範囲でという感じでやらせてください。

少し役場の中で、来月には議会があって議員の皆さんが一般質問されるので、役場の課長も集まっているいろいろな議論するので、そういうところでちょっと話をさせてください。ありがとうございます。

○ ありがとうございます。ちなみに、小学校の体育館は個人的に使えるんでしょうか。

● 大橋教育長 ありがとうございます。調査をしてみないといけんですが、基本的に個人での貸し出しはしていないと思います。ただ、料金についてですけど、小学校の場合は料金設定がありませんので、もし団体等で使われる場合は、無償で使っていただいていると認識しております。個人での使用については、ちょっと調べさせてもらえればと思います。

○ いつお答えが聞けるでしょうか。

● 大屋町長 お手数でなければ、今日、表紙に町長への手紙というのをやっているんです。もう一度、ここにメッセージを入れていただくと、お名前とか住所とかメールアドレスがなくてもいいにしているんですけど、メールアドレスだけでも入れておいていただくと、そのまま教育長にまわして返事をするように。できるかできないかとかをさせてください。

今後の対応をこうしますとか、こういうことができます、こうしていきますという方針は改めて町政座談会の全部のまとめの中で出させてください。申し訳ないです。直接返事をする方法は、ここに送っていただくと一番ありがたいです。

あとは、皆さんは、ここに送っていただいてもいいですし、町のホームページに町長への手紙で、いつでも出せるようになっているので、そこも使っていただければありがたいです。とりあえず、返事はさせていただきます。公式には改めてということとさせていただきますので、使ってください。

○ ありがとうございます。

● 大賀総務課長 はい、すみません。

○ 高原の〇〇といいます。町長さんが所信表明で有機農業を進めていきたいと言われたと思うんですけど、ぜひ力を入れて進めていただきたいと思います。それで、どうやって前へ進めようとしているのかをお聞きしたいと思います。

今、有機米が月一回、学校給食で使われています。有機農産物を公共的に支えて生産者を励まして、生産を支えていくことは本当に大事なことでと思っています。千葉県和泉市では全量有機米ですし、島根県の吉賀町も平成10年から全量有機米になっているように聞いています。子どもの成長のためにも、ぜひ全量が有機米になる方向を目指していただきと思います。そのためには、生産農家を増やして生産量が増えなければなりません。それから供給する仕組みをつくっていかねばならないと思います。ぜひそういう方向でやって頑張っていただきたいと思います。よろしくお願いします。

● 大屋町長 ありがとうございます。有機や無農薬だとかそれぞれの考え方ですし、最終的にそういう方向にいかばいい、技術面でということで、所信表明では技術ということばを使いました。来年度予算については、今年と同じよう増やしてはいないですが、今までどおりで有機米を学校給食に続けていきたいと思っています。

それで、生産を増やすかというときに、和泉市の例も出されたんですけど、例えば米でいうと、水管理によって除草するみたいなこともあって、あとは合鴨が使われるとか。今、合鴨のロボットもありますよね。そういうのをいろいろ思っ

たときに、邑南町でやろうと思うと、土手がちゃんとしているとか、水面が均平でないと機械が使えなくて、そういう面でいうと、圃場整備とかきちんとしていないと水管理で何かをしようとか、次のステップに進めないなと思っています。そういうことで基盤整備とか必要ならやっていくことによって、機械化ができるとか新しい技術に取り組める。そこから有機につなげるということをしていかなきゃいけないけど、その前に基盤整備をきちんとした田んぼでないと難しいなと思いました。

そういうことも含めながら、再生協とかでも話をしてもらったり、農業委員会でも提案を受けながら、基盤整備はさっき言ったとおり、県や国の制度がいっぱいあるので、そういうのを使っていったら、それが次の技術の発展になって有機農業につながればいいなと思っています。

- 圃場整備をしてからだいぶ年数が経っていますから、だいぶ壊れているところもあると思うんです。そうでないところもありますからね。そういうところからも進めていけるんじゃないかと思います。
- 大屋町長 ありがとうございます。そういう場所もあるかもしれないし、いろいろな技術があって、今時の技術を入れて規模拡大をしたい人はして、有機農業に取り組みたい人は取り組む。それぞれの思いが叶うには、最低限圃場が均平でないと苦しいかなと。手間ばかりかかるのでということをおもいました。またいろいろ相談させてください。ありがとうございます。
- 朝原地区の行政協力員をしています〇〇といいます。2点あるんですけど、一つはインターネットの光回線のことをお聞きしたいんですけど、邑南町はケーブルテレビが管理しておられるものしかないですよ。それで、料金が割高で通信速度も遅いと思うんですよ。確かケーブルテレビは100Mbpsが最高ですよ。現状、1Gがどんどん出ていて、それで定住とか考えておられるのに、IT系の企業さんなりに来てもらうにしても、既存の企業も学校もそうなんですけど、動画のやり取りをするときに困っていらっしゃるんじゃないかと思うんですけど、100Mだと、かなり厳しいんじゃないかと思うんですけど、その辺はどうなるのかなと個人的には思っているんですけど。
- 大屋町長 ありがとうございます。ちょっと先日もそういう話が出まして、担当課とも話をしたんです。現実的に邑南町の邑南町以外の会社にくることはまずないです。NTTが入ってくるようなこともないです。邑南町は今、きちんとしています。100Mが実際に不便かどうかという、日常生活とか、動画のやり取りではあまり不便はないと思います。料金が割高かどうかは、ちょっと皆さんの判断なので。それで、全国的には1Gとかいろいろあるんですけど、利用者が邑南町は決して多くないので、今の中でそんなにスピードが落ちるわけじゃない。都市部がそれだけ本当にスピードが出ているかということと、企業にもいろいろ聞いたんですが、いろいろな仕組みがあるので、この範囲でできるようにやる。それが本当に困るなら言うけど。企業にとってそうそう今のところは困らないという話を聞いています。

すみません、そこから先の高速インターネットをつなげて企業誘致をするかということになってくると、冒頭にあまりふれなかったんですが、今、邑南町は進出企業が何社かあって、どこも人手不足なので、まずそこをと思っています。インターネットに関するようなIT系の企業は環境もありますし。ただ誘致をしても雇用は少ないんですけど来た人たちで頑張っていただけなので、それはそれで

ありがたいと思っています。どこの町も取り組んでいるので、今うちがそこに積極的に行くかということ、そういう状況ではない。ただ選択肢としてうちの町を選ばれても、今の環境でそうそう不便はないかと思っています。仕事内容ですけど、

あまり答えになっていないんですが、今後もっと早くないといけない状況ができたときには、おおなんケーブルと民間とのつながりの接続を速くすれば済むことなので、コストはかかりますけど。線を張り替えなくてできる範囲だと思うのでやっていきたいと思います。今のところ、当面は現状でやっていければと思っています。そこに対してあまり不便ではないだろうと、ゲームをやる人にも聞いたけど、若干、新しいゲームができたときに一斉にダウンロードすると邑南町がちょっと遅れる程度で、そんなに困らないですよと言われたので、

今のところ大丈夫かなと思っています。すみません、答えになっていないですけど、あまり直接的な不便は見えていないということです。

- 例えば、隣の北広島町は1 G来ていますよね。それで、邑南町の100 Mと料金が500円しか変わらないんですよ、100 Mと1 Gが。都会の方も10 Gという話になっていて、誘致企業が来るか来ないかは努力だと思うんですけど、なかなか条件を整備しておかないと来るものも来ないような。生成AIの話になってきますので、その辺は考えられたらいいと思うんですけど。

- 大屋町長 考えておきますとしか今は答えられません。すみません。それで、邑南町が本当に1 Gとか100 Gを入れたときには、さすがにこの料金の倍以上とか、利用者の関係と、隣はたんぶん大手だと思うんですけど。F T T Hさんとか、そういうところが入ってきてもらおうと一番いいんですけど、ちょっとその可能性は少ないだろうということなので。

ただ、需要が増えてくればそういう会社も来る可能性があるんで、卵が先かニワトリが先かですけど、その辺も考慮しながらいろいろ考えさせてください。すみません、ありがとうございます。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

- 田所地区の○○と言います。私は邑南町の観光について、ちょっとお聞きしたいんですけど、私は道明で林道の残土していたところに、草が生えるばかりじゃだめだと思って、花を趣味でやっているんです。邑南町はすごく素敵なおとこだと、わりと浜田とか江津とかリピーターがあるんです。

このマップは、ポケットサイズでちょっと見にくいというか、いろいろなグルメの店とか自然の観光地が載っているんですけど、四季を通していつからいつまでは、ここが見どころだとか、そういうのが一切ないので、来られる方がどこに行っているのかわからないという人がたくさんおられます。

邑南町が好きだという人が毎年来られるんですけど、松江の方でもホームページを見て来られる方がおられます。立岩神社とか赤羽滝とか、気に入って毎年来るという方もおられます。立岩神社に行ったら、必ずあられを必ず買って帰ると。邑南町を観光される方は必ず道の駅へ寄って帰られる方がほとんどです。

瑞穂の道の駅もお土産のところが、今からはたくさん出ると思いますけど、道の駅を目指して、自然の断魚溪とか、今のような観光地を好きな人は必ず寄って帰られる方が多いんです。もうちょっと見どころの、いつからいつまでがここが見どころ、冬はハイランドのスキーとか、夏はどこというのを明確にした観光マップをつくってほしいと思います。

それで、グルメも閉店になったところも載っていることもあります。もうちょっとマップを、観光のみどころやら、マップをもうちょっとわかりやすく作成してもらいたいと思います。邑南町が大好きな人がいっぱいおられます。兵庫の人とか、松江からでもハンザケ会館に行ったり、私のところへもそこから来ていただくんですが、モリアオガエルとかイモリくらいしか見るのはないですけど、子どもさんを連れて来られる方も毎年います。自然を求めて来られる人は、邑南町が一番いいんじゃないかと思います。ぜひ、もうちょっと道の駅からの観光バスとか、何か広げてほしいなと思います。

- 大屋町長 ありがとうございます。邑南町の弱点ではないですが、過去から議会からずっと質問がある中で、町内の施設をまわる、道の駅なり霧の湯も再開しますし、羽須美は三江線の跡地活用で頑張っておられます。それぞれが窓口になってお客さんが来られた時に、特に今から山陰道がつながってくると、松江、出雲、広島は当然だと思います。来られた方がそこからまわって行かれる。趣味でハンザケが好きな人が来たら、ついでじゃないですが、ここもありますよと、町内を周遊してもらえるように、もうちょっと邑南町の滞在時間を長くしてもらおうというのは大事だと思っているので。

今、町の観光計画はあるんですけ、少し古いというかコロナ前だったので。新しく道の駅もできることもあって、来年度は担当課で少し町内周遊を課題につくり直しませんかという投げかけをしています。今日のご意見も参考にさせていただいて、また計画をつくって、そこに反映して、皆さんの思いが踏み込んで成り立つような計画とパンフレットもちょっと。役場はいいと思って一生懸命つくるけど、実際には町民の方や使われる方が必ずしもそうではない。思いが伝わっていないのがたくさんわかったので、改めてご一緒にということとさせていただきます。新しいものがつくればと思っています。ありがとうございました。

- 私たち地元の者でも断魚溪とか、二ツ山とか、赤馬滝とか、よく行くんですが、移住者の方は私よりもっと滝を見てまわったり、田所の郷土館とかマップに載ってないんですよ。私も毎年行くんですが、見に来てほしいと職員の方も言っておられます。ぜひマップに載せてあげてください。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。

- 時間がきそうなので、今日は一点だけ聞かせてください。石見中学校の新築のことと、統合のことについて、町長さんと教育長さんにお聞きしたいと思います。瑞穂の高原地区の〇〇と申します。

まずは、教育長さんにお聞きするんですが、石見中学校は教科センター方式をとられたということが去年の町の広報7月号に載っておりました。その教科センター方式というのは、生徒たちが教科別に教室を移動して学という方式で、この広報には、英語、数学、国語の他にも社会とかいろいろあると思うんですけど、そういう教科がどうなっているのかということ。

もう一点は、我々が小さい頃には音楽室とか美術室とか理科室というのは特別教室ということでその実験などがあるので、そういうものは特別な教室でやりよったと思うんですけど、教科センター方式という教室は、それは今、石見中学校には何教室あるんですか。

- 大橋教育長 ありがとうございます。教科センター方式ということで、今年度の2学期よりスタートさせていただいたところです。方式につきましては、今おっしゃられたとおり、イメージとして以前よりありました音楽だとか体育とか、理科

であったり、そういった教科はまずその専門の教室に行って学ぶのが通例だったと思います。それを5教科にも取り入れさせていただきました。つまり、その教室はホームルームではないので、1年生から3年生までまず何を学んでいくのかということで掲示物が充実できます。1年生にとっては、3年生になったらこういう勉強をしていくんだとか、学びの功績を明確にしていく。3年生はその逆です。そういった中で、学ぶというのを今までは自分の教室で教科書を机の中に入れて、教科の先生が来られたらその教科書を出して学んでいくということですが、自ら学びを取りに行くという基本的な姿勢を身につけていただきたいという思いで、毎時間、基本的には大移動です。今までは、自分の教室に教科の先生が来られるわけですけど、今度は自分が教科書を持って自分が移動していくというようなところで、まだ数ヶ月しか経っておりませんが、いろいろ反省材料もございまして、子どもたちのアンケート等を見ると概ね良好であるなと感触も持っております。以上です。

○ それで、今言われたのは、5教科ということは、国語、数学、英語、社会、もう一つは何ですか。理科も入るんですか。

●大橋教育長 基本的には全ての教科に対応できるようになっております。

○ それで、その移動をすることによって、町の広報には時間割の把握等の自己管理が求められ、生徒自身の主体性を育むことが期待されるということで、そういった教育効果があると、だからやったんだという言い方なんです。

それで、町長さんは、この度、唐突に合併のことをされましたが、そのときに今も数年はかかるといわれているんですね。数年をかけてやると。ということは、今のような邑南町の石見中学校の子どもはそういうスタイルで学べるが、羽須美中学校、瑞穂中学校の子どもたちは、こういった教科センター方式というのは考えておられるんですか。

当然、向こうはやってこっちはやらんということは、私はおかしいと思うんです。ということは当然、7年度予算で要求しておられるのか、要求したら予算がつかなかったのか。そこのところは、教育の均等ということを考えれば、当然やるべきだと思うんですが、そのあたりの見解はどうでしょうか。

●大橋教育長 はい、ありがとうございます。今、おっしゃられたように残りの2つの中学校をどうしていくのかという話になるだろうと思っております。我々も、視察等をさせていただきました。石見中は教科センター方式用の校舎を造らせていただきました。一方、教科センター方式という方式を取り入れて通常の学校の教室で上手く工夫して教科教室用に様変わりをしている学校もたくさんございました。

まずは、石見中学校でこういう学びを取りに行くという本質の部分での成果をもう少し、時間をかけさせていただいて、期待するところは非常に大きいんですけど、その成果をしっかりと上げていきたい。そのためには、今は石見中学校の先生方に協力をいただいて、共に努力させていただいているのが現状でございます。

○大橋教育長 それでは、今のような形でいかれるということは、5教科の教室には特別な設備はないということですね。机と椅子があったら、これは英語を習う教室ですよ、これは国語を学ぶ教室で、これは数学の教室ですよというような形で5教科がうわにあるという言い方ですか。

●大橋教育長 ありがとうございます。うわにというか、今まで使っていたホームルームが1年1組の教室がここです。1年2組はここですよというのが、全

て教科センター方式の教室に変わりました。ということで、正直、ホームルームはありません。便宜上、朝、集まる教室は設けていますが、その教室自体が1時間目は数学の教室に変わっていくとかになっていますので、教室としては、そんなに増えてはないと思っています。

○ それでも、土居前教育長さんは、教科センター方式にすると、教室の数が増えると議会で答弁されえおります。

● 大橋教育長 増えたというか、いくつというよりか、ホームルームが今は石見中が5クラスです。その5クラス分のホームルームの教室はありません。そこが全て教科センター方式に変わっているので、数はうろ覚えで申し訳ないんですが、そんなにたくさん増えたという印象ではないと思っています。

○ 私が言いたいのは、石見中学校は昭和43年の建築と書いてありましたよね。43年らしいんですよ。瑞穂中学校も50年代ですよ。そのときから比べたら、子どもの数はごつつ減っているから、これは私の推測ですよ。空き教室があるんだったら、そこを教科センター方式にという形で、そこで数学を学んで、そこを英語ということはどうかと思うんです。

ということは、空き教室になっているということは、机、椅子がみんな撤去してあるなら、そこにそのものを入れれば特別な設備はないとおっしゃったので、そういった自主性を育むことができるという教育だと言うなら、そういう機会を与えてやるのが教育委員会として当然のやりかたじゃないかと思って、ご質問をしよるんです。

数年もかかるなら、数年かかるなら、今年の4月に入った子どもは教科センター方式という授業を受けずにそのまま出てしまうわけですよ。それでは、やっぱり邑南町の同じ子どもとして、同じ中学生として学ぶなら、そういう学場を提供されるのは当たり前だと思いますので、それは費用の見積もりもかかるかもしれませんが、それは早急に。教育長さんは教育の関係で、設備の方は町長さんになると思うので、町長さんがその辺のことを指示されて、当然今の統合問題を町長さんが言われましたが、中学校が1校になるか2校になるかわかりませんが、どちらにしてもその間において、整備される問題だと私は認識しております。

● 大屋町長 ありがとうございます。町としても、石見中学校がこういう教科センター方式にしました。いいですよと言っているのも、本当にいいなら全ての学校に配慮すればいいだろうという議論だと思うんです。そのとおりだと思います。

ただ、予算はあるけれども初めてで、たぶん県内でも初めてだと聞くので、邑南町としてまず動く中で本当に利点だけが出てくるのか、マイナス面はないのかということもあると思います。いい面とそうじゃ内面がある中で、本当には子どもたちの学びの選択という中で、全てが一緒にいいのかということもあって、少し議論はしましたが、邑南町の中に今のところ2種類あってもいいんじゃないかという話はしました。

今後、本当に予算が出るなら、おっしゃるとおり教室がたくさんあるから、今の状態でセンター方式を、そういう選択肢もあると思います。ただちょっと動き出したばかりで、本当のよさを出すためにはどうすればいいのかというところを試行錯誤があるので、また議論する中でこれがいいから、みんな同じようにしようということになれば、なると思います。

○ ただね、県内の学校では珍しい教科センター方式をとりますと書いてあるんですよ。ですから、言い面があるから採用されたんでしょう。今から検証してどう

のこうの問題じゃないと思うんです。そのために29億円の予算がかかっているんでしょう。私はその詰めが非常に甘いと思うんですよ。

- 大屋町長 若干、お話の仕方もあったかもしれないですけど、いい面があるので取り組んだのは確かです。その本当にいい面を生かすためには、どうするかという運営面があるので。まだ先生も含めて慣れないところなので、慣れたところでしっかりといい面が出せることがあれば、出せることはしっかりわかっても、瑞穂中学校、羽須美中学校に広げても何らとまどいなく移れるようにという状態にしてから移るべきだという判断です。

決して、いいかどうかかわからないという意味ではないです。現実にはちょっと子どもの移動であるとか、今までの小学校との違いがあって、教室がないということに対する不安であるとか、それは別の意味なので、学びのよさとは別で生活面のよさはどうかということもありますし。

今回の予算は、言い訳するわけじゃないですが、一人一人の学びを支えるという意味で、人的配置はしっかりしてきたんですけど、そこも含めて人の動き、サポートする人の動きも含めて検証させていただいて、本当にいい形で広げていければと思っています。検証するというのは、そのよさがどうすれば間違いなくだせるかという意味です。

- 内部で十分検討して、前向きに取り組んでいただきますよう、お願いします。
それともう一点は、町長さんにこの度の合併問題が唐突に出てきたということで、一般質問でどのくらい出るかなと思いよったら、3名の方しかありませんでした。その一般質問は、町長さんはどの質問に対しても町長さん自ら答弁席に立たれて、答弁されておって、さすが大屋町長さんだなと関心して12月の定例会は見させていただきました。

その中で、漆谷さんと瀧田さんと日高八重美さんが、統合問題について若干ふられました。町長選の選挙公報に載せておらんのに、唐突に統廃合について言及されたのはという質問があったときに、町長さんは口頭では統廃合の考え方を明確にしていると。

私は、町広報と議会報しか持っておりませんので、議事録を見ておるわけじゃありませんので、そのところはもし違っていればこらえてもらわないといけません。私は情報を得るにはそれしかないもので、それを元にして聞くんですが。漆谷さんのときにも、口頭で聞かれたときには自分は答えていると、おっしゃっておられました。でもちょっと、口頭で答えられるということは選挙公報に載っていないということは、大屋町長さんが立候補のときに個人的に聞かれたことについて、個人的に答弁されたという域を脱しておらんとと思うんです。ですから、私はそこで一般質問された方も黙っとりんさったから、これは対応がまずいと。大屋町長さんの答弁はおかしいと思いました。

それで、ずっと聞きよりでしたが、大屋町長さんは自分は財政難を理由に統合するとか、そういうことは問題があるということと言われたので、全部大屋町長さんが21年の4月から議員になられてからずっと、一般質問をやられたのを全部見ました。そのときに言われたが、今の4年の9月の議会ときに、石橋町長に対して、財政難を理由に合併ということがあるんですか。統合ということがあるんですかと質問されたときに、あのときにはコロナが流行っておりましたので、オンライン授業とか、いろいろな授業の仕方があったので、町長は財政状況は別問題であると、基金も積んでいると。だから合併は考えておらんと答えられまし

て、大屋新町長さんもそのときには、財政状況で統合を考える必要がないのであれば、小規模校がどう生きていくかということを教育長さん、ちゃんと説明して理解を得るという答弁で、土居教育長さんは小さいからできるよさを生かしていきたいという答弁をしておられます。

それともう一つは、30年の4月にも大屋町長さんは石橋町長に対して、なぜ小中学校の統合をしないのかという質問をされております。町長は学校は地域づくりの核であるので、統合するつもりはないと言われて、大屋議員さんも私も町長と同じで子どもたちの学力、地域の発展などからも、現在の小中学校を残していくと考えると。

ただ保護者が、小規模校は学力に不安があるという心配があるの、そこを払拭する努力が必要なのではないかということで、合併はしろと言っとってないんです。あれまでは。それで、いつの時点からその思いが変わったのかなと思って。この30年の当時も生まれてくる子どもは50人前後なんです。だから当然、そういうことがあれば、統合ということは誰も頭の隅にはあると思うんです。

だけど、答弁でもタブーだったというようなことを言っておられました、議会人として町に対してタブーということはないと思うんです。行政と議会は車の両輪、それから町と行政と議会は是々非の関係でやっていくというのが筋で、いつも常々言われている言葉ですので、思われていたら当然、言われないういけんかったと思うんです。

そこで、町長さんにお聞きしたいのは、いつの時点で今の合併はせん方がいいよと言われていたのが合併しようと豹変されたのは、いつ、何が原因でそういうふうになられたか聞かせてください。

- 大屋町長 12月議会のときに、選挙中にふれていないだろうと言われて、ある意味、突然ぱつと言われてそのときは聞かれれば答えていましたと。その聞かれればという原因は、あとで振り返ったら、いろいろなチラシを出した中で公共施設の統廃合は書いています。当然、学校も含めたつもりですけど、学校というのはなかなかふれるのが難しいので、あえて学校とは書かなかったところもありますけど。意識はありました。サービスは残しますと言うのはいろいろな選択肢を、今日も言ったとおりできる範囲でしなきゃいけないということです。

過去の議会での質問も基本的には覚えています。学校に対しても、数の大小だとか数合わせで大きくなければいけないという意識は何もないです。なので、小規模校でも、必要があれば学力に差があるのかとか、あとは、今後将来的に町の財政が厳しくなったので維持できないので統廃合をしますということはないよね？ということを聞きました。地域の思い、保護者の思いで学校の統廃合が必要ならする。そうでなければ、残したいと言えば財政的に大丈夫ですよ？という質問をしてきたのは事実です。そこは何も間違いはないです。

ただ、現実問題がどこでということはないですが。あと、すみません、タブーという話が出たのはおそらく、残しますよね？という質問はできる雰囲気があったんですけど、統廃合をすべきだということは非常に聞きにくい雰囲気だったので、それに対して統廃合の議論よりは、積極的に統合すべきじゃないですかというのは聞きにくい状況であるということ、あえてタブーと言ったところはあります。

町としても今後の教育の在り方をどうすべきかという議論をあまりしてきてなくて、平成22年くらいに日和小学校がなくなったときに、教育の在り方の議

論をしています。それ以来、年数が経っているので、今の保護者で今の地域の人と一度すべきじゃないですかということも投げかけたんですけど、なかなかそうじゃなかったです。そういう中で立場が変わって、なんで変わってきたかというのは、やはり統廃合を議論してくださいというのも、今日はあまりふれないでおこうと思ったんですけど、学びが変わってきている。それは今までは、どちらかというと、学力はテストの点だったんです。それがそうじゃなくて、それぞれが生きる力というときに、大学入試が変わって、今年から高校入試も変わってきました。そういうところにきちんと対応していく方法、また学校に生きづらいお子さんもたくさんいます。私自身も決して、混じっちゃうことが全てだとは思わないです。いろいろなお子さんがおられる。お子さんの思いをきちんと汲み取って対応していくためには、マンパワーとか今のままでそれができるのか。社会から求められる教育の質の変化に対して、今の町で、今回もやり取りをしたのは、マンパワーというか、予算をつければ人が確保できるならいいですけど、そうじゃない状況がある中で、どうなのかという話もしました。外国人のお子さんもおられます。

そういうことを思えば、町の将来としても、町内の資源やマンパワーを生かしていくためには一定の統廃合は必要だろうなど。この先、これを放っておくと、将来出てくる統廃合は中学校1校、それぞれの旧町村単位で小学校1校、全体で中学校1校という選択肢しかなくなるので、自分なら過去の経緯もあるので、矢上高校、石見養護学校がある中で、できれば中学校が複数、その中学校の元にも小学校が複数。大幅な統廃合じゃないことができるんじゃないかという思いがあったので。人に一つにされるよりは、自分の思いの中で選択肢がたくさんある仕組みの統廃合が取りたいという意味合いもあって、あえて統廃合と。

この話は選挙のときもいろいろな人とも。選挙で統廃合をあまり出すとよくないかなというところもあって。すみません、人前でというのは、YouTubeの中でも、集まったときに聞かれたのはきちんと答えて、それはそのまま流しています。その辺の事情もあったりしながら表には出しにくいというか。タブーというのは、やはり誰も統廃合にふれたくない状況だと。

結局、最終的にいろいろなことを思えば統廃合かもしれないけれど、今は教育委員会には学びの在り方を考えてくださいと言っています。地域みらい課には地域との関わりをと言っています。全く違う答えが出るかも知れないし、残す方法が出るかもしれない。期待を持たせるわけじゃないけど、そうじゃなくてもっとしなきゃいけないかもしれないということになるかもしれない。今なら、その選択肢ができるから、きちんと議論をしましょうという思いです。決して一つにして効率化にしたいという思いではないです。そこをちょっと汲み取っていただければありがたいです。

- 提案された町長も、脇におられた教育長さんもやられとりますから、死んだ子の歳を数えるではないですが、石見中学校の改築ですよね。あのときに話を出されるべきだったと思うんですよ、この話を。120人くらいでしょう、石見中学校も。それで、瑞穂と羽須美で100ちょっとです。町長さんも答弁の中で奥出雲町のことを出しておられましたが、あそこは中学校が2つ残るんでしょうが、仁多は6つあるのが1つになると。横田町は4つあるのが再来年は1つになるということを言っておりますので、町長さんの口から奥出雲町というのが出たのは、そういうイメージを持っておられるのかなと思ったものですから。余計に石見中

学校の改築のときに当然そういう話はされるべきだったと思うんですよ。

そのときの町長さんも教育長さんもおりんさんから、今当事者として言えるのは、大屋新町長さんしかおらんから、私はきついことを言いよるんだけど、そこで議員さんは、議論しんさんといけんかったと思うんですよ。

そのときに、亀山さんが令和2年の3月の定例会で、今の統合問題1本で一般質問されておるんです。これは今のとおり、統合の布石になるのか、水面下ではそういう話があるよということで、紙面に議会報に出ております。私らが石見中学校が改築と言いながら新築だなと知ったのはこれですよ。令和3年の8月に新しい校舎を造って今の校舎を解くと言って、これで初めて出たんです。こがあなことがあるんかと。そのときに調べましたよ、改築の経緯にこんなやり方があるんかといっぺ。私が調べた範囲ではこれは改築ではないです、石見中学校は完全に新築です。新築をやるんなら、余計なあの場で議論をしっかりと、将来どうするんかというところまで行政と議会と意見交換をやって、それでこれでいこうやと出されるのが筋じゃなかったかと思うんですけどね。これは、さっき言ったように、死んだ子の歳を数えるのと一緒にこれ以上申し上げてもうどうにもなる問題じゃないから言いません。

最後に町長さんに言いたいのは、答弁の中で子どもたちを最優先に、また子どもたちを第一に考えて統廃合を進めるということを書いておられます。長くなってもいけないので、結論から言いますが、建物を建てて地域のものが協力する学校もできると思うんです。子どもたちを最優先する、第一に考えるということは、登下校にかかる時間だと思うんですよ。今、スクールバスが走っているところだけじゃないですからね。山の上から下りてやってきて、初めて学校へ行く。今、スクールバスが矢上から口羽まで行くと小1時間かかります。それを考えれば、羽須美からいくかどうか知りませんよ。ただ、第一に考えると言ひんさるなら、子どもたちの通学登下校の足を、時間をどう短縮するのか。今の時代中学校で寮ということは50年前に流行ったような話ですから、それは当然考えおられてはしないでしょうから。そうすると大人の理論ではなく、子どもたちを本当に中心に考えたときには、私はそこだと思いますから、そのところをよく考えて2年間で方向性を決めると言われていますので、そのところを肝に銘じて事を進めていきたいと思っています。大変長くすみませんでした。

- 大屋町長 ありがとうございます。やりとりをしてみて、若干、思いが正しく伝わっていないと思うところはあります。奥出雲の話もああいうふうにしたいんじゃないくて、ああいうふうになっちゃいけないので。それ以外の選択肢で。

今、子どもたちを第一にということで、通学の話をしたときにふと思い出したのは、美郷が統合したときに、少年補導員とかで川本警察署に行っていたときに、バスで通学になって地域の人とふれ合う機会がなくなって、朝バスに乗って帰ってくるだけで、あれでいいんだろうとか。それは地域にとっても子どもたちにも。そういう意味で少ししっかり議論して皆さんとも話をしながら政策決定させてもらえればと思います。

〇〇さんが最初に言われたとおり、今までの投資があったから今で。奥出雲の例を敢えて出したのは、奥出雲は邑南町より人口が多いです。ただ、子どもたちの数の割合は邑南町より低いです。それはやっぱり過去の投資なんだと思います。そういう意味で財政の再建で厳しいばかりを言っても、言われたとおり、しっかり。今やった政策の答えは、評価は5年後、10年後だと思っています。そこで

よかったねと言ってもらえるように頑張ろうと思います。すみません、ありがとうございました。

○ よろしく願います。

●大賀総務課長 ありがとうございます。その他には、はい。

○ すみません、時間があまりないと思うんですが、前から教育長さんには話をしていると思うんですが、ハンザケ自然館のことなんですが、オオサンショウウオは国の天然記念物になっていますよね。非常に珍しい生きもので、こういうのはもっと人が来て欲しい気がします。

それで、前にもお話をしたことがあるんですが、都会の人はハンザケというのが何かわからないという人がおるんです。オオサンショウウオなら分かるけど、ハンザケは何のことかわからんと。それで、道の駅が今度できますよね。その道の駅にでもオオサンショウウオの何かモデルみたいなものを置いて、これは国の特別天然記念物のオオサンショウウオですと。この辺ではハンザケと呼んでいます。すぐ近くにハンザケ自然館があります。そこでは、オオサンショウウオをたくさん飼っているんで、ぜひ行ってみてくださいというような案内ができないだろうか。難しいでしょうかね。

●大橋教育長 ありがとうございます。道の駅でのというお話でございますけど、道の駅をハブにして、いろいろな観光施設、学習施設にもつなげていこうという思いは持っております。一部のスペースであっても、そういったものを紹介させていただいて、ぜひとも本物のハンザケを見ていただけるような道筋を立てていきたいと思っております。この天然記念物の関係で道の駅に展示スペースを設けて本物を置くということは、ちょっとできないんですけど、本物を見に来ていただけるように努力して参りたいと思います。ありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございます。他の方はよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

○ 皆さん、すみません、もうちょっとお時間ください。時間がないので、本当は前置きを長くして質問すればいいんですが、簡単にいきます。一つは、コミュニティスクールのことです。これはチラシを見ると、メリットしか書いていないですが、デメリットがないということなんですよね。

私はデメリットもあると考えていて、例えば教育会の運営費はどうなるのか、その辺の予算関係。あるいは、やると学校の負担は増すけど、地域住民の委員さんの負担も生じる。それから、保護者の負担も増えますよね。連携協働してやるんですから、地域住民の負担も増えると。それから日程調整が難しくなって、会議が夜になるとか。時間外の出席が要求される。あるいは、協議会の委員を選ぶのに、どうしても何かの団体の代表者とかいう人が出て、役員になった人の負担が益々増えてくるという気がします。

それで、その辺がどういうふうになるのかなという。デメリットもあるので、メリットばかり書いてあって、デメリットがないのでいいようにあるけど、本当はその裏で非常に負担が出てくるということがあると思うんです。

併せて、学校教職員の負担の問題です。今でも出ていますが、例えば今頃の小学校を見ると、下校の時間が終わったら職員室も外から見ればブラインドがかかっているんです。人が出入りせんようにするんかもわかりませんが、そういった状況も見えておりますし。それは学校の教職員一人一人は、やる先生とやらない先生とあって、教職員の先生の思いがまだ残っていると思います。

というのが、例えば高原の場合、学校から児童クラブへ一人の先生が、よく子どもと一緒に来て、児童クラブの様子を見ている。もう下校した後ですよ。だからその先生が変わると、次の先生がやるかといったら、それは全くわからないです。今までそういうことはなかったのに、ある先生はそういうふうにして子どもを見守ってくれる。というようなところが、なくなってくるんじゃないかなと。

それともう一つは部活の問題です。地域の指導者がやるようになって学校は全然ノータッチがどうか分かりませんが。それで、学校の先生の働き方改革はするけど、地域の指導者も働いて、仕事が終わった後に行ったり、あるいは大会に引率して行ったり。これは指導者の働き方改革もしないと、自分たちの働き方改革ばかりやっても、給料はどんどん上がりますよ。その辺がそうになっているのかなと。

それから指導者の報酬はどうなっているのかとか、いろいろなメリットデメリット、不都合な面があるので、その辺も併せてコミュニティスクールの在り方もどうするんか、もうちょっと議論せんといけんのじゃないかと。法律に基づいて、平成29年頃から国の教育関係の法律からきて、いろいろ進められてきて、今やろうとしているんです。そのことはどうするのか、今日は答えはいいですから検討してください。

もう一つは、テレビや新聞でものすごく話題になっているPFASの問題です。岡山県の吉備中央町はすごい値が出ているんです、有機フッ素の値ですか。これは、仮置き場の廃棄物が上水場の上流にあるから、水道水の中にそういうフッ素化応物が入っている。アメリカは、1リットル当たりの単位が20ミリくらいですか。日本は約50ミリ。まだ正確な値が出ていないから、やっているんですけど。50ミリの7倍くらいだったか、アメリカの7倍くらいだったかの値が出ておって、全国で調査しておるんですが、それは邑南町の値はどうか。調べておるんかというのを。皆さん、テレビや新聞にも出ていますし、皆さん関心があると思います。その辺をまた広報でも知らせてあげたらいいなと思います。

それから、学校の統合のことは〇〇さんが長く話をしんさったから、いいですが。これは、町長がそういう発表をされて、いろいろな子ども話をするときに、統合するんだからいいわという話が町民から出る。中には統合に賛成、あるいは残すのに賛成という意見もある。しっかり町民にアンケート調査でもして、その値を参考にされて検討された方がいいと思いますけどね。いいですよ、回答は。

- 大屋町長 少しだけふれさせてください。コミュニティスクールは、改めて回答させてください。地域指導についても、別途します。

PFASの話は、皆さんに関わるので最近NHKでも出ています。邑智郡の中でも、邑南町も含めて検査は今までしていません。検査している町も、NHKの調査を見ましたが、ちょっとわかりにくいです。邑南町は、とりあえず順次ということで、今、5か所検査をしました。矢上でいうと、原山トンネルとかじゃないところで。今、速報値では一切出ていません。順次来年度にも全部、水源の調査をします。基本的には、廃棄残土とかの可能性は少ないだろうと思っています。

もう一つ、統廃合のアンケートは、今の時点で統廃合がいいですか、どうしますかではなくて、これからの学校の教育ってこういうことが必要なんですが、そのために統廃合をすることに対してどう思いますかがいいと思うので。またご意見を聞かせていただきながら進めたいと思いますので、まず、こちらの方針を出させてください。来年度に向けて準備をしていく中で議論していきたいと思いま

す。ありがとうございます。

- すみません、時間がおしてありますが質問させていただきます。町長さんが代わられたので、去年学校給食の無償化の署名が1100くらい出されて、前町長さんは受け止めると言われて、結局は値上げになったんですよね。今、全国でも進んで、石破首相も2026年度から制度化したいと答弁されましたよね。それまでに出了れた町として、どう思っておられるのかお聞きしたいと思います。

先日、私は口羽小学校に給食に時間に有機米の話をしさせてもらったんですけど、そこで感じたのは、給食も教具だなと思ったんです。子どもたちは一日中学校にいるわけですよね。午前の授業は無償、給食は有償、午後の授業は無償、何かおかしいと思ったんです。子どもが当たり前前に学校にいられる空間にするためには、給食は無償で、皆が家庭のことも気にせず安心して食べられることが必要ではないかと思っています。

それともう一点、1月の集金常会のときに田植え機にも課税されますというチラシが配られて見たんですけど、今は農機具や肥料やいろいろな資材も上がって大変な時だと思うんです。米作りも赤字だし、時給10円と言われていたんですがね。そういう中でも農家は80代、90代の方でも必死に米をつくっていこうと、農地を守っていこう、田んぼを守っていこうと頑張っておられます。そんなときに、これまでナンバーもなく、課税もされていなかったと思うんですよね。そういうときに何でこういうふうにな今のようない時期に課税をされるのかと、何人かの声も聞いたんです。公道を走らないで、軽トラに積んで圃場まで行って、すぐ降ろして田植えをされたり。

- 大屋町長 はい、意味が分かるので時間になるので答えさせてください。田植え機の話をしてください。田植え機にナンバーがあるのと、公道を走れるのは別の問題です。車ではないので。課税をしているかどうかの印だけです。じゃあ、田植え機になぜ課税したかという、一般質問で私がしました。ある意味、親切のつもりです。親切というのは、本来は皆さん農業者、事業者は減価償却資産は届け出をして課税対象です。補助金で入れようが、元の値段に対してちゃんと届け出をして150万円以上だと、1.4%の課税をされます。それで、それ以下の人はされないんだけど、今、機械化していくとどうしても課税対象になってしまいます、ちゃんと申告をしていけば、ここがちょっと微妙なんです。そう思うと、軽自動車税だったかな、田植え機は普通の3千円だったですか？

- 2千円。

- 大屋町長 2千円の課税の方が安く済むからというのがあるんです。本来は、減価償却資産として課税対象だけでも、2千円の方が安く済む。ただし、150万円かかったというところで、免税店があるので、それ以外の人は負担だけが増えるんだけど、そこはやっぱりこれからの機会化を考えれば、税負担と考えれば、2千円の方が得でしょうという意味合いです。そこは理解していただけるとありがたいです。ちょっと説明が足りなかったりしたところがあります。

学校給食については、今のところ無償化は考えていません。考えていないのは、やはり町として長くサービスを続けるためには、ある程度負担をしていただかないとこれからは難しいだろうと。その一定の負担というのは、やはり経済的に利用できる負担をという思いです。ただし、負担を皆さんにさせていただくんだけど、経済的な面に関しては別で、例えば就学援助費だとかそういうところでしっかり支援をしていく。負担はさせていただくんだけど、今の思いは、長く大学を出る、

専門学校を出るまで町として応援するためには、一定の負担をしていただきながら、町としても応援しなきゃいけないときにはしっかりするために、考えなきゃいけないと思っています。

今日も課長会議でその話を伝えて、これからの日本一の子育て村はどうすべきかという中で、負担応援の仕方を。特に邑南町は子育て村としてがんばってきたので、多子世帯、3人とか4人の世帯が多いです。そういうところは別なので、そういうところをまず重点にしていくという方法があるかと思います。そういう意味で、子育ての応援の仕方というのは、長くするために改めて考えさせてもらえればと思います。無償化したいんですけど、無料と実際にかかる経費に負担が今、すごく広がってきています。物価高騰もあって、各家もそうなんですが、町ができないこと、長く続けられないことを提案するよりも、お互いに長く続けられることを提案させてもらえればと。私の小見はそこです。課長会議等でも話をしますが、受益者負担ということで、負担すべきことをはっきりしていただきながら進めていければと思っています。

- 大賀総務課長 ありがとうございます。それでは、最後をお願いいたします。
- では、最後に短い質問をします。アメリカのトランプさんは、自書の中で、犯罪が美しい言葉だと言われました。日本の総理大臣の石破さんは、ふるさとと言われました。大屋町長は、何が美しいことばでしょうか。
- 大屋町長 最後に気楽に聞いてください。何回目かの町議会議員の選挙のときに、美しい町づくりとかって言った覚えがあります。あまり美しいとか使うと選挙に強くないから、勝てないから微妙だねと言われながら。でも、所信表明ではやはり美しい景観と言っているとおり、先ほど邑南町はすばらしいんだと思う方が多いと言われたとおり、自然の美しさはすごく思います。自然が美しいですというのは、非常におかしいんですけど、そこに美的なものがあって。トランプさんが言う美しいとは違いますね。ただ邑南町が美しいと思います。いいですか？
- 大賀総務課長 ありがとうございます。たくさんの方からたくさんご意見ご質問をいただきました。この辺りで閉会としたいと思います。ご理解のほどよろしくをお願いいたします。それでは、閉会にあたりまして白須副町長からご挨拶を申し上げます。

3. 副町長あいさつ

本日は、たくさんのご質問、ご意見をいただきました。ありがとうございました。時間も限らせておりましたので、質問をまだまだされたい方もいらっしゃると思いますが、今日の資料にもありますが、QRコードをスマートフォン等で読み込んでいただくと、町長に意見が届くようになります。また、お電話とかFAXでも、様々なご意見をいただいておりますので、またお帰りになりまして、何かありましたら、明日でも結構ですので、ご連絡いただければと思います。

町長の話の中にもありましたが、予算編成もほぼ完了して、明日は議会運営委員会ということで説明させていただきます。話の中に度々出てきた言葉ですが、財政再建というのを第一の方針として予算編成を進めて参りました。少なからず事業の見直し等、今までの効果等も検証した上で見直しをしておりますので、少なからず皆さんの生活や地域の活動、事業活動に影響が出てくる部分があるかもしれませんが、そういったところは、こういった理由でこう変わったんだということをしっか

り説明させていただきたいと思います。また、その際には、様々なご意見をいただければと思います。今後の参考にさせていただきます。

それから、学校の在り方の問題、地域コミュニティのことについても質問をいただきました。これらについては直ちにというものでもございませんが、しっかりと皆さんと情報を共有しながら、皆さんと協働の立場に立って進めて参りたいと思いますので、その際にはご意見等をいただければと思います。

最後になりますが、本日、雪も降っております。足元も悪いことが予想されますので、ぜひ交通安全に気を付けていただいて、事故のないようにお帰りいただきたいと思います。本日は長時間にわたりまして、ご意見ご質問を頂戴しまして、誠にありがとうございました。以上をもちまして、田所、高原地区の町政座談会を終了いたします。ありがとうございました。

●大賀総務課長 ありがとうございました。気を付けてお帰りください。

町長への手紙

令和6年度町政座談会では、レジュメに「町長への手紙」として町長に直接届くご意見フォームの二次元コードを掲載しました。その二次元コードからいただいたご意見について、回答日時・タイトル・内容を掲載いたします。また、文書でいただいたご意見についても併せて掲載します。

2025/1/14 18:55:19

YouTubeの活用

議会をYouTubeで配信して欲しい。

CATVでは見れないことが多い

2025/1/14 22:07:17

座談会ありがとうございました

本日はありがとうございました。町長さんの思いや参加された方の地域への愛を感じることができて良かったです。

私は現在、社会教育士の資格を取得するため島大で講習を受けています。今月で講習が終わり、資格を取得できる予定です。邑南町の行政や団体に関わる者ではありませんが、地域のために貢献できることがあれば、ぜひお手伝いさせてください。次回、座談会があれば企画を考えることもします。どうぞ宜しくお願いします。

2025/1/19 19:58:55

1月19日の邑南町広島フェスティバル

広島の祇園にいる実の弟、●●より毎年邑南町フェスティバルに参加していますが、以前はテレビを中心によく宣伝していたのに、今年はいつあるかと楽しみに待っていましたら昨日テレビにて宣伝があり、喜んで行ったそうです！もう少し早く分かれば知り合いにもアピールできたのに！でも大盛況でしたよとの連絡でしたよ、との便りでした

2025/1/28 8:51:09

あいサポート研修について

お陰様で10月28日に邑智郡の町会議員の皆さんにあいサポート研修をさせていただきました。12月の議会が放送されてますが何人かの議員さんがあいサポートバッチを着用していただいています。あいサポート研修は障がいを知っていただく研修です。役場の職員さん方にもあいサポート研修をお願いし、あいサポートバッチを着用していただければ幸いです。特に議会へ出席される課長さん方には特にお願いしたいです。町民のみなさんにあいサポートを知ってもらえると思うからです。ご検討をよろしくお願いします

2025/1/29 14:47:37

町長への手紙(町政座談会)でお願いしたかった事

先日は町政座談会ありがとうございました。町長の話を受け止めてくださる雰囲気がとても素敵だなあと思いました。

日和の公衆トイレの件ですが、ヒワココの現在のものを使うのはとても抵抗があります。男女兼用でとても女性が利用しにくいトイレです。ぜひ男女別、そして誰でも使えるトイレの3つに改修していただきたいです。

綺麗なトイレは綺麗に使おうと思うもの。清掃はボランティアではなく就労支援施設の方とスタッフの方のペアなどでしていただき給料をお支払いするというのはどうでしょう？ある道の駅では「私たちが綺麗にしています」の写真が貼ってありいいなあと思いました。ぜひ日和から綺麗なトイレの第一歩！よろしく願いいたします。

食の学校についても皆さんからご意見をとっていただき嬉しいです。またひとつの考えとして日和から提案させてください。

2025/1/30 6:57:01

公民館の機能アップに伴う人事

公民館を地域プラザに移行し、より地域に根ざした施設に。このため、それを切り盛りする担当職員の能力が求められるが、ややもすると本庁などの勤務と違い、夜、土日の対応も想定される。そこで、勤務の振替、勤務年数の限定また、勤務を終えると、地域振興に関わる部署には最低1回は、異動させるなど、働きやすく、やりがいのある職員環境を熟慮されたし。

2025/2/5 9:34:46

夏休み全国巡回ラジオ体操誘致について

2?3年前、日和を盛り上げたいと、夏休みラジオ体操の巡回を頼もう！と考え、いろいろ調べてみた所、市町村長などが主体になって申し込まないとだめなことが分かり諦めていました。

でも、現町長と副町長なら頼みやすい！とこの前の町政座談会で感じて今お願いのメールをしています。

旧日和小学校の運動会なら最高ですが、雨天の場合の考えて矢上交流センターや矢上小くらいかなと思います。

ぜひ前向きに検討していただければ嬉しいです。

厳冬の3日間、ご自愛ください。

2025/2/10 7:27:41

町政について①

先日は、町政座談会の開催において意見を受け止めていただきありがとうございます。なお、400文字ではまとめきれないので数回に分けメールします。

【住民に寄り添う職員へ】

1月10日宇都井後谷集落で停電があり、家から離れようとする県道で雪により倒木があり翌日まで通行止めとなりました。倒木処理も終わり通行止めも解除になりましたが、その箇所だけ除雪がしてありませんでした。委託業者に除雪のお願いをすると「10cm以下だからしない」との回答でした。雪が溶け出しシャーベット状で10cm以下でも走行しにくい状態でした。役場は県道だから状態を確認しなかったと思いますが、自治会からの要望時に県道においても県と連携して対応していくと回答をいただいています。通行止めを解除する際、現場を県、町の職員が確認していたのか疑問を感じます。現場主義の町職員なら簡単に想像ができると思います。

2025/2/13 19:51:15

町政について②

連日の業務、お疲れ様です。

2通目のメールよろしくお願いします。

【財政再建以上に思いを国政に】

これまで説明があったように財政再建は必ず行わなければいけません。町長が言われる業務の見直しもしなければ財政もマンパワーも不足するばかりです。それと同じように交付税等の配分のシステムを変えることができないか国に発信していただきたい。●●さんが発言された「ものさし」を替え一極集中と過疎、食料の自給供給など国のシステムを変えるチャンスだと思います。

私のような考えは誰もが抱えていることだと思います。それを実現できないことで今の生活を満足に思うしかない、とても残念なことです。

町長も同じ考えならぜひよろしくお願いします。

2025/2/18 21:32:59

学校の統合について

私は統合に賛成です。友達は多ければ多いほどいいと思うからです。親御さんも送り迎えが大変でしょうが頑張るしかないと思います。

2025/2/19 10:06:18

集落という呼び方について

集落という呼び方はとても古臭く集落という言葉からは限界集落とかそういう嫌なイメージしかありません。

石見地域は早々と班という呼び方をされています。この方がよほど現代的だし若者にも愛されると思います。

町内で呼び方を統一してくださるといいと思います。

2025/2/19 10:12:08

昨夜の町政座談会について

今日の財政が苦しいということをはっきり言ってくださって私は良かったと思います。現実がよくわかったからです。昨夜は遅くまでお疲れ様でした。大屋町長さんも色々な非難を浴びて大変なお仕事だと知りました。頑張ってください。

文書でいただいたご意見

家事シェアについてのご提案

私は、家事シェアについてお話させて下さい。NHK「耳より解説」で“人口減少対策に家事シェア”というのをやっていました。聞き終えて、邑南町でも是非やってもらいたいとハートに矢を刺されてような感覚になりましたので是非紹介させて下さい。なぜ人口減少対策に家事シェアなのかという所は語られていなかったの自分なりに考えてみました。ひっくり返して考えてみると家事シェアを上手にしないと人口減少につながっている。そこで家事を上手にシェアしていこうという試みなのかと私なりにさぐりを入れてみました。

確かに現在では、若いファミリーの多くは共働きでしかもフルタイム。夫婦どちら

らかの肩にずっしりと家事、育児がのしかかった場合、うまくいかなくなるのは当然の事です。さらに、昔は、孫をおばあさんおじいさんが見てくれたりもしましたが、現代では元気な高齢者は、みな働いておられます。

そこで山形県酒田市では、このような取り組みをされています。

自分の家事へのチェックリストで振り返り、今後の目標を設定しようというものです。例えば、料理のシェアについて、どちらがやっているか、料理シェア状況への満足度は、どうか？今のシェアでちょうどよいのかシェア状況や方法を見直したいと思っているか、又、食事の片づけについて（皿洗いなど）のシェア状況は、自分かパートナーか親や子供かとか、その他には買い物のシェア、お風呂そうじ・トイレそうじ・洗濯・洗濯をたたむ・タオル交換・クリーニングに出す事・ティッシュ補充・ゴミを出す事・冷蔵庫の整理などです。こうゆう項目にチェックを入れこれから頑張りたい事や目標を記入して市の方にスマホ送信されるそうです。

チェックする事でお互いどのくらいやっていたのかがよくわかるという事でした。

又、私の方でも調べてみた事があるのですが、時間の貧困でネットで調べた所、未就学児を持つ共働き世帯の8割の女性が時間の貧困であるとのっていましたので、一番家事シェアを必要としているのは若いファミリーという事になると思います。

又、チェックするのは若い世帯だけではなくその他の年齢層でもされてみてはいかがでしょうか。

ある家庭では「うちの息子に家事をやらせるのか!!」という声も聞かれたそうです。

親世代では、家事シェアを昔からの延長線上で持って来るのではなく、令和の時代にふさわしいあり方を感じてもらいたいと思います。例えば昔ならお料理番組一つとっても女性の講師に女性のアシスタントがつくというのが多かったように思いますが、今では初心者の若手男性タレントがプロに学びながら料理を作るといったものとか、現在ではお料理番組に男性と女性が半々の割合で出演しておられる様な感じにも思えます。私が思うにはだいたい2年ぐらい前ぐらいから、こういう潮流になって来たかなと実感しています。

このように時代と共に変化していっているのがテレビからもよく理解できると思います。

各家庭でチェックリストをされてみて邑南町での住みやすい暮らしにつながれたらと思っています。この取り組みは180度すぐにかわるものではないかもしれませんが、それでも少しずつちょっとずつでも変化させられたら、うれしく思います。今日は、新しい町長さんをお迎えし、邑南町は新しい試みと発想で進化し、ある時は影武者になり、町民のおうちの中の輝くライトのような存在であります様、提案させていただきました。